

平成 28年度(2016)

業 務 報 告



埼玉県のマスコット「コバトン」

埼玉県農業技術研究センター

平成 28 年度（2016）業務報告 目次

| | | |
|------|----------------------|-----|
| I | 事業概況 | 1 |
| II | 沿革・組織 | 2 |
| III | 試験研究の実施状況 | |
| | 1 各研究分野における試験研究の実施概要 | 4 |
| | 2 試験研究課題一覧 | 9 |
| | 3 試験研究課題の取組概要 | 14 |
| IV | 試験研究成果の伝達 | |
| | 1 研究報告等 | 37 |
| | 2 学会発表・著書・刊行物 | 39 |
| | 3 新聞記事 | 46 |
| | 4 テレビ・ラジオ放送 | 55 |
| | 5 成果発表会 | 56 |
| | 6 発明・実用新案等 | 58 |
| | 7 品種育成 | 60 |
| V | 技術指導等 | |
| | 1 技術研修員の受け入れ | 61 |
| | 2 研修会等の開催 | 62 |
| | 3 派遣指導 | 68 |
| | 4 機関の公開・普及啓発 | 80 |
| VI | 研究員の研修等 | |
| | 1 研究員の派遣研修 | 81 |
| | 2 客員研究員の招へいによる研修会の開催 | 85 |
| VII | 運営会議・委員会等 | |
| | 1 委員会の開催等 | 86 |
| | 2 研究等評価委員 | 87 |
| VIII | 革新支援担当 | |
| | 1 活動内容・体制 | 88 |
| | 2 活動実績 | 91 |
| IX | 平成 28 年度決算 | 143 |
| X | 職員の状況 | 144 |

I 事業概況

本県農業における様々な課題に技術面で確実に対応するため、県民生活や生産現場に即した研究課題の重点化や長期的な視点を踏まえた研究開発を計画的・効率的に推進するとともに、新技術の実用化と普及を図った。

平成28年度は、新規24課題を含む70課題の試験研究を実施した。

これを、試験研究推進構想の大柱毎にみると、「Ⅰ 環境変化に対応した安定生産が可能となる栽培管理技術の開発」11課題、「Ⅱ 県オリジナル品種（埼玉ブランド）となる新品種の育成・普及」11課題、「Ⅲ 土地利用型農業における大規模低コスト・高収益な生産技術の開発」11課題、「Ⅳ 生産効率が高く、付加価値の高い農産物生産技術」8課題、「Ⅴ 地域に根ざした生産技術の研究・指導の推進」3課題、「Ⅵ 調査研究」26課題に区分される。

そのうち外部資金による共同研究（提案公募型研究）21課題を、国立研究開発法人や大学、民間企業と連携して実施した。

また、関係課からの令達事業によって政策課題を8課題実施した。

これらの研究で得られた成果や技術情報は、研究報告や新技術情報等として取りまとめ公表するとともに、ホームページに掲載する等多様な方法で広報した。また、農業指導者や生産者、一般消費者を対象とした成果発表会や研修会、講習会を開催するとともに、ホームページを積極的に活用し迅速・広範な伝達に努めた。

研究員の資質の向上を図るため、国の研修制度等を活用した派遣研修を実施するとともに、学会やシンポジウム、専門分野の会議等に研究員を派遣した。

II 沿革・組織

1 埼玉県農業技術研究センターの沿革

| | |
|-------|---|
| 明治33年 | 埼玉県立農事試験場を玉井村（現熊谷市）に創設 |
| 大正 2年 | 養蚕部門を分離独立し、原蚕種製造所を設置 |
| 10年 | 本場を浦和町（現さいたま市）に移転し、農事試験場を玉井種芸部と改称 越谷園芸部を南埼玉郡越谷町（現越谷市）に設置 |
| 11年 | 原蚕種製造所を埼玉県蚕業試験場と改称 |
| 昭和 3年 | 茶業研究所を入間郡豊岡町（現入間市）に創設 埼玉県種畜場を大宮町（現さいたま市）に創設 |
| 5年 | 入間川園芸部を入間郡入間川町（現狭山市）に設置 |
| 8年 | 農事試験場本場を上尾市に移転 |
| 23年 | 種畜場を大里郡小原村（現熊谷市）に移転し、跡地に埼玉県家禽普及指導所を設置 農事試験場秩父試験地を秩父郡秩父町（現秩父市）に設置 |
| 25年 | 農事試験場を埼玉県農業試験場と改称 茶業研究所を合併して農業試験場茶業支場と改称 |
| 26年 | 埼玉県水産指導所を加須市に創設 |
| 29年 | 茶業支場を茶業研究所として独立 |
| 32年 | 埼玉県林業試験場を寄居町に創設 水産指導所を埼玉県水産試験場と改称 埼玉県水産試験場熊谷養鱒試験地を熊谷市に創設 |
| 34年 | 家禽普及指導所を埼玉県種鶏場と改称 |
| 36年 | 種畜場を埼玉県畜産試験場と改称 農業試験場経営部を入間郡鶴ヶ島町（現鶴ヶ島市）に設置 |
| 38年 | 種鶏場を廃止し、埼玉県養鶏試験場を日高町（現日高市）に設置 |
| 40年 | 農業試験場を熊谷市に移転 園芸部を分離独立して埼玉県園芸試験場を設置 |
| 46年 | 茶業研究所を埼玉県茶業試験場と改称 |
| 48年 | 経営部を農業試験場に統合、鶴ヶ島試験地として改称 |
| 49年 | 埼玉県花植木センターを深谷市に創設 |
| 51年 | 水産試験場熊谷養鱒試験地を水産試験場熊谷支場と改称 |
| 平成 9年 | 畜産試験場に養鶏試験場を統合し、埼玉県畜産センターと改称 |
| 10年 | 埼玉県蚕業試験場を廃止 |
| 12年 | 試験研究機関を統合し、埼玉県農林総合研究センターとして発足 （農業試験場を農林総合研究センター（本所）とし、他の試験場を支所に変更） |
| 15年 | 支所を研究所に名称変更、植木支所を園芸研究所植木担当に統合 |
| 16年 | 農林総合研究センター熊谷試験地（旧水産試験場熊谷支場）を廃止 |
| 18年 | 本所機能（熊谷市久保島）、森林研究所（寄居町）、園芸研究所植木担当（深谷市）を 江南町須賀広（現熊谷市）に移転 森林研究所と植木担当を統合し、森林・緑化研究所長（職制）を設置 畜産研究所長（職制）を設置 水田農業研究所を熊谷市久保島に設置 |
| 20年 | 旧深谷試験地（園芸研究所植木担当）跡地を深谷市へ貸与 |
| 27年 | 本所に水田農業研究所、園芸研究所を統合し、埼玉県農業技術研究センターとして発足 併せて、玉井試験場、久喜試験場と改称。鶴ヶ島試験地を廃止。森林・緑化研究所は寄居林業事務所内へ移転。茶業研究所、水産研究所は単独研究所として発足 |

2 土地（平成 27 年 4 月 1 日現在）

| 区 分 | 単位：㎡ | | | |
|---------|---------|----------|---------|---------|
| | 本 所 | （旧秩父試験地） | 玉井試験場 | 久喜試験場 |
| 試験ほ場等※ | 67,675 | 0 | 154,382 | 81,300 |
| 建物施設道路等 | 191,361 | 28,334 | 7,168 | 46,440 |
| 総 面 積 | 259,036 | 28,334 | 161,550 | 127,740 |

※畑、水田、飼育池、放牧用地、試験林、採種ほ等

III 試験研究の実施状況

1 各研究分野における試験研究の実施概要

(1) 企画担当

農業技術研究センターの管理・運営を効率的に推進するため、運営会議の事務を行うとともに広報委員会、編集委員会、実験室管理委員会及び圃場管理委員会の運営にあたった。

試験研究等の企画・調整業務として県民、農業者等の研究ニーズの把握と対応、研究課題の進行管理と評価及び研究成果の公表と情報発信を行った。特許等の知的財産の管理、産学官の共同研究及び交流等の推進、外部機関からの技術研究員の受入等の業務を行った。また、新組織体制への移行に伴う温室新設等施設整備に関する業務を行った。

(2) 生産環境・安全管理研究担当

ア 環境安全研究

安全・安心な農産物生産技術に係る試験研究として、農薬暴露の回避と作業性向上技術の開発や県産農産物の残留農薬実態調査・河川中の農薬モニタリング調査を実施した。また、化学物質等の農産物への影響回避技術開発研究として、水稻に対するヒ素やカドミウム等の吸収抑制技術の開発や県内農耕地土壌の放射性物質の実態把握、農作物への影響回避技術の開発を行った。

環境に調和した生産技術として、食品残さ等リサイクル資源の有効利用や農耕地土壌の実態調査とその土壌が持つ炭素固定能力などを解明した。また、小麦について、土壌物理性と土壌水分を指標とした多収阻害要因の改善技術確立や「彩のきずな」など新たな奨励品種での減農薬・減化学肥料栽培法の確立に取り組んだ。

受託試験事業では、新開発肥料資材や農薬の登録や適正利用技術の開発などを行った。

以上の成果は、成果発表会などを通じ、生産現場等への技術の普及・定着を図った。さらに、試験研究のほか、施肥指導に係る研修、農産物安全に関する講義等を実施した。

イ 病虫害防除技術研究

環境保全型農業を推進し、安全・安心な農産物生産を実現するために、水稻のイネ縞葉枯病防除対策として、収穫期まで病虫害の発生を実用レベル以下に抑制する箱施用薬剤の選定と虫媒伝染性ウイルス病に対する抵抗性品種の効果検証を行い、麦類では黒節病を対象に防除効果の高い薬剤の選定を行った。また、麦類・果菜類・特産野菜などの新たな病虫害に対する防除技術の開発を進めるとともに、ナシのニセナシサビダニ、ブロッコリー細菌性病害防除対策を検討し、農薬環境リスク低減技術を確立した。また、ナシの省力的管理技術開発のために多機能スプリンクラーを設置し、引き続き試験を行った。受託試験事業では、新規開発及び既登録の殺菌、殺虫、生物農薬の計46薬剤の登録・実用化に向けた試験、バンカーシートの利用、種子消毒装置の高度利用に関する試験を実施した。さらに、クロバネキノコバエの一種の防除対策を早期に確立するため、平成28年度の農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業委託事業（緊急対応研究課題）「クロバネキノコバエの一種の生態の解明及び防除手法の開発」に取り組んだ。

以上の成果は、成果発表会などを通じ、生産現場等への技術の普及・定着を図った。さらに、普及指導員、農業者などから約150件の防除技術相談を受け、病虫害の診断や同定を行い、防除対策の指導を行った。

ウ 鳥獣害防除研究

農業者の生産意欲拡大と持続性のある農業を展開するため、野生鳥獣による農作物被害を回避する技術の研究に取り組んだ。

中山間地域ではニホンザル、ニホンジカ、イノシシなどの在来動物、ハクビシン、アライグマなどの外来

動物による複合的な被害が発生している。これらの被害を回避するため、多獣種に対応した侵入防止柵の開発や鳥獣が生息しにくい環境作りに取り組んだ。とくに、個体数増加と生息域の拡大が著しいニホンザルとニホンジカについては特定危機管理獣と位置づけ、効率的な管理技術の開発と実証を行った。

平坦地や市街地周辺ではハクビシン、アライグマなどの被害に加え、カラス、ヒヨドリなどの鳥類による被害も増加している。これらに対応するため、既存資材の組み合わせで被害回避効果を高める技術や超低コストで普及しやすい侵入防止柵の開発研究を実施した。

新たに侵入が予想されるヌートリアやミンク、キョンなどの外来種に対応するため、情報収集と現地調査を実施した。

(3) 品種開発・ブランド育成研究担当

ア 遺伝子情報活用研究

新たな品種の開発、ブランドの育成を実現するために、遺伝子情報を活用した技術開発を推進した。農業技術研究センター試験研究事業として、「県産米「特A」プロジェクト推進事業」、「水稲高温対策特別事業」、「DNAマーカーを活用した“もちもち米”開発とこだわり米の食味の多面的評価」、「もっと埼玉野菜づくり特別事業」、「オーダーメイド型産地づくり事業」、「ウイルス検定とウイルスフリー株の育成によるオリジナルイチゴ品種の実用化」、「新たな研究需要創出事業」を実施し、「彩の国地鶏タマシャモ血統更新事業」を支援した。

「県産米「特A」プロジェクト推進事業」では登熟気温によるアミロースの変動を低減する量的形質遺伝子座 (QTL) を8ヶ所の染色体領域を明らかにした。

「水稲高温対策特別事業」においては「むさしの29号」を識別するSSRマーカーセット及び多検体の玄米からのDNA抽出法を開発し、原原種の純度検定を行った。

「DNAマーカーを活用した“もちもち米”開発」では低アミロース遺伝子 *qAC9.3* の「彩のかがやき」への導入効果を検証した。また、*qAC9.3* を有するBC2F1世代に戻し交配を2回行い、BC4F1種子を得た。

「もっと埼玉野菜づくり特別事業」における「高機能性ブロッコリーの品種選定」では、機能性物質であるスルフォラファン合成に関わる遺伝子を幼苗期に検出する技術に取り組み、遺伝子配列の解析を行った。

「オーダーメイド型産地づくり事業」ではブロッコリーの機能性成分を測定した。プロテオグリカン (PG)、ポリフェノール、抗酸化能、糖組成成分グルコースの測定法を確立した。

「ウイルス検定とウイルスフリー株の育成によるオリジナルイチゴ品種の実用化」では3種ウイルスを検定可能なマーカー開発に取り組み、育成系統のウイルス検定を実施した。

新たな研究需要創出事業「イチゴ登熟関連成分の解析」においては、「埼園い1号」、「埼園い3号」および「とちおとめ」のペクチナーゼ遺伝子の一部配列の決定、成熟花托ペクチナーゼの測定を行った。

「彩の国地鶏タマシャモ血統更新事業」では良食味、良好な増体に関連する有用遺伝子について調査した。

これらの成果は学会、成果発表会、現地検討会、研修会、新聞、ホームページなどを通じて公表し、県民や生産者へ積極的に情報提供を行った。

イ 水稲研究

水稲等の新品種育成・定着化研究では、病虫害抵抗性をもち、気象変動に対応できる良質・良食味品種の育成を中心に行った。水稲高温対策特別事業では、高温耐性新品種候補の種子増殖を行った。なお、一部は沖縄県の暖地二期作を利用して増殖した。DNAマーカーを使い、「コシヒカリ」の縞葉枯病抵抗性、ツマグロヨコバイ抵抗性のNILや「彩のかがやき」を母本として、晩生の低アミロース品種の開発に取り組んだ。県産米「特A」プロジェクト推進事業では、食感測定機器を使用し、食味の解析に取り組んだ。

種子生産技術の研究では、麦類種子生産における「ムギ類黒節病」防除技術や高糖分高消化性稲WCS用

品種の採種技術の開発に取り組んだ。

水稻・麦類・大豆の現地支援及び累年調査事業では、範型・系統を隔離栽培して選抜・淘汰し、種子純度を維持した。受託試験事業では、品質評価に関する試験、水稻高温耐性特性検定、出願品種栽培試験を実施した。令達事業は、主要農作物採種事業（原原種生産体制整備事業）で、奨励品種の原原種の増殖を行った。また、水田フル活用支援事業（主穀作生産振興対策事業）では、沖縄県での暖地二期作を利用した世代促進栽培を行った。

ウ 野菜研究

野菜研究では、イチゴの新品種育成、野菜もりもり大作戦事業、いも類の品種・系統維持を実施した。

イチゴの新品種育成では、イチゴの県オリジナル品種で‘とちおとめ’より耐病性と糖度・酸度に優れた‘埼園い1号’及び糖度が高く酸度が‘とちおとめ’同等の「埼園い3号」を育成し職務育成品種として種苗登録申請を行なった。

いも類の品種・系統維持ではサトイモ5品種（系統）を栽培し、すべての品種（系統）で次年度用の芋が確保できた。これらの品種（系統）は種芋貯蔵して系統保存を行った。

野菜もりもり大作戦事業では、イチゴ栽培における端境期解消のための新規作型の開発で、培地温制御資材の効果を検証した。その結果、冷媒材設置区で日没後の培地温の低下が緩やかで保温効果が期待できた。冷却効果については栽培上の理由で効果が確認できなかった。同事業のもう一つの課題として水田で栽培できるサトイモ優良系統の選抜を行った。埼玉で栽培の盛んな‘土垂’および‘蓮葉’10系統を用い、水田で栽培して食味試験に供試した。収量性および食味試験の結果から‘土垂’4系統、‘蓮葉’2系統を選抜した。

エ 種畜生産研究

酪農・飼料関係では、乳牛・肉用牛の生産性向上、肉用牛の改良増殖、飼料自給率の向上等を目的とし7課題を実施した。

乳牛の課題では、乳牛の健全性向上のための秘乳平準化技術の開発を目的とした新たな乾乳期の飼養方法の検討、乳生成分から牛のエネルギー状態を推測する式を完成することを目的とした各秘乳ステージにおけるエネルギー出納の調査を行った。

肉牛では、秩父高原牧場と連携した優良黒毛和種供卵牛の採卵及び受精卵の凍結保存・移植による黒毛和種子牛の増産・供給の支援、県産飼料の活用と低コスト化を目的とした乳用雄牛及び日本短角種とホルスタイン種のF1の肥育試験を実施した。

飼料の課題では、飼料高騰対策を目的とし、高糖分・高消化性飼料用稲の栽培・調製技術の開発、飼料用トウモロコシ16品種の生育・収穫調査、自給飼料分析事業による県内農家の自給飼料104検体の分析を行った。

養豚関係では7課題を実施した。凍結精液を利用した豚の夏季受胎率向上試験と凍結乾燥精液の開発では、PMSG製剤投与後の膈空内電気抵抗度を測定し、低値から高値を示した24時間後に定時人工授精方法を実施した。また、ホルモン処置もしくは、背面冷水滴下を行い発情回帰を調べた。凍結乾燥精液の開発では、バッファーによるDNA損傷度の違いについて調査した。新たな豚精液長期保存方法の開発においては、5℃で12日～4週間保存した精子を人工授精し、受胎・分娩率を調べた。高コレステロール／動脈硬化症ミニ豚の系統造成に関する研究においては、高コレステロール／動脈硬化症遺伝子をヘテロで保有する豚を交配し、ホモ豚の作成を実施した。豚受精卵移植技術の確立試験では、と畜場から採取した卵巣から卵子を採取し、体外受精卵を6回作製した。埼玉ブランド農産物推進事業においては、人工授精により生産された英国系黒豚から優れた後継豚を選抜し、種豚39頭、子豚163頭を県内農家に払い下げた。また低リスク低コストな高能

力種豚実証試験では、生産農家において胚の非外科的移植を可能にする移植機を開発した。また母豚の非生産性日数抑制試験では、スメアによる鈍性発情豚を発見する指標作成のためのサンプリングを6頭実施した。

養鶏関係では2事業を実施した。タマシャモ生産体制整備事業では、高品質肉用鶏「タマシャモ」の維持・増殖のため、種鶏の更新を2回、原種の更新を1回実施した。肥育用鶏のヒナは31,600羽を農家に配布した。血統更新事業では、昨年度より開始したロードアイランドレッド原種及びタマシャモ原種の血統更新を継続している。また、タマシャモの増体及び食味に関与する遺伝子の解析を開始した。タマシャモ原種鶏の危機管理対策として県内の3農業高校で分散飼育を行った。

環境関連では、当センターに新設した汚水処理施設の水質検査について年間を通して実施した。

(4) 高度利用・生産性向上研究担当

ア 水田高度利用研究

農業技術研究センター試験研究事業のうち、「麦類奨励品種決定調査」では麦茶用の皮麦1系統を有望と判定した。「二条大麦「彩の星」の生育診断による追肥判定技術の開発」では、「彩の星」の栽培法の検討、生育診断指標となりうる項目（生育量、葉色など）を検討した。「高糖分高消化性稲WCS用品種の地域条件に適した多収栽培の開発」では「つきすずか」の施肥法を検討した。麦栽培における「土壌物理性と土壌水分を指標とした多収阻害要因の改善技術確立」では場内の多収ほ場、少収ほ場において土壌物性、土壌化学性等を調査するとともに、土壌改善法を検討した。

「ビール麦の有機質資材を用いた施肥法の確立」では混合堆肥複合肥料「エコレット055」の適用性を検討した。「水稻・麦類・大豆の現地支援及び累年調査事業」では、稲、麦の累年調査を実施し現地への技術支援を行った。「受託試験事業（植物調節剤実用化試験）」としては、新規水稻除草剤の実用性について検討を行った。

水稻高温対策特別事業「高温耐性新品種の高品質安定生産技術体系の確立」では、「むさしの30号」の生育特性について検討した。埼玉野菜もりもり大作戦事業「水田の野菜基地化」ではキャベツの水田栽培適性、ブロッコリー・水稻等を組み合わせた野菜輪作体系の検討を行った。県産米「特A」プロジェクト推進事業「食味向上技術の開発」では食味を向上させる施肥法、栽植密度、水管理法等について検討した。

イ 高収益畑作研究

野菜もりもり大作戦事業においては、「機械化技術開発」、「気象災害対策技術」について取り組んだ。

「機械化技術開発」では、ブロッコリーの機械収穫を前提に、収穫ロスを極力抑えられる収穫期斉一化技術について取り組んだ。また、試作機によるブロッコリーの収穫精度等について検討した。

「気象災害対策技術確立」では、サトイモの品種、系統による耐乾性の解明やネギの耐湿性の高い品種の選定に取り組んだ。また、サトイモの効果的な灌水方法を明らかにするため、灌水回数が品質・収量へ及ぼす影響について検討した。

「丸系八つ頭の生育特性に基づく栽培・貯蔵技術の確立」では、経時的生育様相の解明や基肥の施用量、生育期間中の親芋内成分の推移、種芋の貯蔵に適する温度について検討した。

「新たな研究需要創出事業」では、乾燥条件下における保水材によるニンジン発芽、ブロッコリー苗活着への影響について検討した。

ウ 施設園芸先端技術研究

野菜関係では、野菜もりもり大作戦Ⅲ（野菜の新規作型の研究開発）つる下ろし栽培による長期1作型の開発では、キュウリの長期栽培に適した台木品種の検討及び果実品質について調査を行った。新規作型開発

のための環境制御技術の確立では、ヒートポンプと暖房機を用いた局所加温試験を実施した。遮熱・遮光等による環境制御技術の開発では、4～8月に栽培試験を実施した。野菜もりもり大作戦Ⅳ（美味しく元気な野菜生産技術の研究開発）では、半促成作型のキュウリについてグルタチオン含有量の分析を行った。また、ブロッコリーの秋冬どり作型でグルコラファニン含有量の品種間差と硫黄施用の効果を検討した。農食事業の「画期的機能を持つ野菜の接ぎ木システムの実用化と接ぎ木効率を向上させる接ぎ木接着剤の開発」では、わい性台木を用いて草丈の抑制を検討した。ナス穂木2品種にナス台木3系統、トマト台木6系統の接ぎ木を行い、2月8日に定植を行った。今後、ナスの収量増加・害虫選好性を示す台木のスクリーニングを行う。園芸作物の新品目の特性調査では、キュウリの新品種について、従来品種と比較試験を行った。

花関係については、「日持ち保証販売に対応した高品質切り花生産技術の確立」で、ユリの品質保持技術について収穫後の冷蔵庫保管時にLEDが品質保持に及ぼす影響を調査した。チューリップの品質保持技術の開発では、18品種を供試し、品質保持剤の効果を検討した。また、カトレアの切り花の1-MCPにより処理日持ちが延長した。「新規需要開拓のためのチューリップ新品種育成と切り花等高品質化技術」では、香りを強め香る期間を長くするため、1鉢あたりの球根数を検討した。鉢花の品質保持技術の開発では、植物成長調整剤のかん注処理と低温処理期間短縮について比較検討した。「オリンピック・パラリンピックを意識した夏季の都市景観維持のための夏花安定生産・利用技術の開発と実証化」では、夏季の観賞性に優れる10品目19品種を選定した。ポットマムとリンドウについて、高冷地育苗や夜冷育苗、挿し木の時期による花色や出荷期間への効果を検討した。花きの栽培特性調査では、鹿児島県で育成されたテッポウユリについて、生産者ほ場にて現地試験を行った。

エ 果樹研究

埼玉県に適した果樹品種の育成・選抜、収量向上、省力化、安定生産、高品質果実（無核大粒）生産等について、研究を実施した。ニホンナシ品種育成・選抜については、第3次が2系統、第5次が36系統で、果実品質を調査し、第5次24系統については本年度で試験を中止した。

花粉採取技術開発に係る試験では、低樹高ジョイント仕立て栽培を一般的な棚栽培と比較しての花粉採取の採取効率、労働負担の調査を行うとともに、花粉採取量の増加のための植物調節剤の利用について検討した。

樹体管理による「あきづき」「王秋」の果肉崩壊症対策では、摘果やカルシウム資材及びマグネシウム資材の葉面散布による軽減効果を検討した。

肥培管理による「あきづき」の果肉障害発生抑制技術対策では、元肥施用量と追肥時期の2要因試験、元肥施肥養分量とカルシウム、マグネシウム資材の葉面散布を組み合わせ、障害発生と施肥量、施肥時期、カルシウム、マグネシウム施用との関係性を検討した。また、現地発生圃場、未発生圃場の土壌、葉分析を行い、障害発生要因を検討し、発生圃場において、カルシウム、マグネシウム資材の葉面散布による障害発生低減効果を検討した。

「彩玉」の短期貯蔵試験では、「彩玉」が低温貯蔵中に糖度が上昇する傾向の確認及びその原因について検討した。

本県育成のニホンナシ「彩玉」、ブドウの新品種「シャインマスカット」、「クイーンニーナ」、クリ「ぼろたん」について、産地での高品質安定生産に向けて講習会等を通じて生産者、関係機関職員を指導した。

大柱1 環境変化に対応し安定生産が可能となる栽培管理技術の開発

(2) 病害虫、野生鳥獣等の被害回避対策技術の開発

| No. | 課題名 | 担当 | 研究チーム | 研究開始年 | 研究終了年 |
|-----|---|------------------------------|---------------------|-------|-------|
| 1 | 特産野菜クワイの安定生産をおびやかす「ひぶくれ病」防除対策技術の開発と現地実証 | 生産環境・安全管理研究 | 病害虫防除技術研究 | H25 | H28 |
| 2 | 麦類種子生産における「ムギ類黒節病」防除対策技術の開発 | 生産環境・安全管理研究 品種開発・ブランド育成研究 | 水稲研究 病害虫防除技術研究 | H25 | H28 |
| 3 | ニホンナシ「あきづき」「王秋」に発生する果肉崩壊症の発生低減技術の開発 | 高度利用・生産性向上研究 | 果樹研究 | H26 | H28 |
| 4 | (農水省委託プロ) 肥培管理による「あきづき」の果肉障害発生抑制技術の開発と体系化 | 高度利用・生産性向上研究 | 果樹研究 | H26 | H30 |
| 5 | (SIP戦略的イノベーション創造プログラム) 音響的手法によるコナジラミ類の物理的防除法の開発 | 生産環境・安全管理研究 | 病害虫防除技術研究 | H26 | H30 |
| 6 | (SIP戦略的イノベーション創造プログラム) 植物保護に有用な糸状菌の探索と有用微生物コート種子の開発 | 生産環境・安全管理研究 | 病害虫防除技術研究 | H26 | H28 |
| 7 | 水稲複合病害虫抵抗性品種の防除削減によるリスク評価と「彩のきずな」など新たな奨励品種での減農薬・減化学肥料栽培法の確立 | 生産環境・安全管理研究 | 病害虫防除技術研究 環境安全研究 | H27 | H29 |
| 8 | (農林水産・食品産業科学技術研究推進事業) 産地に応じて抵抗性品種薬剤防除を適宜利用するイネ編葉枯病の総合防除技術の開発 | 生産環境・安全管理研究 | 病害虫防除技術研究 | H27 | H29 |
| 9 | 研究成果展開事業マッチングプランナープログラム「探索試験」 キュウリ病害の画像診断システムの開発 | 生産環境・安全管理研究 | 病害虫防除技術研究 | H27 | H28 |

(3) 農産物の安全性を高める技術の開発

| No. | 課題名 | 担当 | 研究チーム | 研究開始年 | 研究終了年 |
|-----|------------------------------|------------------------------|-----------|-------|-------|
| 10 | 新たな防除技術を活用したイチゴの省力的害虫防除体系の確立 | 生産環境・安全管理研究 品種開発・ブランド育成研究 | 病害虫防除技術研究 | H26 | H28 |
| 11 | 施設キュウリ栽培の農薬散布における作業安全確保技術の開発 | 生産環境・安全管理研究 | 環境安全研究 | H28 | H30 |

大柱2 県オリジナル品種(埼玉ブランド)となる新品種の育成・普及

(1) 県の特性、産地振興の視点に立った品種育成

| No. | 課題名 | 担当 | 研究チーム | 研究開始年 | 研究終了年 |
|-----|--------------------------------------|-------------------------------|---|-------|-------|
| 12 | 水稲等の新品種育成・定着化研究 (育種課題) | 品種開発・ブランド育成研究 高度利用・生産性向上研究 | 水稲研究 高収益畑作研究 | S27 | |
| 13 | ニホンナシの交雑育種(育種課題) | 高度利用・生産性向上研究 | 果樹研究 | S59 | |
| 14 | イチゴの県オリジナル品種の育成 | 高度利用・生産性向上研究 生産環境・安全管理研究 | 野菜研究 病害虫防除技術研究 | H19 | H28 |
| 15 | 病害虫複合抵抗性を有するコシヒカリNILの迅速な育成 | 品種開発・ブランド育成研究 | 遺伝子情報活用研究 水稲研究 | H26 | H30 |
| 16 | DNAマーカーを活用した「もちもち米」開発とこだわり米の食味の多面的評価 | 品種開発・ブランド育成研究 生産環境・安全管理研究 | 遺伝子情報活用研究 環境安全研究 水稲研究 水田高度利用研究 | H27 | H31 |

| | | | | | |
|----|-------------------------------------|---------------------------|-----------|-----|-----|
| 17 | ウイルス検定とウイルスフリー株の育成によるオリジナルイチゴ品種の実用化 | 品種開発・ブランド育成研究 | 遺伝子情報活用研究 | H28 | H30 |
| 18 | オーダーメイド型産地づくり事業 機能性農産物の開発と高付加価値化 | 品種開発・ブランド育成研究 農業革新支援担当 | 遺伝子情報活用研究 | H28 | H32 |

(2) 遺伝子情報等の活用と、普及と一体化した効率的な品種開発

| | | | | | |
|----|--------------------------------|---------------|--------|-----|-----|
| 19 | 凍結精液を利用した豚の夏季受胎率向上試験と凍結乾燥精液の開発 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | H26 | H29 |
| 20 | 新たな豚精液長期保存方法の開発 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | H27 | H30 |
| 21 | 母豚の非生産性日数抑制による繁殖性向上試験 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | H28 | H31 |
| 22 | 豚凍結人工授精技術を活用した埼玉養豚競争力アップ事業 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | H28 | H32 |

大柱3 土地利用型農業における大規模低コスト・高収益な生産技術の開発

(1) 農林産物の省力化・低コスト生産技術の開発

| No. | 課題名 | 担当 | 研究チーム | 研究開始年 | 研究終了年 |
|-----|---|---------------------------------------|-----------------------------|-------|-------|
| 23 | 多機能スプリンクラーによるナシ園の省力管理技術開発 | 生産環境・安全管理研究 高度利用・生産性向上研究 農業革新支援 | 病虫害防除技術研究 環境安全研究 果樹研究 | H27 | H29 |
| 24 | 県内産飼料多給による低コスト畜産物生産技術の確立 | 品種開発・ブランド育成研究 高度利用・生産性向上研究 | 種畜生産研究 水田高度利用研究 | H27 | H30 |
| 25 | 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 国産果実安定生産のための花粉自給率向上に繋がる省力・低コスト花粉採取技術の開発 | 高度利用・生産性向上研究 | 果樹研究 | H28 | H30 |

(2) 農林産物を高品質・安定供給する生産技術の開発

| No. | 課題名 | 担当 | 研究チーム | 研究開始年 | 研究終了年 |
|-----|--|---------------------------------------|-------------------------------|-------|-------|
| 26 | 埼玉野菜もりもり大作戦事業 省力・機械化技術開発 | 高度利用・生産性向上研究 | 高収益畑作研究 | H26 | H30 |
| 27 | 埼玉野菜もりもり大作戦事業 水田を活用した野菜生産技術の研究開発 | 高度利用・生産性向上研究 | 水田高度利用研究 | H26 | H30 |
| 28 | 委託プロジェクト研究「国産飼料の安定生産と魅力向上のための生産技術開発」高糖高消化性イネWCS用品種の地域条件に適した多収栽培の開発 | 品種開発・ブランド育成研究 高度利用・生産性向上研究 | 種畜生産研究 水田高度利用研究 | H27 | H31 |
| 29 | 委託プロジェクト研究「畜産・酪農の生産力強化のための技術開発」乳用牛の泌乳中のエネルギーバランスの遺伝的評価のための指標形質の探索 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | H27 | H31 |
| 30 | 農林水産省委託プロジェクト研究「生産現場強化のための研究開発」麦類の多収阻害要因の解明と改善指標の開発 | 高度利用・生産性向上研究 生産環境・安全管理研究 農業革新支援 | 水田高度利用研究 環境安全研究 | H27 | H31 |
| 31 | 「丸系八つ頭」の生育特性に基づく栽培・貯蔵技術の確立 | 高度利用・生産性向上研究 | 高収益畑作研究 | H28 | H30 |
| 32 | 水稲高温対策特別事業 | 高度利用・生産性向上研究 品種開発・ブランド育成研究 | 水田高度利用研究 水稲研究 遺伝子情報活用研究 | H28 | H32 |
| 33 | 二条大麦「彩の星」の生育診断による追肥判定技術の開発 | 高度利用・生産性向上研究 | 水田高度利用研究 | H26 | H28 |

大柱4 生産効率が高く、付加価値の高い農産物生産技術の開発

(1) 生育環境制御による高品質生産技術開発

| | | | | | |
|----|---|--|---|-----|-----|
| 34 | 農業の土壌機能における炭素固定能力解明 | 生産環境・安全管理研究 | 環境安全研究 | H20 | H28 |
| 35 | 埼玉野菜もりもり大作戦事業 端境期解消のための新規作型の作型研究 | 高度利用・生産性向上研究 品種開発・ブランド育成研究 | 施設園芸先端技術研究 野菜研究 | H26 | H30 |
| 36 | 日持ち保証販売に対応した高品質切り花生産技術の確立 | 高度利用・生産性向上研究 | 施設園芸先端技術研究 | H26 | H28 |
| 37 | 農林水産業・食品産業科学技術推進事業 新規需要開拓のためのチューリップ新品種育成と切り花 等高品質化技術の開発 | 高度利用・生産性向上研究 | 施設園芸先端技術研究 | H26 | H30 |
| 38 | 委託プロ 国産花きの国際競争力増強のための技術開発 夏季高温期に対応できる苗物花きの生産と生産維持技術 の開発 | 高度利用・生産性向上研究 | 施設園芸先端技術研究 | H27 | H31 |
| 39 | 統合環境制御によるキュウリの栽培技術の確立 | 高度利用・生産性向上研究 | 施設園芸先端技術研究 | H28 | H30 |
| 40 | 県産米「特A」プロジェクト推進事業 | 高度利用・生産性向上研究 品種開発・ブランド育成研究 生産環境・安全管理研究 | 水田高度利用研究 水稲研究 遺伝子情報活用研究 環境安全研究 | H28 | H32 |

(2) おいしさや機能性を追求した農産物の生産技術開発

| | | | | | |
|----|------------------------------|-----------------------------|--|-----|-----|
| 41 | 埼玉野菜もりもり大作戦事業 美味しく元気な野菜生産 | 高度利用研究水稲研究 品種開発・ブランド育成研究 | 施設園芸先端技術研究 高収益畑作研究 野菜研究 遺伝子情報活用研究 | H26 | H30 |
|----|------------------------------|-----------------------------|--|-----|-----|

大柱5 地域に根ざした生産技術の研究・指導の推進

| | | | | | |
|----|---|---------------|--------|-----|-----|
| 42 | 革新的技術開発・緊急展開事業（地域戦略プロジェクト） 超低温保存胚の子宮体部非外科移植を利用した生産農家 への低リスク低コストな高能力種豚導入実証 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜研究 | H28 | H30 |
| 43 | 受託試験事業 (高能力飼料作物品種選定調査) | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | H26 | H28 |
| 44 | 受託試験事業 (高コレステロール血症/動脈硬化症ミニブタの系統造 成) | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | H24 | H28 |

大柱6 調査研究

| No | 課題名 | 担当 | 研究チーム | 研究 開始年 | 研究 終了年 |
|----|---|---------------|--------------------|-----------|-----------|
| 45 | 中型野生動物（アライグマ、ハクビシン、アナグマ、タヌキなど）の県内生息状況（モニタリング） | 生産環境・安全管理研究 | 鳥獣害防除研究 | H27 | |
| 46 | いも類の作況調査と品種・系統の維持(モニタリング) | 品種開発・ブランド育成研究 | 野菜研究 | H9 | |
| 47 | 園芸作物の新品目の特性調査 (モニタリング) | 高度利用・生産性向上研究 | 施設園芸先端技術研究 果樹研究 | H12 | |

| | | | | | |
|-------------|---|-------------------------------|--|-----|-----|
| 48 | 土壌保全調査 (モニタリング) | 生産環境・安全管理研究 | 環境安全研究 | H11 | |
| 49 | 水稲・麦類・大豆の現地支援及び累年調査事業(モニタリング) | 品種開発・ブランド育成研究 高度利用・生産性向上研究 | 水稲研究 水田高度利用研究 | S27 | |
| 50 | ナシ作況調査 (モニタリング) | 高度利用・生産性向上研究 | 果樹研究 | S44 | |
| 51 | 受託試験事業 高窒素エコペレットの利用技術に関する試験 | 生産環境・安全管理研究 | 環境安全研究 | H21 | |
| 52 | 受託試験事業 (新規農薬・植物調節剤実用化試験) | 高度利用・生産性向上研究 生産環境・安全管理研究 | 水田高度利用研究 高収益畑作研究 果樹研究 病害虫防除技術研究 | H28 | H28 |
| 53 | 受託試験事業 (品質評価試験に関する試験) (1)ビール大麦の粗タンパク質含有量分析 (2)一般発芽試験 | 品種開発・ブランド育成研究 | 水稲研究 | H16 | |
| 54 | 種子消毒装置の高度利用を目的とした麦類の種子伝染性病害に対する防除効果の評価 | 生産環境・安全管理研究 | 病害虫防除技術研究 | H28 | H30 |
| 新たな研究需要創出事業 | | | | | |
| | ネギ及びニンジンのクロバネキノコバエ科(未記載種)被害に対する緊急対策と防除技術開発のための発生実態調査 | 生産環境・安全管理研究 | 病害虫防除技術研究 | H28 | H28 |
| | 生産現場で発生したカブの根内部黒変症に関する発生要因の解明 | 生産環境・安全管理研究 | 環境安全研究 | H28 | H28 |
| | 水稲品種のオゾン耐性評価方法の開発 | 品種開発・ブランド育成研究 | 水稲研究 | H28 | H28 |
| | 5つの病害虫に強い複合抵抗性系統の育成 | 品種開発・ブランド育成研究 | 水稲研究 遺伝子情報活用研究 | H28 | H28 |
| 55 | キュウリの二足接ぎ技術の開発 | 高度利用・生産性向上研究 | 施設園芸先端技術研究 | H28 | H28 |
| | 低コスト環境計測・制御システムの検討 | 高度利用・生産性向上研究 | 施設園芸先端技術研究 | H28 | H28 |
| | 保水資材による発芽・苗活着への影響評価 | 高度利用・生産性向上研究 | 高収益畑作研究 | H28 | H28 |
| | ニホンナシ「彩玉」における短期貯蔵条件の検討 | 高度利用・生産性向上研究 | 果樹研究 | H28 | H28 |
| | イチゴ登熟関連成分の解析 | 品種開発・ブランド育成研究 | 遺伝子情報活用研究 | H28 | H28 |
| 56 | 委託プロジェクト研究 水管理によるヒ素・カドミウムの同時低減を可能にする栽培管理技術の高度化 | 生産環境・安全管理研究 | 環境安全研究 | H28 | H29 |
| 57 | 革新的技術開発・緊急展開事業(地域戦略プロ) 次世代の果樹栽培法「根圏制御栽培法」導入実践による産地活性化 | 農業革新支援 高度利用・生産性向上研究 | 果樹研究 | H28 | H30 |
| 58 | 革新的技術開発・緊急展開事業(先導プロ) 乳牛の健全性向上のための泌乳健全化技術の開発 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜研究 | H28 | H32 |
| 59 | 委託プロジェクト研究 農林水産分野における気候変動対応のための研究開発 | 生産環境・安全管理研究 | 鳥獣害防除研究 | H28 | H32 |
| 60 | 委託プロジェクト研究 生産現場強化のための技術開発 「土壌物理性と土壌水分を指標とした多収阻害要因の改善技術確立 | 高度利用・生産性向上研究 生産環境・安全管理研究 | 水田高度利用研究 環境安全研究 | H27 | H30 |
| 61 | 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 画期的機能を持つ野菜の接ぎ木システムの実用化と接ぎ木効率を向上させる接ぎ木接着剤の開発 | 高度利用・生産性向上研究 生産環境・安全管理研究 | 施設園芸先端技術研究 病害虫防除技術研究 | H28 | H30 |

| | | | | | |
|--------------------|--|---------------|-----------|-----|-----|
| 62 | 令達事業 主要農作物採種事業 原原種・原種生産整備事業 | 品種開発・ブランド育成研究 | 水稲研究 | S37 | |
| 63 | 令達事業 有害動植物防除等体制整備促進事業 野生動物の農作物被害防止総合対策の推進 | 生産環境・安全管理研究 | 鳥獣害研究 | H20 | H28 |
| 64 | 令達事業 中山間ふるさと事業 野生獣の農作物被害防止総合対策の推進 | 生産環境・安全管理研究 | 鳥獣害研究 | H21 | H28 |
| 令達事業 安心安全農作物確保対策事業 | | | | | |
| 65 | 鉄資材を活用したコメ中ヒ素濃度低減技術の確立 | 生産環境・安全管理研究 | 環境安全研究 | H28 | H30 |
| | 土壌および農作物における放射性物質の実態把握及び 安全性確保要因の解明 | | | H28 | H30 |
| | 殺線虫剤の土壌残留とその防除効果の関係解明(施設 キュウリ) | | | H28 | H30 |
| | コメ中の無機ヒ素濃度低減技術確立のための実態把握 | | | H28 | H29 |
| 66 | 令達事業 消費安全対策交付金事業 病害虫防除対策 | 生産環境・安全管理研究 | 病害虫防除技術研究 | H28 | H28 |
| 67 | 令達事業 農薬安全対策事業 | 生産環境・安全管理研究 | 環境安全研究 | | |
| | マイナー作物の農薬残留確認調査 | | | H18 | H28 |
| | 農薬残留実態調査 | | | H17 | H28 |
| | 河川中農薬モニタリング調査 | | | H25 | H28 |
| 68 | 令達事業 畜政推進事業 飼料対策事業 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | S63 | |
| 69 | 令達事業 高品質畜産物生産体制整備事業 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | | |
| | 豚の受精卵移植技術高度化試験 | | | H10 | H28 |
| | 受精卵移植技術高度化試験 | | | H23 | |
| | 高品質畜産物生産振興事業(タマシヤモ生産体制整備 事業) | | | H27 | |
| 70 | 「彩の国地鶏タマシヤモ」血統更新事業 彩の国地鶏タマシヤモ開発研究事業 | 品種開発・ブランド育成研究 | 種畜生産研究 | H27 | H32 |

3 試験研究課題の取組概要

1 特産野菜クワイの生産安定をおびやかす「ひぶくれ病」防除対策技術の開発と現地実証

有効薬剤のスクリーニングを行ったところ、発病前からの処理においてマンゼブ水和剤の4回散布できわめて高い防除効果を得られた。粒剤の湛水散布では、アゾキシストロビン・メタラキシルM粒剤の2回処理で防除効果が認められた。

塊茎収量は地上部の防除効果を反映した結果となった。

さいたま市岩槻区の生産者ほ場でアゾキシストロビン・メタラキシルM粒剤の2回処理と銅(塩基性硫酸銅)水和剤散布の体系防除による現地実証試験を行ったところ、8月中旬までは現地慣行区に比較し体系防除区の防除効果がまさったが、8月中旬以降の雷雨や台風により急激に病勢が進展し、9月の調査では両区に明瞭な差は認められなかった。坪掘りによる収量も両区間に明瞭な差はなかった。

2 麦類種子生産における「ムギ類黒節病」防除対策技術の開発

「ムギ類黒節病」は、平成22年、本県のムギ類栽培ほ場において新たに発生が確認された病害である。種子伝染するため種子生産における重要病害で、これまでの研究成果をもとに平成28年度中に2薬剤(金属銀水和剤、塩基性硫酸銅水和剤)が農薬登録された。本年度は、主にこれら2薬剤を用いた体系防除について検討した。

二条大麦「彩の星」、六条はだか麦「イチバンボシ」、六条皮麦「すずかぜ」および小麦「さとのそら」を対象に、金属銀水和剤による種子消毒と、生育期の銅(塩基性硫酸銅)水和剤の散布を組み合わせた体系防除による効果を評価した。各麦種とも病徴発現の抑制には止め葉抽出期からの3回散布が有効であったが、種子保菌粒率の低減には穂揃い期からの3回散布が最も有効であった。

採種ほでの実用性を検討するため、チウラム・ベノミル水和剤でコート済みの種子に対し金属銀水和剤の追加処理の可否について検討し、作業性、出芽時期、生育経過、防除効果(外部病徴)について評価した。(病害虫防除技術研究)

「ムギ類黒節病」は、平成22年、本県の麦類栽培ほ場において、新たに発生が確認された病害である。本病の発生実態把握と、本病に汚染されていない種子の生産技術開発に取り組んだ。

平成28年産「さとのそら」原種の汚染度は4.2%であった。雨よけ栽培による汚染度0%種子を使用して通常野外で生産した平成28年産「さとのそら」原原種の汚染度は、ほ場での発病は認められなかったが、19.8%であった。(水稲研究分)

3 ニホンナシ「あきづき」「王秋」に発生する果肉崩壊症の発生低減技術の開発

「あきづき」の着果量および緑枝管理が障害発生に及ぼす影響については、果叢葉を持たない「無着葉果叢」を中心に着果させ、500g以上の大玉の発生を抑えるよう4果叢に1果着果させること、副梢の除去など強い新梢管理を行わないようにすることが果肉障害の発生を抑える管理と考えられた。

また、「あきづき」の摘果時期が障害発生に及ぼす影響の試験では、摘果の時期ではなく、果実重500g程度の果実生産を目指すことで果肉障害の発生が少なくなるものと考えられた。

「王秋」に対するカルシウム、マグネシウム資材の葉面散布が障害発生に及ぼす影響では、果実に発生するコルク状障害は、断根処理、Ca、Mg資材の土壌施用およびCa、Mg資材の葉面散布処理により軽減できる可能性が認められた。また、葉中Mg含量の不足が発生要因の一つとして考えられた。

現地試験において苦土石灰+穴掘り区の陥没発生率が若干低くなったが、有意な差ではなかった。抽出収穫した果実では、コルク状障害の内部発生割合が、苦土石灰+穴掘り区で若干低い値であったが、有意な差ではなかった。Ca Mg施用区の土壌は、交換性カルシウム、交換性マグネシウムが無施用区と比較して多い値となったことから、「王秋」果実に発生する果皮陥没およびコルク状障害の内部発生は、断根処理およびCa、Mg資材の土壌施肥により軽減できる可

能性が認められた。

4 肥培管理による「あきづき」の果肉障害発生抑制技術の開発と体系化（委託プロジェクト研究）

基肥施用量と追肥時期を変えた試験では、無追肥区で水浸状障害が多い傾向も見られたが、明瞭な違いではなかった。基肥成分とカルシウム資材葉面散布を組み合わせた試験では、基肥にカリが多い区では、水浸状障害が多くなり、カリを削減し、カルシウム資材の葉面散布を行った区では、水浸状障害が有意に少なくなった。Ca、Mg の土壤施用試験では、併用処理区のコルク状障害、水浸状障害の発生が少なくなった。カリ施用と 7 月乾燥処理を組み合わせた結果、土壤のカリ過剰は、7 月の乾燥により「あきづき」果実中の Ca 含量を低下させ、コルク状障害の発生を助長する可能性が示唆された。また、7 月の乾燥は、翌年の葉中、果実中の Mg 含量を低下させることが明らかになった。

火山灰土壤現地多発園において、Ca、Mg の土壤施用を行った結果、コルク状障害、水浸状障害の発生が、無施用区より少なくなったが、有意な差ではなかった。多発園の土壤は、少発園土壤より Mg/K 比が低い値であった。沖積土壤障害発生園において、Ca、Mg 資材の土壤施用を行った結果、土壤の Mg/K 比の改善は見られたが、障害発生の軽減効果は見られなかった。

5 音響的手法によるコナジラミ類の物理的防除法の開発（SIP 戦略的イノベーション創造プログラム）

コナジラミ類の化学農薬使用低減に向けた代替防除手段の開発のため、音響や振動を与えることによる交信攪乱や行動制御への影響を調査した。まず、筑波大学と共同研究を行い、個体群の音響測定を行ったところ、バイオタイプ B、Q1、Q2 において、それぞれ 2 パターンの発生音があり、特に周波数変化を伴う音はバイオタイプごとに特徴が大きく異なることが明らかとなった。一方、個体群の音響と行動との関連解明については、100~300Hz の 2 秒間 sweep 音は、有意差は見られないがタバココナジラミの産卵数を 2 割程度減少させる傾向が見られた。Bt-B の集合音は、異なったバイオタイプには影響がないが、Bt-B の産卵数が同様に減少することが明らかとなった。

6 植物保護に有用な糸状菌の探索と有用微生物コート種子の開発（SIP 戦略的イノベーション創造プログラム）

平成 28 年度に(独)理化学研究所から送付された糸状菌および酵母 81 菌株について、ナス半身萎凋病菌を対象として、培地上において有用な微生物のスクリーニング方法を検討した。その結果、ツアベックドックス寒天培地を用いた対峙培養によって、拮抗作用を有する糸状菌 12 菌株、酵母菌 8 菌株を有用菌株として選定できた。また、昨年までに培地検定等で選抜された 64 菌株について、ナス台木「台太郎」を用いたポット及びほ場条件下でのスクリーニングを行い、糸状菌 4 菌株、酵母菌 4 菌株に有用性が認められた。有用菌の処理方法としては、24 時間種子浸漬処理に比べ、育苗時灌注処理の効果が高いことが示唆された。

7 水稻複合抵抗性品種の防除削減によるリスク評価と「彩のきずな」など新たな奨励品種での減農薬・減化学肥料栽培法の確立

「キヌヒカリ」に代わる、良食味・穂もち・縞葉枯病・ツマグロヨコバイ抵抗性品種として育成し普及推進した。

「彩のきずな」については、産地より特別栽培農産物(減農薬・減化学肥料栽培)生産技術の確立について要望が上げられていた。いっぽう、「彩のきずな」は紋枯病に罹病しやすいこと、また、平成 25 年に大発生した地域もあった「黒すじ萎縮病(ヒメトビウンカ媒介)」には感受性であり、防除回数の削減がこれら病害虫の多発を招くリスクもある。こうしたことを踏まえ、防除回数を削減しつつ病害虫発生を実用水準以下に抑制する防除技術の開発に取り組んだ。本品種で問題となりやすい紋枯病およびヒメトビウンカに対しては、場内試験の結果、イソチアニル・イミダクロプリド・ペンフルフェン粒剤の移植当日処理により、5 月中旬移植、6 月下旬移植とも高い防除効果が得られ減農薬栽培が可能であることが確認された。減農薬・減化学肥料栽培技術の実証のため、本庄市児玉町の生産者ほ場において実施した現地

試験では、イソチアニル・イミダクロプリド・ペンフルフェン粒剤の苗箱処理により実用的な高い防除効果が得られた。
(病害虫防除技術研究)

有機質肥料の割合を変えた施肥区を設計し、減化学肥料栽培としての有効な施肥体系について検討した。減化学肥料区の中では、有機+穂肥区、有機/化成+穂肥区、全量有機区(穂肥無し)で、化成肥料区以上の精玄米重が得られ、有機+穂肥区、有機/化成+穂肥区は普通植栽培彩のきずなの目標収量(479kg/10a)を上回った。特に、有機+穂肥区で収量が多かった。前述3試験区は、化成肥料区と比較して、登熟歩合も高かったが、粗タンパク質含有量がやや高く、食味値が1.5~2.0下回った。

現地実証試験では、減化学肥料栽培を行っても、現地慣行栽培と同様の生育を示し、7割を有機肥料に置き換えた区で収量が最も多く、食味が最もよかった。供試ほ場は地力が高く、施用窒素量を大幅に上回る窒素量を吸収して、普通栽培彩のきずなの目標玄米収量を上回っていた。(環境安全研究)

8 産地に応じて抵抗性品種と薬剤防除を適宜利用するイネ縞葉枯病の総合防除技術の開発(農林水産・食品産業科学技術研究推進事業)

近年、関東地域等で多発が問題視されるようになったイネ縞葉枯病について、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(農食事業)の研究として(国研)中央農業総合研究センターを中核機関とし、茨城県、兵庫県および福岡県と共同で防除技術の開発に取り組んだ。本県は全国に先駆けた縞葉枯病抵抗性品種の育成・普及地域であり、こうした背景のもと、抵抗性品種および感受性品種について本病および媒介虫ヒメトビウンカの発消長の調査を行った。場内試験では3作型について検討した結果、縞葉枯病抵抗性品種におけるきわめて高く安定した防除効果と、媒介虫ヒメトビウンカの発消長およびRSV保毒虫率の年次変動を明らかにし、研究成果を関東東山病害虫研究会で口頭発表した。

9 キュウリウイルス病の自動画像診断システム(研究成果展開事業・科学技術振興機構)

ウイルス病による症状は他の病害や生理障害との区別が難しい。このため、迅速にキュウリの感染ウイルスを特定するためのAIを利用した画像診断システムを構築する。今年度は、7種のウイルス症状葉と健全葉の写真を撮影して共同研究機関に提供した。この画像をもとに学習させたシステムが構築され、合計8分類のすべてについて正答率が80%以上であった。

10 新たな防除技術を活用したイチゴの省力的害虫防除技術体系の確立

近年、薬剤抵抗性獲得事例が多く報告されている難防除害虫ナミハダニの省力的防除技術を確立するため、高濃度炭酸ガス処理、生物農薬であるアカメガシワクダアザミウマを用いた技術実証と品種間差を利用した栽培方法の検討を行った。今年度は、自作の水封式高濃度炭酸ガス処理装置を用いた現地実証試験を2カ所で行い、定植後2か月間程度ナミハダニの発生が抑制されることを実証した。(病害虫防除技術研究)

11 施設きゅうり栽培における農薬暴露の回避と作業性向上技術の開発

防除者の使用している防除服の外にガーゼパッチを装着し、防除を実施し、ガーゼパッチに残留している農薬の付着量を調査した。その結果、薬剤散布による暴露は、全身に及び、頭や背中の中まで暴露していることがわかった。特に噴口の圧力が高い場合には、背中や帽子の暴露が多く見られた。

薬剤散布のたびにばらつきが出やすいが、特に暴露が多いのは、足の下部、上部であった。また、手も高い数字が出るがあった。動噴の圧力が高い場合や、噴口が多い場合には、マスクの暴露が多くなった。防除用具により、暴露に差が生じることがわかった。

12 水稻等の新品種育成・定着化研究（育種課題）

「新品種育成等の取組方針」（平 29.3.29 改正）に基づき研究を実施している。そこでは、大消費地の中にある産地という埼玉農業の特性を生かせる品種や、国内市場が縮小し、経済がグローバル化する中において機能性に優れた品種や輸出促進につながる品種等、新たな需要を創造し、農業の収益力を高める力を持った品種の開発・選定を目標としている。水稻では、病害虫抵抗性もち、気象変動に対応できる良質・良食味品種の育成などを育成目標としている。

水稻の新品種育成では、51 組合せの交配、40 組合せの F1 養成、77 組合せの集団養成、46 組合せの系統選抜を行った。また、のべ 55 系統の生産力検定、のべ 972 系統の特性検定を実施した。新潟県、栃木県、福井県と交換系適を行った。奨励品種決定調査では、水稻 14 系統、麦類 25 系統を供試した。水稻では、高温耐性が「やや強」で多収・良食味の「むさしの 27 号」を有望とした。麦類では、オオムギ縮萎縮病抵抗性を有し、外観品質が優れる麦茶向け六条皮麦「関東皮 102 号」を有望とした。

13 日本ナシの交雑育種（育種課題）

本年収穫調査できた系統は、第 3 次が 2 系統、第 5 次が 36 系統で、果実品質を調査し、食味、肉質等を中下～下と評価した系統(第 5 次:24) については本年度で試験を中止した。

14 イチゴの県オリジナル品種の育成

観光直売向け品種として、「とちおとめ」より高糖度・高酸度で耐病性（炭疽病、萎黄病に強い）に優れる「埼園い 1 号」および良食味（「とちおとめ」より糖度が高く酸度が同等）で果実外観（果皮色・光沢等）が優れる「埼園い 3 号」を品種登録出願した。

「埼園い 1 号」は晩生で「とちおとめ」に比較して早生性、大果性が劣り、収量性では有意差がなかった。「埼園い 3 号」は「とちおとめ」に比較して開花開始期が遅くなり「中生」～「やや晩生」となった。「やよいひめ」とは同等であった。総収量は「とちおとめ」に比べるとやや劣るが、6 g 以上の正常果収量は多く、上物割合が高くなった。平均 1 果重は「とちおとめ」より大果傾向であった。（野菜研究）

15 病害虫複合抵抗性を有するコシヒカリ NIL の迅速な育成

ここ数年、本県ではイネ縮葉枯病の発生が増加傾向にあるが、「コシヒカリ」は本病に感受性であり、また、いもち病やツマグロヨコバイに対する抵抗性も有していない。そこで、DNA マーカー等利用し、上記の病害虫に複合抵抗性を有する「コシヒカリ」の準同質遺伝子系統(NIL)を迅速に育成するとともに、併せて他の試験研究機関で育成された「コシヒカリ」NILの本県における適応性の評価を行った。「NIL1～5」の 5 系統について、生産力検定、味度値、炊飯米の物性試験を行った。その結果、「NIL1」と NIL4」を選抜し、次年度、引き続き供試する。「関東 IL17 号」は、稈長が「コシヒカリ」より長いため、倒伏程度が大きく、収量はコシヒカリ対比 92%と低収となった。稈長について、昨年と同様の傾向を示したため、特性把握につき打ち切りとした。

16 DNAマーカーを活用した“もちもち米”開発と食味の多面的評価

県産米コシヒカリは、特A米産地のコシヒカリ(12 地域)に比べて粒厚別重量比率(搗精歩合 90%)が小さく、産地間差が認められた。また、県産米コシヒカリの Mg/K 当量比とプロラミン含量は、特A米産地のコシヒカリ(12 地域)に比べて高く、食味関連成分の低下が示唆された。一方、特A米産地を含む 5 地域の低アミロース米は、特A米産地のコシヒカリに比べて炊飯米の硬さに関与するプロラミン含量が少なく、炊飯米の硬さとプロラミン含量に正の相関が認められた。（環境安全研究）

主穀作農家の大規模化を進めていくためには作期の拡大による収穫作業分散が不可欠である。そこで、登熟期が低温でも食味が低下しない新たな低アミロース極晩生品種を開発し、埼玉県産米のラインナップに速やかに加えていく必要がある。//x1-1 を利用した 13 組合せの交配を行い得られた種子について冬期に世代促進栽培を実施した。また、*qAC9.3* をもつ系統について、0.7~0.9 ポイントのアミロース低減効果が確認された。(水稻研究)

大規模経営体では、作期の拡大を図るため、彩のかがやきよりも熟期の遅い極晩生品種が求められているが、登熟温度の低下による食味の低下が課題となっている。このため登熟期が低温でも食味が低下しにくい低アミロース米極晩生品種の育成を行った。「北海 PL9」の保有する低アミロース性遺伝子 (*qAC9.3*) の「彩のかがやき」への導入効果を検証した。BC2F1 世代の中から *qAC9.3* を有する 3 個体を選抜し、戻し交配 3 回目を行った。また、BC3F1 世代の中から *qAC9.3* を有する 2 個体を選抜し、戻し交配 4 回目を行い、BC4F1 種子を得た。(遺伝子情報活用研究)

17 ウイルス検定とウイルスフリー株の育成によるオリジナルイチゴ品種の実用化

埼玉県育成のイチゴ 2 系統を普及させるためには、配布する種苗のウイルス検定を実施する必要がある。そこで MYEV、SMoV、SVBV のウイルス検出方法を確立し、「かおりん (埼玉園い 1 号)」、「あまりん (埼玉園い 3 号)」のウイルス検定を実施した。その結果、ウイルス感染が確認されたので茎頂培養によるウイルスフリー化を図り、再分化個体 125 個体を得た。(遺伝子情報活用研究)

18 機能性農産物の開発と高付加価値化 (オーダーメイド型産地づくり事業)

「健康・元気・長生き」といった消費者・実需者のニーズに対応できる産地づくりには農産物の健康機能性の評価や機能性成分に富んだ品種の開発、成分含量変動要因解明に基づく成分含量安定化技術が必要である。

近年、色々の野菜で機能性が解明されつつあるが、未知のものも多く、それらの情報も乏しい。本課題では「彩の国ブランド」の新たな魅力を掘り起こすため、機能性成分の分析と品種、部位、栽培方法などによる変動を解析する。今年度はブロッコリーの機能性成分を測定した。

プロテオグリカン、ポリフェノール、抗酸化能、糖組成成分グルコースの簡易で正確な測定法を確立した。プロテオグリカン、グルコースは可食部分の花蕾の方が、ポリフェノール、抗酸化能は未利用の葉の部分に多く含まれていた。畑作と水田作では著しい差はないと示唆された。“新たな機能性”であるプロテオグリカンがブロッコリーにも存在していたことが初めて示された。(遺伝子情報活用研究)

19 凍結精液を利用した豚の夏季受胎率向上試験と凍結乾燥精液の開発

PMSG 製剤投与後に膈内電気抵抗度を測定し、電気抵抗度が低値から高値を示した 24 時間後に定時人工授精方法を 3 頭に実施した結果、3 頭が妊娠し 2 頭が分娩した (受胎・分娩率 66.6%)。また、夏期無発情豚に対し、背面冷水滴下、ホルモン剤 (PG 製剤+hCG 製剤) およびホルモン剤 (PMSG 製剤+hCG 製剤) 投与による発情回帰方法についてそれぞれ 4 頭ずつ検討したところ、PG 製剤+hCG 製剤で発情回帰率および 30 日以内の受胎率は hCG 製剤単体投与と同程度の効果を示した。また、冷水滴下においても 66.6% が 6 日以内に発情回帰した。凍結乾燥精液の開発において凍結乾燥精子を用いて、顕微受精を 8 回実施し、胚盤胞の発生が認められた。

20 新たな豚精液長期保存法の開発

新たなアミノ酸を保存液に添加し、計 30 頭の離乳種雌豚に、12 日、2 週間、3 週間、4 週間保存した精子を人工授精した結果、12 日保存精子を子宮体部注入 (20ml/20 億) 法で 5 頭実施したうち 2 頭が受胎・分娩した。12 日保存後の受

胎・分娩率は40%で、平均産子数は6頭であった。4週間以上保存した精子の生存性は確保されるが、経過時間ごとの精子懸濁液の浸透圧測定、浸透圧調節方法について現在検討中である。

21 母豚の非生産性日数抑制による繁殖率向上試験

夏期の離乳後母豚を用いて、無発情豚の観察を5頭分行った。このうち3頭を無発情、2頭を微弱な発情と分類した。離乳後母豚の観察項目を発情確認（背圧、陰部の腫脹と発赤、陰部の粘液）、膣内電気抵抗値、子宮頸膣部から採取したスメアの細胞構成とし、観察手技を定めた。観察結果の比較からスメアの細胞構成の変化が発情確認と関連する可能性を確認した。

22 豚凍結人工授精技術を活用した埼玉養豚競争力アップ事業

精液活力解析装置、精液低温処理装置、ストローマシーン、低温遠心分離機、蛍光顕微鏡等備品15点を揃え、周辺環境を整備した。また、ガラス化凍結方法、耐凍剤の検討、不凍タンパクを用いてあらたな凍結保存方法を検討した。さらに、農家4戸、種雄豚6頭より精液を採取し、凍結保存を行い融解後の品質評価を実施した。また凍結精子1290本を作成し、現在保存中である。長野県より系統の異なる2頭分の優良精子を導入し人工授精を実施し、分娩した子豚から種豚を作成中である。

23 スプリンクラーによるナシ園の省力管理技術開発

薬剤の散布状況の違いをスピードスプレーヤーとスプリンクラーで比較した。調査方法は散布後の葉を採取する方法と感水紙による方法を検討した結果、感水紙を用いる方が適当であった。スピードスプレーヤーを用いた方がスプリンクラーを用いるより広く細かい粒子で散布でき、かつ、園内を均一に散布できた。園外へのドリフトは、スプリンクラーを用いた方がスピードスプレーヤーを用いるより少ないか同等であった。（環境安全研究）

久喜試験場のナシ園において防除効果の検証を行った。赤星病は、7月上旬の果そう葉においてスプリンクラー（以下、SP）区による散布のほうがSS区よりも有意に少なかった。ハダニは、7月以降、ジョイント仕立て園においてSP区の発生がスピードスプレーヤー（以下、SS）区より有意に多くなったが、平棚仕立て園においては、SP区、SS区との差はなかった。したがって、両仕立て園の散布方法の違いについて差は認められなかった。SPの散布量は、通常のSSと同等か約半分に近い量で散布可能であった。（病害虫防除技術研究）

24 県内産飼料多給による低コスト畜産物生産技術の確立

輸入飼料の価格高騰に対応するため、県内のWCS用稲、稲わら、飼料用米、飼料用大麦の活用と、増体、飼料効率を重視した飼養技術について、ホルスタイン種去勢牛の肥育試験を対照区3頭、粗飼料多給区3頭、粗飼料多給+飼料用米SGS区3頭の試験を実施した。対照区2頭の平均出荷月齢20.4か月、平均出荷体重769kgで格付けはC2~B2で家畜改良目標の現状値よりやや良好だった。

乳牛では、夏季に平成27年度に調製した「たちあやか」を使用し、泌乳中～後期の泌乳牛6頭による3期（予備期9日、本試験5日×3回）、試験区3区（稲WCS100%区、稲WCS50%区、チモシー100%区）とする3×3ラテン手法による分離給与による飼養試験を実施した。乳量に差はなかったが、その他の項目では稲WCS100%区が他区と比較し劣る結果となったため、夏季の分離給与における今回の設定ではチモシーの50%代替（稲WCS50%）が望ましいと考えられた。

25 国産果実安定生産のための花粉自給率向上に繋がる省力・低コスト花粉採取技術の開発(農林水産・食品産業科学技術研究推進事業)

低樹高ジョイント仕立ては、平棚仕立てより時間当たり花粉採取効率が20%向上した。また、平棚、立木と比較して、腕を肩まで上げたり、脚立の昇降、移動にかかる時間は軽減できるが、樹高が60cm程度では、体幹を傾斜させる必要が生じた。仕立て別の定植1年目の花芽着生量は、主枝を水平誘引したほうが立木仕立てより多く、中でも2本平行ジョイント区が最も多かった。品種別では「新興」の花芽着生量が多かった。「新興」「松島」低樹高ジョイント仕立て樹を対象に、簡易被覆(2月下旬)をしたところ花蕾採取日を7日程度早めることができた。花蕾採取日の7~9日前の最低気温と花粉発芽率には正の相関関係が認められた。

植調剤および被覆資材利用による花粉収量増加および作業適期分散化技術の確立では、パクロボトラゾール処理区において「新興」「松島」とともに新梢1mあたりの花芽数が有意に増加した。1-ナフタレン酢酸処理区において、松島の平均新梢長が有意に小さくなった。また、「新興」の花芽率において新梢長が101cmを超えても減少する傾向は見られなかった。ダミノジット処理区において、「新興」および「松島」とともに有意差はないものの予想花芽数や花芽率が高くなる傾向がみられた。

26 野菜の省力・機械化技術の研究開発(野菜もりもり大作戦事業Ⅰ)

(1) 機械化技術開発

ブロッコリーの8月中旬まき11月中旬収穫の作型、品種「おはよう」で、苗選別、種子選別の有無による収穫期斉一化への影響について検討した。収穫ピークのばらつきが大きかった影響で、苗選別、種子選別の有無による収穫期への影響は確認できなかった。また、試作機による機械収穫の作業精度について検討したところ、本年度の試験条件では花蕾の損傷も少なく、100%収穫可能であり、本機による機械収穫が有望であることが明らかになった。

(2) 気象災害対策技術確立

ネギの耐湿性について、湛水状態を確保した条件で検討した結果、「龍翔」、「龍ひかり2号」が生育抑制程度が軽度で有望であった。

サトイモ(6品種・系統)の耐乾性について検討したところ、狭山系土垂1が芋の品質の低下や個数・重量の減少が少ない傾向が認められた。

サトイモの総灌水量を一定にし、灌水回数を変えて芋の収量、品質について調査したところ、灌水回数が多いと、ひ孫の発生が多くなり、規格外の小さな芋の数が増加する傾向があった。

27 水田を活用した野菜技術の研究開発(野菜もりもり大作戦事業Ⅱ)

ブロッコリーの苗活着不良防止のため、耐乾燥性に優れるスーパーセル苗及びびかん水方法について検討した結果、活着前後の降雨により乾燥条件における苗活着の影響は判断できず、収量性は慣行苗と同等であった。

水田ほ場におけるキャベツ栽培の適応性について、4品種を供試し検討した結果、いずれの品種も算出収量は5500~6000kg/10a程度あり、適応性はあると考えられ、供試品種の中では新藍が結球肥大のそろいが良く一斉収穫に向くと思われた。また、水田におけるエダマメ栽培の適応性について検討した結果、主穀作農家の繁忙期を避けた4月播種におけるトンネル、マルチをしない直播省力栽培が可能と考えられ、主穀作経営における導入の適応性はあると考えられた。

水田作付2年目のブロッコリー栽培の生育、収量性について検討した結果、水田作付初年目のブロッコリーと比べて収量性は同等で、連作による病害、収量、品質への悪影響は確認されなかった。また、前年ブロッコリー作付ほ場の水稲栽培における収量性、玄米品質について、6月24日植「彩のきずな」で検討した結果、基肥2kg Nでも基肥5kg Nと同程度の収量が得られた。

28 高糖分高消化性稲 WCS 用品種の地域条件に適した多収栽培の開発（委託プロジェクト研究）

従来型の WCS 用稲とは異なる形質を持つ高糖分高消化性 WCS 用稲「つきすずか」、「たちすずか」や「たちあやか」の本県に適した多収栽培技術を開発し、その有用性を生産現場で実証するため、農家における現地試験を行った。「つきすずか」は、基肥 14kgN/10a で草丈が高く、乾物収量が多く、穂重割合が少なかった。基肥 14kgN/10a では疎植でも密植と同等の乾物収量を得られたが、基肥 8.4kgN/10a では劣った。病害虫は「たちすずか」においてイネ縞葉枯病が発生した。「つきすずか」は「たちすずか」、「たちあやか」と同等かそれ以上に多収であり、イネ縞葉枯病の発生もみられなかったことから、本県での適応性が認められた。また、「つきすずか」に畜草 1 号プラスを添加して調製し、約 3~4 ヶ月保存したパウチサイレージの発酵品質は出穂期から 30~60 日の収穫期間で、V スコアは高く、一般成分の値も安定していた。（種畜生産研究）

「つきすずか」は感光性が強く、普通期栽培（6 月 10 日植）と晩植栽培（6 月 27 日植）による出穂期の遅延は少なかった。穂長は、晩植および疎植（7.4 株/m²）で長くなり、穂数は晩植により増加した。精籾重（2.2mm 以上）は晩植、疎植栽培で最も多収となった。（水稻研究）

従来型の WCS 用稲とは異なる形質を持つ高糖分高消化性 WCS 用稲「たちすずか」、「つきすずか」を比較した結果、本県における高糖分高消化性稲 WCS 用品種としては、近年保毒虫率が高まり、多発が懸念される縞葉枯病に抵抗性を持ち、「たちすずか」並に収量性が高い「つきすずか」が有望と考えられた。

施肥は、基肥量が多いほど穂数が増加し、乾物全重は多収となった。追肥の量及び時期と生育・収量に明らかな関係は認められなかった。このため、基肥を窒素成分で 10kg/10a 施用し、追肥は施用しない施肥方法が適すると判断された。（水田高度利用研究）

29 乳用牛の泌乳中のエネルギーバランスの遺伝的評価のための指標形質の探索（委託プロジェクト研究）

家畜の生涯生産性向上のための育種手法の開発

乳用牛の生涯生産性を向上させるための育種に必要な評価形質を明らかにするとともに、生涯生産性の遺伝的能力評価手法を開発し、生涯生産性を向上させる育種改良を進めるため、春~冬期のそれぞれの季節において、初産および経産牛の泌乳初期、中期、後期に泌乳牛合計 33 頭の精密飼養試験を行い、飼料によるエネルギー摂取量と乳生産および成長によるエネルギー消費量を測定するための各種採材等を行い、分析を行った。（種畜生産研究）

30 麦類の多収阻害要因の解明と改善指標の開発（委託プロジェクト研究）

(1) 土壤物理性と土壤水分を指標とした多収阻害要因の改善技術確立（環境安全研究）

県内の現地圃場では、4 月の出穂期以降から小麦「枯れ熟れ様障害」が発生し、5 月には止葉先端部の褐変と下葉からの急速な枯れ上がりを確認した。6 月には枯れ熟れによる穂の赤変が実証圃で認められた。小麦「枯れ熟れ様障害」は、土壤物理性の不良な地域（礫や硬盤層による根域制限と乾燥害）で散見され、これらの土壤要因を改良型ワグネルポットで再現後、対策試験を行った。その結果、現地実証圃と類似する「枯れ熟れ様障害」が再現され、穂に対する窒素・水分代謝そして根の活性を維持する耕種的栽培（硬盤層の破壊と後期重点型施肥）が小麦「枯れ熟れ様障害」の改善に有効であった。

31 「丸系八つ頭」の生育特性に基づく栽培・貯蔵技術の確立

丸系八つ頭の生育特性の基礎データを得るため、経時的に地上部、地下部生育を調査したところ、①親芋の縦径は 7 月下旬までに伸長し、その後は横に肥大すること、②子芋は 8 月下旬まで個数を増やし、9 月下旬まで肥大すること、③孫芋は 6 月中旬から形成され、9 月中旬までに個数を増やし、10 月初旬まで肥大しそれ以降はほとんど重量に変化がないこと等が明らかになった。

基肥の量を3段階(5kg/10a、15kg/10a、25kg/10a)に設定し、地上部、地下部の生育について調査したところ、地上部の生育には、施肥量による差はみられなかった。地下部については、親芋の重量は少肥区でやや軽い傾向だったが、各区の間で明瞭な差は認められなかった。子芋・孫芋・ひ孫芋の個数、重量は各区の間で大きな差はみられなかった。

収穫時期前の親芋のデンプン量の推移を調査したところ、9月下旬から11月下旬の間デンプン量が増加した。

保冷库貯蔵時の最適貯蔵温度を明らかにするため、5℃、10℃、13℃で検討したところ、温度が低いほど赤い筋の発生が多く、腐りが多い傾向があった。芽の伸びをあわせて考慮すると10～13℃の間が適温と考えられた。

32 水稻高温対策特別事業

(1) 彩のかがやき NIL 等の高温耐性新品種の種子増殖と現地適応性の検証

平成22年度の高温被害を受け、県では高温障害対策事業に取り組んできた。「彩のかがやき」に「ハナエチゼン」の高温耐性 QTL を導入した準同質遺伝子系統(NIL)など、新たな高温耐性品種の育成に伴い、種子生産、DNA マーカーを利用した品種判別技術の開発、栽培法の確立、現地実証などに取り組んだ。

「むさしの29号」はSPS6-12-135を次年度の本系統とし、69.9kgの種子を生産した。また、一部は沖縄県の暖地二期作を利用して種子生産を行った。「むさしの27号」は、原原種4.3kg、原種84kgを生産した。また、彩のかがやきのNILである「むさしの29号」の炊飯米の物性は、「彩のかがやき」とほぼ同じである。「むさしの27号」の炊飯米は、「彩のかがやき」に比べ、表層が軟らかい。(水稻研究)

(2) 高温耐性新品種の品種判別マーカー開発と純度確認 種子供給システム

県産米の信頼性を確保する上で種子の純度を保証できる体制づくりが求められていることから、品種判別が可能となる。遺伝子診断技術の開発を行った。「彩のかがやき」に「東北192号」の高温耐性遺伝子を導入した高温耐性準同質遺伝子系統「むさしの29号」の品種判別SSRマーカーセットとして、RM2744、RM19373、RM2197の3マーカーを選定し、県内、近隣の奨励品種や銘柄品種27品種と判別できることを確認した。また、マルチビーズグラッシャーを使用し、玄米からの効率的なDNA抽出方法を確立した。これらの技術により「むさしの29号」原原種600粒について純度検定を実施したところ、異品種の混入は認められなかった。(遺伝子情報活用研究)

(3) 高温耐性新品種の高品質安定生産技術体系の確立

「むさしの30号」の品種特性について、5月20日植、6月24日植で検討した。

「彩のかがやき」と比べ、穂数がやや少なく、1穂粒数がやや多く、総粒数は同程度であった。1穂粒数が多いのは、1次枝梗数、2次枝梗数ともやや多いことによるものであった。千粒重と登熟歩合がやや劣り、収量は低かった。玄米外観品質は白未熟粒が少なくやや優れた。最高分げつ期から出穂期にかけての純同化率(NAR)がやや低かったが、相対生長率(RGR)は同程度であった。

33 二条大麦「彩の星」の生育診断による追肥判定技術の開発

生育期間の草丈、茎数、葉色等と収量、品質の関係を調査した結果、タンパク含有率の指標は茎立期の展開第3葉の葉色が最も適合し、SPAD値が45を下回ると追肥が必要であり、生育診断指標として利用可能と考えられた。

現地ほ場の異なる土壌条件においても、葉色がタンパク含有率の指標となる可能性が示唆された。しかし、異常気象年の過繁茂凋落気味の生育条件では、タンパク含有率の実測値は、茎立期展開第3葉から予測した値を下回った。異常気象時には茎数等生育量を考慮した判定が必要と考えられた。

安定栽培のための苗立数は高温傾向であった試験条件下では50～80本/m²が適すると判断されたが、低温条件下では穂数不足による著しい減収が懸念されるため、100～150本/m²が適正と考えられた。

これまでの知見と上記成果をもとに、暫定版栽培暦を策定した。

34 農業の土壌機能における炭素固定能力解明

県内7地点の農耕地について有機物施用に関するアンケートを行うとともに、深さ30cmまでの土壌炭素量を測定した。水稲栽培では全地点で中干しを実施し、稲わら等茎葉もすき込処理をしていた。土壌群別の深さ30cmまでの土壌炭素量は、水田の低地水田土82.8t/ha、グライ低地土86.7t/ha、灰色台地土78.6t/haであった。普通畑の黒ボク土は106.2t/ha、褐色低地土は40.0t/haであった。草地の褐色森林土は169.3t/haであった。場内の水田に設定した有機物連用ほ場における深さ30cmまでの土壌炭素量は、土壌炭素貯留区(木炭施用)が最も高く、稲わらおよび堆肥施用区、稲わら施用区、化学肥料単用区、無窒素区の順に低下した。仮比重は、有機物を施用した試験区において低い傾向が見られた。

35 端境期解消のための新規作型の開発(埼玉野菜もりもり大作戦事業Ⅲ)

(1) 生長点と培地の温度制御技術の開発

10~25℃程度で吸熱効果を発揮し、5℃以下30℃以上になりにくい冷媒材を培土上に敷設して栽培を行った。冬季において設置区における日没後の培地温の低下は緩やかで、保温効果が期待された。冬季の培地温度保持効果については処理区の収量・花数がやや少ない傾向が見られた。暖候期における培土温度に差がなく生育差も見られなかった。糖度・酸度・硬度の果実品質については試験区間における明確な差は見られなかった。(野菜研究)

(2) つる下ろし栽培による長期1作型の開発

キュウリの長期栽培に適した台木品種の検討を行うため、台木生育調査を行った。2月播種では、「ぞっこん」、「ビッグパワー」、「オールスター—輝」、9月播種では「パワーZ」、「GT—II」、「ビッグパワー」の生育が優れた。

つる下ろし栽培による長期1作型生産者は場において、1月~5月に果実の硬度、糖度およびグルコース濃度について調査を行った。その結果、長期1作型のキュウリ果実品質は、半促成作型キュウリの果実品質とほとんど差がなかった。

(3) トマトの新規作型開発のための環境制御技術の確立

① 生長点と培地の温度制御技術の開発

ヒートポンプと暖房機を用いて、ポリダクトによる生長点と株元の局所加温試験を実施し、生育・収量、サーモグラフによる温度分布について調査した。

② 遮熱・遮光等による環境制御技術の開発

4月~8月に栽培試験を実施した。日中、ヒートポンプのみの冷却ではハウス内の温度は低下せず、果実品質に及ぼす影響は判然としなかった。収穫果実は裂果、着色不良の果実が多かった。「至福」よりも「ごほうび」の方が上物率が高かったが、「ごほうび」では裂果が多かった。(施設園芸先端技術研究)

36 日持ち保障販売に対応した高品質切り花生産技術の確立

(1) ユリの品質保持技術の開発

収穫後の冷蔵庫保管時にLEDの照明が品質保持に及ぼす影響を調べた。その結果、LEDの日持ちに及ぼす明確な影響は認められなかったが、品種によって葉の黄化が抑制できた。

(2) チューリップの品質保持技術の開発

深谷市生産農家が栽培したニュージーランド産球根の切り花「アップスター」等18品種を供試した。収穫直後に茎葉を調整後、水揚げを兼ねて品質保持剤BVB(クリザールジャパン)を用い、1時間活けた。ほとんどの品種で、茎長の伸長が抑制され、日持ちが1~2日間長くなった。

(3) 洋ランの品質保持技術の開発

カトレアの切り花に対してエチレンを気浴すると日持ちが著しく損なわれたが、1-MCPを処理すると、日持ち保持された。このことから、1-MCPはエチレン存在下では日持ちを保持する効果が極めて大きいことが明らかとなった。

37 新規需要開拓のためのチューリップ新品種育成と切り花等高品質化技術（農林水産業・食品産業科学技術推進事業）

(1) 芳香成分を発散させる鉢花栽培技術の開発

球周 9cm、10cm、11cm、12cm の「サニープリンス」の球根を用い、球根の大きさが開花に及ぼす影響を調べた。球根が小さいほど開花がばらついたが、開花から萎凋するまでの期間を通じ球根の大きさによる香気成分量に差がないことから、香りを強め香る期間を長くするために、小さい球根を多く植えつけることが有効であった。

(2) 鉢花の品質保持技術の開発

「クリスマスドリーム」と「サニープリンス」を用い、促成栽培の低温処理期間を慣行の 8 週間から 3 週間にする処理、および植物成長調整剤パクロボトラゾールのかん注処理が草姿に及ぼす影響を比較した。低温処理期間短縮処理の方が、パクロボトラゾール処理よりも、開花から萎凋までの間の花茎伸長量が大きかった。この違いは鉢花や苗物の利用目的や消費者のニーズに応じた使い分けに有効と考えられた。

38 夏季高温期に対応できる苗物花きの生産と生産維持技術の開発（委託プロジェクト研究）

（オリンピック・パラリンピックを意識した夏季の都市景観維持のための夏花安定生産・利用技術の開発と実証化）

(1) 夏季高温期出荷に適した球根植物の選定

カラジューム、グラジオラス、ユリ類、小球根類から、夏季の観賞性に優れる 10 品目 19 品種を選定した。さらに、ユリの植え付け時期が開花に及ぼす影響を調査したところ、オリエンタル（OH）系は植え付け時期を遅らせると開花日が遅くなるのに比較して、ロンギフローラム・アジアティック（LA）系では、植え付け時期を遅らせても開花日はほとんど変わらないことが分かった。

(2) 鉢物の利用拡大に向けた開花調節技術の開発

ポットマムとリンドウは、高冷地育苗やヒートポンプによる夜冷育苗で開花が促進され、花色が濃色で鮮明になった。ポットマムは、平成 27 年度に実施した 7 月開花の結果と組み合わせ、7 月から 9 月まで開花させ、継続して出荷させることが可能となった。また、リンドウについても 2 月下旬～4 月上旬まで挿し木の時期を変えることで、7 月下旬から 9 月まで開花させ、継続して出荷させることが可能となった。

39 統合環境制御によるキュウリの栽培技術の確立

現地実態調査では、キュウリ生産者ほ場 j において、気孔コンダクタンス、温度、湿度、照度について測定し、生産現場の実態調査を行った。最適湿度条件の検討では、場内ほ場において、時間ごとの気孔コンダクタンス、温度、湿度、照度について測定を行った。キュウリの気孔コンダクタンスは、40klux 周辺の照度、気温は 30℃、飽差は 20g/m³ 周辺にて高くなることが示唆された。トマトにおける最適生育環境とは大きく異なるため、さらに綿密な調査が必要。また、気孔コンダクタンスは、呼吸による気孔の開閉も測定値に含まれるため、光合成測定装置を使用した調査が必要。二酸化炭素施用方法の検討では、日射比例の二酸化炭素施用区と、従来型のゼロ濃度差施用区を場内ほ場に設けて栽培を行った。両試験区において、収量に大きな差は見られなかった。

40 県産米「特A」プロジェクト推進事業

(1) 特A米生産技術による米の理化学性・物性

官能食味試験の「おいしさ」は、おもに炊飯米の物性、食感に依存し、良好な登熟条件を確保し整粒比を高め、適期刈り取りにより胴割粒をなくすことで上がる可能性が示唆された。また、加水量を加減することによって、炊飯米のバランス度を調整し、官能食味をあげる可能性が示唆された。アミロース含量、タンパク質含量が高まると、炊飯米は硬く、付着性は弱く、バランス度は低下する傾向がある。炊飯米の荷重とプロラミン含量との間には負の相関が認められ

た。また、タンパク質の組成物（アルブミン、グロブリン、グルテリン、プロラミン）と食味関連成分を分析し、特A米に近い条件を抽出した。（水稲研究、環境安全研究）

(2) コメ食味均質化のための低変動型アミロースQTLの検出とQTLを導入した育種素材

各道府県がオリジナル新品種のブランド化に取り組んでいる中で、有利販売を行うには日本穀物検定協会の「米の食味ランキング」において「特A」評価を獲得することが不可欠な状況となっている。埼玉県は水利慣行などにより作型が様々であるため、同一品種でもアミロース含量が変動し、産地によるバラつきがあることが問題となっている。本課題では、登熟気温によるアミロース含量の変動に関与する遺伝的要因を明らかにするために、染色体断片置換系統（CSSL）を用いたQTL解析を行った。

コシヒカリ/Bei Khe CSSLs（次世代作物開発研究センター分譲）を用いQTL解析を行った結果、第1、第3、第4、第6、第8、第9、第11染色体上の計8ヶ所の染色体領域において、気温によるアミロース含量の変動を低減するQTLが検出された。第6染色体上に見出されたQTLが最も大きな作用を示し、コシヒカリに対してアミロースの変動を約87%減少させた。この領域には高アミロース遺伝子 *Wxa* が座しており、同一の遺伝的要因による効果であるか今後検証が必要と考えられた。（遺伝子情報活用研究）

(3) 食味向上栽培技術・収穫・乾燥調製技術の開発

施肥法、栽植密度、水管理法、収穫時期、乾燥法について食味評価との関係を検討した。施肥法については基肥3～5Nkg、穂肥は出穂前15日に1.5Nkg施用で整粒粒比、粒厚2mm以上の割合が高まり、食味が向上する可能性が認められた。栽植密度については、株数少、1株本数少で食味評価が高まる傾向が見られた。要因は判然としないが、株数少で2mm以上の粒の割合が増加していることから、分けつ増加に伴う発根量の増加による登熟向上の可能性が考えられた。

水管理については、深水管理で標準管理に比べ、遅発分けつの抑制により2次分けつ割合が低下し、千粒重、2mm以上の粒の割合が増加し、食味評価がやや高まる傾向が見られた。収穫時期については、出穂後35～40日頃の収穫で食味評価が高く、これ以降の収穫で低下する傾向が見られた。乾燥法については、天日乾燥、慣行乾燥、テンパリング乾燥で食味評価を検討した結果、天日乾燥で食味評価が高まる可能性が認められた。（水田高度利用研究）

41 美味しく元氣な野菜生産（埼玉野菜もりもり大作戦事業Ⅳ）

(1) 水田転作に対応したサトイモの普及を目標に、一般的に水田作経営農家で所有する機械を利用し、水田圃場の耕盤を壊さないことを前提に試験を行った。そのため、生育に必要な耕深を確保するため、平床に種芋を置き、管理機により培土を行って定植をした。栽培は無マルチで行った。

当県で保存している在来サトイモの土垂7系統、蓮葉芋3系統を水田で栽培し、収量性及び食味を調査した。その結果、官能試験により土垂3系統、蓮葉芋1系統を除外し、土垂4系統、蓮葉芋2系統を選抜した。なお、この選抜した6系統は収量性でも優れていた。（野菜研究）

(2) 高機能性キュウリ品種の選定

半促成作型の「千秀2号」、「ズバリ163」のグルタチオン含有量の分析を行ったところ、いずれも4mg/100g程度で、品種間差異は判然としなかった。

(3) 高機能性ブロッコリー品種の選定と栽培技術確立

ア 高機能性成分品種のスクリーニング：秋冬どり作型で5品種について栽培試験を行った。収量調査の結果、調整後の花蕾重は、「グランドーム」が優れた。グルコorafanin含有量は「グランドーム」が最も高かった。

イ 機能性成分を高める栽培技術の検討：慣行施肥に加えてa当たり0.25kg、1kgの硫黄施用を行い、栽培試験を実施した。調整後の花蕾重は、「おはよう」で増加する傾向がみられた。また、「マラソン」で硫黄施用によりグルコorafanin含有量0.25kg/aで増加したが1kg/aでは、ほ壤条件のばらつき等により明確にできなかった。

(4) 高機能性ブロッコリーの品種選定

主要野菜の生産は産地間競争が激化し、生産者価格の低迷を招いている。そこで他産地との差別化を図るため機能性成分の高い品種の選定と栽培技術開発を行った。

ブロッコリーの機能性成分であるスルフォラファン合成に関わる遺伝子を検出する DNA マーカーを作出した。これらを用いて幼苗期にスルフォラファン合成関連遺伝子を検出することが可能になった。目的とする DNA および前駆体 mRNA の遺伝子配列とグルコラファニン量の関連性について検討した結果、スプライシングが異なる 3 グループに分かれ、高機能性ブロッコリーの選抜に道筋をつけた。(遺伝子情報活用研究)

42 超低温保存胚の子宮体部非外科移植を利用した生産農家への低リスク低コストな高能力種豚導入実証(革新的技術開発・緊急展開事業)

ミサワ医科の開発した移植器について 1 号機から改良を重ね、現在 4 号機が完成し、ほぼ完成形が作成できた。また、発情期留置用として人用尿カテーテルが最も良く、末端部を処理することで、5 日以上留置が可能であることが解った。高受胎率を達成するための受胎豚の最適化では 4 種類の麻酔薬を用いて、立位での処置可能時間を測定し、最適な麻酔薬を選定した。(種畜生産研究)

43 高能力飼料作物品種選定調査(受託試験事業)

飼料用とうもろこしの新品種及び国内で市販されている品種 16 種について、4 月に播種し、8 月末までに全品種の雄穂抽出期、絹糸抽出期、病害虫等の生育調査及び稈長、着雌穂高、不稔率、収量等の収穫調査を実施した。

44 医学モデル豚 高コレステロール血症/動脈硬化症ミニ豚の系統造成(受託試験事業)

遺伝子をヘテロで保有する、後継豚♂4 頭、♀7 頭を用いて交配を実施し、ホモ豚を作出中。♀2 頭が分娩し、2 頭が妊娠中であり、2 頭が育成中である。また、凍結精液を作製し、少量凍結精液を用いた子宮深部人工授精を 3 頭の種雌豚に実施したが、受胎しなかった。また、1 頭から精液を採取し、凍結精液を作成した。現在、精液の品質について現在調査中である。

45 中型野生動物(アライグマ、ハクビシン、アナグマ、タヌキなど)の県内生息状況モニタリング調査

神社、仏閣、空き家、農地などの痕跡調査(爪跡や足跡の目視確認)

市町村が把握した捕獲地点データを補完するため、特に捕獲地域が少ない地域(春日部農林振興センター管内)を優先しての神社、仏閣等に残されたアライグマの爪跡を目視によって確認した。爪跡等が確認できた神社、仏閣を地図上に落とすことにより生息域を可視化した。すでに捕獲により生息が確認されている地域での調査を昨年度実施しなかったため、捕獲地域では、爪跡がないと昨年度誤解を受けたため、捕獲がかなりされている東松山農林振興センター管内を中心にアライグマ捕獲がされている地域でも確認の意味で調査を実施した。

作物被害がないと捕獲しようとしなからアライグマ、ハクビシンの脅威は捕獲が進んでいない地域でもあることが解かり、今後のアライグマ対策の実施はすべての市町村で同様に取り組む必要があることを確認できた。

爪跡で確認できない、アナグマ、タヌキなどの在来動物は、県内各地に設置したセンサーカメラの映像を基に確認を行った。カメラの設置期間が短い場合もあり、生息していると思われる地域でも映像が得られない場合があり、関連性まではハッキリとしなかった。その他、平地部でも被害が想定されるようになったニホンジカ、イノシシ等もセンサーカメラ映像を基に確認できた。生息域等を面で把握することはできなかったが深谷、熊谷地域でもイノシシやシカの映像が得られており今後増殖が懸念される結果となった。

アライグマは捕獲地点も環境サイドで確認できており、今回の爪跡調査により県内全域の調査が終了したこととし、来年度以降はニホンジカ、イノシシ等の平地部への侵入警戒を目的に実施していく。

46 いも類の作況調査と品種・系統の維持（モニタリング）

サトイモについて、5 品種（系統）を栽培した。そのうちハス芋 4 株、八つ頭 3 株が発芽しなかったものの、5 品種・系統すべてにおいて4月下旬から5月上旬にかけて萌芽した。5月中旬に要素過剰害と思われる生育不良が起きたが、2週間程度多灌水にしたところ症状は回復した。その後の生育および生育最盛期は昨年度と同等かそれを上回る生育を示した。すべての品種・系統から次年度試験が可能な量が得られ、種芋として貯蔵し系統保存を行った。

47 園芸作物の新品目の特性調査（モニタリング）

(1) キュウリ品種特性調査

新品種「カレント」、「ゆみ637」について、従来品種の「千秀2号」、「ズバリ163」、「カレラ」と初期生育・収量比較を行った。初期生育については、従来品種の「カレラ」が最も優れていた。収量や果実品質から新品種「ゆみ637」、「カレント」が優れると考えられた。

(2) 花きの栽培特性調査

鹿児島県で育成されたテッポウユリについて、生産者ほ場にて現地試験を行い、県内での栽培適応性と市場性を調査した。「ひのもと」と比較した結果、「ピュアホルン」は、大輪、丸弁、上向きで、開花が1週間ほど遅かく、品質が優れていた。また、「クリスタルホルン」は、鹿児島県で栽培すると雄ずいが形成されずに花粉を生じないとされているが、埼玉県において栽培を行った結果では雄ずいが形成された。

48 土壌保全調査（モニタリング）

県内農耕地土壌の実態を5年1巡で調査する「土壌保全調査」の8巡目を平成26年から30年にかけて実施中である。平成28年度は入間、秩父、児玉地域34地点の土壌調査を行った。7巡目のとりまとめ結果では6巡目と比較し、田・普通畑の土壌化学性は、有効態（トルオグ）リン酸はやや低下傾向がみられたが、他には大きな変化はみられなかった。茶園は、有機物の蓄積が進み、炭素含量が増加した。樹園地は有効態リン酸の蓄積傾向が続いていた。場内の有機物連用試験の結果から、褐色低地土の畑では有機物を施用しないと土壌中の腐植含量が低下し、土壌がち密になることが明らかになった。

49 水稻・麦類の現地支援及び累年調査事業（モニタリング）

主要農作物種子法および主要農作物種子運用要綱に基づき、本県の主要農作物（水稻・麦・大豆）奨励品種の水稻1品種、麦類1品種の系統維持・増殖を行った。（水稻研究）

水稻、麦、大豆の累年調査の蓄積を通じて、生育診断や作柄予測等による現地への技術支援に活用するとともに、長期的視点による農業生産環境の変化を把握した。水稻、麦類、大豆の定期調査を行い、農業革新支援担当と共同で毎月1回作柄に関する定期報告を作成、公表した。報告の要旨を日本農業新聞に掲載し広く情報提供を行った。（水田高度利用研究）

50 ナシ作況調査（モニタリング）

(1) 生態調査

開花始めは、平年よりも「幸水」「豊水」で4日早く、満開日は、「幸水」で4月14日（平年比4日早い）「豊水」で4月12日（平年比3日早い）となり、昨年と比べると1~3日遅い開花となった。

収穫開始は、「幸水」（GA処理）で7月29日、「幸水」無処理で8月5日となり、平年よりGA処理で8日、無処理で7日早い収穫となった。「豊水」の収穫始めは、8月22日と平年より8日早い収穫となった。

(2) 生育予測と肥大調査

2, 3月の気象から「幸水」「豊水」とともに4日早くなると予測し、実際も同様の開花始めとなった。果実肥大調査は5月10日から開始し、関係機関、生産者へ情報提供及び県HPに掲載し広く活用された。

(3) 品質調査

「幸水」の果実重は425gで平年値の106%、糖度は12.6度、「豊水」は504gで平年の110%、糖度は13.2度、「彩玉」は561gで昨年の90%、糖度は13.8度、「あきづき」は524gで昨年の90%、糖度は12.3度で、昨年に比べて小玉であったが糖度が高い傾向となった。

51 高窒素エコペレットの利用技術に関する試験(受託試験事業)

食品残さ堆肥及び鶏糞を原料とした高窒素エコペレット複合肥料(N-P₂O₅-K₂O=10-5-5、商品名:エコペレット 055)について検討を行った。

水稻栽培(彩のかがやき)において、高窒素エコペレット複合肥料は、従来のエコペレットの基肥施用量(250kg/10a)に対して1/4(59kg/10a)であるが、慣行(化成肥料)の収量と同等(収量指数103)であり、肥料的効果が高いことが認められた。淡色黒ボク土でのブロッコリー栽培において、高窒素エコペレット複合肥料の収量指数は93で、慣行(化成肥料)と有意差はみられなかった。(環境安全研究)

ビール大麦栽培における混合堆肥複合肥料「エコレット055」の適用性を検討した。

生育期間全般が高温傾向であった条件において、「エコレット055」を慣行化成肥料と比較(平成28年産)した結果、慣行化成肥料に比べ、やや肥効が遅く発現するものの、同じ窒素量で、同等の収量、タンパク含量を確保することができた。施肥量は、基肥N9g/m²+追肥N2g/m²区が収量、タンパク含量とも最も優れた。しかし、基肥N9g/m²+追肥N2g/m²でもタンパク含量は9%(乾物換算)と低く、今作の気象条件では、より多肥が必要と考えられた。(水田高度利用研究)

52 新規農薬・植物調節剤実用化試験(受託試験事業)**(1) 新規農薬実用化試験**

水稻、ムギ、ダイズ、トマト、キュウリ、カボチャ、ネギ、タマネギ、レタス、イチゴ等において、殺菌剤19薬剤、殺虫剤23薬剤、生物農薬1薬剤など、合計46薬剤について、新規登録または適用拡大に必要な病害虫の防除効果及び薬害有無について検討を行った。

(2) 植物調節剤実用化試験

水稻用除草剤5剤の試験を実施した結果、すべて実用化可能と判定した。

53 品質評価試験に関する試験(受託試験事業)**(1) ビール大麦の粗蛋白質含有量分析**

ビール大麦については実需者から生産者個々の品質(粗蛋白質含有量)のデータが求められるようになっている。このため、ビール大麦の生産者251人分の粗蛋白質含有量の分析を行った。

(2) 主要農作物種子の発芽試験

主要農作物の種子については気象災害等による生産の変動に対する危険防止の観点から備蓄を行っており、貯蔵種子が一般供給される際の発芽能力の調査を求められる。このため、発芽試験を、水稻23点、麦類22点、大豆5点の計60点行い、種子としての品位を検定した。

54 種子消毒装置の高度利用を目的とした麦類の種子伝染性病害に対する防除効果の評価

熱処理によるコムギ種子の発芽に対する影響の解明では、採種年次の異なる4ロットの小麦「さとのそら」に対して革新工学研究センターにおいて複数段階強度の熱処理を行い、発芽勢および発芽率に対する影響を評価した。その結果、採種後の年数経過とともに発芽への悪影響が拡大する傾向が認められた。

黒節病菌保菌種子に対する防除効果の検討では、ほ場への播種試験に向けた蒸気処理強度および供試種子選定のための予備試験を行った。

熱処理による苗立率および防除効果の検討では、70℃、72℃、74℃で熱処理を行った（革新工学研究センター）種子を農技研内ほ場に播種し、苗立、生育調査を行った。その結果、70℃ではほ場適応性が不安定なことが示され、72℃、74℃では苗立率は極めて低くほ場適応性はないと判断された。共同研究機関の福岡県も蒸気処理による小麦の苗立率低下を指摘しており、29年度試験での処理強度について検討の余地が大きい。

55 新たな研究需要創出事業

55-1 ネギ及びニンジンのクロバネキノコバエ科（未記載種）被害に対する緊急対策と防除技術開発のための発生実態調査

平成28年度農林水産・食品産業科学技術研究推進事業・緊急対応研究課題に採択されたので、同課題と並行して試験を実施した。

(1) クロバネキノコバエ科の一種の生態の解明及び防除手法の開発

ア キノコバエの生態的特性の解明—発生活消長、分布、加害範囲等の解明

キノコバエ幼虫の寄生が外見上認められないネギ、ニンジンの寄生状況を判断する培養法を開発した。不明であった夏期の生態は、春ニンジンの収穫残渣からネギほ場で生息、ネギほ場中心に発生していた。成虫は、初夏、秋期にほぼ1カ月程度に1回の周期で発生ピークを示し、卵、蛹も同様であった。幼虫はネギの茎盤を中心に加害し、土寄せとともに幼虫数が増加した。

イ キノコバエの防除技術の開発

供試昆虫用のキノコバエ大量増殖のためのウンカ飼育箱法等を開発した。本種幼虫に効果の認められる薬剤3剤の早期登録を支援した。ネギ収穫残渣をすき込んだほ場への石灰窒素60kg/10aは分解促進に有効であり、各種技術を導入した現地実証ほを設置、運営をおこなった。発生警戒、早期対策を推進するため本種の生態に基づいて和名(仮称)をネギネクロバネキノコバエとして、学会発表・関係誌に公開した。

55-2 生産現場で発生したカブの根内部黒変症に関する発生要因の解明と対策技術

カブの根内部黒変症は、カリ欠乏と塩基バランス(Mg/K比)の崩れで発症する。生産現場では、根内部黒変症の耐性品種と5kg/10aを上限とするカリ増施を組み合わせた改善技術を導入した。本症状は、カリ欠乏に由来する細胞膜の酸化と光合成の低下による糖代謝の異常により、褐変現象の発症することが示唆された。

55-3 水稲品種のオゾン耐性評価方法の開発

埼玉県は光化学オキシダントの大部分を占めるオゾン濃度が著しく高い地域である。本課題では、環境科学国際センターが開発したMini-Open Top Chamber System(以下、OTC)を使って、できるだけ多数の個体のオゾン耐性検定できる方法を検討した。その結果、OTC内の試験区は、縦方向に同一品種を配置し、1つのOTC内に2~3品種を4~6株とする。栽植密度は、畦間20~30cm×株間10~15cmとする。また、これまでの結果と併せて、水田でのOTCによるオゾン耐性検定方法をまとめた。

55-4 5つの病害虫に強い複合抵抗性系統の育成

黒すじ萎縮病、紋枯病への抵抗性を持つ外国稲品種「Te-tep」を母本として、縞葉枯病、穂いもち、ツマグロヨコバイ抵抗性をもつ「彩のかがやき」、「彩のきずな」に抵抗性を導入することを目的とした。本課題では「彩のかがやき」と「Te-tep」間のDNAマーカー多型の検出と戻し交雑を実施した結果、82のDNAマーカー多型を検出した。また、戻し交雑の結果、2つの抵抗性ホモの2個体を選抜した。

55-5 キュウリの二足接ぎ技術の開発

同一品種台木の二足接ぎでは、水分吸収は良くなる傾向はみられたが、対照区と比較して根量、果実収量、果実肥大は差が見られなかった。

55-6 低コスト環境計測・制御システムの検討

土壌水分センサーや光量子センサー、電磁弁を組み付けても、25万円以内の金額で作成が可能であることが分かった。また、計測データの記録はクラウドサービスの利用が可能である。

55-7 保水資材による発芽、苗活着への影響評価

保水材2種（CP-1、ゲインウォーター）について、ニンジンの発芽、ブロッコリーの苗活着への影響について検討したところ、保水資材の施用によりわずかに土壌水分が保持でき、CP-1を施用すると発芽率が良好になることが明らかになったが、苗の活着については保水材の効果は確認できなかった。

55-8 ニホンナン「彩玉」における短期貯蔵条件の検討

「彩玉」は8月下旬～9月上旬に出荷される品種であるが、短期貯蔵を行うことで9月上旬以降に出荷期を拡大できると考えられる。予備試験において「彩玉」を30日間2℃下で貯蔵した結果、糖度が向上したという結果が得られた。そこで本研究では、「彩玉」の短期貯蔵による出荷期拡大および糖度上昇を目的として、果実の貯蔵条件が糖度に及ぼす影響を検討した結果、「彩玉」は2℃で30日間貯蔵可能であり、貯蔵30日後における果実非破壊測定器の糖度は上昇することが明らかとなった。また、「彩玉」は「豊水」と比較して収穫果にデンプンが多く含まれており、貯蔵期間を通して分解されていることから、これにより糖度が上昇した可能性が考えられた。

55-9 イチゴ登熟関連成分の解析

イチゴは輸送中の果皮の損傷が問題であり、解決策が強く求められている。そこで本県のイチゴの登熟関連遺伝子と果皮硬化を解析した。

「かおりん（埼園い1号）」、「あまりん（埼園い3号）」および「とちおとめ」のペクチナーゼ遺伝子(pgl)およびペクチナーゼ阻害タンパク質(PGIP)の一部配列を決定した。その結果、3系統で数か所配列が異なっていたが、アミノ酸に翻訳した結果、pglでは一か所が(T:トレオニン→A:アラニン)に変異していた。

各品種の成熟花托ペクチナーゼを測定した結果、特に大きな差は認められず、今回は遺伝子と硬化との関係は明確ではなかった。

56 水管理によるヒ素・カドミウムの同時低減を可能にする栽培管理技術の高度化（委託プロジェクト研究）

出穂前後の水管理を出穂前後各3週間湛水、間断灌溉3湛4落、慣行管理とし、それぞれの管理下における水稻の生育、収量、玄米の品質、ヒ素濃度、カドミウム濃度、および水田土壌のEh、pH、硬度、土壌溶液中の総ヒ素、カドミウム濃度の推移を調査し、影響を把握した。

3 湛 4 落区は玄米ヒ素濃度が他の区より低く、カドミウム濃度が基準値以下であったが、慣行区と比較して、精玄米重が13.6%減るなど減収し、整粒粒比も低かった。等級や食味値には差がなかった。

土壌溶液中の総ヒ素濃度は湛水区で高く、3湛4落区の落水期間に低かった。カドミウム濃度は湛水管理中は低く、落水すると高くなった。

57 次世代の果樹栽培法「根圏制御栽培法」導入実践による産地活性化（革新的技術開発・緊急展開事業）

(1) 根圏ニホンナシの養水分管理技術の解析

ア pF 値を目安にかん水量を調整すると、マニュアルより少ないかん水量となった。

イ 満開後 90～105 日後にかん水量を抑制すると、糖度が平棚栽培と同等の 12.7%となり、かん水抑制により糖度上昇効果を得ることができた。

ウ 果実重は、平棚栽培と比べて、収穫 4 日前～収穫期にかん水を抑制した区でやや小さくなり、リン、カリ追肥をした区で無処理区より小さくなる傾向であった。

エ 食味については、全体として大きな差はなかったが、総かん水量が少ない区と開花後 90～105 日にかん水量を抑制した区が良かった。

オ かん水と糖組成の関係について、4 糖、3 糖（ソルビトールを除く）、果糖及びソルビトールは、慣行かん水区が有意に高い値となり、収穫 4 日前～収穫中抑制区で低い傾向であった。ショ糖/果糖の値は、かん水制限した区の方が高まる傾向を示した。

(2) 高品質果実生産技術の実証

ア 定植 1 年目の根圏栽培で、来年にジョイント栽培する予定で育成した苗の 2 年枝部+先端枝長が 2 分枝した苗より長かった。翌年の側枝候補となる総新梢長、新梢本数は、主枝高、仕立て方の違いによる差は見られなかった。

イ 定植 5 年目の根圏栽培では、主枝高を高くし側枝を水平配置すると、収穫直前の推定果重は、斜立配置側枝の果実より大きく、硬度も若干高い傾向となった。糖度、酸度、食味値には差は見られなかった。

(3) 都市型経営体における根圏制御栽培法の経済効果の検討

根圏栽培と平棚栽培の収穫作業を比較すると、単位面積当たりの作業時間、移動歩数が根圏栽培で約半分程度で済み作業の軽労化が認められる。

年間の主要作業時間で比較すると、特に人工受粉で根圏の時間が短縮された。経営的には、根圏の主枝高を変更中であり、販売方法が異なるため、収益性は低かった。

58 乳牛の健全性向上のための泌乳平準化技術の開発（革新的技術開発・緊急展開事業）

高泌乳牛では、泌乳初期の乳量増加によるエネルギーバランスの悪化、乳牛の健全性の低下（乳房炎、代謝障害、繁殖障害等）に対応するため、泌乳初期の泌乳ピークを低減し、泌乳持続性を高めることにより乳量を確保しつつ、乳牛の健全性を高める新たな飼養方法を開発することを目的として、新たな乾乳期の飼養方法を検討した。他県との協定試験実施に係る細則の作成を完成し、試験牛 4 頭の準備を完了、採材を開始しデータを蓄積した。

59 農林水産分野における気候変動対応のための研究開発（委託プロジェクト研究）

地理的条件の異なる広域で栽培される作物、放任果樹及び周辺環境を含めた野生動物の行動・生態特性の解明

気候変動による野生動物拡大への対応技術を開発するため、全国共通の試験設計で水稻の栽培農地を 4 か所選定し、遊休農地、放任果樹、森林内に自動撮影カメラを各 3 台、ICT 自動カメラを各 2 台設置した。モニタリング地点は秩父市 2 か所、皆野町 1 か所、飯能市 1 か所。

60 生産現場強化のための技術開発（委託プロジェクト研究）

土壌物理性と土壌水分を指標とした多収阻害要因の改善技術確立

麦の低収ほ場における低収要因を解明するため、現地及び場内の多ほ場と少収ほ場の比較を行った結果、低収ほ場に

において、土壌の三相分布の固相率は高く、土壌水分は低く、土壌の CEC も低い傾向が見られた。これらが低収要因の可能性が考えられ、土壌改善のための指標として有望と考えられた。また、低収ほ場において籾殻の混和による土壌改善効果について検討した結果、固相率が低下する傾向が認められ、土壌物理性の改善方法として期待された。

61 画期的機能を持つ野菜の接ぎ木システムの実用化と接ぎ木効率を向上させる接ぎ木接着剤の開発

(農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業)

(1) トマトの果実高糖度化・低温耐性を示す台木のスクリーニング

トマト穂木品種「CF桃太郎はるか」を台木8系統に接ぎ木後、20Lの不織布ポットに12月12日に定植を行い栽培試験を行った。わい性台木を用いたものは、草丈の抑制がみられた。

(2) ナスの収量増加・害虫選好性を示す台木のスクリーニング

ナス穂木「式部」、「あのみり」を台木ナス3系統、トマト6系統に接ぎ木後、2月8日に定植を行った。

62 主要農産物採種事業(原原種・原種生産整備事業) (令達事業)

主要農作物の優良な種子の生産及び普及を促進するため、主要農作物種子法および主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、本県の主要農作物(水稻・麦類・大豆)奨励品種の原原種の増殖を行い、水稻 41.7kg、麦 277.5kg を配布した。

63 有害動物防除等体制整備促進事業(野生動物農作物被害防止総合対策の推進) (令達事業)

ハクビシン、アライグマ、ガビチョウ、クリハラリス、ヌートリアの分布と行動域調査を実施した。ハクビシン、アライグマは秩父、比企、入間地域を中心にセンサーカメラを設置し行動確認を行った。アライグマは神社・仏閣への爪跡等の痕跡調査を併せて実施。秩父地域で調査した神社・仏閣の9割以上でアライグマの痕跡が見つけられた。ガビチョウは鳴き声の確認によるフィールド調査を行った。県内全域に広く薄く分布し、発生当初のような大きな群れと農作物被害は確認できていない。クリハラリスは、NPOによる積極的な捕獲活動により平成26年3月時点で県内の生息数は0となっている。今年度も目視による観察と警戒音の聞き取り調査を行ったが生息は確認できなかった。ヌートリアは荒川河川敷で目撃情報が寄せられているが、当センターの調査では確認できていない。

当センターで開発した、中型動物対象の低コスト電気柵「楽落くん」のトリカルネットを暴風網に置き換えた「楽落くんライト」の現地実証、改良を行った。本体を含まない柵部分で35%の低コスト化が図れた。今年度も引き続き効果の検証を実施し、侵入防止効果が高いことが実証された。

64 中山間ふるさと事業(野生動物の農作物被害防止総合対策の推進) (令達事業)

(1) ニホンザルの効果的被害対策の開発

群中の個体に発信器を装着し、取り付けた発信機をもとにサル群の行動域調査を行った。また、秩父市が取り付けたGPS発信機をもとにサル群の行動域調査を行った。

捕獲中心の対策により大幅に個体数を減らしたサル群(長若群)について、その動向を調査した。個体数が減少したが、行動域での被害は減少していない状況が確認されたと同時に、効果的な追い払いを行った地区(秩父市田村)へは群れの移動が制限されており、追い払いの重要性についても確認できた。(長若群)

GPS発信機を取り付けた影森群はテレメトリーではわからなかった行動が見えるようになった。

「電落くんII型」が集中している区域(横瀬町芦ヶ久保)では、春季から冬季までは群れの行動がほとんど見られな

かった。これは、「電落くんⅡ型」がほ場へのサルへの侵入を効果的に防いだため、エサ場としてのサルの評価が下がり、群れの行動域を変えるほどの効果が得られたと思われる。しかし、冬季は、「電落くんⅡ型」が集中している区域であっても群れの侵入と移動が見られた。当然、「電落くんⅡ型」設置ほ場への侵入は見られず、柵で囲われていない場所での行動であった。これは、「電落くんⅡ型」が集中している区域が山の南斜面で、日当たりが良く暖かい条件のため、群れの居心地が良かったためと思われる。冬季は、ユズ、カキなどの収穫残の関係からサル群の集落依存度が高まることわかっていたが、一般に山の南斜面に集落が多くあることから、日当たりなどのエサとは関係のない条件も出没に關与していると考えられた（芦ヶ久保群）。

(2) 新たな被害防止柵の開発

ニホンザルを中心に、多獣種（サル、シカ、イノシシ、アライグマ、ハクビシン、タヌキ、アナグマ、ウサギ等）に対応した電気柵「電落くん（埼玉方式Ⅱ型）」は、本事業により平成 23 年度に開発した電気柵であるが、秩父市、横瀬町で設置面積が急速に拡大している。JA ちちぶによる資材販売・設置支援及び、各市町による設置補助連携により、更に普及が進んだ。（JA ちちぶの「電落くんⅡ型」設置の活動は、全国鳥獣被害対策優良活動表彰、団体の部生産局長賞を受賞している）この「電落くんⅡ型」を設置したほ場では、これまで全く被害が出ていなかったが、追い払いがうまくできていない地域で、網を破られサルに侵入される事例が生じた。亀甲金網などによる補強や電線の追加などで一部対応を行ったが、電気柵を設置していても、サルを強く誘引する作物がある場合は注意しなければならない状況が生じてきた。

東松山農林振興センター、東秩父村と連携し、シカの低コスト電気柵を設置した。シカが感電し驚いてネットに飛び込む事例が確認された。今年度はネット高、上部の補強、感電によるシカの飛び込み等について検討・改善を行い、シカだけの出没であれば電気を通さない方が良いとの結果となった。

(3) 加害動物に関する知識を周知するための映像記録

電落くん（埼玉方式Ⅱ型）に対する動物の反応等の映像を記録した。電気柵を設置したからといって、動物を自由にさせておくと、ネットの食い破り等の被害が生じること、サルについては、追い払うことの重要性を確認する映像を記録することができた。これらの映像を研修会で見せることにより、効果的な対策を実施する際の農家に対する理解を得やすくなった。

65 安心安全農産物確保対策事業（令達事業）

(1) 鉄資材を活用したコメ中ヒ素濃度低減技術の確立

鉄資材（転炉さい）施用により、玄米総ヒ素濃度が減少したが、大きな差ではなかった。カドミウム濃度は、どの試験区でも低かった。出穂前後 3 週間湛水管理の効果と考えられる。

鉄資材施用による生育、収量、外観品質への影響はほとんどみられなかった。また、鉄資材施用により土壌 pH (H₂O) は上昇した。

(2) 土壌及び農作物における放射性物質の実態把握及び安全性確保要因の解明

県内 30 地点の農耕地土壌の放射性セシウム濃度を NaI (TI) シンチレーション及びゲルマニウム半導体検出器を用いて測定した結果、調査年度の経過とともに放射性セシウム濃度は減少傾向にあった。放射性セシウム濃度 150 及び 300Bq/kg 相当の土壌を供試し、ホウレンソウを 1/5000a ワグネルポットで栽培した。その結果、ホウレンソウの生育量は黒ボク土と灰色低地土の混合比率によって差があり、土壌の物理性と化学性の影響が認められた。さらに、全窒素・交換性カリ含量及び粒径組成は供試土壌の混合比率で差があったが、ホウレンソウの放射性セシウム濃度はすべての試

験区で検出限界値未満であった。

(3) 殺線虫剤の土壌残留とその防除効果の関係解明（施設キュウリ）

穂木 2 品種、台木 11 品種を組み合わせる 13 通りの苗を作成し、農薬 3 種類を施用し、果実を部位別に採取し、農薬の濃度を測定した。その結果、ホスチアゼートは残留性が高く、台木によって農薬の吸収に差がみられた。着果部位が下の方が、農薬残留量は多い傾向がみられた。

(4) コメ中の無機ヒ素濃度低減技術確立のための実態把握（基礎調査）

埼玉農技研玉井試験場内の水田ほ場で慣行栽培されている、水稻主要数品種の精白米の総ヒ素濃度は 0.088～0.166mg/kgFW で、総ヒ素濃度でも、精米無機ヒ素の CODEX 基準値を超過するサンプルはなかったが、玄米の総ヒ素濃度では、無機ヒ素の CODEX 基準値を超過するサンプルがみられた。また、平成 28 年産の方が平成 27 年産より総ヒ素濃度が高く、同一年産、同一品種でも移植時期が早いサンプルの方が総ヒ素濃度が高い傾向があった。品種間差は明確ではなかった。とう精により総ヒ素濃度は 40～71%に低下した。

県内の代表的な水田土壌を用いたポット栽培において、常時湛水管理で栽培すると、玄米総ヒ素濃度は高まり、特に、灰色低地土では玄米無機ヒ素濃度の CODEX 基準値を超過していた。出穂前後、間断灌漑管理を行うと玄米総ヒ素濃度が低下し、カドミウム濃度も基準値以下に抑えられた。

66 消費安全対策交付金事業（病害虫防除対策）（令達事業）

(1) 病害虫発生予察事業

水稻、麦、大豆、キュウリ、トマト、ナシの病害虫の発生状況を調査した。また、所内におけるフェロモントラップライトトラップによる害虫の発生状況を調査した。これらを併せて、毎月予察情報を作成した。

更に、いもち病に関する注意報、及び秋冬ネギ及び春ニンジンに発生したクロバネキノコバエ科の一種（*Bradysia* sp.）について」の特殊報をそれぞれ作成した。

(2) 病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業

ナシ園におけるニセナシサビダニの総合防除対策の検討のため、水和硫黄合剤 2 剤の開花前散布を行い、初期低減効果が確認された。今後、従来の生育期防除と組み合わせた効果的な防除体系の検討が必要である。

ブロッコリー細菌性病害に対する定植時プロベナゾール粒剤処理と生育期間中の水酸化第二銅水和剤を組み合わせた体系防除の効果を現地農家ほ場で検討した。この結果、体系防除の効果が高く、産地において実用性が高いと判断された。

(3) 総合的病害虫管理推進事業

大豆の奨励品種が「里のほほえみ」に切り替わったため、IPM 実践指標の①遅播栽培、②狭畦栽培による雑草抑制効果、③病害虫の発生動向の解明と薬剤防除の検証を行った。この結果、遅播栽培では適期播種と同等の収量を得るためには、播種量を 3 割程度増やす必要があった。子実吸汁性カメムシ類の多発生条件であったが、適期播種よりも 10 日程度遅く播くことによって、薬剤散布回数の削減が可能であった。狭畦栽培では、播種後土壌処理剤散布により雑草防除効果が得られた。ハスモンヨトウについては、フェロモントラップへの誘引状況から防除不要と判断できた。

イチゴのナミハダニに対する防除技術として、定植直前のイチゴ苗高濃度炭酸ガス処理と新規天敵資材「バンカーシート」の設置を行い、長期間ナミハダニを抑制できることを確認した。

67 農業安全対策事業（令達事業）

(1) マイナー作物の農薬残留確認調査

そばに対するグリホサートカリウム塩液剤の作物残留試験を行った。生育期に専用除草剤塗布器パクパク PK89 を使用し茎葉処理を実施（500ml/10a、2回）、最終処理日から7、14、21日後にそばを収穫し、調製後冷凍保存し残留農薬の分析を行った。

(2) 農薬残留実態調査

病害虫防除所が関係機関や農業者等から採取した農産物を供試材料とした。ナス、バレイショ、ミズナ、ホウレンソウ、コマツナ、サトイモ、ブロッコリー、ニンジン、ネギ、カブ、チンゲンサイを検体として病害虫防除所等が45検体を収集、各作物1～7農薬、130点を分析した。残留基準値を超過する作物と農薬の組み合わせはなかった。

(3) 河川中農薬モニタリング調査

水産動植物の被害防止に係る登録保留基準値と環境中予測濃度（水産PEC）が近接している農薬の実態調査として、本年度は、越辺川の落合橋において、水稲用除草剤の成分であるプレチラクロール、シメトリンをとりあげた。河川水のプレチラクロール濃度は、6月3日に最高濃度の $2.76\mu\text{g/L}$ となったため、環境基準点において登録保留基準値超過はみられなかったが、水産PEC値は2回上回る結果となった。河川水のシメトリン濃度は6月3日に最高濃度の $0.36\mu\text{g/L}$ となり、水産PEC値未満となった。

68 畜政推進事業（令達事業）

飼料対策事業：6月、7月、9月、11月、1月、2月の6回にわたり、104点の自給粗飼料の成分分析を実施した。あわせて硝酸態窒素含有量について104点の試料を中央家畜保健衛生所に持ち込み測定した。（種畜生産研究）

69 高品質畜産物生産振興事業（令達事業）

(1) 豚受精卵移植高度化事業（令達事業）

と畜場から採取した卵巣から卵子を2,897個採取し、体外で2日間成熟させたのち、英国産黒豚の凍結精液を用いて、体外生産胚の作製および顕微授精を実施した。メーカー技術者から顕微授精用ピエゾマニピレーターの調整および技術指導を受けた。また、注入用ピペットを220本作成した。

(2) 受精卵移植高度化事業

秩父高原牧場における受精卵の凍結処理を中心とした技術指導、受胎率に影響する要因等の解析結果のフィードバックを行った。凍結受精卵の移植を85頭に行い、54頭が受胎（受胎率63.5%）したが、流産率がやや高く（11.1%）、対策が必要と考えられた。

(3) タマシヤモ生産体制整備事業

高品質肉養鶏タマシヤモ原種2系統について、体重・産卵率などを基に選抜を行い、後継鶏を確保した。25年度から開始した種鶏の改良を引き続き実施した。肥育用素雛（彩の国地鶏タマシヤモ）の供給羽数は31,600羽、農家数は11戸であった。（種畜生産研究）

70 彩の国地鶏タマシヤモ血統更新事業（令達事業）

本県のブランド畜産物である彩の国地鶏「タマシヤモ」の原種及び種鶏の近交が進んでおり、農家に供給する商業雛の生産効率が低下している。一方、農家の供給希望羽数は増加しており、十分な雛の確保が困難となっている。この状況を打破するため、（独）家畜改良センター保有の原種を導入し、近交による生産効率の低下を抑えるとともに、

有用遺伝子を活用してさらに良食味で良好な増体の系統を育成する。

有用遺伝子として増体に関与する成長促進遺伝子（コレシストキニン A 受容体：CCKAR）遺伝子）及び鶏肉の旨みに関与する遺伝子群（アラキドン酸増強遺伝子 3 種類）について解析した。その結果、CCKAR 遺伝子では殆どの個体の一塩基多型（SNP）が増体効果の低い C ホモであり、タマシャモでは同遺伝子の効果は期待できないことが判明した。一方、アラキドン酸増強遺伝子群の SNP ハプロタイプは鶏肉脂肪酸中のアラキドン酸含量が比較的高く、良食味が期待できる T-G-A ホモが優勢であった（遺伝子情報活用研究）。

（独）家畜改良センター兵庫牧場から大シャモ 831 系統を導入しタマシャモと交配し、原種の改良を開始した。鳥インフルエンザ等の発生による原種壊滅のリスク回避のために、県内の農業高校と連携し、3 校へ 100 羽（雄 15 羽、雌 85 羽）配布し分散飼育を実施した。

さらなる良食味かつ良好な増体を示す系統の育成を目指して、タマシャモ原種の有用遺伝子の解析を開始した。有用遺伝子として増体に関与する成長促進遺伝子（コレシストキニン A 受容体：[CCKAR] 遺伝子）及び鶏肉の旨みに関与する遺伝子群（アラキドン酸増強遺伝子 3 種類）について解析した。その結果、CCKAR 遺伝子では殆どの個体の一塩基多型（SNP）が増体効果の低い C ホモであり、タマシャモでは同遺伝子の効果は期待できないことが判明した。一方、アラキドン酸増強遺伝子群の SNP ハプロタイプは鶏肉脂肪酸中のアラキドン酸含量が比較的高く、良食味が期待できる T-G-A ホモが優勢であった。（種畜生産研究）

IV 試験研究成果の伝達

1 研究報告等

(1) 研究報告第16号（平成28年度発行）

《報 文》

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 標 題 | 肥料成分を高めた食品残渣ペレット肥料が作物の生育および収量に及ぼす影響 |
| 執 筆 者 | 山崎晴民・丸岡久仁雄・佐藤一弘・浅野智孝 |
| 標 題 | 循環型乾燥機を利用した水稻種子の休眠打破とその種子の発芽能力 |
| 執 筆 者 | 荒川 誠・加藤 徹 |
| 標 題 | 水稻「彩のかがやき」の高温障害軽減技術の開発 |
| 執 筆 者 | 岡田雄二・石井博和 |

《短 報》

| | |
|-------|------------------------------|
| 標 題 | 埼玉県農作物施肥基準に基づく施肥設計支援プログラムの開発 |
| 執 筆 者 | 丸岡久仁雄・山崎晴民・佐藤一弘 |

《資 料》

| | |
|-------|---|
| 標 題 | サイレージ用トウモロコシの品種比較試験 |
| 執 筆 者 | 大澤 玲 |
| 標 題 | 「彩の国地鶏タマシャモ」の改良 母系の作出に用いるロードアイランドレッドの系統がコマーシャル鶏の生産性と肉質に及ぼす影響 |
| 執 筆 者 | 中村秀夫・奥嶋佐知子 |

(2) 新技術情報（2015年版）

| | |
|-----|----------------------------|
| 標 題 | ユズのかいよう性虎斑症低減技術 |
| 担 当 | 生産環境・安全管理研究担当 病虫害防除技術研究チーム |
| 標 題 | 施肥設計支援プログラムで作業効率UP！ |
| 担 当 | 生産環境・安全管理研究担当 病虫害防除技術研究チーム |
| 標 題 | 乳牛の性選別精液利用に向けた定時授精プログラム |
| 担 当 | 品種開発・ブランド育成研究担当 種畜生産研究チーム |

| | | |
|--------|--------|--|
| 標 担 | 題 当 | 初産牛の健全性の維持に適した飼料中の非繊維性 品種開発・ブランド育成研究担当 種畜生産研究チーム |
| 標 担 | 題 当 | 高温耐性中晩生水稲品種「むさしの26号」 品種開発・ブランド育成研究担当 水稲研究チーム |
| 標 担 | 題 当 | 高温障害を軽減する「彩のかがやき」の追肥方法 高度利用・生産性向上研究担当 水田高度利用研究チーム |
| 標 担 | 題 当 | 難裂莢性的大豆新品種「里のほほえみ」 高度利用・生産性向上研究担当 高収益畑作研究チーム |
| 標 担 | 題 当 | トマト栽培における低温障害を発生させる温度と時間 高度利用・生産性向上研究担当 施設園芸先端技術研究チーム |

2 学会発表・著書・刊行物

(1) -1 学会論文発表

| | |
|------|---|
| 執筆者 | Hiroki Nakabayashi, Takuji Kawagishi, Koichi Mizutani, Tadashi Ebihara, Naoto Wakatsuki, Hiroyuki Uga, and Kenji Kubota |
| 標題 | Observation of Acoustical Behavior of Some Biotypes of BEMISIA TABACI |
| 掲載誌名 | Proceedings of the International Conference on Agricultural Engineering CIGR-AgEng |
| 発行年月 | 2016年6月 |
| 執筆者 | Hayato Udo, Hiroki Nakabayashi, Koichi Mizutani, Tadashi Ebihara, Naoto Wakatsuki, Hiroyuki Uga, and Kenji Kubota |
| 標題 | Study on Detection of Whitefly Bodies and Pairs Using Image Processing |
| 掲載誌名 | Proceedings of the International Conference on Agricultural Engineering CIGR-AgEng |
| 発行年月 | 2016年6月 |
| 執筆者 | Fujita E, Kawasaki Y, Uga H, Kagiwada S and Iyatomi H |
| 標題 | Basic Investigation on a Robust and Practical Plant Diagnostic System |
| 掲載誌名 | Machine Learning and its Applications (IEEE ICMLA 2016) |
| 発行年月 | 2016年 |
| 執筆者 | 酒井和彦・植竹恒夫・庄司俊彦 |
| 標題 | コムギ黒節病の種子消毒 |
| 掲載誌名 | 関東東山病害虫研究会報第63集, p8-13. |
| 発行年月 | 2016年12月 |
| 執筆者 | 酒井和彦・植竹恒夫・庄司俊彦 |
| 標題 | 種子消毒と出穂期前後の薬剤散布を組み合わせたコムギ黒節病の防除 |
| 掲載誌名 | 関東東山病害虫研究会報第63集, p14-17. |
| 発行年月 | 2016年12月 |
| 執筆者 | Mina Yasaki, Yasushi Hirano, Hiroyuki Uga, Kaoru Hanada, Tamaki Uehara-Ichiki, Takeshi Toda, Hiromitsu Furuya, Shin-ichi Fujii |
| 標題 | Characterization of a new carmovirus isolated from an Adonis plant |
| 掲載誌名 | Arch Virol |
| 発行年月 | 2017年2月 |
| 執筆者 | Meihua Deng, Mudan Hou, Naoko Ohkama-Ohtsu, Tadashi Yokoyama, Haruo Tanaka, Kenta Nakajima, Ryosuke Omata and Sonoko Dorothea, Bellingrath-Kimura |
| 標題 | Nitrous Oxide Emission from Organic Fertilizer and Controlled Release Fertilizer in Tea Fields |
| 掲載誌名 | Agriculture (ISSN 2077-0472) |
| 発行年月 | 2017年3月 |

| | |
|------|--|
| 執筆者 | 小俣良介 |
| 標 題 | 茶園におけるクワシロカイガラムシの天敵ヒメアカホシテントウの蛍光灯トラップによる捕獲消長 |
| 掲載誌名 | 茶業技術第 60 号 |
| 発行年月 | 2017 年 3 月 |
| 執筆者 | 箕田豊尚 |
| 標 題 | 埼玉県における麦の多収阻害要因の現状 |
| 掲載誌名 | 雑草と作物の制御 第 12 号 |
| 発行年月 | 2017 年 3 月 |

(1) -2 学会口頭発表

| | |
|-------|--|
| 発表者 | 藤田 恵梨香・川崎雄介・鍵和田聡・宇賀博之・彌富 仁 |
| 演 題 | Convolutional Neural Networks を用いた多種類ウイルス性植物病害自動診断システム |
| 学 会 名 | 2016 年度電子情報通信学会総合大会 |
| 発表年月 | 2016 年 3 月 |
| 発表者 | 矢崎美奈・平野泰志・宇賀博之・花田薫・一木（植原）珠樹・戸田武・古谷廣光・藤晋一 |
| 演 題 | フクジュソウモザイクウイルスの全塩基配列と諸性質 |
| 学 会 名 | 2016 年度日本植物病理学会大会 |
| 発表年月 | 2016 年 3 月 |
| 発表者 | 鎌田淳・山崎晴民 |
| 演 題 | 小麦「枯れ熟れ様症状」の発生要因と指標化に関する研究 |
| 学 会 名 | 日本土壌肥料学会 2016 年度全国大会 |
| 発表年月 | 2016 年 9 月 |
| 発表者 | Han Sun、Yong Guo、Hiroyuki Uga、Tomoyasu Nishizawa、Kazuhiko Narisawa、Hiroyuki Ohta |
| 演 題 | Effect of dark septate endophytic fungi treatment on the belowground microbial community of the Allium plant |
| 学 会 名 | 日本微生物生態学会大会 |
| 発表年月 | 2016 年 10 月 |
| 発表者 | 酒井和彦 |
| 演 題 | 麦類黒節病の総合防除対策 |
| 学 会 名 | 日本植物病理学会第 27 回植物細菌病談話会 |
| 発表年月 | 2016 年 10 月 |
| 発表者 | 酒井和彦 |
| 演 題 | クワイひぶくれ病に対する防除薬剤の検討 |
| 学 会 名 | 平成 28 年度関東東海北陸農業試験研究推進会議 関東東海・病害虫部会・病害・虫害・鳥獣害研究会 |
| 発表年月 | 2016 年 11 月 |

| | |
|------|--|
| 発表者 | 酒井和彦 |
| 演題 | イネ縞葉枯病抵抗性品種「彩のかがやき」「彩のきずな」によるイネ縞葉枯病防除効果と留意点 |
| 学会名 | 関東東山病害虫研究会第64回研究発表会 |
| 発表年月 | 2017年2月 |
| 発表者 | 岩瀬亮三郎・小俣良介・浅野亘 |
| 演題 | 埼玉県のネギで発生した新害虫クロバネキノコバエ科の一種の薬剤感受性 |
| 学会名 | 関東東山病害虫研究会 第64回大会 |
| 発表年月 | 2017年2月 |
| 発表者 | 小俣良介・岩瀬亮三郎 |
| 演題 | 新害虫クロバネキノコバエ科の一種のネギにおける分布とテフルトリン粒剤の効果 |
| 学会名 | 関東東山病害虫研究会第64回研究発表会 |
| 発表年月 | 2017年2月 |
| 発表者 | 岩瀬亮三郎・小俣良介・植竹恒夫 |
| 演題 | 埼玉県のネギほ場における新害虫クロバネキノコバエ科の一種の発生消長と後作の春ニンジン被害防止のためのネット利用の検討 |
| 学会名 | 第61回日本応用動物昆虫学会大会 |
| 発表年月 | 2017年3月 |
| 発表者 | 小俣良介・岩瀬亮三郎・植竹恒夫 |
| 演題 | 埼玉県のネギ・ニンジンの新害虫クロバネキノコバエ科の一種による被害と発生確認のための室内における寄主植物培養法 |
| 学会名 | 第61回日本応用動物昆虫学会大会 |
| 発表年月 | 2017年3月 |
| 発表者 | 福田昌治 |
| 演題 | 成牛のウイルス性下痢症に関する最近の知見について |
| 学会名 | 平成28年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会(石川) |
| 発表年月 | 2017年2月 |
| 発表者 | 栗原千恵・莊子和明・近藤恵美子・秋田祐介 |
| 演題 | 芳香シクラメンへの鉄イオントランスポーター遺伝子の導入 |
| 学会名 | 園芸学会 |
| 発表年月 | 2016年9月(ポスター発表) |
| 発表者 | 内田裕也・尾田秀樹 |
| 演題 | イチゴ新品種‘埼園い1号’‘埼園い3号’の育成 |
| 学会名 | 日本園芸学会 |
| 発表年月 | 2017年3月(ポスター発表) |
| 発表者 | 中村嘉之 |
| 演題 | 新規ブタ精液長期保存方法開発への試み |
| 学会名 | 第42回豚の繁殖衛生セミナー |
| 発表年月 | 2016年10月 |

| | |
|------|--|
| 発表者 | 中村嘉之 |
| 演題 | ブタ精子の急速精漿除去および媒精条件が胚盤胞の品質に与える影響 |
| 学会名 | 第120回日本畜産学会 神戸大会 |
| 発表年月 | 2017年3月 |
| 発表者 | 大澤玲 |
| 演題 | 周産期における木材クラフトパルプの給与が乳牛の生産性に及ぼす影響 |
| 学会名 | 第120回日本畜産学会神戸大会 |
| 発表年月 | 2017年3月 |
| 発表者 | 石井博和・橘 保宏 |
| 演題 | 水稻乾田直播栽培における播種前ほ場鎮圧の漏水防止効果 |
| 学会名 | 日本作物学会関東支部会第105回講演会 |
| 発表年月 | 2016年12月 |
| 発表者 | 島田智人・前島秀明・浅野亘・塚田茜・片野敏夫 |
| 演題 | ニホンナシの受粉樹におけるビニル被覆および低樹高仕立てが開花期と花粉発芽率および作業効率に及ぼす影響 |
| 学会名 | 園芸学会平成28年度秋季大会 |
| 発表年月 | 2016年9月 |
| 発表者 | 松本辰也・根津潔・島田智人・前島秀明 |
| 演題 | 開花数制限処理がニホンナシの人工受粉用花粉消費量と作業時間に及ぼす影響 |
| 学会名 | 園芸学会平成28年度秋季大会 |
| 発表年月 | 2016年9月 |
| 発表者 | 塚澤和憲 |
| 演題 | キュウリ産地における気候変動が生育に及ぼす影響と対策について |
| 学会名 | 平成28年度野菜花き課題別研究会「ウリ科野菜生産を取り巻く現状と今後の課題」 |
| 発表年月 | 2016年10月 |
| 発表者 | 片野敏夫・植竹恒夫・島田智人 |
| 演題 | 研究成果情報 循環型農業を目指したナシ剪定枝処理技術 |
| 学会名 | 平成28年度関東東海北陸農業試験研究推進会議果樹部会 |
| 発表年月 | 2016年11月 |
| 発表者 | 石井博和 |
| 演題 | 埼玉県における試験結果(稲)について |
| 学会名 | 平成28年度高速高精度汎用播種機に係る成績検討会 |
| 発表年月 | 2017年2月 |
| 発表者 | 島田智人 |
| 演題 | ナシにおける花粉自給率向上に向けた花粉採取コスト削減のための取り組みについて |
| 学会名 | 平成28年度果樹茶業研究会 |
| 発表年月 | 2017年2月 |

発表者 石井博和
 演題 埼玉県における飼料用水稲の取り組み状況について
 学会名 植調関東支部雑草防除研究会
 発表年月 2017年3月

(2) 情報誌等

執筆者 酒井和彦
 標題 果樹病害の最近の動向と防除対策「埼玉県におけるナシ重要病害の防除指導」
 掲載誌名 果実日本 vol.71-4
 発表年月 2016年4月

執筆者 酒井和彦
 標題 主要農作物の病害虫発生と防除対策について(1 普通作物)
 掲載誌名 埼玉の植物防疫 No.131
 発行年月 2016年6月

執筆者 小俣良介
 標題 主要農作物の病害虫発生と防除対策について(2 果樹・野菜)
 掲載誌名 埼玉の植物防疫 No.131
 発行年月 2016年6月

執筆者 宇賀博之
 標題 ネギの大麦リピングマルチによる害虫と高温対策
 掲載誌名 グリーンレポート
 発行年月 2016年7月

執筆者 酒井和彦
 標題 試験情報「ネギ褐色腐敗病の薬剤防除」
 掲載誌名 埼玉の植物防疫 No.132
 発行年月 2016年8月

執筆者 酒井和彦
 標題 主要農作物の病害虫発生と防除対策について(1 普通作物)
 掲載誌名 埼玉の植物防疫 No.133
 発行年月 2017年1月

執筆者 小俣良介
 標題 主要農作物の病害虫発生と防除対策について(2 果樹・野菜)
 掲載誌名 埼玉の植物防疫 No.133
 発行年月 2017年1月

執筆者 小俣良介
 標題 ねぎ及びニンジンに寄生するクロバネキノコバエ科の一種について
 掲載誌名 埼玉の植物防疫 No.133
 発行年月 2017年1月

| | |
|------|---------------------------|
| 執筆者 | 荒川 誠 |
| 標 題 | 水稻高温耐性品種「彩のきずな」の育成と普及 |
| 掲載誌名 | 米麦改良 1月号 2017 |
| 発行年月 | 2017年1月 |
| 執筆者 | 荒川誠 |
| 標 題 | DNAマーカーによるお米の品種判別技術 |
| 掲載誌名 | 日本農業新聞「営農新技術」 |
| 発行年月 | 2016年7月 |
| 執筆者 | 中村 秀夫 |
| 標 題 | 「彩の国地鶏タマシャモ普及」の改良について |
| 掲載誌名 | 日本農業新聞 |
| 発行年月 | 2017年2月 |
| 執筆者 | 中村 嘉之 |
| 標 題 | 凍結精液の普及 |
| 掲載誌名 | 日本農業新聞 |
| 発行年月 | 2016年4月 |
| 執筆者 | 中村 嘉之 |
| 標 題 | 凍結精液の普及 |
| 掲載誌名 | 日本経済新聞 |
| 発行年月 | 2016年5月 |
| 執筆者 | 大澤 玲 |
| 標 題 | 周産期乳牛への木材クラフトパルプの給与 |
| 掲載誌名 | 農業共済新聞 |
| 発行年月 | 2017年2月 |
| 執筆者 | 内藤健二 |
| 標 題 | 平成28年産麦類の作柄概況 |
| 掲載誌名 | さいたま米麦改良110号 |
| 発行年月 | 2016年8月 |
| 執筆者 | 石井博和 |
| 標 題 | 平成28年播き 埼玉県 今月の麦づくり |
| 掲載誌名 | 麦暦 |
| 発行年月 | 2016年9月 |
| 執筆者 | 塚澤和憲 |
| 標 題 | 施設栽培における果菜類の効率的残渣処理技術について |
| 掲載誌名 | 農耕と園芸 |
| 発行年月 | 2016年10月 |

| | |
|------|------------------------------|
| 執筆者 | 塚澤和憲 |
| 標題 | 施設トマト栽培の効率的な残渣処理技術 |
| 掲載誌名 | グリーンレポート No. 570 |
| 発行年月 | 2016年12月 |
| 執筆者 | 齋藤健太郎 |
| 標題 | 施設園芸における埼玉型環境制御技術確立の取り組みについて |
| 掲載誌名 | 埼玉研だより第35号 |
| 発行年月 | 2017年1月 |
| 執筆者 | 志保田尚哉 |
| 標題 | 平成28年産水稻の作柄概況 |
| 掲載誌名 | さいたま米麦改良111号 |
| 発行年月 | 2017年1月 |
| 執筆者 | 島田智人 |
| 標題 | ジベレリン塗布剤を利用したナシの新梢伸長促進効果 |
| 掲載誌名 | 果実日本第72巻2月号 |
| 発行年月 | 2017年2月 |

3 新聞記事

4月

| | |
|-------|-------------------------|
| 掲載年月日 | 平成 28 年 4 月 3 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 彩のきずな ロゴ、コピー決定 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 4 月 5 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 彩のきずな ロゴ、コピー決定 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 4 月 5 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 豚の凍結精液 本格的に量産、普及 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 4 月 8 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 彩のきずな ロゴ、コピー決定 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 4 月 13 日 |
| 新聞名 | 朝日新聞 |
| 見出し | 丸系八つ頭「深谷ねぎに続くブランドに」 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 4 月 14 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の麦管理 4 月 4 日現在 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 4 月 22 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 県内最大産地をめざす 杉戸町丸系八つ頭生産組合 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 4 月 28 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 営農新技術「黒テグスでカラス対策」 |

5月

| | |
|-------|---------------------------|
| 掲載年月日 | 平成 28 年 5 月 10 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 埼玉県が特許「ポロタン」焼き栗に |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 5 月 12 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の麦管理 5 月 7 日現在 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 5 月 20 日 |
| 新聞名 | 日本経済新聞 |
| 見出し | 豚の凍結精液で人工授精 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 5 月 23 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 「ぼろたん」普及 焼き栗で販売を 埼玉県が特許取得 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 5 月 26 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 営農新技術「施肥設計支援プログラム」 |

| | |
|-------|-------------------------------|
| 6月 | |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 6 月 9 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の水稲管理 6 月 1 日現在 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 6 月 9 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | アライグマ捕獲強化 効果的手法を紹介 川越市 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 6 月 23 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 営農新技術 大豆「里のほほえみ」 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 6 月 28 日 |
| 新聞名 | 日本経済新聞 |
| 見出し | イチゴ 2 品種を開発 県内農家へ提供 |
| 7月 | |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 7 月 3 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 高温克服へ一丸 水稲管理を研修 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 7 月 5 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 電気柵で被害防げ アライグマ対応学ぶ |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 7 月 14 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の水稲管理 7 月 1 日現在 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 7 月 21 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 首都水がめ なお濁水 利根川水系 8 ダム |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 7 月 28 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 営農新技術「DNA マーカーで米の品種判別」 |
| 8月 | |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 8 月 7 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 園巡り生育確認(ナシ) 埼玉・JA いるま野・西部果樹部会 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年度 8 月 8 日 |
| 新聞名 | 毎日新聞 |
| 見出し | 食感しっかり巾着型 ときがわ 埼玉青なす |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 8 月 11 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の水管理 8 月 4 日 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 8 月 17 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | サトイモ安定供給へ「丸系八つ頭」栽培講習 |

| | |
|-------------|-------------------------------------|
| 掲載年月日 | 平成 28 年 8 月 20 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | ブドウ生産年々増加 ちちぶ山ルビー初品評会 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 8 月 25 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 営農新技術「イチゴに寄生するナミハダニ」 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 8 月 26 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 例年より良い出来 県産ナシ「彩玉」品評 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 8 月 26 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | ちちぶ山ルビー 質向上へ初品評会 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 8 月 30 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | ブドウと梨糖度平年以上 埼玉・JAいるま野 |
| 9 月 | |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 9 月 7 日 |
| 新聞名 | 農業共済新聞 |
| 見出し | アライグマ 獣害をゼロに 電気柵「楽落くん」 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 9 月 8 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の水稻管理 9 月 1 日現在 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 9 月 14 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 新イチゴ 19 年ぶり開発 県「とちおとめ」超す糖度 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 9 月 23 日 |
| 新聞名 | 全国農業新聞 |
| 見出し | 拡大するカバークロープ 天敵の温存植物に大麦を導入 社「アザミ」に効果 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 9 月 25 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | うちの一押し 米「彩のきずな」粘りと食感良好 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 9 月 30 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | ハダニ防除 新技術実演 JA 南埼玉 |
| 10 月 | |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 10 月 7 日 |
| 新聞名 | 日本経済新聞 |
| 見出し | 「彩のきずな」召し上がれ コメ新品種サイトで PR |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 10 月 13 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の水管理 10 月 1 日 現在 |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 掲載年月日 | 平成 28 年 10 月 18 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 彩のきずな PR 特設サイト開設 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 10 月 24 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 豚凍結精液家畜人工授精など説明 県養豚協会研修会 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 10 月 26 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 彩のきずな 県が HP 県産米新品種知名度アップへ |
| 11月 | |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 11 月 8 日 |
| 新聞名 | 産経新聞 |
| 見出し | 県産ブランド米「彩のきずな」特設サイト開設 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 11 月 10 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の麦管理 11月8日現在 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 11 月 11 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | サトイモ高品質へ 埼玉県さといも協議会共進会 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 11 月 12 日 |
| 新聞名 | 朝日新聞 |
| 見出し | 新品種 糖度「とちおとめ」以上 県センター開発 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 11 月 16 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 農作物食害 1 億 2026 万円 イノシシ、アライグマ多く |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 11 月 17 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 小麦 質・量アップ JAほくさいセミナー |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 11 月 24 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 営農新技術「アライグマ詳細に生育調査」 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 11 月 24 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 乳牛 100 頭審査 熊谷 ホルスタイン共進会 |
| 掲載年月日 | 平成 28 年 11 月 24 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 県産食材で食育 地産地消フェア「彩のかがやき」 |

12月

| | |
|-------|---------------------------|
| 掲載年月日 | 平成28年12月1日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 「丸系八つ頭」出荷規格確認 |
| 掲載年月日 | 平成28年12月6日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 純米吟醸酒「縄文海進」を販売「彩のきずな」使用 |
| 掲載年月日 | 平成28年12月8日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の麦管理 12月1日現在 |
| 掲載年月日 | 平成28年12月20日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 埼玉県シクラメン研究会共進会 |
| 掲載年月日 | 平成28年12月24日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 箱根駅伝Vを JA産米贈る「彩のきずな」 |
| 掲載年月日 | 平成28年12月27日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 「彩のきずな」拡大を 埼玉・JAいるま野水稻講習会 |
| 掲載年月日 | 平成28年12月29日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 「丸系八つ頭」PR JA埼玉みずほトップセールス |

1月

| | |
|-------|----------------------------|
| 掲載年月日 | 平成29年1月12日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 農産物ラップやパレードでPR「彩のきずな」 |
| 掲載年月日 | 平成29年1月16日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 完熟摘みたて堪能 越谷イチゴ狩り人気「彩のかおり」他 |
| 掲載年月日 | 平成29年1月17日 |
| 新聞名 | 毎日新聞 |
| 見出し | 埼玉ブランド農作物県民投票「ねぎ」が連続トップ |
| 掲載年月日 | 平成29年1月18日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 地産地消を实践 エコ循環米販売 |
| 掲載年月日 | 平成29年1月21日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 特産たっぷり 直売所に登場「彩の国黒豚」 |

| | |
|------------|--|
| 掲載年月日 | 平成 29 年 1 月 21 日 |
| 新聞名 | 朝日新聞 |
| 見出し | 県農産物ネット投票でネギ連覇 2 位は狭山茶 3 位「彩のかがやき」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 1 月 21 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | アイドルがイチゴ PR 秩父観光いちご園開園式 新品種「埼園 1・3 号」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 1 月 25 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 観光いちご園開園 中島さんが PR 県開発新品種試食 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 1 月 26 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 営農新技術「キュウリウイルス病自動診断へ」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 1 月 27 日 |
| 新聞名 | 毎日新聞 |
| 見出し | イチゴ狩り楽しんで 越谷の施設農園が旬 PR 県産種 7 種類 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 1 月 27 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | ハビシ、アライグマ捕獲頭数が急増 継続的な防除対策を「楽落くん」効果 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 1 月 27 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 埼玉新聞環境キャンペーン コメ「無洗米彩のかがやきエコ循環米」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 1 月 28 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 秩父観光園開園 イチゴ狩り楽しんで 新品種「埼園い 1・3 号」試食 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 1 月 29 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 県産食材たっぷり鍋 クックパッドでアクセス数 1 位 「彩のきずな」「タマンシャモ」 |
| 2 月 | |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 1 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 越谷産米「彩のかがやき」使用 純米にごり酒 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 2 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 埼玉県さといも共進会 生産量全国一めざす「丸系八つ頭」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 2 日 |
| 新聞名 | 日本経済新聞 |
| 見出し | 県産素材を使ったスイーツ 大宮駅構内に販売店「彩のかがやき」米粉 |

| | |
|-------|---|
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 5 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 銀座三越でマルシェ 農産物を紹介「彩のかがやき」試食 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 5 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 埼玉が公的機関 1 位 クックパットの鍋レシピ 「タマシヤモ」「彩のかがやき」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 5 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 地元産米「彩のかがやき」にごり酒 「越谷宿」10 日から発売 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 7 日 |
| 新聞名 | 毎日新聞 |
| 見出し | 秩父でイチゴ狩りを JA が県庁で PR 「埼園い 1 号」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 7 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 秩父地域でイチゴ狩り JA が PR 「埼園い 1 号」「埼園い 3 号」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 10 日 |
| 新聞名 | 毎日新聞 |
| 見出し | 県農業技術研究センターが新品種 埼玉産イチゴ人気 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 10 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 戦略作物拡大推進「むさしの 26 号」普及を図る |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 11 日 |
| 新聞名 | 東京新聞 |
| 見出し | 新品種イチゴ 味にこだわり 農業技術研究センターが 20 年ぶりに開発 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 11 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 秩父産イチゴ JA が PR 「埼園い 1 号」「埼園い 3 号」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 18 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 新米キャンペーン「彩のかがやき」「彩のきずな」「彩の黒豚」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 23 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 営農新技術「彩の国地鶏タマシヤモの改良」産卵率が 2 割向上 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 2 月 28 日 |
| 新聞名 | 朝日新聞 |
| 見出し | 廃業の蔵 同業者が再生 県開発酒米「さけ武蔵」 |

3月

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 1 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 販売戦略に特A活用を「彩のきずな」他 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 5 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | ヒップホップと農産物がコラボ 「彩玉」「彩のきずな」「彩のかがやき」他 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 7 日 |
| 新聞名 | 毎日新聞 |
| 見出し | 野生アライグマ急増 農産物や寺社に被害 県全体で対策を |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 9 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 今月の麦管理 3月2日現在 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 11 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 地元酒米の酒いかが イオン農場で生産 さけ武蔵純米大吟醸 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 12 日 |
| 新聞名 | 毎日新聞 |
| 見出し | 羽生産米で日本酒 イオン 全国の4蔵元が協力 「さけ武蔵」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 18 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 20年ぶり新品種イチゴ 愛称「かおりん」「あまりん」に |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 18 日 |
| 新聞名 | 産経新聞 |
| 見出し | 県育成イチゴ新品種の愛称 「かおりん」「あまりん」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 18 日 |
| 新聞名 | 埼玉新聞 |
| 見出し | 「かおりん」「あまりん」県開発イチゴ愛称決定 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 19 日 |
| 新聞名 | 読売新聞 |
| 見出し | 県産米の玄米使いレトルト 福祉事業会社が発売 「彩のきずな」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 23 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | ただかね農園知事賞に輝く JAちちぶイチゴほ場共進会 |

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 23 日 |
| 新聞名 | 日本経済新聞 |
| 見出し | 県育成のイチゴ新品種 愛称「かおりん」「あまりん」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 24 日 |
| 新聞名 | 毎日新聞 |
| 見出し | 県開発のイチゴ愛称決まる 埼園い1号「かおりん」埼園い3号「あまりん」 |
| 掲載年月日 | 平成 29 年 3 月 30 日 |
| 新聞名 | 日本農業新聞 |
| 見出し | 埼玉県育成イチゴ新品種 愛称は「かおりん」「あまりん」に |

4 テレビ・ラジオ放送

| | |
|-------|---|
| 放送年月日 | 平成28年8月27日 |
| 放送局名 | テレビ朝日 |
| 放送内容 | 「ごほんジャパン」・ナスの果色について |
| 放送年月日 | 平成28年9月6日 |
| 放送局名 | テレビ埼玉 |
| 放送内容 | めぐりめぐみ なし「彩玉」の育成経緯と特徴 |
| 放送年月日 | 平成28年9月26日 |
| 放送局名 | NHK総合 |
| 放送内容 | クローズアップ現代+「あなたの家も危ない！？都会を侵略」エイリアン外来動物” ハクビシン、アライグマの生態等 |
| 放送年月日 | 平成28年10月17日 |
| 放送局名 | テレビ朝日 |
| 放送内容 | 「橋本×羽鳥の番組」アライグマが増加した原因について |
| 放送年月日 | 平成28年10月18日 |
| 放送局名 | テレビ埼玉 |
| 放送内容 | めぐみめぐり コメ「彩のきずな」の育成経緯と特徴 |
| 放送年月日 | 平成28年11月15日 |
| 放送局名 | テレビ埼玉 |
| 放送内容 | めぐみめぐり 埼玉の野菜「丸系八つ頭」他 |
| 放送年月日 | 平成28年12月6日 |
| 放送局名 | 日本テレビ |
| 放送内容 | new every 都市進出している「ハクビシン」 |
| 放送年月日 | 平成29年1月12日 |
| 放送局名 | FM Nack5 |
| 放送内容 | モーニングスクエア・農技研成果発表会の紹介 |
| 放送年月日 | 平成29年1月17日 |
| 放送局名 | テレビ埼玉 |
| 放送内容 | めぐみめぐり 埼玉の畜産物「彩の国黒豚」、「タマシャモ」他 |
| 放送年月日 | 平成29年1月26日 |
| 放送局名 | BS日テレ |
| 放送内容 | 「にっぽん食の道」・深谷ねぎ、丸系八つ頭 |
| 放送年月日 | 平成29年2月2日 |
| 放送局名 | JCOM熊谷 |
| 放送内容 | まちかどワイド 成果発表会の概要 |

5 成果発表会

開催日時：平成 29 年 2 月 1 日

開催場所：埼玉県農業大学校（講堂・大教室・中教室）

主催：農業技術研究センター

内容：分野別に発表。①主穀 ②園芸 ③畜産、革新的実証研究

1. 主穀分野【発表会場：講堂】

| 研究対象 | 課題名（発表者） |
|------|---|
| 水 稲 | 1. 米の食味評価方法 (品種開発・ブランド育成研究担当 矢ヶ崎健治) |
| 水 稲 | 2. 特A獲得のための栽培技術 (高度利用・生産性向上研究担当 岡田雄二) |
| 水 稲 | 3. 良食味生産のための現地生産技術の確立 (農業革新支援担当 山本和男) |
| 水 稲 | 4. (情報提供) 生育相試験から見た本年の気象と水稲への影響 (高度利用・生産性向上研究担当 志保田尚哉) |
| 麦 類 | 5. 全層施肥型「さとのそら」専用肥料 (生産環境・安全管理研究担当 鎌田 淳) |
| 麦 類 | 6. ムギ類黒節病の防除対策 (生産環境・安全管理研究担当 酒井和彦) |
| 麦 類 | 7. (情報提供) 平成 29 年産 (28 年は種) 麦類の生育概況 (農業革新支援担当 山本和男) |

2. 園芸分野【発表会場：大教室】

| 研究対象 | 課題名（発表者） |
|------|---|
| イチゴ | 8. 埼玉県オリジナルイチゴ品種の育成 (品種開発・ブランド育成研究担当 尾田秀樹) |
| キュウリ | 9. つる下ろし栽培を用いたキュウリ長期 1 作型 (高度利用・生産性向上研究担当 中畝 誠) |
| ネ ギ | 10. 秋冬ネギ品種の耐湿性の検討 (高度利用・生産性向上研究 加藤 剛) |
| 施 設 | 11. (情報提供) 施設園芸における埼玉型農業環境制御技術の確立 (高度利用・生産性向上研究担当 斉藤健太郎) |
| 八つ頭 | 12. 丸系八つ頭の経時的生育様相 (高度利用・生産性向上研究担当 道祖土博一) |
| 花 き | 13. 鉢花・花壇苗における秋季出荷品目の前進化技術 (高度利用・生産性向上研究担当 石川貴之) |
| 花 き | 14. 夏季に適した花壇苗品目の選定と栽培技術の検討 (高度利用・生産性向上研究担当 佐藤加奈巳) |

| | |
|-----|--|
| 果 樹 | 15. 国育成ナシ新品種の特性 (高度利用・生産性向上研究担当 塚田 茜) |
| 果 樹 | 16. (情報提供) 平成28年産ニホンナシの生育状況 (高度利用・生産性向上研究担当 前島秀明) |
| 果 樹 | 17. 生息調査でわかった新たなアライグマ対策法 (生産環境・安全管理研究担当 古谷益朗) |

3. 畜産分野・革新的実証研究【発表会場：中教室】

| 研究対象 | 課題名 (発表者) |
|--------|--|
| 鶏 | 18. タマシャモの血統更新が肉質等へ及ぼす影響 (品種開発・ブランド育成研究担当 中村秀夫) |
| 豚 | 19. 豚繁殖技術の開発に向けた新たな試み (品種開発・ブランド育成研究担当 中村嘉之) |
| 牛 | 20. 周産期乳牛への木材クラフトパルプの粗飼料利用効果 (品種開発・ブランド育成研究担当 大澤 玲) |
| 豚 | 21. (情報提供) 農技研に新設した畜産污水处理施設の稼働状況 (品種開発・ブランド育成研究担当 塩入陽介) |
| キュウリ | 22. 小規模農家向けの低コストセンサーノード開発 (NTTアドバンステクノロジー株式会社 田村卓三) |
| トマト | 23. 植物体の振動センシングによる熟練技能の可視化 (埼玉大学 蔭山健介) |
| イチゴ | 24. イチゴのクラウン冷却による花芽分化時期の制御 (株式会社日本イトミック 高橋康弘) |
| ユリ | 25. GHP を利用したゆり切り花夜冷栽培の実証 (ヤンマーアグリジャパン株式会社 清水 豊) |
| コショウラン | 26. パットの気化熱効果を利用したコショウランの省エネ栽培 (協立機電工業株式会社 本川裕也) |

6 発明・実用新案等

(1) 特許

| | |
|----------|--|
| ①特許権等の名称 | 新規乳酸菌株、それを含有する微生物添加剤及び当該添加剤を用いる稲発酵粗飼料の調製方法 |
| 発明者 | 吉田宣夫 |
| 出願年月日 | 平成14年7月11日 |
| 登録年月日 | 平成18年5月19日 |
| 番号 | 特許第3805727号 |
| 備考 | 共同出願：(国法)農研機構、雪印種苗(株) |
| ②特許権等の名称 | 農園芸作物用殺虫剤 |
| 発明者 | 宇賀博之、根本久、畠山修一 |
| 出願年月日 | 平成20年12月5日 |
| 登録年月日 | 平成25年4月19日 |
| 番号 | 特許第5245140号 |
| 備考 | 共同出願：出光興産(株) |
| ③特許権等の名称 | 堆肥の製造方法 |
| 発明者 | 崎尾さやか |
| 出願年月日 | 平成19年8月31日 |
| 登録年月日 | 平成25年9月13日 |
| 番号 | 特許第5362971号 |
| 備考 | 共同出願：クラリス環境(株) |
| ④特許権等の名称 | 有機肥料及びその製造方法 |
| 発明者 | 鎌田淳、丸岡久仁雄、畑克利 |
| 出願年月日 | 平成21年4月6日 |
| 登録年月日 | 平成27年4月24日 |
| 番号 | 特許第5753733号 |
| 備考 | 共同出願：朝日工業(株) |
| ⑤特許権等の名称 | 液肥の製造方法 |
| 発明者 | 崎尾さやか、佐藤一弘、塚澤和憲、石川貴之 |
| 出願年月日 | 平成22年8月16日 |
| 登録年月日 | 平成27年7月31日 |
| 番号 | 特許第5783399号 |
| 備考 | 共同出願：クラリス環境(株)、サントク(株) |
| ⑥特許権等の名称 | 焼き栗の作り方 |
| 発明者 | 酒井雄作 |
| 出願年月日 | 平成23年4月15日 |
| 登録年月日 | 平成27年11月27日 |
| 番号 | 特許第5842234号 |
| 備考 | |

| | |
|----------|-----------------------------|
| ⑦特許権等の名称 | 植物病診断システム、植物病診断方法、及びプログラム |
| 発明者 | 宇賀博之 |
| 出願年月日 | 平成27年3月9日 |
| 番号 | 特願2016-158301 |
| 備考 | 共同出願：法政大学 出願中 |
| ⑧特許権等の名称 | 発酵飼料の製造方法 |
| 発明者 | 大澤 玲 |
| 出願年月日 | 平成27年8月10日 |
| 番号 | 特願2015-158301 |
| 備考 | 共同出願：(国法)農研機構、日本化薬フードテクノ(株) |
| ⑨特許権等の名称 | 発酵飼料製造用改善剤及び発酵飼料の製造方法 |
| 発明者 | 大澤 玲 |
| 出願年月日 | 平成27年8月10日 |
| 番号 | |
| 備考 | 出願中 |

7 品種育成

(1) 種苗法に基づく登録品種

| 種 類 | 品 種 名 称 | 登録年月日 | 登録番号 | 備 考 |
|--------|-----------|---------------|---------|------|
| 稲 | 彩のかがやき | 平成17年 2月 7日 | 第12699号 | うるち米 |
| 稲 | さけ武蔵 | 平成19年 2月 20日 | 第14779号 | うるち米 |
| 稲 | うしもえ | 平成21年 3月 19日 | 第18116号 | 飼料米 |
| 稲 | 彩のみのり | 平成22年 11月 15日 | 第20027号 | うるち米 |
| 稲 | 彩のほほえみ | 平成22年 11月 15日 | 第20028号 | うるち米 |
| 稲 | 彩のきずな | 平成26年 3月 6日 | 第23136号 | うるち米 |
| 茶 | むさしかおり | 平成13年 10月 12日 | 第9306号 | |
| 茶 | さいのみどり | 平成18年 2月 27日 | 第13753号 | |
| 茶 | ゆめわかば | 平成20年 10月 16日 | 第17051号 | |
| 茶 | おくはるか | 平成27年 3月 11日 | 第23946号 | |
| シクラメン | 麗しの香り | 平成20年 3月 13日 | 第16571号 | |
| シクラメン | 孤高の香り | 平成20年 3月 13日 | 第16572号 | |
| シクラメン | 香りの舞い | 平成22年 3月 17日 | 第19382号 | |
| シクラメン | 天女の舞 | 平成28年 3月 1日 | 第24750号 | |
| 梨 | 彩玉(さいぎょく) | 平成17年 2月 7日 | 第12729号 | |
| はたけしめじ | 彩の子(さいのこ) | 平成17年 3月 14日 | 第12958号 | |

(2) 登録出願中

| | | | | |
|-------|---------|--------------|------|--|
| シクラメン | みやびの舞 | 平成26年 7月 14日 | 出願公表 | |
| シクラメン | 絹の舞 | 平成27年 9月 16日 | 出願公表 | |
| 稲 | むさしの26号 | 平成28年 6月 28日 | 出願公表 | |
| イチゴ | 埼園い1号 | 平成28年 8月 31日 | 出願公表 | |
| イチゴ | 埼園い3号 | 平成28年 8月 31日 | 出願公表 | |

(3) その他(県で育成した品種等)

| 種 類 | 品種等の名称 | 登録又は作出時期 | 登録番号・品種登録先 |
|------------|-----------|--------------|-----------------|
| コイ | ヒレナガニシキゴイ | 昭和57年 | |
| 金魚 | タンチョウコメット | 昭和56年 | |
| 鶏 | タマシャモ | 昭和59年 | |
| 豚(ランドレース種) | サキタマ | 昭和61年 4月 1日 | L6 (社)日本種豚登録協会 |
| 豚(ランドレース種) | ダイ2サキタマ | 平成 8年 7月 16日 | L28 (社)日本種豚登録協会 |
| 蚕 | いろどり | 平成 7年 4月 26日 | |

V 技術指導等

1 技術研修員の受け入れ

(1) 国外からの技術研修員の受け入れ

なし

(2) 国内からの技術研修員の受け入れ

| | |
|-----------|------------------------------------|
| 受入先 | 高度利用・生産性向上研究担当（高収益畑作研究、施設園芸先端技術研究） |
| 受入制度 | 平成28年度新任普及職員研修 |
| 受入期間 | 平成28年7月29日 |
| 研修員の所属・人数 | 新任普及職員ほか12名 |
| 受入先 | 各担当 |
| 受入制度 | 農業技術研究センター技術研修員受入制度 |
| 受入期間 | 平成28年8月22日～8月26日 |
| 研修員の所属・人数 | 女子栄養大学 6名 |
| 受入先 | 各担当 |
| 受入制度 | 県庁インターンシップ |
| 受入期間 | 平成28年9月5日～9月9日 |
| 研修員の所属・人数 | 東京農工大学、日本大学 計2名 |
| 受入先 | 高度利用・生産性向上研究担当（果樹研究） |
| 受入制度 | 埼玉県農業技術研究センター技術研修員受入要領 |
| 受入期間 | 平成28年9月9日、9月12～13日 |
| 研修員の所属・人数 | 羽生実業高等学校・3名 |
| 受入先 | 高度利用・生産性向上研究担当（果樹研究） |
| 受入制度 | 埼玉県農業技術研究センター技術研修員受入要領 |
| 受入期間 | 平成28年9月5日～9月16日 |
| 研修員の所属・人数 | 東洋大学1名 |
| 受入先 | 高度利用・生産性向上研究担当（高収益畑作研究） |
| 受入制度 | 平成28年度普及指導員研修（専門研修） |
| 受入期間 | 平成28年11月29、30日 |
| 研修員の所属・人数 | 県普及指導員8名 |
| 受入先 | 高度利用・生産性向上研究担当（高収益畑作研究） |
| 受入制度 | 中学校職場体験学習 |
| 受入期間 | 平成28年12月7～9日 |
| 研修員の所属・人数 | 深谷市立岡部中学校1名 |

2 研修会等の開催

生産環境・安全管理研究担当

環境安全研究

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 研修会等の名称 | 新任普及職員研修 |
| 主催者（担当） | 農業支援課 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 7 月 27 日 |
| 場所（参加者数） | 農技研本所（13 名） |
| 研修会等の名称 | 普及指導員研修専門研修（土壌肥料） |
| 主催者（担当） | 農業支援課 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 6 月 29、30 日、10 月 7 日 |
| 場所（参加者数） | 農技研本所（13 名） |
| 研修会等の名称 | 農林水産消費安全技術センター新人研修会 水田除草剤の利用について |
| 主催者（担当） | 農林水産消費安全技術センター |
| 開催年月日 | 平成 28 年 5 月 20 日 |
| 場所（参加者数） | 玉井試験場他（12 名） |
| 研修会等の名称 | 農林水産消費安全技術センター新人研修 果樹における SS の利用について |
| 主催者（担当） | 農林水産消費安全技術センター |
| 開催年月日 | 平成 28 年 10 月 4 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場、加須農林振興センター（11 名） |

病害虫防除技術研究

| | |
|----------|-------------------------------------|
| 研修会等の名称 | 普及指導員専門研修（病害虫） |
| 主催者（担当） | 農業支援課 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 7 月 18 日 |
| 場所（参加者数） | 農技研本所（13 名） |
| 研修会等の名称 | 新任普及職員研修 |
| 主催者（担当） | 農業支援課 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 7 月 28 日 |
| 場所（参加者数） | 農技研本所（13 名） |
| 研修会等の名称 | 平成 28 年度普及指導員新任者研修 |
| 主催者（担当） | 農業革新支援担当 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 8 月 2 日 |
| 場所（参加者数） | 玉井試験場（8 名） |
| 研修会等の名称 | JA 秩父いちご部会講習会（イチゴ栽培で発生する病害虫の生態と防除法） |
| 主催者（担当） | JA 秩父いちご部会 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 10 月 26 日 |
| 場所（参加者数） | 秩父農林振興センター（30 名） |

| | |
|----------|---|
| 研修会等の名称 | 普及指導員養成研修（近年問題となっている水稲・麦類の病害と防除研究の状況について） |
| 主催者（担当） | 農業支援課 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 12 月 9 日 |
| 場所（参加者数） | 農技研本所（10 名） |
| 研修会等の名称 | 産直センターいちご部会視察研修会（イチゴ苗の高濃度炭酸ガス処理） |
| 主催者（担当） | 産直センターいちご部会 |
| 開催年月日 | 平成 29 年 2 月 9 日 |
| 場所（参加者数） | 農業技術研究センター（20 名） |

品種開発・ブランド育成研究担当

水稲研究

| | |
|----------|--------------------|
| 研修会等の名称 | 平成 28 年度普及指導員新任者研修 |
| 主催者（担当） | 農業革新支援担当 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 8 月 2 日 |
| 場所（参加者数） | 玉井試験場（8 名） |
| 研修会等の名称 | 高温耐性育成系統立毛検討会 |
| 主催者（担当） | 水稲研究 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 9 月 7 日 |
| 場所（参加者数） | 玉井試験場（20 名） |
| 研修会等の名称 | 米の食味官能試験方法に関する研修会 |
| 主催者（担当） | うまい米づくり推進協議会、生産振興課 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 10 月 3 日 |
| 場所（参加人数） | 農林公園（30 名） |

野菜研究

| | |
|----------|-----------------------------|
| 研修会等の名称 | イチゴ新品種の開発説明会 |
| 主催者（担当） | 農業技術研究センター（品種開発・ブランド育成研究担当） |
| 開催年月日 | 平成 29 年 3 月 2 日 |
| 場所（参加者数） | 農業技術研究センター展示資料館会議室（17 名） |
| 研修会等の名称 | イチゴ新品種開発説明会 |
| 主催者（担当） | 農業技術研究センター（品種開発・ブランド育成研究担当） |
| 開催年月日 | 平成 29 年 3 月 7 日 |
| 場所（参加者数） | 農業技術研究センター展示資料館会議室（15 名） |

種畜生産研究

| | |
|---------|-----------------|
| 研修会等の名称 | 養鶏技術研修会 |
| 主催者（担当） | 彩の国地鶏タマシャモ普及協議会 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 6 月 7 日 |

| | |
|----------|------------------|
| 場所（参加者数） | 農業技術研究センター（18名） |
| 研修会等の名称 | 畜産環境基本技術研究会 |
| 主催者（担当） | 畜産安全課、農業技術研究センター |
| 開催年月日 | 平成28年10月21日 |
| 場所（参加者数） | 農業技術研究センター（25名） |
| 研修会等の名称 | 埼玉県粗飼料利用研究会現地検討会 |
| 主催者（担当） | 埼玉県粗飼料利用研究会 |
| 開催年月日 | 平成28年10月27日 |
| 場所（参加者数） | 熊谷市内ほ場（74名） |

高度利用・生産性向上研究担当

水田高度利用研究

| | |
|----------|------------------------|
| 研修会等の名称 | 平成28年度水稲高温対策研修会 |
| 主催者（担当） | 埼玉うまい米作り推進協議会 |
| 開催年月日 | 平成28年6月28日 |
| 場所（参加人数） | 熊谷県土整備事務所、玉井試験場（約100名） |
| 研修会等の名称 | 鴻荃環境保全ネットワーク視察研修会 |
| 主催者（担当） | 鴻荃環境保全ネットワーク |
| 開催年月日 | 平成28年11月16日 |
| 場所（参加者数） | 玉井試験場（15名） |
| 研修会等の名称 | 小川転作集団促進連絡協議会視察研修会 |
| 主催者（担当） | 小川町転作集団促進連絡協議会 |
| 開催年月日 | 平成29年2月17日 |
| 場所（参加者数） | 大里農林振興センター、玉井試験場（30名） |
| 研修会等の名称 | 小麦の施肥技術等について |
| 主催者（担当） | 三重県中央農業改良普及センター |
| 開催年月日 | 平成29年2月17日 |
| 場所（参加者数） | 玉井試験場（2名） |

高収益畑作研究

| | |
|----------|---------------------|
| 研修会等の名称 | 丸系八つ頭の栽培講習会 |
| 主催者（担当） | 農技研（高度利用・生産性向上研究） |
| 開催年月日 | 平成28年8月4日 |
| 場所（参加者数） | 農業大学校、本所ほ場（95名） |
| 研修会等の名称 | サトイモの試験研究に関する視察について |
| 主催者（担当） | 宮崎県総合農業試験場畑作園芸支場 |
| 開催年月日 | 平成28年10月4日 |
| 場所（参加者数） | 農技研ほ場（1名） |

施設園芸先端技術研究

研修会等の名称 平成 28 年度施設園芸先端技術研究成果説明会
 主催者（担当） 埼玉県野菜園芸技術研究会会員
 開催年月日 平成 28 年 12 月 2 日
 場所（参加者数） 農業技術研究センター(33 名)

研修会等の名称 埼玉県次世代施設園芸トマト研究会 産地交流会
 主催者（担当） 埼玉県次世代施設園芸トマト研究会員
 開催年月日 平成 29 年 2 月 8 日
 場所（参加者数） 農業技術研究センター(50 名)

果樹研究

研修会等の名称 ブドウ開花前の講習会
 主催者（担当） 埼玉県巨峰会
 開催年月日 平成 28 年 5 月 13 日
 場所（参加者数） 久喜試験場 ブドウほ場(26 名)

研修会等の名称 ナシジョイント仕立ての情報収集
 主催者（担当） 広島県立総合技術研究所農業技術センター(果樹研究部)
 開催年月日 平成 28 年 5 月 18 日
 場所（参加者数） 久喜試験場 果樹園(2 名)

研修会等の名称 視察研修会
 主催者（担当） 南信州農業協同組合(営農部果実課)
 開催年月日 平成 28 年 5 月 30 日
 場所（参加者数） 久喜試験場 ナシほ場(20 名)

研修会等の名称 「彩玉」の栽培技術研修会
 主催者（担当） 埼玉県果実連合会・生産振興課(生産振興課)
 開催年月日 平成 28 年 6 月 9 日
 場所（参加者数） 久喜試験場 研修室・ナシほ場(100 名)

研修会等の名称 摘果巡回指導会
 主催者（担当） 加須市園芸連梨部会
 開催年月日 平成 28 年 6 月 23 日
 場所（参加者数） 久喜試験場 ナシほ場(5 名)

研修会等の名称 視察研修会
 主催者（担当） 多摩湖果実生産組合連合会(東村山市民部産業振興課農産新興係)
 開催年月日 平成 28 年 7 月 5 日
 場所（参加者数） 久喜試験場 ナシほ場(30 名)

研修会等の名称 視察会
 主催者（担当） 船橋市果樹園芸組合(研究部)
 開催年月日 平成 28 年 7 月 7 日

| | |
|----------|----------------------------------|
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシほ場(15名) |
| 研修会等の名称 | 視察研修会 |
| 主催者（担当） | JA はぐくみはるな梨研究会（JA はぐくみ西部営農センター） |
| 開催年月日 | 平成 28 年 7 月 8 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシほ場(15名) |
| 研修会等の名称 | 視察研修 |
| 主催者（担当） | 金沢中央農協果樹部会 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 7 月 21 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシほ場(10名) |
| 研修会等の名称 | 平成 28 年度果樹共済担当者会議 |
| 主催者（担当） | 埼玉県農業共済組合連合会 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 7 月 21 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 研修室・果樹園(30名) |
| 研修会等の名称 | 視察研修 |
| 主催者（担当） | 入間市ふれあい朝市推進協議会 |
| 開催年月日 | 平成 28 年 8 月 30 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシほ場(30名) |
| 研修会等の名称 | 先進地視察研修 |
| 主催者（担当） | JA 伊万里梨部会ジョイント研究会(西松浦農業改良普及センター) |
| 開催年月日 | 平成 28 年 8 月 30 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシほ場(10名) |
| 研修会等の名称 | 梨先進地視察研修 |
| 主催者（担当） | 白井市梨業組合（JA 西印旛） |
| 開催年月日 | 平成 28 年 10 月 24 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシほ場(28名) |
| 研修会等の名称 | 梨先進地視察研修 |
| 主催者（担当） | 千葉県印旛農業事務所(改良普及課) |
| 開催年月日 | 平成 28 年 11 月 1 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシジョイントほ場(16名) |
| 研修会等の名称 | 視察研修 |
| 主催者（担当） | JA はが野梨部会真岡支部（JA はが野真岡流通センター） |
| 開催年月日 | 平成 28 年 12 月 5 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシほ場(11名) |
| 研修会等の名称 | 「彩玉」の栽培技術研修会 |
| 主催者（担当） | 埼玉県果実連合会・生産振興課(生産振興課) |
| 開催年月日 | 平成 28 年 12 月 15 日 |

| | |
|----------|-----------------------|
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシほ場(100名) |
| 研修会等の名称 | 視察研修会 |
| 主催者（担当） | 富士見梨出荷組合（JA いるま野南畑支店） |
| 開催年月日 | 平成 29 年 2 月 21 日 |
| 場所（参加者数） | 久喜試験場 ナシほ場(20名) |

3 派遣指導

(1) 県内への派遣指導

生産環境・安全管理研究担当

環境安全研究

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 派遣先 | 農業大学校 |
| 指導内容 | 平成 28 年度農産物安全に係る講義（農作物生産における硝酸塩の影響） |
| 派遣期間 | 平成 28 年 10 月 6 日 |
| 研修等の主催者 | 農業大学校 |
| 指導対象人数 | 農業大学校学生 80 名 |
| 派遣先 | 平成 28 年度関東・東北支部土づくり研究会 |
| 指導内容 | 野菜畑における塩基バランスの崩れの実態と対策 |
| 派遣期間 | 平成 28 年 11 月 18 日 |
| 研修等の主催者 | 全農肥料農薬部 |
| 指導対象人数 | 関係機関 150 名 |
| 派遣先 | 農業大学校 |
| 指導内容 | 平成 28 年度農産物安全に係る講義（農業分野における重金属問題） |
| 派遣期間 | 平成 28 年 11 月 24 日 |
| 研修等の主催者 | 農業大学校 |
| 指導対象人数 | 農業大学校学生 80 名 |
| 派遣先 | 農業大学校 |
| 指導内容 | 平成 28 年度農産物安全に係る講義（持続的な農地の利用） |
| 派遣期間 | 平成 29 年 1 月 12 日 |
| 研修等の主催者 | 農業大学校 |
| 指導対象人数 | 農業大学校学生 80 名 |
| 派遣先 | 農業大学校 |
| 指導内容 | 平成 28 年度農産物安全に係る講義（農産物生産のリスク低減） |
| 派遣期間 | 平成 29 年 1 月 17 日 |
| 研修等の主催者 | 農業大学校 |
| 指導対象人数 | 農業大学校学生 80 名 |

病虫害防除技術研究

| | |
|---------|---------------------|
| 派遣先 | 農業大学校 |
| 指導内容 | IPM における化学農薬の利用について |
| 派遣期間 | 平成 28 年 10 月 20 日 |
| 研修等の主催者 | 農業大学校 |
| 指導対象人数 | 30 名 |
| 派遣先 | 埼玉産直センター（深谷市） |
| 指導内容 | トマトかいよう病の防除対策について |
| 派遣期間 | 平成 28 年 12 月 21 日 |

| | |
|----------------|--------------------------------|
| 研修等の主催者 | (農) 埼玉産直センター |
| 指導対象人数 | 組員約 50 名、農林振興センター職員 3 名 |
| 鳥獣害防除研究 | |
| 派遣先 | あけぼのビル |
| 指導内容 | 埼玉県鳥獣害対策指導者養成研修会「第 1 回」(講義) |
| 派遣期間 | 平成 28 年 5 月 19 日 |
| 研修等の主催者 | 農業支援課 |
| 指導対象人数 | H28 年度受講者 30 名 |
| 派遣先 | 農業技術研究センター |
| 指導内容 | 埼玉県鳥獣害対策指導者養成研修会「第 2 回」(講義・実習) |
| 派遣期間 | 平成 28 年 5 月 26 日 |
| 研修等の主催者 | 農業支援課 |
| 指導対象人数 | H28 年度受講者 30 名 |
| 派遣先 | 越谷環境管理事務所 |
| 指導内容 | アライグマ捕獲従事者養成研修会 |
| 派遣期間 | 平成 28 年 6 月 9 日 |
| 研修等の主催者 | 越谷環境管理事務所 |
| 指導対象人数 | 市町村、農協、一般 50 名 |
| 派遣先 | 農業技術研究センター |
| 指導内容 | 埼玉県鳥獣害対策指導者養成研修会「第 3 回」(講義・実習) |
| 派遣期間 | 平成 28 年 7 月 14 日 |
| 研修等の主催者 | 農業支援課 |
| 指導対象人数 | H28 年度受講者 30 名 |
| 派遣先 | 農業技術研究センター |
| 指導内容 | 埼玉県鳥獣害対策指導者養成研修会「第 4 回」(講義・実習) |
| 派遣期間 | 平成 28 年 7 月 21 日 |
| 研修等の主催者 | 農業支援課 |
| 指導対象人数 | H28 年度受講者 30 名 |
| 派遣先 | ときがわ町役場 |
| 指導内容 | アライグマ捕獲従事者養成研修会 |
| 派遣期間 | 平成 28 年 7 月 27 日 |
| 研修等の主催者 | ときがわ町 |
| 指導対象人数 | 一般、50 名 |
| 派遣先 | 飯能市役所 |
| 指導内容 | アライグマ防除従事者養成研修会 (講義・実習) |
| 派遣期間 | 平成 28 年 8 月 26 日 |
| 研修等の主催者 | 飯能市 |
| 指導対象人数 | 受講者 50 名 |

| | |
|---------|---------------------------|
| 派遣先 | いるま野農協福原支店 |
| 指導内容 | アライグマ防除従事者養成研修会（講義） |
| 派遣期間 | 平成28年9月27日 |
| 研修等の主催者 | 川越市 |
| 指導対象人数 | 組合員 50名 |
| 派遣先 | 東松山きらめき大学 |
| 指導内容 | ハクビシン、アライグマの現状と対策について（講義） |
| 派遣期間 | 平成28年9月28日 |
| 研修等の主催者 | 東松山きらめき大学 |
| 指導対象人数 | 学生 100名 |
| 派遣先 | 園芸研究所 |
| 指導内容 | アライグマ捕獲従事者養成研修会 |
| 派遣期間 | 平成28年10月6日 |
| 研修等の主催者 | 東部環境管理事務所 |
| 指導対象人数 | 市町職員、農協、共済、一般 50名 |

品種開発・ブランド育成研究担当

遺伝子活用研究

| | |
|---------|----------------------|
| 派遣先 | 農業技術研究センター |
| 指導内容 | 普及指導員研修（生産安定技術研修・作物） |
| 派遣期間 | 平成28年12月9日 |
| 研修等の主催者 | 農業革新支援担当 |
| 指導対象人数 | 15名 |

水稲研究

| | |
|---------|-------------------------------|
| 派遣先 | 福寿家（四市町農政研究会合同研修会） |
| 指導内容 | 埼玉県における水稲の品種改良 |
| 派遣期間 | 平成28年10月12日 |
| 研修等の主催者 | 三郷市農業委員会 |
| 指導対象人数 | 80名 |
| 派遣先 | 農業大学校 |
| 指導内容 | 農業大学校専門科目における講義（作物育種） |
| 派遣期間 | 平成28年12月1日 |
| 研修等の主催者 | 農業大学校 |
| 指導対象人数 | 50名 |
| 派遣先 | 日東富士製粉（株）東京工場（主要農作物種子採種事業研修会） |
| 指導内容 | 種子の安定確保対策について |
| 派遣期間 | 平成29年2月8日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県米麦改良協会 |
| 指導対象人数 | 40名 |

野菜研究

| | |
|---------|-----------------------------|
| 派遣先 | 熊谷文化創造館 さくらめいと |
| 指導内容 | ‘埼玉い1号’ ‘埼玉い3号’ の品種登録について |
| 派遣期間 | 平成28年8月8日 |
| 研修等の主催者 | 養液いちご研究会 |
| 指導対象人数 | 70人 |
| 派遣先 | 秩父農林振興センター |
| 指導内容 | イチゴ新品種 ‘埼玉い1号’ ‘埼玉い3号’ について |
| 派遣期間 | 平成28年10月26日 |
| 研修等の主催者 | J A ちちぶ いちご部会 |
| 指導対象人数 | 20人 |
| 派遣先 | 農業技術研究センター |
| 指導内容 | イチゴ新品種について、複合環境制御装置について |
| 派遣期間 | 平成28年11月28日 |
| 研修等の主催者 | 養液いちご研究会 |
| 指導対象人数 | 50人 |
| 派遣先 | 農業大学校 |
| 指導内容 | 埼玉県におけるイチゴの育種について |
| 派遣期間 | 平成29年1月26日 |
| 研修等の主催者 | 農業大学校 |
| 指導対象人数 | 40人 |
| 派遣先 | さいたま農林振興センター管内イチゴ生産ほ場 |
| 指導内容 | イチゴ栽培について |
| 派遣期間 | 平成29年2月8日 |
| 研修等の主催者 | さいたま市イチゴ生産組合 |
| 指導対象人数 | 10人 |
| 派遣先 | 農業技術研究センター |
| 指導内容 | イチゴ新品種 ‘埼玉い1号’ ‘埼玉い3号’ について |
| 派遣期間 | 平成29年2月9日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉産直センターいちご部会 |
| 指導対象人数 | 20人 |
| 派遣先 | 秩父農林振興センター管内イチゴ生産ほ場 |
| 指導内容 | イチゴ圃場共進会審査員 |
| 派遣期間 | 平成29年3月14日 |
| 研修等の主催者 | J A ちちぶ いちご部会 |
| 指導対象人数 | 20人 |

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

秩父農林振興センター
‘埼玉い3号’の葉数・株間と収量の関係性について
平成29年3月21日
JAちちぶ いちご部会
20人

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

農業技術研究センター
埼玉県におけるイチゴの育種について
平成29年3月22日
埼玉栄東中学校
6人

種畜生産研究

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

農業技術研究センター
豚人工授精講習会
平成28年8月19日
養豚経営研究グループ
10名

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

総合教育センター江南支所、農業大学校
家畜審査競技会
平成28年7月26日
高校農業クラブ
110名

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

農業技術研究センター
家畜商講習会
平成28年9月7日
畜産安全課
10名

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

ホテルガーデンパレス
最新の豚凍結精液に関する研究
平成28年10月7日
埼玉県養豚協会
70名

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

埼玉県乳牛共進会
審査員
平成28年10月25日
埼玉県畜産会
60名

派遣先
指導内容

寄居町乳牛共励会
審査員

| | |
|---------|----------------------|
| 派遣期間 | 平成28年10月31日 |
| 研修等の主催者 | 寄居町 |
| 指導対象人数 | 10人 |
| 派遣先 | JAひびきの 上里カントリー |
| 指導内容 | 生産安定技術研修 籾米サイレージ調製技術 |
| 派遣期間 | 平成28年12月2日 |
| 研修等の主催者 | 農業革新支援担当 |
| 指導対象人数 | 普及員 20名 |

高度利用・生産性向上研究担当

水田高度利用研究

| | |
|---------|------------------------------------|
| 派遣先 | 全農埼玉県本部高砂ビル（平成28年産ビール大麦取扱対策会議） |
| 指導内容 | ビール大麦収穫までの技術対策 |
| 派遣期間 | 平成28年4月28日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県米麦改良協会・全農埼玉県本部 |
| 指導対象人数 | 22名 |
| 派遣先 | 白岡市、加須市、行田市、熊谷市、本庄市 |
| 指導内容 | ビール大麦穂揃期作況調査 |
| 派遣期間 | 平成28年5月10日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県米麦改良協会 |
| 指導対象人数 | 10名 |
| 派遣先 | 熊谷市、深谷市 |
| 指導内容 | 平成28年産麦類及びスウィートコーン作柄巡回調査 |
| 派遣期間 | 平成28年6月3日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県農業共済組合連合会 |
| 指導対象人数 | 17名 |
| 派遣先 | めぬま農業研修センター |
| 指導内容 | 水稻高温障害対策について |
| 派遣期間 | 平成28年7月19日 |
| 研修等の主催者 | 熊谷市農業経営者協議会 |
| 指導対象人数 | 40名 |
| 派遣先 | JAほくさい本店 |
| 指導内容 | 水稻高温対策の現状について |
| 派遣期間 | 平成28年8月4日 |
| 研修等の主催者 | ほくさい地区農業機械化経営者協議会 |
| 指導対象人数 | 30名 |
| 派遣先 | くまがや農協西部営農経済センター（平成28年産ビール大麦結果検討会） |
| 指導内容 | 平成28年産麦類の作柄概況について |

| | |
|---------|--------------------|
| 派遣期間 | 平成28年8月31日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県米麦改良協会・全農埼玉県本部 |
| 指導対象人数 | 25名 |
| 派遣先 | 熊谷市、行田市 |
| 指導内容 | 平成28年産水稻及び大豆作柄巡回調査 |
| 派遣期間 | 平成28年9月21日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県農業共済組合連合会 |
| 指導対象人数 | 18名 |
| 派遣先 | 埼玉県農業共済会館 |
| 指導内容 | 水稻の高温対策について |
| 派遣期間 | 平成29年1月26日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県農業共済組合連合会 |
| 指導対象人数 | 40名 |

施設園芸先端技術研究チーム

| | |
|---------|--|
| 派遣先 | 羽生市天治 |
| 指導内容 | 半促成きゅうり立毛共進審査会 |
| 派遣期間 | 平成28年4月11日 |
| 研修等の主催者 | 北埼玉地区野菜一元共販連絡協議会 |
| 指導対象人数 | 10名 |
| 派遣先 | 埼玉県種苗センター |
| 指導内容 | 植物体情報に基づく環境制御の研究状況について、他(第40回施設野菜立毛共進会成果発表会) |
| 派遣期間 | 平成28年8月4日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県野菜園芸技術研究会 |
| 指導対象人数 | 46名 |
| 派遣先 | 次世代施設園芸埼玉拠点見学会(久喜試験場) |
| 指導内容 | 県試験研究機関の取り組みについて |
| 派遣期間 | 平成28年8月10日 |
| 研修等の主催者 | 生産振興課 |
| 指導対象人数 | 100名 |
| 派遣先 | 早稲田リサーチパーク・コミュニケーション |
| 指導内容 | 環境制御DIYセミナー |
| 派遣期間 | 平成28年8月31日 |
| 研修等の主催者 | (公財)本庄早稲田リサーチパーク |
| 指導対象人数 | 100名 |

| | |
|---------|-----------------------------|
| 派遣先 | 埼玉ひびきの農協本庄営農経済センター |
| 指導内容 | きゅうり環境制御技術導入に係る現地検討会 |
| 派遣期間 | 平成28年9月21日 |
| 研修等の主催者 | 本庄農林振興センター |
| 指導対象人数 | 10名 |
| 派遣先 | 見沼グリーンセンター |
| 指導内容 | 切り花の日持ち向上について |
| 派遣期間 | 平成28年10月11日 |
| 研修等の主催者 | さいたま市花き園芸組合研修会 |
| 指導対象人数 | 20名 |
| 派遣先 | 埼玉ひびきの農協本庄営農経済センター |
| 指導内容 | きゅうり環境制御技術導入に係る現地検討会 |
| 派遣期間 | 平成28年10月25日 |
| 研修等の主催者 | 本庄農林振興センター |
| 指導対象人数 | 10名 |
| 派遣先 | 埼玉グランドホテル深谷 |
| 指導内容 | 花き高品質生産への試験課題と現地事例 |
| 派遣期間 | 平成28年11月4日、5日 |
| 研修等の主催者 | 第24回関東ブロック花き担当普及職員研究会 |
| 指導対象人数 | 54名 |
| 派遣先 | 八木橋百貨店 |
| 指導内容 | 第33回さいたま花の祭典品評会審査 |
| 派遣期間 | 平成28年11月10日 |
| 研修等の主催者 | さいたまの花普及促進協議会 |
| 指導対象人数 | 40名 |
| 派遣先 | 埼玉ひびきの農協本庄営農経済センター |
| 指導内容 | きゅうり環境制御技術導入に係る現地検討会 |
| 派遣期間 | 平成28年11月22日 |
| 研修等の主催者 | 本庄農林振興センター |
| 指導対象人数 | 10名 |
| 派遣先 | 加須市ほか県内現地ほ場 |
| 指導内容 | 第41回施設野菜立毛共進会本審査会（越冬きゅうり）審査 |
| 派遣期間 | 平成28年12月6日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県野菜園芸技術研究会 |
| 指導対象人数 | 10名 |
| 派遣先 | 鴻巣花き株式会社 |

| | |
|---------|-----------------------------|
| 指導内容 | 平成28年度冬季品評会 |
| 派遣期間 | 平成28年12月6日 |
| 研修等の主催者 | 鴻巣花き株式会社ほか |
| 指導対象人数 | 30名 |
| 派遣先 | 鴻巣花き株式会社 |
| 指導内容 | 平成28年度シクラメン研究会共進会審査 |
| 派遣期間 | 平成28年12月13日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県シクラメン研究会 |
| 指導対象人数 | 31名 |
| 派遣先 | ホテルガーデンパレス熊谷 |
| 指導内容 | 鴻巣花き平成28年度冬季品評会 表彰式 |
| 派遣期間 | 平成29年1月26日 |
| 研修等の主催者 | 鴻巣花き株式会社ほか |
| 指導対象人数 | 99名 |
| 派遣先 | 加須市ほか県内現地ほ場 |
| 指導内容 | 第41回施設野菜立毛共進会本審査会（促成きゅうり）審査 |
| 派遣期間 | 平成29年2月24日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県野菜園芸技術研究会 |
| 指導対象人数 | 10名 |
| 派遣先 | 種苗センター |
| 指導内容 | 芳香シクラメンの栽培管理について |
| 派遣期間 | 平成29年2月28日 |
| 研修等の主催者 | 種苗センター |
| 指導対象人数 | 10名 |
| 派遣先 | 熊谷市ほか県内現地巡回 |
| 指導内容 | 第41回施設野菜立毛共進会本審査会（促成トマト）審査 |
| 派遣期間 | 平成29年3月3日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県野菜園芸技術研究会 |
| 指導対象人数 | 10名 |
| 派遣先 | イトーヨーカドーアリオ深谷店 |
| 指導内容 | 第47回深谷市花の展覧会審査 |
| 派遣期間 | 平成29年3月5日 |
| 研修等の主催者 | 深谷市花き生産組合連合会 |
| 指導対象人数 | 40名 |

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

埼玉ひびきの農協本庄営農経済センター
きゅうり環境制御技術導入に係る現地検討会
平成29年3月7日
本庄農林振興センター
10名

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

種足野菜出荷所
茄子現地検討会
平成29年3月21日
加須市騎西園芸組合
20名

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

鴻巣花き株式会社
平成28年度春季品評会
平成29年3月28日
鴻巣花き株式会社
30名

果樹研究チーム

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

種苗センター
彩玉苗の接ぎ木作業に伴う技術指導
平成28年4月26日
種苗センター
8名

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

種苗センター
彩玉苗の誘引作業に伴う技術指導
平成28年6月21日
種苗センター
8名

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

種苗センター
ナシの主な害虫について
平成28年6月27日
埼玉県果実連合会
40名

派遣先
指導内容
派遣期間
研修等の主催者
指導対象人数

東松山市等
平成28年産果樹作柄等巡回調査
平成28年7月26日
埼玉県農業共済組合連合会
15人

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 派遣先 | 秩父市 |
| 指導内容 | おいしいぶどう品評会 審査 |
| 派遣期間 | 平成28年9月13日 |
| 研修等の主催者 | 秩父ぶどう組合連絡協議会 |
| 指導対象人数 | 50人 |
| 派遣先 | 種苗センター |
| 指導内容 | 彩玉苗の掘取り、選別作業に伴う技術指導 |
| 派遣期間 | 平成28年11月14日～16日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県種苗センター |
| 指導対象人数 | 8名 |
| 派遣先 | 川本ぶどう園 |
| 指導内容 | ブドウ冬季剪定講習 |
| 派遣期間 | 平成28年12月9日 |
| 研修等の主催者 | 埼玉県巨峰会 |
| 指導対象人数 | 28人 |
| 派遣先 | 秩父農林振興センター大会議室 |
| 指導内容 | 第1回ちちぶ山ルビー品評会・平成28年度おいしいぶどう品評会表彰式 |
| 派遣期間 | 平成29年2月23日 |
| 研修等の主催者 | 秩父ぶどう組合連絡協議会 |
| 指導対象人数 | 20人 |

(2) 県外への派遣指導

生産環境・安全管理研究担当

病害虫防除技術研究

| | |
|---------|-----------------------|
| 派遣先 | 東京農工大学小金井キャンパス |
| 指導内容 | 技術士試験対策セミナー |
| 派遣期間 | 平成29年3月29日 |
| 研修等の主催者 | 日本応用動物昆虫学会・技術士育成推進委員会 |
| 指導対象人数 | 関連学会員40名 |

高度利用・生産性向上研究担当

施設園芸先端技術研究

| | |
|---------|----------------------------------|
| 派遣先 | 愛知豊明花き地方卸売市場 |
| 指導内容 | 2016ポットプランツコンテスト春の部 審査 |
| 派遣期間 | 平成28年4月5日～4月6日 |
| 研修等の主催者 | 東海地域花き普及・振興協議会、愛知豊明鉢物流通改善協議会 |
| 指導対象人数 | 400名 |
| 派遣先 | 東京都農林総合研究センター |
| 指導内容 | 第62回全日本花卉品種審査会ペチュニア(春出しポット栽培) 審査 |

| | |
|---------|--------------------------------|
| 派遣期間 | 平成28年4月14日 |
| 研修等の主催者 | (一社)日本種苗協会 |
| 指導対象人数 | 15名 |
| 派遣先 | 東京都農林総合研究センター |
| 指導内容 | 夏花壇に向く花きについて 他 |
| 派遣期間 | 平成28年7月14日 |
| 研修等の主催者 | 千葉県鉢花生産者連絡協議会 |
| 指導対象人数 | 30名 |
| 派遣先 | 千葉県農林総合研究センター |
| 指導内容 | 第62回全日本花卉品種審査会ペチュニア(初夏花壇) 審査 |
| 派遣期間 | 平成28年7月15日 |
| 研修等の主催者 | (一社)日本種苗協会 |
| 指導対象人数 | 20名 |
| 派遣先 | 群馬県農業技術センター |
| 指導内容 | 第62回全日本花卉品種審査会パンジー・ビオラ(冬花壇) 審査 |
| 派遣期間 | 平成28年12月13日 |
| 研修等の主催者 | (一社)日本種苗協会 |
| 指導対象人数 | 20名 |
| 派遣先 | ポートプラザちば |
| 指導内容 | 夏花壇に向く花きと今後の展望について |
| 派遣期間 | 平成29年3月2日 |
| 研修等の主催者 | 千葉県鉢花生産者連絡協議会 |
| 指導対象人数 | 50名 |
| 派遣先 | 神奈川県農業技術センター |
| 指導内容 | 第63回全日本花卉品種審査会パンジー・ビオラ(春花壇) 審査 |
| 派遣期間 | 平成29年3月15日 |
| 研修等の主催者 | (一社)日本種苗協会 |
| 指導対象人数 | 20名 |

(3) 海外への派遣指導

高度利用・生産性向上研究担当

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 派遣先 | カリフォルニア州「SRIインターナショナル」研修施設 |
| 指導内容 | 革新的技術実証研究事業「植物体の振動センシングによる熟練技能の可視化」 |
| 派遣期間 | 平成28年8月1日～12日 |
| 研修等の主催者 | SRIイノベーション創出実践プログラム |
| 指導対象人数 | 15名 |

4 機関の公開・普及啓発

(1) 機関の公開

なし

(2) 普及啓発

| 行 事 | 参加者数 |
|-----------------------|------|
| ① 体験学習（高校生、大学生等の研修受入） | 8 名 |
| 計 | 8 名 |

(3) イベント等への出展

| 行 事 | 出 展 内 容 |
|---|--|
| 彩の国食と農林業の祭典「ドリームフェスタ」 （平成 28 年 11 月 19 日～20 日・於：しらこぼと水上公園 主催：2016 彩の国食と農林業の祭典実行委員会） | 農技研の試験研究成果のパネル展示 （イチゴ新品種、小麦新品種「さとのそら」、 水稲高温対策、ユリの香り抑制、鳥獣害対策等） 試食とアンケート（梨：彩玉） 展示（施肥ソフト、水稲玄米標本、ユリ 香り抑制切り花、電気柵モデル等） クイズ（景品：手作り押し花しおり） |

VI 研究員の研修等

1 研究員の派遣研修

生産環境・安全管理研究担当

| | |
|-----------|-------------------------|
| 研修目的又は課題 | 数理統計研修（基礎編） |
| 派遣先 | 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 |
| 受入制度 | 短期集合研修 |
| 派遣期間 | 平成28年11月7日～11日 |
| 研究員の所属・氏名 | 病害虫防除技術研究 岩瀬亮三郎 |

品種開発・ブランド育成研究担当

| | |
|-----------|-------------------------|
| 研修目的又は課題 | 肉用牛ゲノミック評価の活用に関する情報交換会 |
| 派遣先 | 一般社団法人家畜改良事業団 家畜改良技術研究所 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成28年8月4日～5日 |
| 研究員の所属・氏名 | 遺伝子情報活用研究 福田昌治 |

| | |
|-----------|------------------------|
| 研修目的又は課題 | 彩の国地鶏タマシヤモのゲノム育種 |
| 派遣先 | 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門 |
| 受入制度 | 農業・食品産業技術総合研究機構 技術講習制度 |
| 派遣期間 | 平成28年11月28日～12月2日 |
| 研究員の所属・氏名 | 遺伝子情報活用研究 福田昌治 |

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 研修目的又は課題 | 感染症の撲滅と制御 |
| 派遣先 | 明治ホールディングス(株)本社ビル |
| 受入制度 | 日本豚病研修会・日本豚病臨床研究会・日本養豚開業獣医師協会合同集会 |
| 派遣期間 | 平成28年10月14日 |
| 研究員の所属・氏名 | 種畜生産研究 瀧沢慶太 |

高度利用・生産性向上研究担当

| | |
|-----------|--------------------------|
| 研修目的又は課題 | 低コスト・省力化のための大規模水田営農技術の習得 |
| 派遣先 | 農林水産省農林水産研修所 |
| 受入制度 | 新技術農業機械化推進研修 |
| 派遣期間 | 平成28年6月23日～24日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 石井博和 |

| | |
|-----------|---------------------|
| 研修目的又は課題 | 加工・業務用国産野菜の利用拡大セミナー |
| 派遣先 | 三田共用会議所講堂 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成28年7月21日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 内藤健二 |

| | |
|----------|------------------------------|
| 研修目的又は課題 | 耕地雑草の防除技術と雑草の同定技術の習得 |
| 派遣先 | 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター |
| 受入制度 | 耕地雑草の防除技術開発に関する研修 |

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 派遣期間 | 平成28年8月29日～30日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 志保田尚哉 |
| 研修目的又は課題 | 農業・食品産業に関する新技術と商業利用に関する知識の習得 |
| 派遣先 | 幕張メッセ |
| 受入制度 | 第6回農業ワールド |
| 派遣期間 | 平成29年10月14日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 志保田尚哉 |
| 研修目的又は課題 | 米の食味官能試験方法に関する研修会 |
| 派遣先 | 農林公園 |
| 受入制度 | 埼玉うまい米づくり推進協議会 |
| 派遣期間 | 平成28年10月3日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 内藤健二 |
| 研修目的又は課題 | 「生産システム」現地検討会 |
| 派遣先 | 千葉県横芝光町文化会館 |
| 受入制度 | 戦略的イノベーション創造プログラム次世代農林水産業創造技術 |
| 派遣期間 | 平成28年10月26日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 石井博和 |
| 研修目的又は課題 | 粗飼料の加工技術と利用に関する知識の習得 |
| 派遣先 | 熊谷市江南総合文化会館 |
| 受入制度 | 埼玉県粗飼料利用研究会現地検討会及び講演会 |
| 派遣期間 | 平成28年10月27日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 石井博和、志保田尚哉 |
| 研修目的又は課題 | 新しい農業機械の利用方法と農作業安全についての知識の習得 |
| 派遣先 | 農林公園 |
| 受入制度 | 農業機械実演展示会 |
| 派遣期間 | 平成29年12月1日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 志保田尚哉 |
| 研修目的又は課題 | 大規模水田農業における最新技術の習得 |
| 派遣先 | 東京大学 弥生講堂 |
| 受入制度 | 農研機構シンポジウム |
| 派遣期間 | 平成28年12月6日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 内藤健二 |
| 研修目的又は課題 | 雑草イネ・漏生イネ防除研究の現状と課題 |
| 派遣先 | 浅草ビューホテル |
| 受入制度 | 農食事業28020C研究会 |
| 派遣期間 | 平成28年12月14日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 志保田尚哉 |
| 研修目的又は課題 | 農作物種子の安定確保対策技術の習得 |
| 派遣先 | 日東富士製粉株式会社東京工場 |

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 受 入 制 度 | 主要農作物種子採種事業研修会 |
| 派 遣 期 間 | 平成 29 年 2 月 8 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 内藤健二 |
| 研修目的又は課題 | 食味の概要と埼玉県産米の評価について |
| 派 遣 先 | プリムローズ有明 |
| 受 入 制 度 | 埼玉県うまい米づくり推進協議会 |
| 派 遣 期 間 | 平成 29 年 2 月 21 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 石井博和、志保田尚哉 |
| 研修目的又は課題 | 水稲の「密苗」移植栽培技術の開発・普及状況について |
| 派 遣 先 | メルパルク東京 |
| 受 入 制 度 | 平成 28 年度新稲作研究会委託試験・現地実証展示圃成績検討会 |
| 派 遣 期 間 | 平成 29 年 3 月 2 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 志保田尚哉 |
| 研修目的又は課題 | 精密農業・自動化ハイテク技術の習得 |
| 派 遣 先 | 農林水産省農林水産研修所 |
| 受 入 制 度 | 新技術農業機械化推進研修 |
| 派 遣 期 間 | 平成 29 年 3 月 14 日～15 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 石井博和 |
| 研修目的又は課題 | 新しく開発された農業機械についての知識の習得 |
| 派 遣 先 | 農業・食品産業技術総合研究機構 農業技術革新工学研究センター |
| 受 入 制 度 | 農業機械等緊急開発事業開発機公開行事 |
| 派 遣 期 間 | 平成 29 年 3 月 23 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 志保田尚哉 |
| 研修目的又は課題 | 大規模水田作経営に向けた研究開発等についての知識の習得 |
| 派 遣 先 | 東京大学弥生講堂、農学部 |
| 受 入 制 度 | 日本作物学会第 243 回講演会、シンポジウム |
| 派 遣 期 間 | 平成 29 年 3 月 29 日、30 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 水田高度利用研究 志保田尚哉 |
| 研修目的又は課題 | 野菜フィールドデイ新枝豆発表会 |
| 派 遣 先 | 雪印種苗(株)千葉研究農場 |
| 受 入 制 度 | なし |
| 派 遣 期 間 | 平成 28 年 7 月 7 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 高収益畑作研究 加藤剛、道祖土博一 |
| 研修目的又は課題 | 第 1 回生物防除協議会シンポジウム |
| 派 遣 先 | 江戸東京博物館ホール |
| 受 入 制 度 | なし |
| 派 遣 期 間 | 平成 29 年 2 月 28 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 高収益畑作研究 加藤剛 |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 研修目的又は課題 | 野菜振興セミナー |
| 派遣先 | さいたま新都心合同庁舎 2 号館 共用大研修室 5 A |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 29 年 3 月 14 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 高収益畑作研究 印南ゆかり |
| 研修目的又は課題 | 施設野菜における土壌還元消毒技術ほか |
| 派遣先 | (公) 園芸植物育種研究所 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 28 年 6 月 17 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 斉藤健太郎 |
| 研修目的又は課題 | スマート農業推進フォーラム |
| 派遣先 | 東京大学 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 28 年 7 月 26 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 斉藤健太郎 |
| 研修目的又は課題 | 平成 28 年度花き研究シンポジウム |
| 派遣先 | つくば国際会議場 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 28 年 10 月 24 日～25 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 佐藤加奈巳 |
| 研修目的又は課題 | AKG/MLAB リサーチフォーラム |
| 派遣先 | 東京大学 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 28 年 11 月 28 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 塚澤和憲、中畝 誠 |
| 研修目的又は課題 | C L A セミナー |
| 派遣先 | (一社) ランドスケープコンサルタンツ協会会議室 |
| 受入制度 | 造園 CPD プログラム |
| 派遣期間 | 平成 29 年 1 月 19 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 佐藤加奈巳 |
| 研修目的又は課題 | 低段密植セミナー |
| 派遣先 | 久喜試験場 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 29 年 2 月 3 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 塚澤和憲、齋藤健太郎 |
| 研修目的又は課題 | 次世代施設園芸埼玉拠点 見学会 |
| 派遣先 | 次世代施設園芸埼玉拠点 |
| 受入制度 | 次世代施設園芸導入加速化支援事業 |
| 派遣期間 | 平成 29 年 3 月 3 日 |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 佐藤加奈巳、齋藤健太郎、小林昌永 |
| 研修目的又は課題 | 革新工学センター研究報告会・全体会議 |
| 派遣先 | 大宮ソニック |
| 受入制度 | 革新工学センター研究報告会 |
| 派遣期間 | 平成 29 年 3 月 9 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 齋藤健太郎 |
| 研修目的又は課題 | 革新工学センター研究報告会・園芸分科会 |
| 派遣先 | 革新工学センター |
| 受入制度 | 革新工学センター研究報告会 |
| 派遣期間 | 平成 29 年 3 月 10 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 小林昌永 |
| 研修目的又は課題 | 野菜振興セミナー |
| 派遣先 | さいたま新都心合同庁舎 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 29 年 3 月 14 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 塚澤和憲 |
| 研修目的又は課題 | EOD 反応を活用した花きの省エネルギー生産技術 |
| 派遣先 | JACK 大宮 |
| 受入制度 | 埼玉県シクラメン研究会総会 |
| 派遣期間 | 平成 29 年 3 月 7 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 施設園芸先端技術研究 佐藤加奈巳 |
| 研修目的又は課題 | 平成 28 年度果樹研究セミナー |
| 派遣先 | 栃木県農業試験場 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 28 年 7 月 26 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 果樹研究 塚田茜 |
| 研修目的又は課題 | 第 21 回農林害虫防除研究会・山梨大会 |
| 派遣先 | ベルクラシック甲府 |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 28 年 9 月 8 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 果樹研究 浅野亘 |
| 研修目的又は課題 | 平成 28 年度「土づくり研究会」 |
| 派遣先 | コープビル |
| 受入制度 | なし |
| 派遣期間 | 平成 28 年 11 月 18 日 |
| 研究員の所属・氏名 | 果樹研究 前島秀明 |

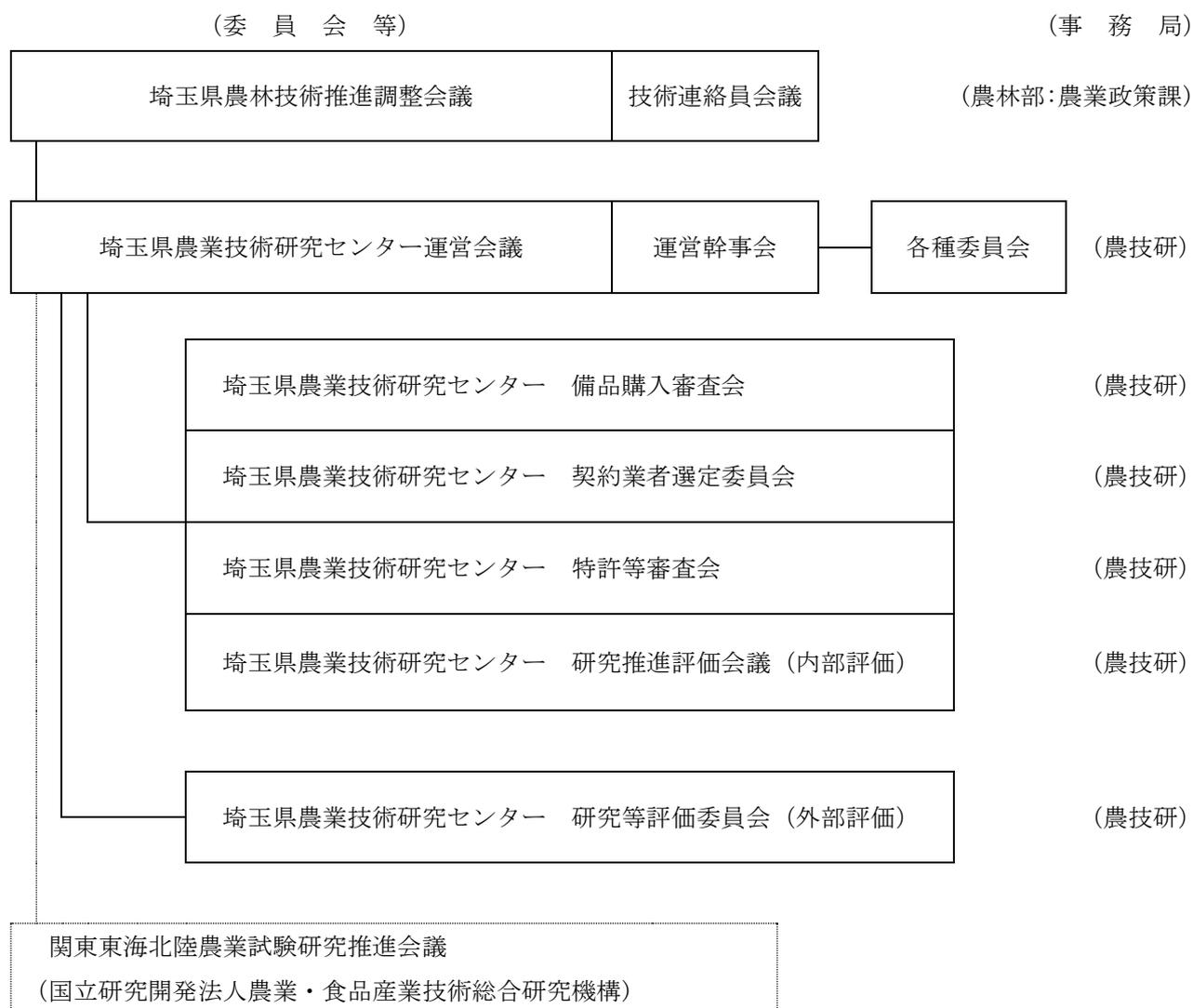
2 客員研究員の招へいによる研修会の開催

なし

Ⅶ 運営会議・委員会等

1 委員会の開催等

(1) 委員会の構成



(2) 会議の開催等

ア 管理・運営に関する会議

| 会議の種類 | 会議開催日 | 備考 |
|-------|-----------|--------|
| 運営会議 | 平成28年4月から | 毎月一回開催 |
| 運営幹事会 | 平成29年3月まで | 毎月一回開催 |

イ 管理・運営に関する会議

| 会議の種類 | 会議開催日 | 備考 |
|----------|-------------|-----------|
| 研究等評価委員会 | 平成28年 8月 3日 | 事後評価 |
| | 平成28年10月 7日 | 事前評価 |
| 研究推進評価会議 | 平成28年 7月 5日 | 追跡評価 |
| | 平成28年 9月12日 | 事前評価 |
| | 平成29年 3月13日 | 年度評価、事後評価 |

2 研究等評価委員

研究等評価委員会 7名

| 専門分野 | 氏名 | 所属等 |
|------|--------|---------------------------|
| 作物全般 | 藤巻 宏 | (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 フェロー |
| 園芸 | 吉岡 宏 | 元農研機構野菜茶業研究所長 |
| 畜産 | 牛島 仁 | 日本獣医生命科学大学応用生命科学部動物学科 教授 |
| 植物 | 米林 伸 | 立正大学地球環境科学部環境システム学科 教授 |
| 病虫害 | 高橋 賢司 | 一般社団法人 日本植物防疫協会 技術顧問 |
| 食品 | 青柳 康夫 | 女子栄養大学栄養学部栄養学科 教授 |
| 消費生活 | 川嶋 かほる | 埼玉大学教育学部 名誉教授 |

Ⅷ 農業革新支援担当

| | | |
|------|----------------------------|-----|
| 1 | 活動方針・内容・体制 | 89 |
| 2 | 活動実績 | |
| (1) | 重点プロジェクト | 91 |
| (2) | 新たな技術の現地実証・普及 | 105 |
| (3) | 農林振興センターの普及活動の支援 | 109 |
| (4) | 調査研究 | 111 |
| (5) | 先進的な農業者等からの高度かつ専門的な技術・経営相談 | 119 |
| (6) | 普及指導員に対する研修指導 | 120 |
| (7) | 専門項目別技術連携会議の開催 | 125 |
| (8) | 気象災害等の技術対策 | 130 |
| (9) | 農業革新支援担当会議の開催 | 131 |
| (10) | その他 | |
| ア | 情報紙等への原稿執筆状況 | 132 |
| イ | 講演・助言・コーディネート活動状況 | 132 |
| ウ | 委員会等委嘱活動 | 137 |
| 3 | 28年度農作物の生育状況 | 139 |

1 活動方針

「埼玉県5か年計画」及び「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」の実現を図るため、関係機関との連携強化による専門性の高度化や政策課題への対応、先進的な農業者等への技術・経営支援及び広域的な普及活動を推進する。

2 活動内容

農業革新支援担当は、分担する専門分野を中心に次の活動を行い、効果的・効率的な普及活動を推進する。

- (1) 試験研究・教育・行政機関等との連携及び新たな技術の現地実証・普及に関すること
- (2) 広域的な普及活動に関する企画・調整支援に関すること
 - ◇普及活動計画の連携・支援
 - ◇関係各課・関係団体との連携調整
 - ◇調査研究・政策提言
 - ◇農業情報の発信
- (3) 農林振興センターの普及活動支援に関すること
- (4) 先進的な農業者等からの高度かつ専門的な技術・経営相談に関すること
- (5) 普及指導員の育成に係る研修の企画・実施に関すること

3 活動体制

[担当する分野]

| 分野 | 人数 | 担当 |
|------------------|----|-----------------|
| 作物 | 2 | 田中克典 山本和雄 |
| 野菜 | 3 | 阿見 真 齋藤 仁 岡山 研 |
| 果樹 | 2 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 花植木 | 2 | 小磯由美 井上玲子 |
| 畜産 | 2 | 渡辺喜正 大宅秀史 |
| 茶 | 3 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 6次産業化 (農産物活用) | 2 | 小林孝史 河野 悟 |
| 経営 | 1 | 本間利明 |
| 計 | 17 | |

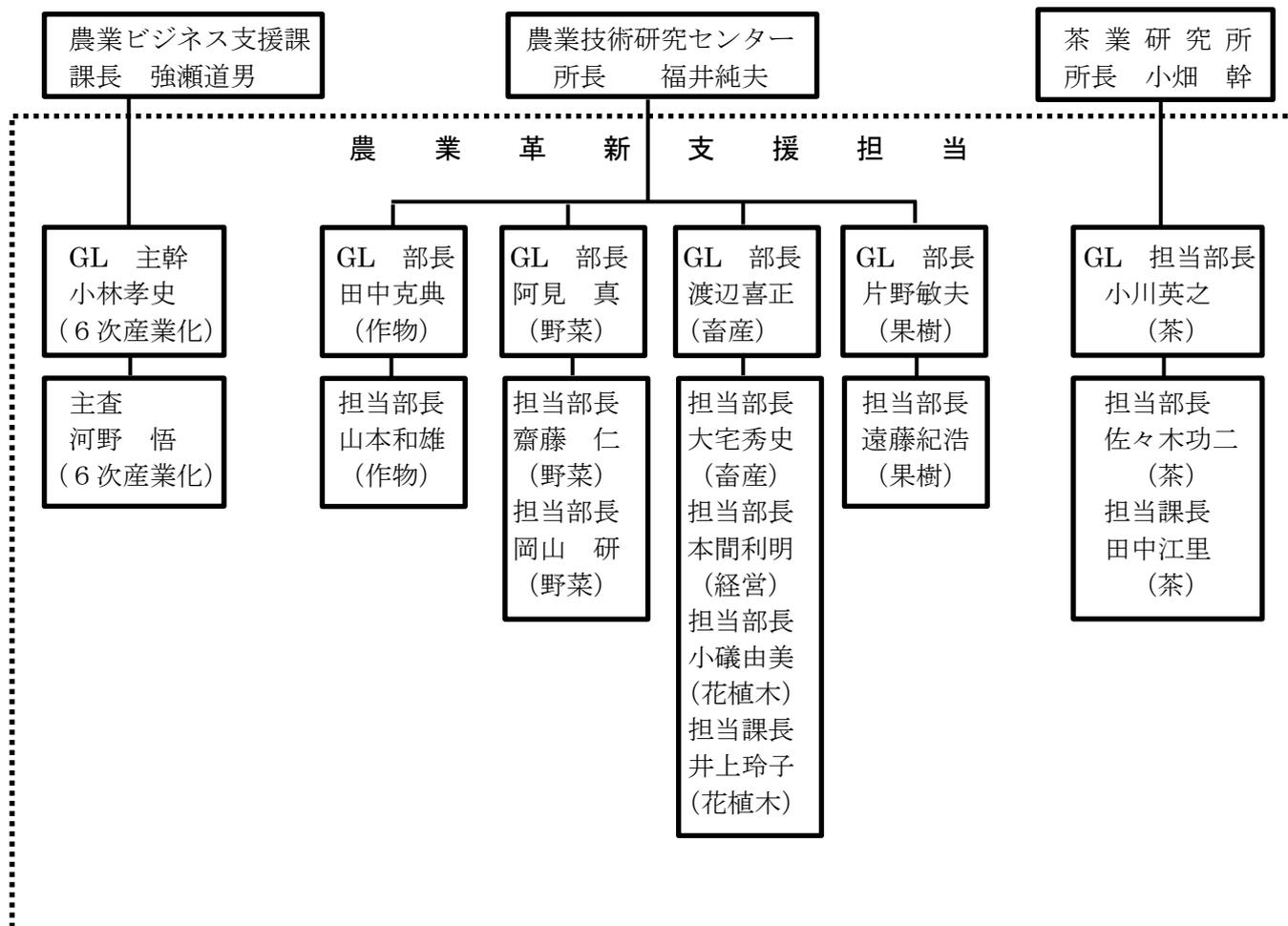
[兼務する分野]

| 分野 | 担当 | 分野 | 担当 |
|-------|------|--------|------|
| こんにやく | 小川英之 | 養蚕 | 田中克典 |
| 就農 | 齋藤 仁 | 普及指導活動 | 本間利明 |
| 震災対策 | 大宅秀史 | 鳥獣害 | 遠藤紀浩 |
| 病害虫 | 岡山 研 | 土壌肥料 | 小磯由美 |
| GAP | 阿見 真 | 農作業安全 | 山本和雄 |
| 地球温暖化 | 井上玲子 | | |

[農林振興センター別担当者]

| | さいたま | 川越 | 東松山 | 秩父 | 本庄 | 大里 | 加須 | 春日部 |
|-------|------|----|-----|----|----|----|----|-----|
| 窓口担当者 | 齋藤 | 小川 | 大宅 | 岡山 | 本間 | 山本 | 小磯 | 遠藤 |

活動体制図



4 活動実績

(1) 重点プロジェクト計画

No. 1 高品質米生産に向けた現地生産技術の組み立て

担当者：田中克 ○山本

活動対象：全域

活動期間：平成28年～平成32年

1 現状と課題

多くの道府県がオリジナル新品種のブランド化に取り組んでおり、積極的なPR活動を展開している中で、有利販売を行うには日本穀物検定協会の「米の食味ランキング」における「特A」評価の獲得が必要である。

埼玉県産米は、平成4年以降「特A」評価を獲得していない。

そこで、今年度から始まる「県産米特Aプロジェクト推進事業」を活用し、本県が育成した新品種「彩のきずな」が「特A」を獲得・継続するために開発された技術を地域に合わせて組み立てる必要がある。

2 目標

| 項目 | 現状値 | 目標値 (平成32年度) | 今年度の成果 |
|-------------|-----|-----------------|-------------------------|
| 県産米の食味ランキング | A' | 特A | Aランク以上25% (2か所で特A相当) |

3 今年度の普及指導活動

(1) 技術実証の設置支援

県内に水稻「彩のきずな」の実証ほを8か所設置し、茎数、籾数を制限する栽培管理の組み立てを支援した。

(2) 試験研究課題に位置づけ

農業技術研究センターにおいて、「彩のきずなの特A技術の開発」として、研究課題に位置づけ、研究員との連携を密にして、農業技術支援担当では、「食味向上技術の導入支援」として現地技術組み立てを支援した。

(3) 食味官能試験の実施

実証ほ8か所のサンプルを日本穀物検定協会に食味官能試験を依頼し、その結果、2か所サンプルが特A相当の評価を得ることができた。

(4) 近赤外線カメラの活用

近赤外線カメラを活用した基本データを収集して生育診断の指標化により、葉色、タンパク質含量の推定するための技術開発に取り組んだ。

4 活動経過

| 時期 | 活動内容 |
|-----|--------------------|
| 4月 | 生産振興課、研究員等と課題推進打合せ |
| 5月 | 実証ほの設置支援 |
| 6月 | 茎数調査等支援、水管理確認 |
| 7月 | 茎数調査等支援、水管理確認 |
| 8月 | 調査結果集計・分析（中間期） |
| 9月 | 収穫期調査支援（近赤外線カメラ活用） |
| 10月 | 食味官能試験研修 |
| 11月 | 品質調査、食味予備調査 |
| 12月 | 食味サンプル穀物検定協会へ依頼 |
| 1月 | 調査結果集計・分析 |
| 2月 | 成果発表会 |
| 3月 | 実績検討会及び次年度計画打合せ |



近赤外線カメラによる植生の撮影

5 活動体制

- (1) 農業革新支援専門員は、実証ほの設置支援および研究員や関係機関との情報収集、普及指導員への支援を行った。
- (2) 普及指導員は、実証ほ設置・運営に当たり生産者への巡回指導、調査等による支援を行った。

6 関係機関等との連携

| 機関名 | 内容 |
|--------|-----------------------------|
| 全農さいたま | 食味向上に必要な機器整備の支援 |
| 各農業支援部 | 実証ほ設置の運営、調査 |
| 県生産振興課 | プロジェクト事業推進のための備品購入・予算執行等の相談 |

No. 2

新品種によるサトイモ産地の活性化

担当者：阿見、○齋藤、岡山

活動対象：さいたま、東松山、大里、春日部

活動期間：平成26年～平成28年

1 現状と課題

埼玉県農林総合研究センターが系統選抜し、平成18年に発表した。平成24年に0.5ha栽培を始め、現在2産地で系統出荷を行っている。商標登録「丸系八つ頭®」として知名度も向上し、新たな産地化に向け候補の掘り起し育成を行っている。生産から調整機械、系統選抜と貯蔵技術等について地域にあった技術組立により課題を解決し、産地の育成に取り組む。

2 目標

| 項目 | 現状値 | 目標値 (平成28年度) | 今年度の目標 |
|-----------|-------|-----------------|--------|
| 栽培面積 | 1.5ha | 3ha | 3ha |
| 供給体制整備産地数 | 2産地 | 4産地 | 4産地 |

3 今年度の普及指導活動

(1) 新規の産地化に向けた掘り起し育成活動の支援

新たに産地化を進める2産地に対し栽培から調整技術、流通対策、系統選抜による産地商品の均一化を支援した。

(2) 県内既存産地での生産流通の向上に向けた現地検討会及び研修会の実施

(3) 既存2産地に対する生産から販売流通まで支援を実施

(4) 栽培及び調整技術に関する県域全体研修会の開催

産地間及び個々の生産者の情報交換の場として県域情報交換会を開催し、農技研での研究成果の情報提供、生産者が開発した調整技術の情報提供等を実施

(5) 市場等販売促進に向けた取り組み支援

市場連絡組織内の産地育成部会における助言指導を実施

(6) 産地における系統選抜と保存技術の組立支援

新規産地を中心に系統選抜手法の技術支援を行うとともに貯蔵方法、掘上後の種芋の調整準備等の作業について支援



丸系八つ頭全体研修会（農



新たな産地育成支援（春日

4 活動経過

生産物の品質確保する上で、丸形状を確保する技術が安定していないことから、種芋の大きさ、植え付け深度、培土量による形状解析を行った結果から植え付け深7cm、培土深5cmでの技術普及を行うとともに、地域の土壌組成による形状結果

の確認を行った。

その結果、ほぼ同上栽培様式により良質な形状が確保できていた。

産地におけ品質の均一化を図る上で各産地における栽培面での地域技術組立の支援を行なうとともに、地域内の系統選抜体制の整備による種苗の共有が重要であるため整備支援を行った。共同出荷体制にある産地では取り組みが理解されるとともに実施された。個々の生産者が自ら実施できるように支援を行う必要がある。これにより、既存の産地2カ所に加え、出荷を経た産地が2カ所育成され、翌年度の面積拡大に向かうことになっている。しかし、出荷調整に関して、機械化利用技術がなく生産拡大を進める上で課題となっている。一部で既存の機械導入により調整の簡素化を図る事例があるため、機械体系に向けた検討が必要である。種芋の増殖については保存技術が向上しているが、産地として系統選抜による品質確保による取り組みに差があり、地域として再構築に向けた支援をする必要がある。

| 時期 | 活動内容 |
|-----|---|
| 4月 | 年間活動計画についての各農林振興センターとの調整、新規産地作付拡大支援 |
| 5月 | 現地検討会、管理指導（芽かき）、生産振興との計画打合せ |
| 6月 | 現地検討会支援、栽培講習会 |
| 7月 | 現地検討会支援 |
| 8月 | 県域全体研修会、さといも協議会支援 |
| 9月 | 各地区現地検討会 |
| 10月 | 各地区優良系統選抜指導、各地区販売計画支援、品質評価研修 |
| 11月 | 各地区優良系統選抜指導、各地区販売計画支援（目揃）、収穫調査支援、出荷検討及び種芋貯蔵支援 |
| 12月 | 種芋保存指導、新産地、新規生産者育成支援 |
| 1月 | 保存状況巡回 |
| 2月 | 保存状況巡回、 |
| 3月 | 種芋掘上指導、栽培講習会支援、種芋配布計画の検討、次期作付計画の確認 |

5 活動体制

- (1) 農業革新支援担当は、課題全体の進行管理、試験研究や流通との連携支援
- (2) 農業支援部は管内の産地、生産者に対する講習会、巡回指導による生産振興支援
- (3) 生産振興課は県産ブランド化、生産振興支援、種苗増殖配布計画支援

6 関係機関等との連携

| 機関名 | 内容 |
|-------|-------------|
| 生産振興課 | 優良種芋生産体制の整備 |
| | |

No. 3

県内なし産地活性化

担当者：片野、○遠藤

活動対象：さいたま、川越、東松山、本庄、加須、春日部

活動期間：平成26年～平成28年

1 現状と課題

県内のなし栽培面積は、約430haで年々減少している。また、なし園の老木化による生産性の低下が問題となっている。

そこで、老木園の改植を進め、園地の若返りを推進する。具体的な手法として、なし樹体ジョイント栽培や盛土式根圏制御栽培法など早期成園化技術の導入を図る。

また、新品種の導入も進め、規模拡大や生産性の向上を図る。

2 目標

| 項目 | 現状値 | 目標値 (平成28年度) | 今年度の成果 |
|----------------|--------|-----------------|--------|
| 早期成園化技術の導入面積 | 9.1ha | 10.0ha | 12.3ha |
| 早期成園化技術の導入経営体数 | 100経営体 | 120経営体 | 120経営体 |
| 新品種の導入面積 | 4.5ha | 5.0ha | 5.7ha |

3 今年度の普及指導活動

(1) 老木なし園の改植

埼玉県果実連合会と連携し、なし産地の改植気運を高め、早期成園化技術を導入し改植を推進した。

(2) 新品種（「甘太」、「彩玉」、「あきづき」等）の導入支援

各農業支援部と連携し、新品種の特性或栽培管理の特徴について情報提供を行うとともに、久喜試験場で彩玉の講習会を活用し、新品種の拡大を図った。また、梨経営研究会の会員を中心に、研修会を通じて新品種の導入を推進した。

4 活動経過

| 時期 | 活動経過 |
|----|---|
| 4月 | 樹体ジョイント園巡回指導、 盛土式根圏制御栽培園巡回指導・試験内容打合せ |
| 5月 | 樹体ジョイント園巡回指導、 革新的技術開発事業（根圏制御栽培法）キックオフミーティング、 梨経営研究会研修会、 盛土式根圏制御栽培園巡回指導 |
| 6月 | 彩玉摘果・新梢管理研修会、 盛土式根圏制御栽培園巡回指導、樹体ジョイント園巡回指導 |

| 時期 | 活動経過 |
|-----|--|
| 7月 | 盛土式根圏制御栽培園巡回指導・収穫作業調査、果実連彩玉委員会、革新的技術開発事業（根圏制御栽培法）現地検討会 |
| 8月 | 盛土式根圏制御栽培法収穫作業調査・果実試食検討会・巡回指導、樹体ジョイント園果実調査・巡回指導、彩玉適期収穫研修会、果実連彩玉果実共進会 |
| 9月 | 盛土式根圏制御栽培園巡回指導、革新的技術開発事業（根圏制御栽培法）中間検討会 |
| 10月 | 盛土式根圏制御栽培園巡回指導、樹体ジョイント園巡回指導、梨経営研究会視察研修指導 |
| 11月 | 盛土式根圏制御栽培園巡回指導、樹体ジョイント園巡回指導 果実連出荷反省会 |
| 12月 | 盛土式根圏制御栽培園巡回指導、樹体ジョイント栽培せんだ研修会、彩玉せんだ研修会 |
| 1月 | 盛土式根圏制御栽培園巡回指導 |
| 2月 | 盛土式根圏制御栽培せんだ指導・収益性調査、樹体ジョイント栽培の苗木植付推進 |
| 3月 | 盛土式根圏制御栽培せんだ指導・労働時間調査、新品種説明会、樹体ジョイント栽培の苗木植付実演会 |



【経営研究会研修会】



【彩玉適期収穫研修会】



【根圏果実試食会】

5 活動体制

- (1) 農業革新支援担当は、課題全体の進行管理、果実連や梨経営研究会等広域組織と関係機関との連絡調整を行った。
- (2) 普及指導員は、管内の産地、組合員への巡回や講習会を通じて改植、新品種の導入推進を行った。
- (3) 果樹研究は、彩玉の講習会時の指導、新品種の特性や試食用果実の提供を行った。

6 関係機関等との連携

| 機関名 | 内容 |
|------------------|--------------------|
| 埼玉県果実連合会 | 改植運動連携、彩玉ジョイント苗育成 |
| 根圏制御栽培法実践コンソーシアム | 盛土式根圏制御栽培法に関する技術協力 |

No. 4 新品種・新技術による花き産地の活性化

担当者：○小磯、井上

活動対象：大里

活動期間：平成26年～平成28年

1 現状と課題

埼玉県の花き産出額は、165億円である（H26）。球根切花であるユリ、チューリップは全国第2位の産出額があり、さいたまブランド農産物に指定されている。この他、鉢物ではシクラメンが指定されており、生産や販売拡大など重点的に取り組む必要がある。特に、球根切花では、生産、流通、小売段階での日持ち性向上技術の確立が求められている。また、生産環境については、ヒートポンプの導入が進み省エネルギー、低コスト生産が行われているが、さらに低コスト生産を進めるためにEOD-Heating・Lighting等の新技術導入が必要である。

2 目標

| 項目 | 現状値 | 目標値 (平成28年度) | 今年度の成果 |
|-----------------|-------|-----------------|--------|
| 新品種・新技術 導入面積 | 2.5ha | 6.5ha | 4.0ha |

3 今年度の普及指導活動

(1) 県特産切花の日持ち性向上対策の推進

チューリップ切り花の日持ち性向上対策技術の導入を進め、市場や実需者などと連携して新たな販売戦略に取り組んだ。

(2) 高温に対応したユリ切花高品質栽培技術の実証・普及

ヒートポンプを活用した夜冷栽培技術を実証・評価し導入面積を拡大させた。また、実需者を加えた品質評価を行い、次年度以降の販売対策につなげた。

4 活動経過

(1) 県特産切花の日持ち性向上対策の推進

昨年までの成果を踏まえ、ニュージーランド産球根を導入、栽培している生産農家全5戸（24万球）で、前処理剤を使用して縦箱乾式輸送で「前処理済」と表記し10～1月に出荷をした。オランダ産球根については、今後も引き続き前処理剤の利用導入を推進する。

また、湿式輸送での前処理方法について、生産者、資材メーカーの意見を参考にして、前処理剤の処理濃度等について、農技研で日持ち性の調査を行った。湿式輸送を想定した処理方法については、コスト面等から、生産者が導入できる処理方法（処理濃度、処理時間等）を再度検討する必要がある。



湿式輸送を想定した前処理剤処理方法による日持ち性向上試験（農技研）

(2) 高温に対応したユリ切花高品質栽培技術の実証・普及

生産者ハウスでの実証の他、農技研のハウスでLAユリの夜冷栽培の効果試験を実施し、草丈や奇形花、到花日数などを調査した。試験結果はユリ生産者へ資料として提供した。夜冷は定植後3週間で効果が認められた。次年度以降も引き続き、夜冷栽培面積の拡大に向けて推進していく。



夜冷3週間後調査（左：夜冷、右：慣行）



調査の様子

| 時期 | 活動経過 |
|-----------|-----------------------------|
| 4月12日 | 年間活動計画打合せ（大里農林振興センター） |
| 4月12日 | ユリ夜冷栽培実証ほ設置打ち合わせ |
| 8月5日 | ユリ夜冷栽培実証ほ調査 |
| 8月5日 | チューリップ日持ち性向上対策実証ほ設置打ち合わせ |
| 8月31日～ | ユリ夜冷試験（農技研）開始 |
| 9月15日 | ユリ夜冷栽培実証ほ調査（栽培全期間夜冷区 収穫時調査） |
| 9月21日 | ユリ夜冷試験 発根状況調査（農技研） |
| 1月16日 | チューリップ日持ち性向上打ち合わせ（湿式輸送） |
| 2月14日 | チューリップ日持ち現地調査（資材メーカー）、打ち合わせ |
| 2月17日～28日 | チューリップ日持ち試験（農技研） |
| 3月13日～24日 | チューリップ日持ち試験調査（農技研） |

5 活動体制

- (1) 農業革新支援専門員は、課題全体の進行管理および国・他県の情報収集や連絡調整、普及指導員への支援を行った。
- (2) 普及指導員は、管内の産地、生産者への巡回や講習会を通じて技術の導入推進や技術支援を行った。

6 関係機関等との連携

| 機関名 | 内容 |
|--------------------------|---|
| 全農さいたま花植木事務所 | 市場・小売りなどへの販売促進 |
| J Aふかや 農研機構 野菜・花き研究部門 | 展示ほ設置、市場・小売りからの評価聞き取り、販売促進 日持ち性向上対策に係る最新情報の収集、技術支援 |

No. 5 耕畜連携による自給飼料生産拡大と不耕作水田の解消

担当者：渡辺、○大宅

活動対象：大里

活動期間：平成28年～平成30年

1 現状と課題

これまで米麦の生産を主としていた集落営農組織（中条農産サービス）が地域内の大規模酪農家（i-Milk Factory）との連携により、28年から新たにWCS用イネの生産に取り組むことになり、併せて裏作として飼料用大麦の試作も行うことが合意された。

低コスト化及び食用米・食用麦との作業競合を避けるため、WCS用イネは乾田直播栽培、飼料用大麦は不耕起栽培を検討しているが、いずれも初めての取り組みとなるため、現地で実証しながら技術を組み立てる必要がある。

また、集落営農組織では多数のほ場で食用米、飼料用米、イネWCSと3用途の水稻を栽培することになるため、ほ場ごとに用途に合わせた適切な管理作業とほ場条件と作業体系を勘案した適切な作付計画策定の支援が重要となる。

2 目標

| 項目 | 現状値 | 目標値 (平成30年度) | 今年度の成果 |
|-------------------|-----|-----------------|--|
| 不耕作水田へのWCS用イネ作付面積 | 0ha | 10ha | 5.5ha 〔イネWCS 4.1ha〕 〔飼料用米 1.4ha〕 |

3 今年度の普及指導活動

- (1) 集落営農組織の作業体系にあわせたWCS用イネ乾田直播栽培、飼料用大麦不耕起栽培技術を組み立てるとともに、酪農家との連携を強化し、イネWCS・大麦WCSに飼料用米も含めた自給飼料の作付拡大を推進した。
- (2) 農研機構（畜産研究部門、中央農業研究センター）と連携し、地理情報システム（GIS）を活用した効率的な飼料生産システムの確立に向け、ほ場データの収集と生産履歴管理システム試作品の試験運用を行った。

4 活動経過

集落営農組織型コントラクターが食用米麦の作業と競合せずに飼料用イネを生産する作型として、早生品種の「夢あおば」で早播き乾田直播栽培（4月中旬播き）の現地実証を行った結果、地域慣行作型である麦跡移植栽培（6月下旬植え）と同等のDM収量が得られ、有望な作型であると考えられた。ただし、当地域では入水可能時期が5月下旬と遅く乾田期の雑草管理が困難なこと、速効性肥料を基肥とした場合は肥切れが早く追肥のコストがかかることが確認され、今後湛水直播栽培も含めてその対策を検討する必要がある。

GIS・生産履歴管理システムの基礎となるほ場データを収集し、農研機構に提供した。ほ場毎の収量を記録できるようにするため、簡易にロール重量を計測する方法として、①ストックヤードに設置した



ドリルシーダによる播種(1条飛ばし25cm)



パレットスケールによる重量測定

ポータブルトラックスケール、②ストックヤードに設置したパレットスケール、③収穫ほ場でトラック積載したパレットスケールの3パターンで計量作業を実証し、中条農産の作業体系では③が最も導入しやすい方法であることが判明した。

表1 WCSイネ生育・収量調査結果

| 区名 | 栽培様式 | N施用量(kg/10a) | | | 播種/移植 (月/日) | 出穂期 (月/日) | 坪刈収量(kg/10a) | | | 実収量(kg/10a) | |
|-----|---------|--------------|-----|-----|----------------|--------------|--------------|-------|-----|-------------|-------|
| | | 基肥 | 追肥 | 合計 | | | 調査日 | 生草重 | 乾物重 | 収穫日 | 予乾重 |
| 実証区 | 早播き乾田直播 | 7.0 | 2.8 | 9.8 | 4/12 | 7/26 | 8/2 | 2,957 | 933 | 8/5 | 1,920 |
| 対象区 | 普通期移植 | 8.4 | | 8.4 | 6/21 | 8/30 | 9/6 | 3,713 | 980 | 9/10 | 1,990 |

表2 ロール計量法の中条農産評価結果

| 計量方法 | ストックヤードに設置したポータブルトラックスケール | ストックヤードに設置したパレットスケール | 収穫ほ場にトラック積載したパレットスケール |
|-------|--|---|-------------------------------|
| メリット | ロールをスケールに移動させる必要がなく、計量が非常に早い | スケールの設置が簡単 | 梱包が完了したロールをすぐ計量可能で、計量待ちが発生しない |
| デメリット | 運搬車両のホイールベースが異なると計量パッドの移動が必要 測定位置に静止するのが難しい | ストックヤードにバールグラブが1台しかない場合、計量とラッピング後のロールの移動を1台でこなさなければならず、作業効率が非常に悪い | ほ場を移動するたびにスケールの水平調節が必要 |
| 総合評価 | 運搬車両の車種を揃えないと全ロール計量は困難 | 全ロール計量するには、バールグラブ2台・作業員2人必要 | 作業体系の中で余分な手間をかけずに全ロール計量可能 |

| 時期 | 活動内容 |
|-----|--|
| 4月 | 飼料イネ乾田直播実証ほ打合せ、早播き実証区播種状況確認、出芽状況確認 |
| 5月 | 出芽・雑草発生状況確認、除草剤打合せ、慣行播き区・催芽期区播種支援、GIS・履歴システム打合せ、生育状況確認、入水打合せ |
| 6月 | 入水状況確認、追肥打合せ、追肥効果確認、地域戦略プロジェクトキックオフ会議 |
| 7月 | 生育状況確認、実証区苗立調査、実証区出穂状況確認、収穫調製打合せ、GIS・履歴システム打合せ |
| 8月 | 実証区収量調査、実証区収穫・調製作業支援、実証区製品調査、移植区幼穂確認、移植区出穂状況確認 |
| 9月 | 飼料イネ・オオムギ流通打合せ、移植区収量調査、移植区収穫・調製作業支援、オオムギ実証ほ打合せ、移植区製品調査 |
| 10月 | 飼料用オオムギ不耕起区播種作業支援、高糖分飼料イネ収穫・調製作業支援 |
| 11月 | オオムギ不耕起区生育状況確認 |
| 12月 | 地域戦略プロジェクト成績検討会、オオムギ耕起播種区播種作業支援、オオムギ生育状況確認 |
| 1月 | オオムギ生育状況確認 |
| 2月 | オオムギ生育状況確認、作業打合せ、GIS・履歴システム打合せ |
| 3月 | オオムギ収量調査、オオムギ収穫・調製作業支援、次年度計画打合せ |

5 活動体制

- (1) 農業革新支援専門員は試験研究機関と連携して、WCS用イネ乾田直播栽培、飼料用大麦不耕起栽培の技術組立及びICT・GISを活用した効率的飼料生産システムを実証。
- (2) 普及指導員は、耕種農家と畜産農家の連携を支援し、自給飼料の作付拡大を推進。GISのほ場データベース構築に必要なほ場データの収集。

6 関係機関等との連携

| 機関名 | 内容 |
|-----------------|--------------------------------------|
| 農研機構 畜産研究部門 | 飼料用大麦不耕起栽培の技術支援、生産履歴管理システムのGIS対応及び実証 |
| 農研機構 中央農業研究センター | GISのほ場データベース構築及び作業効率化の実証 |

No. 9 経営ビジョン策定とネットワーク構築による経営強化と収益力向上

担当者： ○小林孝史 河野悟

活動対象：経営ビジョン、総合化事業計画を策定した農業者

活動機関：平成26年～平成28年

1 現状と課題

埼玉県において432経営体（平成26年度）が農業の6次産業化に取り組、その年間売上金額は20億4,576万円（平成26年度）である。このうち、300万円未満が214経営体、300万円以上1,000万円未満が61経営体、1,000万円以上3,000万円未満が22経営体、3,000万円以上1億円未満が12経営体、1億円以上が4経営体（不明119経営体）となっている。取組内容としては、農産物の加工241件、貸農園・体験農園等10件、観光農園164件、農家レストラン17件であり、農産物の加工が中心である。6次産業化に取り組む経営体の50%が年間売上金額300万円未満の小規模零細な経営となっており、農業の6次産業化による農業者の所得確保及び農村地域の関連所得の増大を図るためには、一層の収益力の向上、経営規模の拡大が不可欠である。

農業の6次産業化における経営規模の違い、品目の違い、自然・立地環境の違い等による多様性は個別性が高く、個々の経営体の特徴に合わせたきめ細やかな支援が必要である。

2 目標

| 項目 | 現状値 | 目標値（目標年度） | 今年度の成果 |
|------------------------|-----|-------------------|------------------|
| 経営ビジョン策定 | 52件 | 100件 （平成28年度） | 101件 （3月末見込み） |
| 新たに農業の6次産業化により開発された商品数 | — | 250品目 （平成32年度） | 50商品 （3月末見込み） |

3 今年度の普及指導活動

6次産業化を始めようとする農業者または6次産業化を推進している農業者に対し、各農林振興センターと連携して経営ビジョン（農業の6次産業化事業計画書）の策定支援を行い、策定した経営ビジョンに基づいた細やかな支援を行うことにより計画達成を推進した。また、経営実務研修会や6次産業化ネットワークミーティングの実施、農商工連携フェアの開催などにより、経営体の育成・強化を支援した。



加工技能高度化研修



ネットワークミーティング



人材育成研修

4 活動経過

| 時期 | 活動内容 | |
|----------|---|-----------------------------|
| 4月 | | |
| 5月 | 普及指導員研修の実施 | |
| 6月 | | |
| 7月 | ネットワークミーティングの開催 経営実務研修会（経営管理）の実施 | ↑ 地区相談会支援 （各農林振興センター） |
| 8月 | 経営実務研修会（経営管理）の実施 | |
| 9月 | ネットワークミーティングの開催 経営実務研修会（加工技能高度化）の実施 | |
| 10月 | ネットワークミーティングの開催 | |
| 11月 | 経営実務研修会（加工技能高度化）の実施 | ↓ |
| 12月 | | |
| 1月 | 経営実務研修会（商談能力向上）の実施 | |
| 2月 | 農商工連携フェアの開催 6次産業化商品PR会の開催 | |
| 3月 | | |
| 年間を通した活動 | 個別経営体支援、経営ビジョンの策定支援、総合化事業計画策定支援、認定事業者のフォローアップ支援、地区相談会支援 | |

5 活動体制

- (1) 農業革新支援専門員は、課題全体の進行管理、関係機関との連絡調整、普及指導員の資質向上支援、6次産業化担当普及指導員の活動支援、6次産業化に取り組む農業者支援、経営ビジョンの策定支援、成果の取りまとめ等を行った。
- (2) 普及指導員は、6次産業化を始めようとする農業者または6次産業化に取り組んでいる農業者への経営相談を行った。

6 関係機関等との連携

| 機関名 | 内容 |
|----------------|------------------------------|
| 関東農政局 地域連携課 | 六次産業化法の窓口、総合化事業計画の認定、交付金事務等。 |

No. 7

経営シミュレーションの活用

担当者：〇本間

活動対象： 全域

活動期間：平成26年～平成28年

1 現状と課題

農業経営法人化相談窓口の設置や税理士などの法人化推進スペシャリストによる経営改善のアドバイスなどにより、農業法人は平成27年度末に800法人となり、平成22年度末の452法人から大幅に増加している。また、地域農業の担い手である認定農業者は、平成27年度末には5,028経営体が認定されている。

農地中間管理事業や農地法の改正、TPP大筋合意等に伴い、農業経営を巡る環境は大きな変化が予想され、農業経営体には一層の生産性向上、経営管理の徹底が求められている。しかし、中長期の経営計画に基づく経営管理を導入している経営体は少ない。

2 目標

| 項目 | 現状値 | 目標値 (平成28年度) | 今年度の成果 |
|---------------|-----|-----------------|--------------------------|
| 経営シミュレーションの実施 | 45 | 50 | 32 (農技研18、担い手SC6、農林8) |

3 今年度の普及指導活動

- (1) 農業経営法人化推進のため、営農計画策定支援システム「Z-BFM」を活用した農業経営体育成支援を行った。各農業支援部と連携し、現地における講習会の開催、経営相談における経営シミュレーションの活用を行った。
- (2) 農研機構との連携により、営農計画策定の基準となる財務及び労働データを作成した。「作物別投入産出表」を基に、経営データを抽出し、経営シミュレーションシステムに適合したデータ形式に変換した。本県の主要な経営形態である、主穀、野菜、花植木、果樹、茶、飼料作物等の経営指標データの作成および改訂を行った。
- (3) 埼玉農業を担う基幹的農業経営体を育成するため、売り上げが概ね1億円を超える営農類型別経営モデルを農林振興センターとともに作成した。経営データ整理にはZ-BFMの試算計画法によるシミュレーションを活用した。
- (4) 営農計画の策定を誰でも実施できるよう、本重点プロジェクト計画で得られた、策定上の留意事項やシミュレーション実施におけるデータ設定方法などを取りまとめたマニュアルを作成した。

4 活動経過

| 時期 | 活動内容 |
|----|------------------|
| 4月 | 法人化担当者会議、集落営農検討会 |
| 6月 | 農林振興センター法人化研修会 |
| 7月 | 中央農業研究センター打ち合わせ |
| 8月 | J A全農さいたま経営データ連携 |

| | |
|-----|---|
| 9月 | 経営指標入力研修会、集落営農検討会、法人化担当者会議、農業経営法人化セミナー   経営指標入力研修会 農業経営法人化セミナー |
| 10月 | 関東東海北陸ブロック、農業経営研究員、農業革新支援専門員との情報交換、メガファーム育成の現地視察 営農類型別モデル経営調査及び経営シミュレーション |
| 11月 | 法人化推進大会 営農類型別モデル経営指標作成  法人化推進大会 |
| 12月 | 農業簿記、経営シミュレーション研修会 農業革新支援専門員ネットワーク会議 |
| 1月 | 農業経営研究会税務研修会 営農計画マニュアル作成 |
| 2月 | 経営指標データの整備 |
| 3月 | 成果のまとめ |

5 活動体制

- (1) 農業革新支援専門員は、課題全体の進行管理、関係機関との連絡調整、経営シミュレーションの実施、成果の取りまとめ及びマニュアル作成を担当。
- (2) 普及指導員は、認定農業者、新規就農者及び農業法人への経営相談を担当。
- (3) JA全農さいたま、JA埼玉県中央会担い手サポートセンターは農協営農指導員及び担い手農家の経営支援にZ-BFMを活用。
- (4) 中央農業総合研究センターは、Z-BFMのシステム改良、データベースの整備マニュアルの改訂を担当。

6 関係機関等との連携

| 機関名 | 内容 |
|------------------|---------------------------------|
| 農研機構 中央農業研究センター | 営農計画作成支援システム「Z-BFM」のシステム管理、活用支援 |
| JA埼玉県担い手サポートセンター | 大規模農家経営支援 |

(2) 新たな技術の現地実証・普及

| 分野 | 課題・内容 | 担当者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|--|-------------|------------------|-----------|------------------|-------|--------|---------|---------|----------|--------|------------|--------|-------|-------|-------|---------|----------|--------|------------|---|---|---|-----|--------|------|------|------|------|----|---|----|----|----|---------|---|---|---|-----|--------|------|-------|------|------|----|---|------|----|-----|-----|---|---|---|-----|--------|------|------|------|------|----|---|-----|----|-----|--------|---|---|---|----|--------|------|------|------|------|----|---|----|-----|-----|-------------------|--|--|--|--|----|---|----|-----|----|-----|---|---|----|--|---|---|--|-----|-------|-----|-----|------|-----|-----|----|----|---|----|--|---|---|--|----|-------|-----|-----|------|-----|----|---|---|----|----|-----|--|--|--|--|----|----|----|----|----|-----|---|----|----|-------|--------------|--|--|--|-----------------|--|--------|---------|------|--|------|--|--------|--|------------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|----|-----|-----|-----|-----|------|------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|-------|-----|--------------------|------|------|---|------|------|------|------|------|----|
| 作物 | <p>【課題名】 産地に応じて抵抗性品種と薬剤防除を適宜利用するイネ縞葉枯病の総合防除技術の開発</p> <p>【内容】 産地に応じて抵抗性品種と薬剤防除を適宜利用する総合防除技術の開発と成果の普及について研究員と連携し取り組んだ。</p> <p>【実施地区】 全域</p> | 田中(克) 山本 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 野菜 | <p>【課題名】 いちごの新たな生産技術の導入支援</p> <p>【内容】 ①大里農林振興センターと連携し、革新的技術（地中熱利用ヒートポンプ、チラー）による局所冷却・加温による花芽促進及び高品質化技術について検討を行った。 ②高濃度炭酸ガスによる病害虫防除技術の普及に向けた実証試験及び基礎的な調査を行った。 さらに、現地巡回・栽培講習会を通じて、いちご栽培の新技术について情報提供を行い、技術導入を推進した。</p> <p>【実施地区】 ①局所加温・・・大里農林管内（深谷市、熊谷市） ②高濃度炭酸ガス処理・・・さいたま、東松山、本庄、春日部農林管内</p> | 岡山 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 果樹 | <p>【課題名】 なし「あきづき」・「王秋」の果肉崩壊症対策支援</p> <p>【内容】 果肉崩壊症を発生しやすい園で、施肥及び葉面散布処理による果肉崩壊症の発生状況を調査した。</p> <p>【実施地区】 神川町元阿保</p> <p>表1「王秋」に対する断根処理、および、カルシウム、マグネシウム資材の葉面散布が果皮陥没および果肉障害の発生に及ぼす影響</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">処理区</th> <th rowspan="2">断根処理</th> <th rowspan="2">Ca Mg土壌施用</th> <th rowspan="2">Ca散布年数</th> <th rowspan="2">果数(n)</th> <th rowspan="2">平均收穫日</th> <th rowspan="2">果重(g)</th> <th rowspan="2">地色(c.c)</th> <th rowspan="2">糖度(Brix)</th> <th rowspan="2">硬度(lb)</th> <th colspan="4">コルク状障害発生果数</th> </tr> <tr> <th colspan="2">陥没直下</th> <th colspan="2">内部発生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ca散布</td> <td>有</td> <td>有</td> <td>3</td> <td>125</td> <td>10/11a</td> <td>730a</td> <td>3.0b</td> <td>13.2</td> <td>4.5a</td> <td>33</td> <td>1</td> <td>1a</td> <td>0a</td> <td>3a</td> </tr> <tr> <td>Ca+Mg散布</td> <td>有</td> <td>有</td> <td>2</td> <td>119</td> <td>10/11a</td> <td>732a</td> <td>3.4ab</td> <td>13.2</td> <td>4.1b</td> <td>52</td> <td>7</td> <td>10ab</td> <td>2a</td> <td>13a</td> </tr> <tr> <td>無処理</td> <td>有</td> <td>有</td> <td>0</td> <td>112</td> <td>10/12a</td> <td>750a</td> <td>3.2b</td> <td>13.3</td> <td>4.3a</td> <td>41</td> <td>4</td> <td>5ab</td> <td>2a</td> <td>13a</td> </tr> <tr> <td>対照(別樹)</td> <td>無</td> <td>無</td> <td>0</td> <td>81</td> <td>10/19b</td> <td>672b</td> <td>3.6a</td> <td>12.9</td> <td>4.0b</td> <td>28</td> <td>4</td> <td>8b</td> <td>10b</td> <td>20b</td> </tr> <tr> <td colspan="4">有意性¹⁾</td> <td></td> <td>**</td> <td>*</td> <td>**</td> <td>n.s</td> <td>**</td> <td>n.s</td> <td>*</td> <td>*</td> <td>**</td> </tr> <tr> <td></td> <td>有</td> <td>有</td> <td></td> <td>356</td> <td>10/12</td> <td>737</td> <td>3.2</td> <td>13.2</td> <td>4.3</td> <td>126</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td></td> <td>無</td> <td>無</td> <td></td> <td>81</td> <td>10/19</td> <td>672</td> <td>3.6</td> <td>12.9</td> <td>4.0</td> <td>28</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td colspan="4">有意性</td> <td></td> <td>**</td> <td>**</td> <td>**</td> <td>**</td> <td>**</td> <td>n.s</td> <td>+</td> <td>**</td> <td>**</td> </tr> </tbody> </table> <p>¹⁾直径5mm以上の障害が1個以上または、直径5mm以下の障害が3ヶ所以上の割合。 ²⁾分散分析：発生数はカイニ乗検定、**1%、*5%、+10%水準で有意差有り。 ³⁾一元配置・Tukey-HSD法、発生数はMarscullo法により検定し、異符号間に5%水準で有意差有り。</p> <p>久喜市菖蒲地区</p> <p>表1「あきづき」現地園場(K市H園)における果肉障害¹⁾発生率および果実品質</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">Ca+Mg</th> <th colspan="4">コルク状障害発生率(%)</th> <th colspan="2">水浸状障害(みつ)発生率(%)</th> <th rowspan="3">果実重(g)</th> <th rowspan="3">地色(c.c)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">陥没直下</th> <th colspan="2">内部発生</th> <th colspan="2">発生率(%)</th> </tr> <tr> <th>甚大²⁾</th> <th>一か所以上</th> <th>甚大²⁾</th> <th>一か所以上</th> <th>甚大²⁾</th> <th>一か所以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施用</td> <td>3.7</td> <td>3.7</td> <td>0.0</td> <td>2.0</td> <td>43.9</td> <td>64.6</td> <td>458.8</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>無施用</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>5.6</td> <td>55.4</td> <td>62.6</td> <td>536.8</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>³⁾分散分析</td> <td>n.s.</td> <td>n.s.</td> <td>-</td> <td>n.s.</td> <td>n.s.</td> <td>n.s.</td> <td>n.s.</td> <td>n.s.</td> </tr> </tbody> </table> <p>¹⁾果実を赤道方向に8等分した切断面について目視で調査 ²⁾コルク状障害、水浸状障害は直径4mm以上の障害が1個以上、または直径5mm以下の障害が3ヶ所以上 ³⁾t検定：障害発生率は角変換後実施</p> | 処理区 | 断根処理 | Ca Mg土壌施用 | Ca散布年数 | 果数(n) | 平均收穫日 | 果重(g) | 地色(c.c) | 糖度(Brix) | 硬度(lb) | コルク状障害発生果数 | | | | 陥没直下 | | 内部発生 | | Ca散布 | 有 | 有 | 3 | 125 | 10/11a | 730a | 3.0b | 13.2 | 4.5a | 33 | 1 | 1a | 0a | 3a | Ca+Mg散布 | 有 | 有 | 2 | 119 | 10/11a | 732a | 3.4ab | 13.2 | 4.1b | 52 | 7 | 10ab | 2a | 13a | 無処理 | 有 | 有 | 0 | 112 | 10/12a | 750a | 3.2b | 13.3 | 4.3a | 41 | 4 | 5ab | 2a | 13a | 対照(別樹) | 無 | 無 | 0 | 81 | 10/19b | 672b | 3.6a | 12.9 | 4.0b | 28 | 4 | 8b | 10b | 20b | 有意性 ¹⁾ | | | | | ** | * | ** | n.s | ** | n.s | * | * | ** | | 有 | 有 | | 356 | 10/12 | 737 | 3.2 | 13.2 | 4.3 | 126 | 12 | 16 | 4 | 29 | | 無 | 無 | | 81 | 10/19 | 672 | 3.6 | 12.9 | 4.0 | 28 | 4 | 8 | 10 | 20 | 有意性 | | | | | ** | ** | ** | ** | ** | n.s | + | ** | ** | Ca+Mg | コルク状障害発生率(%) | | | | 水浸状障害(みつ)発生率(%) | | 果実重(g) | 地色(c.c) | 陥没直下 | | 内部発生 | | 発生率(%) | | 甚大 ²⁾ | 一か所以上 | 甚大 ²⁾ | 一か所以上 | 甚大 ²⁾ | 一か所以上 | 施用 | 3.7 | 3.7 | 0.0 | 2.0 | 43.9 | 64.6 | 458.8 | 3.0 | 無施用 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.6 | 55.4 | 62.6 | 536.8 | 2.9 | ³⁾ 分散分析 | n.s. | n.s. | - | n.s. | n.s. | n.s. | n.s. | n.s. | 片野 |
| 処理区 | 断根処理 | | | | | | | | | | | Ca Mg土壌施用 | Ca散布年数 | 果数(n) | 平均收穫日 | 果重(g) | 地色(c.c) | 糖度(Brix) | 硬度(lb) | コルク状障害発生果数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 陥没直下 | | 内部発生 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Ca散布 | 有 | 有 | 3 | 125 | 10/11a | 730a | 3.0b | 13.2 | 4.5a | 33 | 1 | 1a | 0a | 3a | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Ca+Mg散布 | 有 | 有 | 2 | 119 | 10/11a | 732a | 3.4ab | 13.2 | 4.1b | 52 | 7 | 10ab | 2a | 13a | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 無処理 | 有 | 有 | 0 | 112 | 10/12a | 750a | 3.2b | 13.3 | 4.3a | 41 | 4 | 5ab | 2a | 13a | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対照(別樹) | 無 | 無 | 0 | 81 | 10/19b | 672b | 3.6a | 12.9 | 4.0b | 28 | 4 | 8b | 10b | 20b | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 有意性 ¹⁾ | | | | | ** | * | ** | n.s | ** | n.s | * | * | ** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 有 | 有 | | 356 | 10/12 | 737 | 3.2 | 13.2 | 4.3 | 126 | 12 | 16 | 4 | 29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 無 | 無 | | 81 | 10/19 | 672 | 3.6 | 12.9 | 4.0 | 28 | 4 | 8 | 10 | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 有意性 | | | | | ** | ** | ** | ** | ** | n.s | + | ** | ** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Ca+Mg | コルク状障害発生率(%) | | | | 水浸状障害(みつ)発生率(%) | | 果実重(g) | 地色(c.c) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 陥没直下 | | 内部発生 | | 発生率(%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 甚大 ²⁾ | 一か所以上 | 甚大 ²⁾ | 一か所以上 | 甚大 ²⁾ | 一か所以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施用 | 3.7 | 3.7 | 0.0 | 2.0 | 43.9 | 64.6 | 458.8 | 3.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 無施用 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.6 | 55.4 | 62.6 | 536.8 | 2.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ³⁾ 分散分析 | n.s. | n.s. | - | n.s. | n.s. | n.s. | n.s. | n.s. | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 圃場 | Ca+Mg | 収穫果数 | コルク状障害 | | 水浸状障害 (果) |
|-------------------|-------|------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 陥没直下 (果) | 内部発生 (果) | |
| 多発圃 | 施用1 | 19 | 2 | 2 | 3 |
| | 施用2 | 20 | 5 | 4 | 1 |
| | 無施用1 | 19 | 8 | 1 | 3 |
| 少発圃 | 無施用1 | 19 | 1 | 0 | 3 |
| | 無施用2 | 18 | 3 | 3 | 6 |
| | 無施用3 | 19 | 1 | 2 | 1 |
| ^{v)} 有意性 | | | n.s. | n.s. | n.s. |

ⁱⁱ⁾果実を赤道方向に8等分した切断面について目視で調査

^{v)}Marascuilo法: 6樹の発生果率をそれぞれ検定

【課題名】

なしスプリンクラー防除技術の確立

【内容】

なし圃に設置したスプリンクラーの防除効果と経済性について調査した。

1 作業時間

所要時間 6 5分

(薬剤調整 45分、ほ場へ移動 5分、防除機材セット 4分、機材調整 5分、薬剤散布 2分、薬剤の回収 1分、機材回収 3分)

2 病虫害発生状況 (果実)

黒星病 0/90 果、赤星病 0/90 果、芯ぐされ 0/90 果、
カラムシ 0/90 果、シクイムシ 9/90 果、ハマキムシ 1/90 果

3 果実品質

平均果重 320 g、平均糖度 13.5

【実施地区】

白岡市日勝地区

遠藤

畜産

【課題名】

高速不耕起播種機を活用したトウモロコシ二期作の実証

【内容】

8月上旬に革新工学研究センターの高速不耕起播種機によりトウモロコシ二期作目の播種を行った。除草体系を検討する予定だったが、8月中旬以降の降雨により除草剤散布ができなかった。また、湿害により収量も少なかった。

苗立調査結果

| 1m当たり 播種数 | 1m当たり 苗立数 | 苗立率 (%) |
|--------------|--------------|------------|
| 5.56 | 4.77 | 85.8 |

坪刈調査結果

| 生収量 (kg/10a) | 乾物収量 (kg/10a) |
|-----------------|------------------|
| 2,363 | 872 |

【実施地区】

深谷市荒川地区

渡辺
大宅

| | | |
|---|--|--------------|
| 茶 | <p>【課題名】 狭山茶輸出に向けた活動支援</p> <p>【内 容】</p> <p>1 輸出に関する研修会を関係団体とともに開催した。 8月30日 茶輸出の未来を考える 「日本茶の世界への輸出の現状と課題」 講師：谷本宏太郎 氏 日本茶輸出組合副理事長</p> <p>2 輸出を考えている生産者へアメリカ、EU、モンゴル、香港、中国、台湾、シンガポール、ロシア、カナダ、マレーシアの農薬残留基準値を示し、防除指導を行った。 個別相談件数 7件、対象国 10か国</p> <p>3 輸出を考えている生産者へS-GAP、J-GAP、グローバルGAPの違いについて説明し、GAPの導入について指導した。</p> <p>【実施地区】 川越農林振興センター管内</p> | 田中(江) 小川 |
| | <p>【課題名】 クワシロカイガラムシの防除支援</p> <p>【内 容】</p> <p>1 H27 年末に設置したナギナタガヤ植栽茶園の天敵の生育状況を確認し、今年の秋まきの推進を行った結果、ナギナタガヤを植栽する生産者が増加した。 ナギナタガヤ植栽茶園件数 15か所</p>  <p>ナギナタガヤうね間事例</p> <p>2 入間(2地区) 所沢(3地区)・飯能に温度計を設置して積算温度に基づく防除情報を発信(5,7,9月)し、適期防除を励行した。</p> <p>3 防除適期判定会(相談会)を設け寄生枝の検鏡を通じて防除適期情報を提供した。 防除適期判定会相談件数 30件</p> <p>4 インセクタリー植物であるハーブ(ヒソップ)のプランター栽培を検討した。</p> <p>【実施地区】 川越農林振興センター管内</p> | 田中(江) 佐々木 |

| | | |
|--|--|-----------|
| | <p>【課題名】 生産工程管理（GAP）の取り組み支援</p> <p>【内 容】</p> <p>1 入間市の間野製茶に対し、J G A P 団体認証に向けた支援を行った。</p> <p>(1) 団体認証に向け、生葉生産者との組織化を支援した。</p> <p>(2) 組合員に対しG A P の取組みに関する講習を行い、農薬の取り扱い、労働安全を中心とした指導を行った。</p> <p>(3) 団体事務局、組合員に対し、自己点検の援助及び改善指導を行った。</p> <p>J G A P 団体認証農場 2 農場、生葉生産管理指導 99 戸</p>  <p>救急救命講習（労働安全）</p> <p>2 入間くみあい製茶に対し、J G A P 団体認証の更新に向けた支援を行った。</p> <p>(1) 手順書（チェックリスト）の見直し及び事務局、生産者の役割の見直しについて支援した。</p> <p>(2) 団体による茶園の受託管理や作業受託について、受託の条件検討やオペレータの確保などの検討、助言を行った。</p> <p>3 茶業青年団に対し、S-G A P の取組を支援した。</p> <p>(1) 講習会を開催し、S-G A P への理解を深めるとともに、県のS-G A P 実践農場確認の説明を行った。</p> <p>S-G A P 取組み農場 23 農場</p> <p>【実施地区】 川越農林振興センター管内</p> | 小川 佐々木 |
|--|--|-----------|

(3) 農林振興センターの普及指導活動の支援

| 農林名 | 分野 | 内容 | 担当者 |
|------|-------|---|-------------|
| 全域 | 作物 | 1 水田経営の安定を図るため規模拡大やコスト低減に有効な技術対策を支援した。 2 大豆新品種「里のほほえみ」の安定生産技術の支援をした。 | 田中(克) 山本 |
| | 野菜 | IPM 技術導入による生産安定技術 本庄・大里・加須の3地区に対し、防虫ネット(eレッド)導入による防除体系を推進した。 導入農家数・面積 66戸 13.9ha | 阿見 齋藤 |
| | 果樹 | 果樹一般の栽培管理、防除指導を支援した。 | 片野 遠藤 |
| | 花植木 | 施設栽培の環境制御技術の向上による花きの高品質生産を目指した普及活動を進めるために①夏期の高温対策について施設内の環境制御技術、②花きの日持ち性向上対策技術について農業経営高度化研修を実施した。また、必要に応じて現地巡回し支援を行った。 | 小磯 井上 |
| | 6次産業化 | 農業の6次産業化の取組の支援 6次産業を希望する農業者等に地区相談会として基本的な研修を実施した後、経営ビジョンの策定研修を実施し、必要に応じて個別支援を実施した。 | 河野 |
| | 経営 | 農業経営体の法人化推進 農林振興センターと連携し、個別経営体および集落営農組織の法人化、スペシャリストを活用した経営相談、研修会の開催を支援した。 本年度は、農業法人数が800から900法人に増加した。うち、集落営農法人は6法人。 | 本間 |
| さいたま | 果樹 | 早期成園化技術導入者の栽培管理を支援した。 新品種(「甘太」「彩玉」「あきづき」等)の導入を支援した。 | 片野 遠藤 |
| | 花植木 | 鉢物・苗物の病虫害総合防除管理技術について支援した。病虫害防除技術担当と連携して病虫害診断支援や情報提供を実施した。 | 小磯 井上 |
| 川越 | 野菜 | コカブ根内部黒変症状対策支援 現地巡回及び生産者からの聞き取りを行い、対策について検討を行った。農技研による再現試験の結果を基に軽減対策(施肥改善、土づくり等)について平成29年度普及計画として取組むこととなった。 | 岡山 |
| | 果樹 | なし、ぶどう、うめの栽培講習会において、実技指導を支援した。 | 片野 遠藤 |
| 東松山 | 果樹 | なし栽培講習会での実技指導を支援した。 早期成園化技術導入者の栽培管理を支援した。 新品種(「甘太」「彩玉」「あきづき」等)の導入を支援した。 | 片野 遠藤 |

| | | | |
|-----|-----|--|----------------|
| 秩父 | 野菜 | いちご新系統導入支援 埼玉園い1号及・埼玉園い3号の試作農家のほ場を巡回し、生育状況と管理について技術支援を行った。 | 岡山 阿見 |
| | 果樹 | りんごの品評会において、果実審査を支援した。 りんごのせん定講習会において、実技指導を支援した。 | 片野 遠藤 |
| 本庄 | 果樹 | 早期成園化技術導入者の栽培管理を支援した。 なし新品種（「甘太」「彩玉」「あきづき」等）の導入を支援した。 | 片野 遠藤 |
| | 花植木 | 主要品目の安定生産に向けた栽培管理技術支援 クジャクソウの収量及び品質向上に向けて助言を行い、次年度の対策について検討した。 | 小磯 井上 |
| | 畜産 | 飼料用米地域内流通支援 飼料用米地域内流通促進に向けた低コストな調製方法として、粳米サイレージ調製の実演を支援した。 | 渡辺 大宅 |
| 大里 | 果樹 | くりのせん定講習会において、実技指導を支援した。 | 片野 遠藤 |
| | 花植木 | 球根切り花の日持ち性向上技術の導入支援 病害虫の総合防除管理技術支援 ユリ切花の高温期の日持ち性向上として夜冷栽培技術、実証ほ運営について支援した。 チューリップの日持ち性向上技術として前処理剤の利用方法及び効果確認を施設園芸担当と連携して支援した。 | 小磯 井上 |
| | 畜産 | 飼料用イネの安定生産支援 WCS用高糖分イネ現地実証ほの設置・調査等を支援した。 | 渡辺 大宅 |
| 加須 | 作物 | 水稻の高温障害対策として、人工衛星等ICT技術を活用し気象変動に強い水稻の産地づくり対策を支援した。 | 田中(克) 山本 |
| | 果樹 | 早期成園化技術導入者の栽培管理を支援した。 新品種（「甘太」「彩玉」「あきづき」等）の導入を支援した。 | 片野 遠藤 |
| | 畜産 | 水田を活用した飼料作物生産と地域内流通支援 実取りトウモロコシの品種、栽培技術、収穫技術について情報提供した。 | 渡辺 大宅 |
| 春日部 | 野菜 | は種時の温度条件の違いによる大豆シストセンチュウの発生のメカニズムが解明され、防除体系が明確になり増収技術の確立を支援した。 | 齋藤 阿見 岡山 |
| | 果樹 | 早期成園化技術導入者の栽培管理を支援した。 新品種（「甘太」「彩玉」「あきづき」等）の導入を支援した。 | 片野 遠藤 |
| | 花植木 | シクラメンの栄養診断による品質向上に係る、実証ほの運営や調査方法・結果の見方等について現地巡回を行い支援した。 | 小磯 井上 |

(4) 調査研究
ア 現地調査

| No | 課題名 | 内容 | 担当者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----------------------------------|---|----------------|-----------|---|--------|-----------|------|-----------------|-----|-------|--------|------|-----------------------------------|----|-------|---------|------|-----------------|-----|-------|---------|------|-----------------|----|-------|---------|------|-----|-------------|-------|--------|----------|
| 1 | 難防除害虫の薬剤抵抗性の検証 | きゅうり等の果菜類については、コナジラミ類の発生消長が解明された。 また、ネギについては4地域（深谷市・本庄市・熊谷市（妻沼地区）・吉川市）地域間の薬剤使用履歴によるアザミウマ類の薬剤抵抗性の差異が解明され、抵抗性密度に対応した防除体系を確立することができた。 | 齋藤 阿見 岡山 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | なし「彩玉」の中玉生産と短期冷蔵貯蔵による高品質化 | なし「彩玉」の中玉生産の現地実証と短期冷蔵による糖度向上効果を確認した。 本年度は、対照区の果実もやや小さくなり試験区との有意差が認められなかった。 短期貯蔵においては、収穫時糖度 12.7 度であったものが、冷蔵貯蔵 30 日後には、14.8 度と高糖度となった。 表1 摘果時期・摘果間隔を変えた「彩玉」の果重と糖度 <table border="1"> <thead> <tr> <th>供試樹</th> <th>試験区</th> <th>n</th> <th>果重 (g)</th> <th>糖度 (Brix)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C140</td> <td>6/10摘果 (20cm/果)</td> <td>104</td> <td>513.7</td> <td>12.1 c</td> </tr> <tr> <td>C140</td> <td>6/10摘果 (20cm/果) +6/30 (25cm/果)</td> <td>67</td> <td>533.6</td> <td>12.4 bc</td> </tr> <tr> <td>C140</td> <td>6/30摘果 (20cm/果)</td> <td>135</td> <td>539.5</td> <td>12.3 bc</td> </tr> <tr> <td>C140</td> <td>6/30摘果 (25cm/果)</td> <td>22</td> <td>533.2</td> <td>12.7 ab</td> </tr> <tr> <td>C141</td> <td>対照区</td> <td>331 (133糖度)</td> <td>521.0</td> <td>12.8 a</td> </tr> </tbody> </table> *: 1%水準で異符号間に有意差有り | 供試樹 | 試験区 | n | 果重 (g) | 糖度 (Brix) | C140 | 6/10摘果 (20cm/果) | 104 | 513.7 | 12.1 c | C140 | 6/10摘果 (20cm/果) +6/30 (25cm/果) | 67 | 533.6 | 12.4 bc | C140 | 6/30摘果 (20cm/果) | 135 | 539.5 | 12.3 bc | C140 | 6/30摘果 (25cm/果) | 22 | 533.2 | 12.7 ab | C141 | 対照区 | 331 (133糖度) | 521.0 | 12.8 a | 遠藤 片野 |
| 供試樹 | 試験区 | n | 果重 (g) | 糖度 (Brix) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C140 | 6/10摘果 (20cm/果) | 104 | 513.7 | 12.1 c | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C140 | 6/10摘果 (20cm/果) +6/30 (25cm/果) | 67 | 533.6 | 12.4 bc | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C140 | 6/30摘果 (20cm/果) | 135 | 539.5 | 12.3 bc | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C140 | 6/30摘果 (25cm/果) | 22 | 533.2 | 12.7 ab | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C141 | 対照区 | 331 (133糖度) | 521.0 | 12.8 a | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 花き生産におけるヒートポンプの利用 | 省エネルギーおよび施設環境対策を推進するために現地におけるヒートポンプの効果的活用に向けて大里農林振興センター、さいたま農林振興センター、川越農林振興センターと連携して事例調査を行った。 (1)調査：バラ経営2件 ユリ経営2件 (2)内容：冬季暖房時における施設内温度の状況調査 (3)調査結果の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒートポンプと暖房機を併用している場合、温度センサの設置位置が異なる事例があったので注意する。 ・施設面積に対して能力が不足している場合、温度ムラが大きいことがわかった。 ・循環扇が設置されているにもかかわらず設置位置に改善の必要がある場合が見られた。  | 小磯 井上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 4 | <p>コショウランの日持ち性向上対策</p> | <p>コショウランは年間を通じて出荷販売されているが、特に夏期における日持ちの低下が問題となっていることから、生産者が導入できる日持ち性向上対策について検討した。</p> | <p>井上 小磯</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------|--|-------------------|-----|---------------------|----|---|---|------|-----|-----|-----|-----|-----|---------------------|-----|-----|-----|-----|-----|------------|--|----|----|---|---|----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;">  <p style="text-align: center;">コショウランの日持ち性試験</p> </div> <div style="width: 35%;"> <p>① 1-MCP 処理+エチレン処理 ② 1-MCP 処理 ③ STS 散布+エチレン処理 ④ STS 散布 ⑤ エチレン処理 ⑥ 無処理</p> <p>STS 散布 : 8月10日 1-MCP 処理 : 8月22日 エチレン処理 : 8月23日 写真撮影 : 8月30日</p> </div> </div> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | <p>紅茶・半発酵茶等の製造技術改善</p> | <p>紅茶製造においては茶葉を萎らせる萎凋工程が重要なため、品質の安定化を図るため萎凋状態と品質について調査を行った。また、紅茶生産者による連絡会議を組織化し、情報提供・共有を図った。</p> | <p>小川 佐々木</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>紅茶製造用茶葉の摘採期が梅雨期と重なるため、多湿状態で萎凋が十分に進まず、香味が低下しやすいため、重量減により茶葉の萎凋状態を確認し、紅茶品質の安定を図ることが重要である。</p> <p>(1) 萎凋状態の把握と製茶品質への影響 萎凋の目安：茶葉を薄く広げ、若いリンゴのようなさわやかな香りが出るまで萎らせる。</p> <p>表1 萎凋の違いによる紅茶品質の評価（※評価は5点満点）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>重量減</th> <th>外観</th> <th>水色</th> <th>香</th> <th>味</th> <th>コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35%</td> <td>3.1</td> <td>3.5</td> <td>3.4</td> <td>4.0</td> <td>やや個性に乏しい、 やや渋みあり</td> </tr> <tr> <td>30%</td> <td>2.6</td> <td>3.3</td> <td>3.0</td> <td>3.0</td> <td>土臭いくぐもった臭い</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 中山間地での紅茶生産は比較的冷涼な気候により、味、香りが優れる傾向がある。</p> <p>表2 中山間地の紅茶の品質傾向（※評価は5点満点）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>外観</th> <th>水色</th> <th>香</th> <th>味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対照</td> <td>3.4</td> <td>3.6</td> <td>3.2</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>秩父紅茶</td> <td>3.5</td> <td>3.5</td> <td>3.3</td> <td>3.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 紅茶生産者による連絡会議の組織化 さやま紅茶連絡会 設立(11月)</p> | | | | 重量減 | 外観 | 水色 | 香 | 味 | コメント | 35% | 3.1 | 3.5 | 3.4 | 4.0 | やや個性に乏しい、 やや渋みあり | 30% | 2.6 | 3.3 | 3.0 | 3.0 | 土臭いくぐもった臭い | | 外観 | 水色 | 香 | 味 | 対照 | 3.4 | 3.6 | 3.2 | 3.4 | 秩父紅茶 | 3.5 | 3.5 | 3.3 | 3.5 |
| 重量減 | 外観 | 水色 | 香 | 味 | コメント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 35% | 3.1 | 3.5 | 3.4 | 4.0 | やや個性に乏しい、 やや渋みあり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30% | 2.6 | 3.3 | 3.0 | 3.0 | 土臭いくぐもった臭い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 外観 | 水色 | 香 | 味 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対照 | 3.4 | 3.6 | 3.2 | 3.4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 秩父紅茶 | 3.5 | 3.5 | 3.3 | 3.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

6 茶の品質に影響を及ぼす気象条件の検証 茶の品質維持には、茶芽の特質によって製茶機械の操作を変える必要があるため、気象条件が茶の特質に影響を検証し、製茶農家に製造技術情報として提供した。 佐々木 田 中 (江)

茶の特性は、3月下旬以降の降水量によって変化することが明らかになった。近年は、気象変化が激しいことが多く、気象条件で変化する茶葉の特性を早めにつかみ、製造などに生かすことで、品質の振れを最小限にとどめることが重要になる。

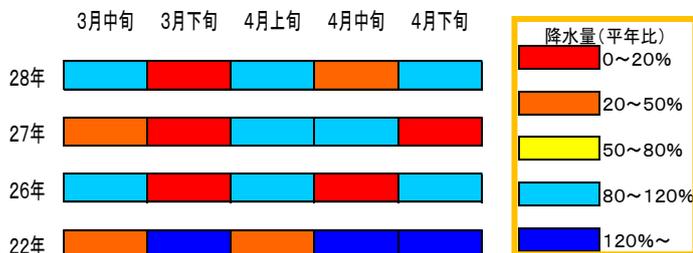


図1 旬別降水量

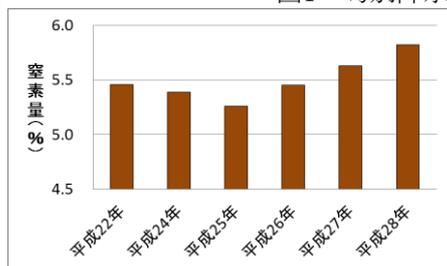


図2 出品茶の窒素量の変化

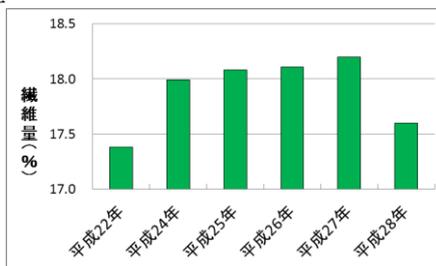


図3 出品茶の繊維量の変化

7 茶の有害線虫類の対策技術の確立 茶園におけるセンチウ被害は成木園で使用できる薬剤が少ないため、施肥によるセンチウ被害の軽減が可能かどうか検討した。 田 中 (江)

米ぬかと石灰窒素を組み合わせた施肥がチャネグサレセンチュウの密度を下げるのに効果的であった。また製茶品質に問題もなかった。

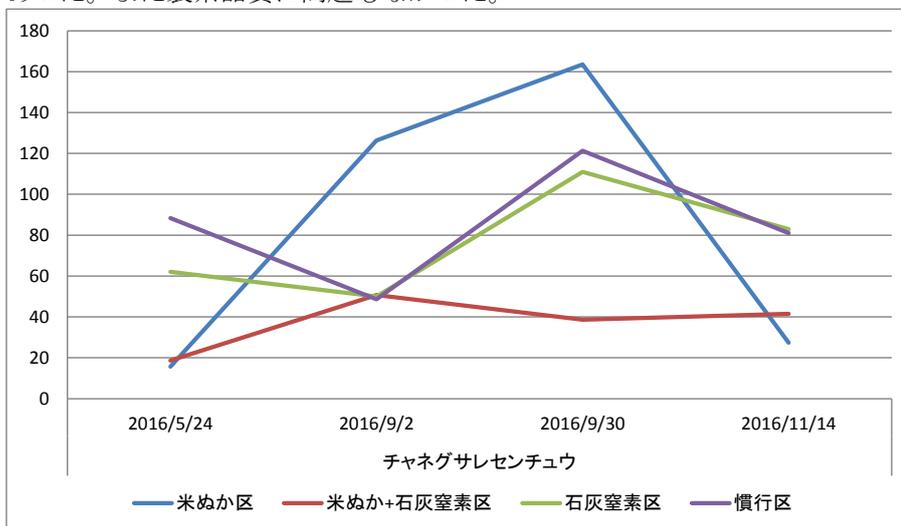


図1 チャネグサレセンチュウの密度変化

表1 一番茶の製茶品質(官能審査結果)

| 区 | 外観 | 香気 | 水色 | 滋味 | 合計 |
|-----------|----|----|----|----|----|
| 米ぬか区 | 19 | 19 | 19 | 19 | 76 |
| 米ぬか+石灰窒素区 | 20 | 20 | 20 | 18 | 78 |
| 石灰窒素区 | 17 | 18 | 18 | 20 | 73 |
| 慣行区 | 18 | 19 | 17 | 17 | 71 |

| | | | |
|---|--------------|---|----|
| 8 | 普及活動方法に関する調査 | <p>関東ブロック 10 都県における、普及活動外部評価の実施状況を調査し、望ましい外部評価のあり方を検討した。調査研究成果は、全国普及活動調査研究会で発表し、調査研究報告書を EK-system ホームページに掲載し、成果の概要を技術と普及に掲載した。</p> | 本間 |
| <p>(1)目的</p> <p>我が国の農業は、農業就業者の減少や高齢化、農業所得の減少、荒廃農地の増加、集落機能の低下、地球温暖化や災害への対応及び東日本大震災からの復興など多くの問題を抱えており、この問題解決に向けて普及事業に対する期待は一層大きくなっている。</p> <p>このような中、平成27年5月に策定された「協同農業普及事業の運営に関する指針」（以下、運営指針）の第5「普及指導活動の方法に関する基本的事項」の中で、外部評価の実施に関する考え方が明記された。さらに、「協同農業普及事業の実施についての考え方（ガイドライン）」（以下、ガイドライン）に示された外部評価に関する記述については、より具体的な内容に変更されている。</p> <p>これを受けて、各都道府県では外部評価の実施方法の見直しなどの対応をとっている。一方で、都道府県が試行錯誤により外部評価を実施してきた経緯やガイドラインの捉え方に幅があることなどから、実施方法は様々である。</p> <p>そこで、関東ブロックの各都県における外部評価の実施状況を分析することにより、実施の実態を総括するとともに、効果的な実施方法を検討し、今後の普及指導活動に活用することを調査研究の目的とする。</p> <p>(2)方法</p> <p>①外部評価の実施の経過・実態に関する調査 調査様式により、各都県におけるこれまでの外部評価の実施経過や現在の実施状況に関する情報を収集した。併せて、実施要領や開催計画、評価表、評価結果報告等の資料についても収集した。</p> <p>②実施状況の分析 収集した資料をもとに、各都県における外部評価の実施による効果、問題点、改善点を中心に討議を行った。</p> <p>討議にあたっては、外部評価委員会の開催時期や評価対象とする課題、評価の方法、評価結果の反映状況などの項目に沿って、実施方法の特徴を整理し、傾向を把握した。また、外部評価の実施における農業革新支援専門員（以下、専門員）の役割についても考察した。</p> <p>③事例調査 関東ブロックにおける外部評価の事例について、実施状況を詳細に調査するため、本研究会から外部評価委員会にオブザーバーとして参加し、傍聴することとした。</p> <p>④調査研究の活用 本調査研究会を通して収集した情報、討議した内容を、各都県の外部評価の改善に活用した。特に、東京都については、昨年度まで外部評価を実施していないため、今年度初めて実施するにあたり、これらの情報を有効に活用し、円滑な実施につなげるよう工夫した。</p> <p>(3)調査研究実施の時期と内容</p> <p>①会議の開催</p> <p>第1回 平成28年6月24日（金） さいたま新都心合同庁舎2号館会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度研究テーマの検討 ・調査方法、役割分担、スケジュール等の検討 <p>第2回 平成28年10月13日（木） さいたま新都心合同庁舎2号館会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各都県における外部評価の実施状況の報告 ・外部評価実施上の課題の検討 <p>第3回 平成28年12月2日（金） さいたま新都心合同庁舎2号館会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各都県における外部評価実施上の問題点、改善策を分析・検討 <p>第4回 平成29年2月7日（水） さいたま新都心合同庁舎2号館会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分析結果のとりまとめ ・発表資料に対する意見交換 <p>②事例調査と調査研究の活用 平成29年1月19日に開催された平成28年度茨城県普及活動検討会（外部評価）に東京都から参加した。また、東京都の外部評価委員会は、平成29年1月26日に開催された。</p> | | | |

イ 現地実証

| No | 課題名 | 内容 | 担当者 |
|----|------------------------------|--|----------------|
| 1 | 麦類の多収阻害要因の解明と改善指標の開発 | 土壌物理性や土壌水分等を指標とした麦類の多収阻害要因の改善技術の組み立てのため、現地栽培実態調査ほ場 10 か所の設置、調査を行った。 | 田中(克) 山本 |
| 2 | 気候変動適応産地づくり支援(水稻) | 気象衛星データ等を技術を活用し、早期栽培ではコシヒカリ(4ほ場)、早植栽培では彩のかがやき(4ほ場)を調査し、いち早く水稻の高温障害を予測することにより、気候変動に強い水稻の産地づくり対策を支援した。 | 田中(克) 山本 |
| 3 | 在来種えだまめの産地化支援 | <p>秋えだまめは、在来種を中心に全国的なブームとなり県内においても取り組みが進んでいる。新たな展開を図る地域もあり地域に即した支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定した生産技術の支援 高畝播種による湿害対策の実践と未導入地域への技術紹介 実需、消費者への認知向上、地域外への認知向上への取り組み 産地内での認知向上として直売流通パンフの作成支援 機能性成分の確認による PR 資料の作成 えだまめの持つ機能性成分の成分分析のを3地区の在来えだまめで実施。次年度の販促材料として提供支援 加工品開発に向けた支援 在来種えだまめにおける莢剥き機の作業技術を検討 剥き豆を使用した加工品づくりを検討し、えだまめジェラートを試作。商品化するとともに製品の PR と評価を兼ねた試食会を実施。 | 齋藤 阿見 岡山 |
| 4 | 都市近郊型施設園芸における ICT 活用による生産力強化 | ここ数年炭酸ガス発生装置の導入が増加するがその施用法については炭酸ガスの動き、植物体の生理に即していない施用方法が見られる。そのため、経済性省力性を考慮した施用技術の確立が求められている。そこ炭酸ガス局所施用技術及び安価で導入可能な UECS プラットフォームを活用した統合環境制御技術の現地実証により、技術の可視化による技術確立を開始した。 | 齋藤 阿見 岡山 |

実証成果の詳細

ア 実施状況

北川辺実証ほ場の設置において、生産者と現行の栽培様式と改善する設置方法について検討し、既存の環境制御機器を活用したUECS環境制御装置によるリニューアルを9月に始め、10月に新たに導入するCO2局所施用ダクトファンを設置。その後、各種センサ、モニタ等の設置を随時行った(図F-9-1)。また、UECSプラットフォーム上でCO2ダクトファン等各装置の動作確認を行い、各装置との連動動作確認を生産者と実施した。

収量、品質性については、出荷データとほ場管理データとを反映させた効果確認につなげるため、地元共同選果施設の協力を得た。

(ア) 供試品種 とまと「麗容」(台木 フレンドシップ) 購入苗(ツイン苗(ベルグアース))

(イ) 栽培施設 ハウス(軒高2.3m、間口24m×奥行45m 1000m²)

(ウ) 供試設備 UECS仕様観測及び制御ノード一式、CO2局所施用ダクトファン(N社製DF-450T)

(エ) 耕種概要

定植：平成28年9月17日(第1花房開花始め)、収穫：1月13日～

栽培法：土耕栽培、全面マルチ

施肥：全面全層施肥(基肥量 N:32kg/10a、P205:36kg/10a、K20:34kg/10a)

栽植密度：畝間190cm×株間45cm(1,170株/10a)、1条植え2本仕立て

誘引法：振分け直立誘引つるおろし(ワイヤー高：180cm)

(オ) 調査方法

1) CO2度分布の測定 ポリダクト：折径10cm、孔径5mm(左右真横に配置、孔ピッチ20cm)を使用

・栽培ベッドごと2本仕立てに誘引した中央にポリダクトを通し、ダクトエンドを絞りCO2を施用した。

・CO2施用装置は灯油燃焼方式装置(N社製CG554TS(発生量8.07kg/h))+ダクトファンを用いた。

・CO2施用装置の制御は410ppmで燃焼稼働、460ppmで燃焼終了とした。

・CO2施用装置及びダクトファンを稼働させ、測定点1箇所につきCO2センサー(T社製CO2Recorder TR-76Ui)により30秒間隔で測定した。

・CO2施用装置及びダクトファンを稼働させ、測定点1箇所につき風速センサー(testo社製405i)により一定時間の平均風速を確認した。

2) 収量品質性及びCO2制御による低コスト性の確認

・選果場による規格等級別データとの連携により収量・収益性の確認を行なった。

・CO2施用装置燃料使用量について週給油日を固定し消費量の実証区、対照区毎に確認するとともに、CO2稼働時間積算データと連携し稼働時間と燃料消費の低減を確認した。

イ 得られた研究成果

(ア) 本実証により導入した基本的な測定ノード、制御ノードおよびCO2局所施用の構成は図1のとおりとなる。導入された装置の動作確認および、Cloud表示の確認を実施した。その結果、CO2測定及び制御について、正しく動作していることが確認できた(図F-9-2)。

(イ) 子ダクト内の風速について確認したところ手前5.8m/s、中央3.2m/s、奥1.2m/sになっていた。垂直方向ではダクト位置より上で0.1m/s前後の風速を確認できた。また、葉の間においても0.05～0.1m/sで確認された。

(ウ) 樹高位置によるCO2濃度の分布を確認したところ(図3)、CO2濃度が下がりCO2発生装置が稼働した後に、樹高差による濃度の分布差が生じていた。その後、CO2供給により濃度の上昇が見られるが樹高位置により濃度差が生じていた。H95cmの樹高位置ではほぼ常に低くなり、CO2濃度分布はH65cm<H155cm<H125cmの順となり、その差は20～30ppm以上になる時間帯もあった。

一方で、目標とするCO2濃度になり、燃焼が停止されるとCO2の減少は燃焼時と比べ差は僅かになる傾向であった。

(エ) Leaf Porometer SC-1(Decagon社製)でCO2濃度調査樹高位置の気孔コンダクタンスを確認したところ(図4)、H95cm、H65cm、H155cm、H125cmの位置の順で高く、図3のCO2分布とは一致するものではなかった。各測定部位に配置された葉のコンダクタンスと葉の総面積に要因とするものであり、これにより植物体が消費するCO2量により濃度差が生じていた。

(オ) ほぼ第1果房が終了した段階で実証区の収穫果は9668個、対照区で6327個となり、34%の増収になっており。M以上の果実比は実証区で79.6%、対照で73.2%となった。

(カ) CO2制御による低コストの効果については灯油消費量でみると調査対象期間(2016.12.28～2017.2.8)については実証区で367ℓ、対照区で549ℓとなり33%の削減となった。

ウ 考察

現地実証ほ場において、機器導入後の動作確認を実施する中でダクトファンによるCO2局所施用によるとまと樹間周辺のマイクロ気象条件の見える化をすすめることで、環境制御における最適条件の可能性が明確になった。加えて生育調査による生体情報の基礎データを収集していくとともに、3月下旬以降の換気機会が多い栽培条件下においての効率的なCO2施用方法についての知見を得ていく必要がある。

この実証内容については、実証地区の生産者のみでなく、県内の生産者が関心を持っており、導入に当たってのカウンセリング、既存施設、機器部材の老朽度などのチェックマニュアルの整備性を感じており普及推進上の課題としてマニュアルづくりを位置づけていくこととする。

5 果樹類の根圏制御栽培法を活用した積極的改植プロジェクト

栃木県の開発した根圏制御栽培法をなしにおいて、主に灌水を制御することにより高品質化が図れるか検討した。
満開後 90～105 日後に灌水を抑制することにより糖度が高まることが確認できた。

片野 遠藤

表 C-2-(1)-7 各試験区における収穫果実の品質

| 区 | かん水方法 ²⁾ | 追肥 ³⁾ | 樹本数 | 着果数 | 果重 (g) | | 収量 (kg/m ²) | 地色 | 糖度 (Brix) | pH | 硬度 (lbs) | 官能試験 食味 ⁴⁾ | | |
|----------------------------|---------------------|------------------|---------------------|------|--------|---------------------|-------------------------|--------|-----------|-----|----------|-----------------------|--------|--------|
| | | | | | n | 7/25 収穫直前 | | | | | | | n | 収穫果 |
| 1区 | D日射 | 圃主慣行 | 11 | 52ab | 40 | 321cd ^{w)} | 23 | 379abc | 2.79ab | 2.8 | 12.7 | 5.4 | 4.6 a | 2.3 a |
| 2区 | 灌水チューブ | 圃主慣行 | 11 | 35c | 40 | 387ab | 17 | 410abc | 2.23b | 2.6 | 12.3 | 5.4 | 4.3 ab | 2.1 ab |
| 3区 | D | 無 | 11 | 41bc | 40 | 390a | 20 | 419ab | 2.63ab | 2.7 | 12.2 | 5.4 | 4.6 a | 2.0 ab |
| 4区 | D7/2～17抑制 | 圃主慣行 | 11 | 58ab | 40 | 345bc | 20 | 370abc | 3.31a | 2.9 | 12.4 | 5.4 | 4.5 ab | 2.2 ab |
| 5区 | D7/2～17抑制 | D液肥 | 11 | 56ab | 40 | 342c | 20 | 369abc | 3.16ab | 2.7 | 12.5 | 5.3 | 4.3 ab | 2.1 ab |
| 6区 | D7/2～17抑制 | 無 | 11 | 54ab | 40 | 368abc | 20 | 368abc | 3.26a | 2.7 | 12.6 | 5.4 | 4.3 ab | 2.3 a |
| 7区 | D7/19～抑制 | 圃主慣行 | 4 | 69a | 40 | 296d | 20 | 360bc | 3.38ab | 2.7 | 12.2 | 5.3 | 4.4 ab | 2.2 ab |
| 8区 | D7/19～抑制 | D液肥 | 11 | 59a | 40 | 325cd | 20 | 362bc | 3.16ab | 2.4 | 12.4 | 5.4 | 4.2 b | 1.7 b |
| 9区 | D7/19～抑制 | 無 | 11 | 61a | 40 | 329cd | 20 | 356c | 3.30a | 2.5 | 12.2 | 5.4 | 4.2 b | 2.1 ab |
| 平棚露地GA処理 | | | | | - | - | 10 | 443a | | 3.0 | 12.7 | 5.4 | 4.3 ab | 2.3 ab |
| 分散分析 ⁵⁾ | | | | | ** | * | * | ** | n. s. | + | n. s. | * | * | |
| 2 要因分析 (2, 3, 4, 6, 7, 9区) | | かん水 | 慣行 (2, 3区) | | 389a | | 415a | | 12.2 | | 4.4 | | 2.1 | |
| | | | 7/2～17抑制 (4, 6区) | | 356b | | 369b | | 12.5 | | 4.4 | | 2.3 | |
| | | | 7/19～抑制 (7, 9区) | | 312c | | 358b | | 12.2 | | 4.3 | | 2.2 | |
| | | | 分散分析 | ** | ** | + | ns | ns | | | | | | |
| | | 追肥 | 有 (2, 4, 7区) | | 343 | | 378 | | 12.3 | | 4.4 | | 2.2 | |
| | | | 無 (3, 6, 9区) | | 363 | | 380 | | 12.4 | | 4.4 | | 2.2 | |
| | | | 分散分析 | * | ns | ns | ns | ns | | | | | | |
| (4, 5, 6, 7, 8, 9区) | | かん水抑制 | 7/2～17抑制 (4, 5, 6区) | | 352 | | 369 | | 12.5 | | 4.4 | | 2.2 | |
| | | | 7/19～抑制 (7, 8, 9区) | | 317 | | 359 | | 12.3 | | 4.3 | | 2.0 | |
| | | | 分散分析 | ** | ns | + | * | + | | | | | | |
| | | 追肥方法 | かん水 (4, 7区) | | 320b | | 365 | | 12.3 | | 4.4 | | 2.2 | |
| | | | 点滴 (5, 8区) | | 334ab | | 366 | | 12.5 | | 4.3 | | 1.9 | |
| | | | 無処理 (6, 9区) | | 348a | | 362 | | 12.4 | | 4.3 | | 2.2 | |
| | | | 分散分析 | * | ns | ns | ns | ns | | | | | | |

²⁾かん水量：1区は日射計連動、2区は慣行かん水チューブにより32L/樹、4～6区は7/2～17にかけて抑制、7～9区は7/19～収穫期にかけて抑制 Dはドリップかん水
³⁾追肥：圃主慣行は液肥：リンカリゴルド(P:15%, K:1%, Mg:0.01%, B:0.01%)をジョーロで2L/樹wを4回施肥、D液肥はドリップによる液肥混入(慣行と等量)、無は無施用
⁴⁾**1%、*5%水準で有意差あり。 w)Tukey-HSD法：異符号間に5%水準で有意差有り。
⁵⁾食味は3段階評価で、良を3、中を2、劣を1として評価した

6 WCS専用高糖分イネの現地実証

西日本農研育成の「たちすずか」5か所169a、「つきすずか」(中国飼219号)2か所66aの現地実証ほを設置して現地適応性を検討した。

渡辺 大宅

坪刈乾物収量は「たちすずか」が1,505kg/10a、「つきすずか」が1,572kg/10aで同等で、「はまさり」の1,160kg/10aより多かった。「たちすずか」は箱施薬でウンカ類を防除しても若干イネ縞葉枯病の発生が見られたが、「つきすずか」では認められなかった。「たちすずか」の種子流通量が増えたため、現地では「はまさり」から「たちすずか」への転換が進みつつある。

現地実証ほ坪刈結果

| 市町村 | 品種 | 移植日 (月/日) | 基肥N (kg/10a) | 出穂期 (月/日) | 調査日 (月/日) | 熟期 | 草丈 (cm) | 稈長 (cm) | 穂長 (cm) | 茎数 (本/m ²) | 穂孕率 (%) | 生草収量 (kg/10a) | 乾物率 (%) | 穂重割合 (DM%) | 乾物収量 (kg/10a) | 乾物茎葉 (kg/10a) |
|-----|----------|-----------|--------------|-----------|-----------|-----|---------|---------|---------|------------------------|---------|---------------|---------|------------|---------------|---------------|
| 上里町 | | 6/17 | 8.4 | 9/15 | 10/12 | 糊熟期 | 158 | 125 | 15.2 | 303 | 78 | 4,171 | 35.3 | 10.6 | 1,473 | 1,317 |
| 熊谷市 | | 6/26 | 8.4 | 9/17 | 10/12 | 糊熟期 | 154 | 118 | 13.5 | 297 | 83 | 4,905 | 31.9 | 3.0 | 1,563 | 1,516 |
| 熊谷市 | たちすずか | 6/24 | 7.0 | 9/16 | 10/12 | 糊熟期 | 148 | 109 | 16.2 | 245 | 91 | 4,558 | 34.6 | 6.4 | 1,575 | 1,474 |
| 熊谷市 | | 6/27 | 8.4 | 9/15 | 10/6 | 糊熟期 | 139 | 105 | 16.4 | 230 | 95 | 3,955 | 33.6 | 15.2 | 1,328 | 1,127 |
| 熊谷市 | | 6/27 | 5.6 | 9/15 | 10/6 | 糊熟期 | 153 | 117 | 15.1 | 356 | 94 | 5,443 | 29.1 | 8.5 | 1,584 | 1,449 |
| 熊谷市 | つきすずか | 6/27 | 6.3 | 9/15 | 10/6 | 糊熟期 | 146 | 112 | 16.1 | 299 | 95 | 4,271 | 33.7 | 14.8 | 1,440 | 1,227 |
| 美里町 | | 7/3 | 11.2 | 9/13 | 10/12 | 糊熟期 | 154 | 116 | 13.7 | 305 | 53 | 4,802 | 35.5 | 5.1 | 1,705 | 1,618 |
| 美里町 | はまさり(参考) | 6/28 | 11.2 | | 10/12 | 黄熟期 | 120 | 97 | 19.4 | 457 | 100 | 3,603 | 32.2 | 39.5 | 1,160 | 702 |

| 7 | <p>茶の IPM 現地実証</p> | <p>ハマキガ類の総合防除技術の確立のため、現地茶園にハマキコンロープ区(ハマキコンロープ設置と顆粒病ウイルス散布)10a と対象区(慣行防除)10a の実証ほを設置し、調査した。</p> | <p>田中(江)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------|--|----------------------|---------|-------------|-------------------|-------------------|-----|-----------|-------------------|---------------------|--------|-------|---|-----|-----|-----|-------------------|-----|-----|-------------------|---------------------|-----------|------|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|--------|----|-----|-------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|-------|------------|-----|------|------|-------------------|----|-----|-----|-----|-------|--------|-----|----|-----|------|----|-----|----|-----|------|---|----|----|----|-------|----|----|----|----|-------|----|----|-----------|------|-------|-----|-----|-----|----------|------|-----|-----|------|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-------|----|-----|-----|-----|-------|-----|------|-----|-----|-------|-----|-----|---|------|--------|-----|-----|-----|----|--------|---|----|---|----|--------|---|---|---|---|-------|---|---|---|----|--------|---|----|---|----|----|-----|------|-----|------|----------|------|--|------|--|------------------|----------|----------|--|---------|--|-------|-------------|-------|-------------|--|------|-----|-----|---|---|--|---|-----|-----|-----|---|
| <p>1 発消長調査 全期間を通じてハマキコンロープ区の方が対照区に比べて、チャハマキおよびチャノコカクモンハマキの発生が少なく、誘因阻害率はチャハマキが73.6%、チャノコカクモンハマキが88.2%と高い交信攪乱効果を示した。</p> <p>2 被害調査 ハマキコンロープ区が対照区に比べて巻葉数、幼虫発生密度ともに少ない傾向であった。</p> <p>表1 チャハマキ・チャノコカクモンハマキの誘引数と誘引阻害率</p> <table border="1" data-bbox="271 560 774 1064"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設置月日</th> <th colspan="2">チャハマキ</th> <th colspan="2">チャノコカクモンハマキ</th> </tr> <tr> <th>ハマキコンロープ区</th> <th>対照区</th> <th>ハマキコンロープ区</th> <th>対照区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>5月24日</td><td>1</td><td>149</td><td>0</td><td>43</td></tr> <tr><td>5月31日</td><td>0</td><td>37</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>6月7日</td><td>153</td><td>205</td><td>0</td><td>88</td></tr> <tr><td>6月14日</td><td>251</td><td>391</td><td>38</td><td>214</td></tr> <tr><td>6月21日</td><td>106</td><td>424</td><td>56</td><td>650</td></tr> <tr><td>6月28日</td><td>31</td><td>420</td><td>63</td><td>425</td></tr> <tr><td>7月5日</td><td>4</td><td>246</td><td>2</td><td>506</td></tr> <tr><td>7月12日</td><td>0</td><td>24</td><td>2</td><td>37</td></tr> <tr><td>7月19日</td><td>27</td><td>61</td><td>1</td><td>67</td></tr> <tr><td>7月26日</td><td>67</td><td>164</td><td>16</td><td>110</td></tr> <tr><td>8月2日</td><td>73</td><td>167</td><td>15</td><td>243</td></tr> <tr><td>8月9日</td><td>1</td><td>10</td><td>3</td><td>30</td></tr> <tr><td>8月16日</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>10</td></tr> <tr><td>8月23日</td><td>4</td><td>7</td><td>0</td><td>16</td></tr> <tr><td>8月30日</td><td>13</td><td>146</td><td>0</td><td>29</td></tr> <tr><td>9月6日</td><td>71</td><td>357</td><td>57</td><td>244</td></tr> <tr><td>9月13日</td><td>73</td><td>89</td><td>99</td><td>561</td></tr> <tr><td>9月21日</td><td>17</td><td>85</td><td>18</td><td>180</td></tr> <tr><td>9月27日</td><td>1</td><td>31</td><td>4</td><td>95</td></tr> <tr><td>10月4日</td><td>4</td><td>61</td><td>1</td><td>114</td></tr> <tr><td>10月11日</td><td>0</td><td>40</td><td>0</td><td>35</td></tr> <tr><td>10月19日</td><td>2</td><td>46</td><td>2</td><td>92</td></tr> <tr><td>10月27日</td><td>0</td><td>5</td><td>0</td><td>9</td></tr> <tr><td>11月2日</td><td>1</td><td>5</td><td>0</td><td>18</td></tr> <tr><td>11月10日</td><td>4</td><td>42</td><td>0</td><td>37</td></tr> <tr><td>合計</td><td>331</td><td>1255</td><td>216</td><td>1623</td></tr> <tr><td>誘引阻害率(%)</td><td>73.6</td><td></td><td>88.2</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>表2 チャハマキ被害調査</p> <table border="1" data-bbox="798 974 1412 1052"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ハマキコンロープ区 対照区</th> <th rowspan="2">巻葉数/摘採面㎡</th> <th colspan="2">幼虫数/摘採面㎡</th> <th colspan="2">蛹数/摘採面㎡</th> </tr> <tr> <th>チャハマキ</th> <th>チャノコカクモンハマキ</th> <th>チャハマキ</th> <th>チャノコカクモンハマキ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>4.13</td><td>2.6</td><td>0.1</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td></td><td>7</td><td>3.1</td><td>0.6</td><td>0.1</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> | | | | 設置月日 | チャハマキ | | チャノコカクモンハマキ | | ハマキコンロープ区 | 対照区 | ハマキコンロープ区 | 対照区 | 5月24日 | 1 | 149 | 0 | 43 | 5月31日 | 0 | 37 | 0 | 0 | 6月7日 | 153 | 205 | 0 | 88 | 6月14日 | 251 | 391 | 38 | 214 | 6月21日 | 106 | 424 | 56 | 650 | 6月28日 | 31 | 420 | 63 | 425 | 7月5日 | 4 | 246 | 2 | 506 | 7月12日 | 0 | 24 | 2 | 37 | 7月19日 | 27 | 61 | 1 | 67 | 7月26日 | 67 | 164 | 16 | 110 | 8月2日 | 73 | 167 | 15 | 243 | 8月9日 | 1 | 10 | 3 | 30 | 8月16日 | 0 | 0 | 1 | 10 | 8月23日 | 4 | 7 | 0 | 16 | 8月30日 | 13 | 146 | 0 | 29 | 9月6日 | 71 | 357 | 57 | 244 | 9月13日 | 73 | 89 | 99 | 561 | 9月21日 | 17 | 85 | 18 | 180 | 9月27日 | 1 | 31 | 4 | 95 | 10月4日 | 4 | 61 | 1 | 114 | 10月11日 | 0 | 40 | 0 | 35 | 10月19日 | 2 | 46 | 2 | 92 | 10月27日 | 0 | 5 | 0 | 9 | 11月2日 | 1 | 5 | 0 | 18 | 11月10日 | 4 | 42 | 0 | 37 | 合計 | 331 | 1255 | 216 | 1623 | 誘引阻害率(%) | 73.6 | | 88.2 | | ハマキコンロープ区 対照区 | 巻葉数/摘採面㎡ | 幼虫数/摘採面㎡ | | 蛹数/摘採面㎡ | | チャハマキ | チャノコカクモンハマキ | チャハマキ | チャノコカクモンハマキ | | 4.13 | 2.6 | 0.1 | 0 | 0 | | 7 | 3.1 | 0.6 | 0.1 | 0 |
| 設置月日 | チャハマキ | | チャノコカクモンハマキ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ハマキコンロープ区 | 対照区 | ハマキコンロープ区 | 対照区 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5月24日 | 1 | 149 | 0 | 43 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5月31日 | 0 | 37 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月7日 | 153 | 205 | 0 | 88 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月14日 | 251 | 391 | 38 | 214 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月21日 | 106 | 424 | 56 | 650 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6月28日 | 31 | 420 | 63 | 425 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月5日 | 4 | 246 | 2 | 506 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月12日 | 0 | 24 | 2 | 37 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月19日 | 27 | 61 | 1 | 67 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月26日 | 67 | 164 | 16 | 110 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8月2日 | 73 | 167 | 15 | 243 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8月9日 | 1 | 10 | 3 | 30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8月16日 | 0 | 0 | 1 | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8月23日 | 4 | 7 | 0 | 16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8月30日 | 13 | 146 | 0 | 29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9月6日 | 71 | 357 | 57 | 244 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9月13日 | 73 | 89 | 99 | 561 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9月21日 | 17 | 85 | 18 | 180 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9月27日 | 1 | 31 | 4 | 95 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10月4日 | 4 | 61 | 1 | 114 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10月11日 | 0 | 40 | 0 | 35 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10月19日 | 2 | 46 | 2 | 92 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10月27日 | 0 | 5 | 0 | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11月2日 | 1 | 5 | 0 | 18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11月10日 | 4 | 42 | 0 | 37 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 331 | 1255 | 216 | 1623 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 誘引阻害率(%) | 73.6 | | 88.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ハマキコンロープ区 対照区 | 巻葉数/摘採面㎡ | 幼虫数/摘採面㎡ | | 蛹数/摘採面㎡ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | チャハマキ | チャノコカクモンハマキ | チャハマキ | チャノコカクモンハマキ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4.13 | 2.6 | 0.1 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7 | 3.1 | 0.6 | 0.1 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | <p>埼玉県育成品種の栽培・製造実証</p> | <p>新品種等の現地での試験栽培・試験製造の技術支援及びブランド推進のためのコンソーシアム形成</p> | <p>佐々木 田中(江)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>埼玉県で栽培できる早生の品種は「さやまかおり」であったが、苦渋味が強いなど、市場評価は良くなかった。SAYAMA002は収穫時期や収量が「さやまかおり」と同等であり、品質は「さやまかおり」や「やぶきた」よりも優れており、埼玉県の早生品種として有望であると考えられる。</p> <p>SAYAMA002は「さやまかおり」の代替品種として製茶農家や茶商からの注目度が高く、3月3日にコンソーシアムにおいて品質の求評会と技術情報提供を実施する。</p> <p>表1 SAYAMA 002の栽培特性</p> <table border="1" data-bbox="279 1456 1109 1713"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品種・系統名</th> <th rowspan="2">早晩性</th> <th rowspan="2">樹姿</th> <th rowspan="2">樹勢</th> <th colspan="2">一番茶</th> <th colspan="2">収量(kg/10a)</th> <th colspan="3">被害発生程度</th> </tr> <tr> <th>萌芽期</th> <th>摘採期</th> <th>一番茶</th> <th>二番茶^{※1}</th> <th>赤枯れ</th> <th>青枯れ</th> <th>炭疽病^{※2}</th> <th>カシロイガ^{※2}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SAYAMA002</td> <td>やや早生</td> <td>半直立</td> <td>やや強</td> <td>4/13</td> <td>5/16</td> <td>418</td> <td>299</td> <td>1.7</td> <td>1.5</td> <td>2.3</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>さやまかおり</td> <td>早生</td> <td>半直立</td> <td>強</td> <td>4/9</td> <td>5/15</td> <td>378</td> <td>190</td> <td>1.7</td> <td>1.7</td> <td>4.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>やぶきた</td> <td>やや早生</td> <td>半直立 ~直立</td> <td>やや強</td> <td>4/12</td> <td>5/17</td> <td>248^{※3}</td> <td>74</td> <td>2.3</td> <td>1.8</td> <td>2.8</td> <td>2.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 栽培特性は、茶業研究所の値。 ※2 被害発生程度は1(無) ~5(多)。</p> <p>表2 SAYAMA 002の品質</p> <table border="1" data-bbox="279 1780 1109 2016"> <thead> <tr> <th rowspan="2">品種・系統名</th> <th colspan="5">一番茶</th> <th colspan="5">二番茶</th> </tr> <tr> <th>形状</th> <th>色沢</th> <th>香気</th> <th>水色</th> <th>滋味</th> <th>概評</th> <th>形状</th> <th>色沢</th> <th>香気</th> <th>水色</th> <th>滋味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SAYAMA002</td> <td>10.0</td> <td>9.3</td> <td>9.5</td> <td>9.3</td> <td>8.2</td> <td>(味)旨味、渋味</td> <td>8.0</td> <td>8.0</td> <td>8.0</td> <td>10.0</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td>さやまかおり</td> <td>8.5</td> <td>8.0</td> <td>8.4</td> <td>8.6</td> <td>6.5</td> <td></td> <td>9.5</td> <td>7.0</td> <td>7.0</td> <td>8.5</td> <td>6.0</td> </tr> <tr> <td>やぶきた</td> <td>8.0</td> <td>9.0</td> <td>9.3</td> <td>9.0</td> <td>8.5</td> <td></td> <td>10.0</td> <td>8.0</td> <td>7.0</td> <td>8.0</td> <td>7.0</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 品種・系統名 | 早晩性 | 樹姿 | 樹勢 | 一番茶 | | 収量(kg/10a) | | 被害発生程度 | | | 萌芽期 | 摘採期 | 一番茶 | 二番茶 ^{※1} | 赤枯れ | 青枯れ | 炭疽病 ^{※2} | カシロイガ ^{※2} | SAYAMA002 | やや早生 | 半直立 | やや強 | 4/13 | 5/16 | 418 | 299 | 1.7 | 1.5 | 2.3 | 1.5 | さやまかおり | 早生 | 半直立 | 強 | 4/9 | 5/15 | 378 | 190 | 1.7 | 1.7 | 4.0 | 1.0 | やぶきた | やや早生 | 半直立 ~直立 | やや強 | 4/12 | 5/17 | 248 ^{※3} | 74 | 2.3 | 1.8 | 2.8 | 2.5 | 品種・系統名 | 一番茶 | | | | | 二番茶 | | | | | 形状 | 色沢 | 香気 | 水色 | 滋味 | 概評 | 形状 | 色沢 | 香気 | 水色 | 滋味 | SAYAMA002 | 10.0 | 9.3 | 9.5 | 9.3 | 8.2 | (味)旨味、渋味 | 8.0 | 8.0 | 8.0 | 10.0 | 9.0 | さやまかおり | 8.5 | 8.0 | 8.4 | 8.6 | 6.5 | | 9.5 | 7.0 | 7.0 | 8.5 | 6.0 | やぶきた | 8.0 | 9.0 | 9.3 | 9.0 | 8.5 | | 10.0 | 8.0 | 7.0 | 8.0 | 7.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 品種・系統名 | 早晩性 | 樹姿 | 樹勢 | | | | | 一番茶 | | 収量(kg/10a) | | 被害発生程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 萌芽期 | 摘採期 | 一番茶 | 二番茶 ^{※1} | 赤枯れ | 青枯れ | 炭疽病 ^{※2} | カシロイガ ^{※2} | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SAYAMA002 | やや早生 | 半直立 | やや強 | 4/13 | 5/16 | 418 | 299 | 1.7 | 1.5 | 2.3 | 1.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| さやまかおり | 早生 | 半直立 | 強 | 4/9 | 5/15 | 378 | 190 | 1.7 | 1.7 | 4.0 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| やぶきた | やや早生 | 半直立 ~直立 | やや強 | 4/12 | 5/17 | 248 ^{※3} | 74 | 2.3 | 1.8 | 2.8 | 2.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 品種・系統名 | 一番茶 | | | | | 二番茶 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 形状 | 色沢 | 香気 | 水色 | 滋味 | 概評 | 形状 | 色沢 | 香気 | 水色 | 滋味 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SAYAMA002 | 10.0 | 9.3 | 9.5 | 9.3 | 8.2 | (味)旨味、渋味 | 8.0 | 8.0 | 8.0 | 10.0 | 9.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| さやまかおり | 8.5 | 8.0 | 8.4 | 8.6 | 6.5 | | 9.5 | 7.0 | 7.0 | 8.5 | 6.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| やぶきた | 8.0 | 9.0 | 9.3 | 9.0 | 8.5 | | 10.0 | 8.0 | 7.0 | 8.0 | 7.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(5) 先進的な農業者等からの高度かつ専門的な技術・経営相談

| | | |
|----------|---|--|
| テーマ | 低濃度エタノール利用による土壌消毒について | |
| 担当者名 | ○齋藤、阿見、岡山 | |
| 活動内容 | <p>本庄・大里農林管内の施設トマト産地において、フザリウム菌などが原因で発生する土壌病害により、減収や栽培ができない生産者に対し、低濃度エタノールを利用した土壌還元作用による土壌消毒を技術開発者・メーカーと連携して実証ほを設置し、その効果について確認した。</p> | |
| 活動の成果 | <p>土壌病害の原因である、有針センチュウやフザリウム菌等の密度を低下させ、品質・収量が向上した。</p> | <p>計数化できる事項 実施農家数：11戸</p> |
| データまたは写真 |  | <p>今後の方向 土壌病害で生産性が低下しているトマト、キュウリ等の産地で導入が見込まれる。</p> |

| テーマ | 高糖分イネWCS用新乳酸菌添加剤の現地実証 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---|--|--------|-------------|-------------|-------------|-----------------|-------------|--------------|-----------------|-------------|---------------|--------------|-----|------|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------------|--------------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|---------------|
| 担当者名 | ○大宅、渡辺 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 活動内容 | <p>「たちすずか」「つきすずか」等の晩生高糖分イネはサイレージ調製後の気温が低く、従来の乳酸菌添加剤では春までに十分な発酵に至らず、また残存糖分が多いことから開封後に好気的変敗しやすいため、低温発酵しやすく開封後の変敗を防止する酢酸も生成する新乳酸菌添加剤「畜草2号」の現地実証を行った。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 活動の成果 | <p>高水分予乾サイレージとなった熊谷市のたちすずかを除き、従来のイネ用乳酸菌「畜草1号+」と同等の発酵品質(Vscore)が得られた。また、酢酸の含有率が高く、開封後の好気的変敗防止の可能性が高いことが示唆された。</p> | <p>計数化できる事項 導入農家数：6戸</p> <p>今後の方向 高糖分イネのサイレージ調製用添加剤のみならず、開封後の好気的変敗が問題になりやすい籾米サイレージにおける普及を図る。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| データまたは写真 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>市町村 品種</th> <th>DM (原物%)</th> <th>pH</th> <th>Vscore</th> <th>ギ酸 (原物%)</th> <th>乳酸 (原物%)</th> <th>酢酸 (原物%)</th> <th>プロピオン酸 (原物%)</th> <th>酪酸 (原物%)</th> <th>吉草酸 (原物%)</th> <th>VBN (原物%)</th> <th>乳酸菌</th> <th>収穫方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上里町</td> <td>45.88</td> <td>5.44</td> <td>94.8</td> <td>0.03</td> <td>0.82</td> <td>0.55</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.04</td> <td>畜草2号</td> <td>予乾牧草収穫機</td> </tr> <tr> <td>熊谷市 たちすずか</td> <td>28.46</td> <td>4.48</td> <td>48.1</td> <td>0.00</td> <td>0.35</td> <td>1.12</td> <td>0.00</td> <td>0.39</td> <td>0.00</td> <td>0.03</td> <td>畜草2号</td> <td>予乾牧草収穫機</td> </tr> <tr> <td>熊谷市</td> <td>59.29</td> <td>4.94</td> <td>98.0</td> <td>0.02</td> <td>0.50</td> <td>0.47</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.02</td> <td>畜草2号</td> <td>予乾牧草収穫機</td> </tr> <tr> <td>熊谷市 つきすずか</td> <td>55.84</td> <td>4.59</td> <td>92.6</td> <td>0.03</td> <td>0.82</td> <td>0.86</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.03</td> <td>畜草2号</td> <td>予乾牧草収穫機</td> </tr> <tr> <td>美里町</td> <td>27.78</td> <td>4.32</td> <td>90.5</td> <td>0.00</td> <td>1.23</td> <td>0.66</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.03</td> <td>畜草2号</td> <td>ダイレクトカット専用収穫機</td> </tr> <tr> <td>美里町 はまさり(参考)</td> <td>31.75</td> <td>4.30</td> <td>94.0</td> <td>0.01</td> <td>1.73</td> <td>0.25</td> <td>0.01</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.04</td> <td>畜草1号+</td> <td>ダイレクトカット専用収穫機</td> </tr> </tbody> </table> | | 市町村 品種 | DM (原物%) | pH | Vscore | ギ酸 (原物%) | 乳酸 (原物%) | 酢酸 (原物%) | プロピオン酸 (原物%) | 酪酸 (原物%) | 吉草酸 (原物%) | VBN (原物%) | 乳酸菌 | 収穫方法 | 上里町 | 45.88 | 5.44 | 94.8 | 0.03 | 0.82 | 0.55 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.04 | 畜草2号 | 予乾牧草収穫機 | 熊谷市 たちすずか | 28.46 | 4.48 | 48.1 | 0.00 | 0.35 | 1.12 | 0.00 | 0.39 | 0.00 | 0.03 | 畜草2号 | 予乾牧草収穫機 | 熊谷市 | 59.29 | 4.94 | 98.0 | 0.02 | 0.50 | 0.47 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.02 | 畜草2号 | 予乾牧草収穫機 | 熊谷市 つきすずか | 55.84 | 4.59 | 92.6 | 0.03 | 0.82 | 0.86 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.03 | 畜草2号 | 予乾牧草収穫機 | 美里町 | 27.78 | 4.32 | 90.5 | 0.00 | 1.23 | 0.66 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.03 | 畜草2号 | ダイレクトカット専用収穫機 | 美里町 はまさり(参考) | 31.75 | 4.30 | 94.0 | 0.01 | 1.73 | 0.25 | 0.01 | 0.00 | 0.00 | 0.04 | 畜草1号+ | ダイレクトカット専用収穫機 |
| 市町村 品種 | DM (原物%) | pH | Vscore | ギ酸 (原物%) | 乳酸 (原物%) | 酢酸 (原物%) | プロピオン酸 (原物%) | 酪酸 (原物%) | 吉草酸 (原物%) | VBN (原物%) | 乳酸菌 | 収穫方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上里町 | 45.88 | 5.44 | 94.8 | 0.03 | 0.82 | 0.55 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.04 | 畜草2号 | 予乾牧草収穫機 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 熊谷市 たちすずか | 28.46 | 4.48 | 48.1 | 0.00 | 0.35 | 1.12 | 0.00 | 0.39 | 0.00 | 0.03 | 畜草2号 | 予乾牧草収穫機 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 熊谷市 | 59.29 | 4.94 | 98.0 | 0.02 | 0.50 | 0.47 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.02 | 畜草2号 | 予乾牧草収穫機 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 熊谷市 つきすずか | 55.84 | 4.59 | 92.6 | 0.03 | 0.82 | 0.86 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.03 | 畜草2号 | 予乾牧草収穫機 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 美里町 | 27.78 | 4.32 | 90.5 | 0.00 | 1.23 | 0.66 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.03 | 畜草2号 | ダイレクトカット専用収穫機 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 美里町 はまさり(参考) | 31.75 | 4.30 | 94.0 | 0.01 | 1.73 | 0.25 | 0.01 | 0.00 | 0.00 | 0.04 | 畜草1号+ | ダイレクトカット専用収穫機 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(6) 普及指導員に対する研修指導 ア 集合研修

| 区分 | 研修名(担当者) | 目的・内容 | 対象者 | 時期(期間) | 場所・方法 (実施場所) |
|---------------|---|---|--|---|--|
| 新任普及職員研修 | 新任普及職員研修 (本間) | 目的：普及活動に必要な基礎知識、手法等を習得する。 内容： 1 協同農業普及事業の概要 2 埼玉県農業の概要 3 普及活動方法の基礎 4 試験研究機関との連携 5 農業大学校との連携 講師：農業革新支援担当、農技研究員、 茶研研究員、農業大学校職員等 | 穂積由乃(さいたま) 三橋伊藤(川越) 鈴木栄美子(本庄) 岩佐 翔(大里) 山根賢登(大里) 藤井美帆(加須) 高橋純司(加須) 染谷美奈(春日部) | 7月20日 7月25～29日 8月1～3,5日 (10日間) | 講義・討議・視 察・実習・演習 農林部会議室、農 技研(本所、久 喜、玉井)、農業 大学校、茶業研 |
| 専門研修 | 専門研修(野菜) 2・3年目 (阿見、齋藤、 岡山) | 目的：野菜の生産技術に関する専門的な普及指導活動 ができる。 内容： 1 施設野菜(きゅうり、葉物)、露地野菜(な す、さといも、ねぎ、ブロッコリー)の管理 技術、調査方法及び現地調査 2 いちごの花芽検鏡技術 3 野菜のIPM技術 講師：農業革新支援担当 農技研究員等 | 野菜担当2年 平塚文菜(さいたま) 田邊香織(川越) 栗原菜月(東松山) 山口史穂(秩父) 西沢莉穂(大里) 新井紀仁(大里) 中山亮(春日部) 吉岡遼(春日部) 野菜担当3年 和田駿一(さいたま) 谷内悠馬(川越) 石井裕也(東松山) | 9月6～7日 11月15～17日 11月25日 11月29～30日 12月6日 3月3日 (10日間) 9月6～7日 11月25日 12月6日 3月3日 (5日間) | 講義・実習 農技研(本所) 関係農林振興セン ター等 現地ほ場 |
| 専門研修 | 専門研修(果樹) (片野・遠藤) | 目的：果樹の生産技術に関する専門的な普及活動ができる 内容：なし、ぶどう等の整枝せん定 講師：農業革新支援担当、農技研究員等 | 三橋伊藤(川越) 鈴木栄美子(本庄) 染谷美奈(春日部) | 10月24日 12月5,12,21日 2月22日 (5日間) | 講義・実習 久喜試験場 |
| 緊急技術習得研修(作物) | 緊急技術習得研修(作物) (田中克、山本) | 目的：緊急的に専門項目の技術向上が必要な職員について、 農業技術研究センター及び現地等において専門技術の習得を 図ることにより、課題解決のための指導能力向上を図る。 内容：専門項目の普及活動に必要な知識及び技術 講師：農業革新支援担当、農技研究員等 | 作物 渡辺信昭(加須) | 12月19日 10日以内 | 講義、実習 農業技術研究セン ター 現地 |
| 緊急技術習得研修(果樹) | 緊急技術習得研修(果樹) (片野、遠藤) | 目的：緊急的に専門項目の技術向上が必要な職員について、 農業技術研究センター及び現地等において専門技術の習得を 図ることにより、課題解決のための指導能力向上を図る。 内容：専門項目の普及活動に必要な知識及び技術 講師：農業革新支援担当、農技研究員等 | 果樹 中山貴能(本庄) 小澤貞弘(大里) | 5月11日 10月24日 12月5,12日 (10日以内) 未定 (10日以内) | 講義、実習 久喜試験場 現地 |
| 緊急技術習得研修(花植木) | 緊急技術習得研修(花植木) (小磯、井上) | 目的：緊急的に専門項目の技術向上が必要な職員について、 農業技術研究センター及び現地等において専門技術の習得を 図ることにより、課題解決のための指導能力向上を図る。 内容：専門項目の普及活動に必要な知識及び技術 講師：農業革新支援担当、農技研究員等 | 花植木 田島光恵(川越) | 5月25日 8月5日 11月7日 (3日) | 講義、実習 農業技術研究セン ター 千葉県 現地 |
| 緊急技術習得研修(畜産) | 緊急技術習得研修(畜産) (渡辺、大宅) | 目的：緊急的に専門項目の技術向上が必要な職員について、 農業技術研究センター及び現地等において専門技術の習得を 図ることにより、課題解決のための指導能力向上を図る。 内容：専門項目の普及活動に必要な知識及び技術 講師：農業革新支援担当、農技研究員等 | 畜産 梶田裕介(川越) 荒井智子(川越) | 6月6日 (1日) | 講義、実習 川越農林管内酪農 家及び農業技術研 究センター |
| 緊急技術習得研修(茶) | 緊急技術習得研修(茶) (小川、佐々木、田 中) | 目的：緊急的に専門項目の技術向上が必要な職員について、 農業技術研究センター及び現地等において専門技術の習得を 図ることにより、課題解決のための指導能力向上を図る。 内容：専門項目の普及活動に必要な知識及び技術 講師：農業革新支援担当、農技研究員等 | 茶 水村洋介(川越) | 5月11日 9月9日 10月5日 (3日) | 講義、実習 茶業研究所 現地 |

VIII 革新支援担当

| | | | | | |
|-----------|-------------------------------------|---|---|----------------------------|--|
| 専門研修 | 専門研修（生産工程管理） 2年目 （阿見） | 目的：農産物生産工程管理の指導ができる。 内容： 1 GAP現場指導に必要な知識・手法について 2 埼玉県取組方針、事例について 講師：農業革新支援担当、農産物安全課、外部講師等 | 平墳文菜（さいたま） 谷内悠馬（川越） 田邊香織（川越） 栗原菜月（東松山） 山口史穂（秩父） 新井紀仁（大里） 西澤莉穂（大里） 中山 亮（春日部） 吉岡 遼（春日部） | 1月25日 （1日間） | 講義・討議 |
| | 専門研修（経営） 2年目 （本間） | 目的：農業経営体の農業簿記指導能力向上を図る。 内容： 1 農業簿記の基礎 2 記帳の実務 講師：農業革新支援担当 * 電卓（大きめのもの）を持参すること | 平墳文菜（さいたま） 谷内悠馬（川越） 田邊香織（川越） 栗原菜月（東松山） 山口史穂（秩父） 新井紀仁（大里） 西澤莉穂（大里） 中山 亮（春日部） 吉岡 遼（春日部） | 5月23～24日 （2日間） | 講義・実習 農業技術研究センター （本所） |
| | 専門研修（病害虫） 2年目 （大宅、岡山） | 目的：現地における病害虫防除指導能力向上を図る。 内容： 1 病害虫診断の基礎知識 2 病害虫防除の普及活動 3 農薬の適正使用・保管 4 農薬の作用機構分類 5 農薬適正使用指導支援ソフトの使い方 講師：農技研研究員、農業革新支援担当 | 平墳文菜（さいたま） 谷内悠馬（川越） 田邊香織（川越） 栗原菜月（東松山） 山口史穂（秩父） 新井紀仁（大里） 西澤莉穂（大里） 中山 亮（春日部） 吉岡 遼（春日部） | 7月12～13日 （2日間） | 講義・実習・演習 農業技術研究センター （本所） |
| | 専門研修（土壌肥料） 2・3年目 （小磯） | 目的：現地における土壌管理・施肥指導能力の向上を図る。 内容： 1 土壌分析結果に基づいた施肥設計について 2 県で開発した施肥設計ソフトの使い方 3 土壌調査法の基礎 講師：農技研研究員、農業革新支援担当 * 作業着、長靴を持参すること | 平墳文菜（さいたま） 谷内悠馬（川越） 田邊香織（川越） 栗原菜月（東松山） 山口史穂（秩父） 新井紀仁（大里） 西澤莉穂（大里） 中山 亮（春日部） 吉岡 遼（春日部） 10月7日のみ 和田駿一（さいたま） 谷内悠馬（川越） 石井裕也（東松山） | 6月29～30日 10月7日 （3日間） | 講義・実習 ・演習 農業技術研究センター （本所） |
| 技術高度化研修 | 技術高度化研修（野菜） 4～10年目 （阿見、齋藤、岡山） | 目的：野菜の生産技術について高度かつ専門的な技術指導力の向上を図る 内容： 1 野菜の省力・低コスト栽培対策の習得 2 県内の省力・低コスト生産事例 3 施設野菜におけるICT活用 講師：農業革新支援担当 農技研研究員 等 | 佐藤拓也（秩父） 石田杏美（本庄） | 2月2日 （1日間） | 講義・視察 現地（加須市） |
| | 技術高度化研修（作物） 4～10年目 （田中克、山本） | 目的：作物の生育の的確な診断と技術対策指導能力の向上を図る。 内容： 1 気象状況に対応した栽培法の習得 2 現地課題対策の習得 講師：農業革新支援担当 農技研研究員 等 | 笠原香子（秩父） 渡辺信昭（加須） | 12月5日 （1日間） | 講義・実習 農技研 関係農林振興センター 一他 |
| 農業経営高度化研修 | 生産安定技術研修（作物） （田中克、山本） | 目的：水稻安定生産に関わる指導能力の向上を図る。 内容： 1 機器類の活用による品種育成の取組について 2 最近問題となっている病害虫の防除技術の習得 講師：農技研研究員、農業革新支援担当 | 箕田豊尚（さいたま） 梶田裕介（川越） 杉田 淳（東松山） 笠原香子（秩父） 武井由美子（本庄） 小指美奈子（大里） 重松 統（加須） 村田大樹（春日部） | 12月9日 （1日間） | 講義・討議 農技研 |
| | 生産安定技術研修（野菜） （阿見、齋藤、岡山） | 目的：いちご生産安定技術の習得 いちごにおける生産安定技術に関する知識・技術を習得し 現地指導力を養成する。 内容： 1 いちご栽培に関する新たな取り組みについて 2 埼玉県育成品種の試験栽培について 3 秩父地域の観光いちご経営について 講師：農業革新支援担当、農技研研究員 等 | 和田駿一（さいたま） 齋藤敦子（川越） 川口 彰（川越） 田中 健（東松山） 石井裕也（東松山） 赤羽孝之（秩父） 山口史穂（秩父） 武井雄一（本庄） 橋本 円（本庄） 川井明子（大里） 平野奈美江（春日部） | 3月10日 （1日間） | 講義・実習・現地 視察 秩父農林振興センター いちご生産者ほ場 |

| | | | | | |
|-----------|---|--|---|--|--|
| 農業経営高度化研修 | 生産安定技術研修 (果樹) (片野、遠藤) | 目的：果樹における改植及び現地導入技術の習得 なし、ぶどう等の老木樹の改植方法と現地で行われている最新技術を習得し現地指導力を養成する。 内容： 1 果樹の改植方法 2 なしの栽培管理について 3 ぶどうの栽培管理について 4 その他果樹の栽培管理について 講師：農業革新支援担当、農総研究員及び外部講師 | 入江尚彦(さいたま)* 大庭恵美子(さいたま) 水村洋介(川越)* 荒井智子(川越)* 花井智恵(川越) 田邊香織(川越) 三橋伊藤(川越) 川口 彰(川越)** 新井一仁(東松山) 田中 健(東松山) 上野亜由子(東松山)** 栗原菜月(東松山) 石原美樹(秩父)* 松葉口修(秩父)* 山口史穂(秩父) 西澤莉穂(大里)* 岡田 格(加須)* 渡辺信昭(加須) 森田 晃(春日部) 村田紀子(春日部) *ぶどうのみ参加 **なしのみ参加 | なし 5月11日 12月13日 ぶどう 6月1日 6月22日 (4日間) | 講義・実習 久喜試験場 関係農林振興セン ター一他 |
| | 生産安定技術研修 (花植木) (小磯、井上) | 目的：花植木における品質向上技術の習得 切り花の日持ち保証販売等に関する対策等について知識・ 技術を習得し現地指導力を養成する。 施設園芸栽培における環境制御に関する知識の習得・事例 研究を実施し、現地指導力を養成する。 内容： 1 切り花の日持ち性向上対策について 2 施設内の効果的な環境制御について 3 その他 講師：農業革新支援担当、研究員、外部講師 | 岡本信子(さいたま) 田島光恵(川越) 上野亜由子(東松山) 武井雄一(本庄) 篠川信仁(大里) 福田憲次(加須) 高橋久美子(春日部) | 6月14日 (1日間) | 講義・実習 農業技術研究セン ター |
| | 生産安定技術研修 (畜産) (渡辺、大宅) | 目的：自給飼料の安定生産・品質向上技術の習得 自給飼料の生産・調製に関する知識・技術を習得し現地指 導力を養成する。 内容： 1 飼料用米の地域内流通について 2 粳米サイレージ調製について 3 その他 講師：農業革新支援担当、研究員 | 小林峰治(さいたま) 梶田裕介(川越) 荒井智子(川越) 吉田 充(東松山) 野崎敦彦(秩父) 大場保孝(大里) 畑原昌明(大里) 重松 統(加須) 山口 敦(加須) 村田大樹(春日部) | 12月2日 (1日間) | 講義・実習 J A ひびきの上里 営農経済センター |
| | 生産安定技術研修 (茶) (小川、佐々木、 田中江) | 目的 製茶農家に対する技術指導に資するため、品評会出品 茶の製造、再製加工および品質評価に関する技術を習得し指 導能力向上を図る。 内容： 1 手摘みによる茶葉の収穫 2 荒茶製造 3 高品質茶の再製加工 4 品質評価(製茶審査) 講師：農業革新支援担当、茶業研究所研究員 | 水村洋介(川越) 赤羽孝之(秩父) | 5月11日 (摘採・荒茶製 造実習) 9月9日 10月5日 (3日間) | 講義・実習 茶業研究所 |
| 農業経営高度化研修 | 農業経営法人化 (本間) | 目的：法人化支援に係わる指導能力向上を図る。 内容： 1 農業経営の発展を支援するための支援方法 (農業簿記・経営診断・労務管理等) 2 法人化支援事例検討 講師：農業革新支援担当、税理士等 | 加藤雅之(さいたま) 吉田 充(東松山) 佐野一隆(秩父) 篠原正明(本庄) 大関 勉(大里) 遠藤 浩(加須) 大野晃義(春日部) | 6月7日 (1日間) | 講義・討議・演習 農業技術研究セン ター (本所) |
| | スマートアグリ (齋藤、山本) | 目的 生産性の高い農業経営に関する指導能力向上を図る 内容： 1 スマートアグリについて 2 ICTの農業利用 3 生産管理への活用 4 経営管理への活用 講師：農業革新支援担当、外部講師 | 平塚文菜(さいたま) 谷内悠馬(川越) 安達義孝(大里) 岩元 篤(加須) | 2月2日 (1日間) | 講義・見学 現地(加須市) |
| | トレーナー(OJT) (田中克、阿見) | 目的 新規普及職員のトレーナーとしてOJTの指導能力向上を 図る 内容 1 新任期普及職員養成の目標 2 OJTトレーナーの役割 3 OJTの進め方 講師 農業革新支援担当、社会保険労務士 | 東屋 希(さいたま) 中山貴能(本庄) 細淵 健(大里) 篠川信仁(大里) 山口 敦(加須) 福田憲次(加須) 村田紀子(春日部) | 6月16日 (1日間) | 講義・討議・演習 |

VIII 革新支援担当

| | | | | | |
|----------------------|--|--|---|---------------------------------------|-------------------------|
| 農業経営高度化研修 | 6次産業化 (小林、河野) | 目的：6次産業化支援の高度化を図る 内容： 1 6次産業化支援の事業推進について 2 6次産業化支援のための計画策定について 3 6次産業化支援のための資金調達について 4 加工商品の食品表示作成について 講師：農業革新支援担当、外部講師 | 尾崎 明美(さいたま) 九十九 薫(川越) 池田 順子(東松山) 石原 美樹(秩父) 青木 一恵(本庄) 新井 俊充(大里) 遠藤 浩(加須) 新井 美里(春日部) | 5月24日 5月31日 (2日間) | 講義・討議・演習 衛生会館531 |
| | 農産物活用 (小林、河野) | 目的：農産物活用に関する指導能力向上を図る 内容： 1 加工商品の食品表示作成について 講師：外部講師 | 尾崎 明美(さいたま) 九十九 薫(川越) 池田 順子(東松山) 石原 美樹(秩父) 青木 一恵(本庄) 新井 俊充(大里) 小指 美奈子(大里) 大川 恵美子(加須) 新井 美里(春日部) | 5月31日午後 (半日間) | 講義・討議・演習 衛生会館531 |
| | 鳥獣害防止 (遠藤) | 目的：鳥獣害防止技術及び普及活動方法の習得を図る。 内容： 1 鳥獣害の現状及び対策 2 鳥獣害防止普及活動の進め方 3 普及指導員の役割 4 中山間地における鳥獣害防止 5 平地における鳥獣害防止 講師：農技研研究員、農業革新支援担当等 | 和田駿一(さいたま) A 平塚文菜(さいたま) B 伊藤 勉(川越) AB 川口 彰(川越) A 九十九薫(川越) AB 谷内悠馬(川越) A 水村洋介(川越) AB 三橋伊蓆(川越) AB 上野亜由子(東松山) A 田中 健(東松山) AB 畠山修一(東松山) B 野崎敦彦(秩父) AB 赤羽孝之(秩父) B 佐野一隆(秩父) B 大宅万喜子(大里) A 川井明子(大里) B 岡田 格(加須) A 渡辺信昭(加須) AB 平野奈美江(春日部) A 中山 亮(春日部) AB 村田紀子(春日部) B 吉岡 遼(春日部) AB | 日程A 5月16日 日程B 6月14日 (2日間) | 講義・演習 農業技術研究センター(本所) |
| 普及指導員養成研修 (本間、山本) | 目的：普及指導員資格取得に向けた普及活動のまとめ方を習得する。 内容： 1 農業政策一般および協同農業普及事業 2 普及指導活動の原理および応用 3 専門項目の基礎および応用 講師：農業革新支援担当 | 和田駿一(さいたま) 石井裕也(東松山) | 5月17日 6月15日 7月15日 (3日間) | 講義・討議・演習 農業技術研究センター(本所) | |

イ 国等への派遣研修

| コード | 研修名 | 目的・内容 | 対象者 | 時期(期間) | 実施機関(実施場所) |
|-----------|------------------------------------|---|---|---|---|
| A01 | 新規普及職員研修 | 普及指導員の役割・目的意識の醸成等普及事業全般の習得 ・農政・普及事業をめぐる情勢 ・農業者に対するプレゼンテーション技術 ・普及指導員の役割と普及指導活動の技術及び方法 ・農作業安全と普及指導員の役割等 | 穂積由乃(さいたま)① 三橋伊蒔(川越)③ 鈴木栄美子(本庄)③ 岩佐翔(大里)② 山根賢登(大里)③ 藤井美帆(加須)③ 高橋純司(加須)③ 染谷美奈(春日部)① | ①7月5日～8日 ②7月12日～15日 ③9月6日～9日(4日間) | 農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市) |
| A04 | 新規農業革新支援専門員研修 | 農業革新支援専門員の役割・目的意識の醸成と業務推進方法の習得 ・農業革新支援専門員を中心とした新たな普及活動の展開 ・研究と普及の連携構築 ・普及指導活動の総括・企画調整機能 ・普及指導員の資質向上 | 遠藤紀浩(農技)① 阿見真(農技)② 山本和雄(農技)② 岡山研(農技)② | ①6月8日～10日 ②11月9日～11日(3日間) | 農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市) |
| A06 | 普及指導センター所長研修 | 普及組織の総合力の発揮に向けたマネジメント手法等の習得 ・今後の普及活動の展開方向 ・最近の農政課題と普及への期待 ・普及指導センター所長の役割・あるべき姿 ・普及組織の総合力の発揮に向けた組織マネジメント | 原 聡(東松山) 関口賢司(秩父) 熊谷幸博(本庄) 小野田実(春日部) | 6月23日～24日(2日間) | 農林水産省技術普及課 (東京都千代田区) |
| B04 | 地球温暖化適応策研修(施設園芸) | 施設園芸の温暖化適応技術の習得 ・地球温暖化による農業生産の課題と対策 ・施設園芸の地球温暖化適応技術(高温適応技術) ・施設園芸の地球温暖化適応技術(被覆資材の特徴と利用方法)および地域における取組状況 ・施設園芸における地球温暖化に関する課題 | 岡本信子(さいたま) 武井雄一(本庄) | 6月29日～7月1日(3日間) | 農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市) |
| B12② | 経営分析研修 | 先進経営体を対象とした経営分析・診断手法の習得 ・経営指標を活用した経営指導 ・担い手に応じた経営計画作成 ・経営分析と診断手法のポイント | 本間利明(農技) | 12月6日～9日(4日間) | 農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市) |
| B17 | 業務用需要対応研修 | 加工・業務用野菜等の取り組む産地への支援手法の習得 ・加工・業務用需要対応の課題と今後の施策展開 ・加工・業務用野菜等の加工・流通の実態 ・加工・業務用野菜の消費動向と需要構造 | 岡山 研(農技) | 10月26日～28日(3日間) | 農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市) |
| B18② | 技術研修(花き) | 花卉の病害防除に必要な知識の習得 ・花卉病害の発生と花卉生産に対する影響 ・花卉病害の防除対策について | 井上玲子(農技) | 10月11日～13日(3日間) | 農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市) |
| 農業機械化研修 | 新技術農業機械化推進研修 ねぎの収穫・調製機械化体系導入コース | ねぎ収穫等の機械化体系導入促進を図る ・ねぎ省力・低コスト生産技術と品種開発 ・ねぎの機械開発の現状と機械の導入効果 ・ねぎの収穫・調製機械化体系の実演・実習 | 武井雄一(本庄) | 7月13日～15日(3日間) | 農林水産研修所つくば館 (茨城県つくば市) 同上 水戸ほ場 (茨城県水戸市) JA岩井 (茨城県坂東市) |
| 関東ブロック等研修 | 青年・中堅改良普及職員研修 | 普及活動について話し合い地域農業の発展を目指す テーマ「様々な品目における産地づくり」 ・千葉県が取り組む産地づくり ・各地域で取り組む産地づくり ・現地研修 | 渡辺信昭(加須) 村田紀子(春日部) | 7月12～13日(2日間) | ホテルマークワンC NT (千葉県印西市) 白井市梨業組合 (千葉県白井市) |
| | 現地活動調査研究会 | 先進的農業技術の推進に係る普及活動について調査研究する テーマ 「先進的農業技術(ICT等)に関する普及活動の取組」 ・基調講演 ・事例発表(各都県) | 江原洋一(さいたま) 川内亜紀(加須) 吉岡 遼(春日部) 本間利明(農技) | 10月28日(1日間) | オークラフロンティアホテルつくば (茨城県つくば市) |
| | 関東ブロック提案型研修 | 関東ブロック各都県に共通する普及活動上の課題解決を図る テーマ 「農作業」事故防止に係る効果的な普及活動 ・他産業での取り組みを踏まえた農業における安全対策 ・農作業事故の現状について ・農作業事故の実態とこれからの安全対策の考え方 | 山本和雄(農技) 本間利明(農技) | 2月14日(1日間) | 関東農政局 (さいたま市) |

(7) 専門項目別技術連携会議の開催

ア 作物

| | |
|--|---|
| テーマ | 現地で課題解決を要する作物関連技術の情報交換 |
| 開催期日 | 平成28年12月9日(金) |
| 開催場所 | 農業技術研究センター 展示資料館1F会議室 |
| 出席者 | 各農林振興センター農業支援部技術普及担当(作物総括担当者) |
| 関係機関 | 農業技術研究センター 高度利用・生産性向上研究担当、品種開発・ブランド育成研究担当、生産環境・安全管理研究担当 農業支援課、生産振興課、肥料メーカー |
| <p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 県産米特Aプロジェクト推進進捗状況について 2 近年問題となっている水稻・麦類の病害虫防除研究 3 平成28年産小麦さとのそら実証ほ結果について 4 情報交換 | |
| <p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 県産米特Aプロジェクトで取り組んだ試験研究の進捗状況を説明し、情報の共有化を図った。 2 各農林で設置した展示ほの状況と食味評価について検討を行った。 3 近年問題となっている水稻病害(イネ縞葉枯病、イネ稻こうじ病、ムギ類黒節病、コムギ赤さび病)について情報の共有化を図った。 4 さとのそら実証ほの成績検討を行った。 5 情報交換 麦作基本技術展示ほについて | |
| <p>今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食味向上要因の解明と現地適応技術の組み立て 2 病害虫防除技術対策の普及 3 小麦の品質向上技術対策の励行 | |
| テーマ | 特A米生産技術 |
| 開催期日 | 平成29年3月13日(月) |
| 開催場所 | 農業技術研究センター 展示資料館1F会議室・実習室 |
| 出席者 | 各農林振興センター農業支援部技術普及担当(作物総括担当者) |
| 関係機関 | 農業技術研究センター 品種開発・ブランド育成研究担当、農業支援課、生産振興課 |
| <p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 穀物検定協会による米の食味ランキングと県産米の評価について 2 米の食味評価手法について 3 省力・低コスト事業実施結果について 4 情報交換 | |
| <p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 県産米特Aプロジェクトで取り組んだ展示ほの彩のきずなの評価について、情報の共有化を図った。 2 食味ランキングと同じ食味評価方法を実習し、試験手法を習得した。 3 水稻の省力低コスト事業展示ほの成果を共有し、次年度は一段とステップアップするよう意識統一が図られた。 4 来年度の作物関係実証ほ等について情報提供を行った。 | |
| <p>今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 来年度の特A展示ほ設置について技術的なハードルの高さが明らかになった | |

イ 野菜

| | |
|---|---|
| テーマ | 第1回 野菜に関する新技術等の情報共有のための意見交換 |
| 開催期日 | 平成28年8月4日(木) |
| 開催場所 | 農業技術研究センター 展示資料館2F会議室 |
| 出席者 | 各農林振興センター農業支援部技術普及担当(野菜総括担当者) |
| 関係機関 | 農業技術研究センター 高度利用・生産性向上研究担当、品種開発・ブランド育成研究担当 農業支援課、生産振興課 |
| <p>会議内容</p> <p>1 新技術等の取組状況について</p> <p>(1) 現地実証試験(UECS総合環境制御)について</p> <p>(2) 低濃度エタノール利用による土壌消毒について</p> <p>(3) いちごに関する新情報について</p> <p>①新品種 ②クラウン冷却技術 ③CO2利用のハダニ類防除技術</p> <p>(4) 丸系八つ頭について</p> <p>2 情報交換</p> <p>(1) 野菜主要品目の生産概要調査について</p> <p>(2) 環境制御機器類の導入状況について</p> <p>(3) 露地野菜のIPM技術事例について</p> <p>3 生育状況視察</p> | |
| <p>会議結果</p> <p>1 加須市北川辺地区で行われているUECS総合環境制御の現地実証の内容について説明し、施設園芸における環境制御の新技術について理解を得た。</p> <p>2 本庄・大里農林管内で実施された低濃度エタノール利用による土壌消毒について説明し、今後の普及について意見交換を行った。</p> <p>3 いちごの新品種、クラウン冷却技術、CO2利用のハダニ類防除技術について、現地で行われている事例を紹介し、取り組みや導入について理解を得た。</p> <p>4 丸系八つ頭の栽培状況や問題点について周知することができた。</p> <p>5 情報交換を通して、各地域の問題点や対策について共通認識を持つことができた。</p> | |
| <p>今後の課題</p> <p>1 統合環境制御技術の品目ごとの技術(CO2施用)マニュアル・指針の作成</p> <p>2 いちごの新品種の生産技術の普及</p> <p>3 丸系八つ頭の優良種子の確保、貯蔵技術の確立</p> | |

| | |
|---|---|
| テーマ | 第2回 野菜に関する新技術等の情報共有のための意見交換 |
| 開催期日 | 平成29年3月22日(水) |
| 開催場所 | 農業技術研究センター 展示資料館2F会議室 |
| 出席者 | 各農林振興センター農業支援部技術普及担当(野菜総括担当者) |
| 関係機関 | 農業技術研究センター 高度利用・生産性向上研究担当、品種開発・ブランド育成研究担当 農業支援課 |
| <p>会議内容</p> <p>1 新技術等の取組状況について</p> <p>(1) いちご栽培における新技術の実証結果について(経過報告)</p> <p>(2) 統合環境制御(CO2の局所施用)等について(事例紹介)</p> <p>(3) 丸系八つ頭の生産状況と地域の動きについて</p> <p>(4) 在来枝豆の生産・加工などについて</p> <p>2 情報交換</p> <p>(1) 平成28年度野菜等生産概況に関する調査について</p> <p>3 生育状況視察</p> <p>(1) 施設園芸先端技術研究の統合環境制御ハウス</p> <p>(2) イチゴ新品種の生育状況</p> | |
| <p>会議結果</p> <p>1 いちごの新品種、クラウン冷却技術、CO2利用のハダニ類防除技術について、8月に示した取り組みのその後の状況や結果や導入・普及状況について説明し理解を得た。</p> <p>2 加須市北川辺地区で行われているUECS総合環境制御の現地実証の結果、低コスト(燃料費33%ダウン)・増収(34%アップ)について説明した。</p> <p>3 丸系八つ頭の今年の作柄状況や種子の配布計画、また次年度の栽培の注意点について周知することができた。</p> <p>4 青山在来えだまめを活用した加工品(えだまめジェラート)について、試食を交えて取り組みについて説明し、理解を得た。</p> <p>5 情報交換を通して、各地域の問題点や対策について共通認識を持つことができた。</p> | |
| <p>今後の課題</p> <p>1 統合環境制御技術の品目ごとの技術(CO2施用)マニュアル・指針の作成</p> <p>2 いちごの新品種の生産技術の普及</p> <p>3 丸系八つ頭の優良種子の確保、貯蔵技術の確立</p> | |

ウ 果樹

| | |
|-------|---|
| テーマ | <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度主要果樹の生育状況 ・埼玉県防除暦検討 |
| 開催期日 | 平成28年11月17日 |
| 開催場所 | 久喜試験場 研修室 |
| 出席者 | 各農林事務所農業支援部果樹担当 |
| 関係機関 | JA南彩 |
| 会議内容 | <p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度主要果樹の生育状況について、 2 埼玉県防除暦検討 3 その他 |
| 会議結果 | <p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度主要果樹の生育状況について、 <ul style="list-style-type: none"> ・各農業支援部、JA南彩から状況を資料にもとづき報告した。 ・果樹研究会ら、ナシ、ブドウについて生育概況を説明した。 2 埼玉県防除暦検討 <ul style="list-style-type: none"> ・果樹研究から 試験場の防除比較、病害虫の状況について説明した。 ・農薬の登録変更及び新規農薬について、JA南彩の担当者から説明した。 ・今年問題となった主要病害虫への対応策を検討した。 ・平成29年度の埼玉県防除暦のナシ、ブドウについて検討した。 ・各支援部の防除暦への修正意見やアドバイス等行った。 ・梨以外の防除暦について情報交換のあり方について検討した。 3 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ブルーベリー研修会、根圏導入養成講座を通知した。 |
| 今後の課題 | なし |

エ 花植木

| | |
|---|--|
| テーマ | 花植木の産地振興 |
| 開催期日 | 平成28年5月30日(月)、平成29年2月6日(月) |
| 開催場所 | 埼玉県農業技術研究センター |
| 出席者 | 各農林振興センター農業支援部 花植木総括担当者 |
| 関係機関 | 農業支援課、生産振興課、花と緑の振興センター 農業施術研究センター施設園芸先端技術研究 JA全農さいたま花植木事務所、農業大学校、種苗センター、 |
| <p>会議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成28年度主要花植木の生産・作柄状況、新しい産地の動きについて 2 平成28年度花植木の流通状況と今後の見通しについて 3 花植木生産振興にかかわる事業について 4 関係機関からの情報提供について | |
| <p>会議結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各振興センターから生産・作柄状況、新しい産地の動きについて情報交換を行った。 2 JA全農さいたま花植木事務所から、花植木の流通状況と今後の見通し、花植木商談会についての情報提供があった。 3 生産振興課から平成28年度および次年度の事業概要について、花と緑の振興センターから植木・盆栽類の輸出にかかわる試験、花植木事業の取り組み状況について報告及び情報提供があった。 4 農業革新支援担当から、切り花の日持ち保証に関する情報提供を行った。 5 施設園芸先端技術研究から、夏期高温期出荷に適した球根植物の選定と鉢物利用拡大に向け た開花調節技術の開発について などの試験報告があった。 6 種苗センターから育苗受託について情報提供があった。 7 大里農林振興センターの普及計画にかかわる現地調査(夜冷ユリ、チューリップの日持ち向上など)を行った。 | |
|  | |
| <p>現地調査の様子 (チューリップ水耕栽培ハウス)</p> | |
| <p>今後の課題</p> <p>県内の花植木に関する情報の共有化を図るため、次年度以降も継続して会議を開催する。</p> | |

(8) 気象災害等の技術対策

ア 気象災害対策資料

| 作成配布日 | 内 容 |
|-------------|-------------------------------|
| 平成28年 4月11日 | 降霜・低温に伴う技術対策について |
| 平成28年 6月 8日 | 少雨に対する農作物等管理技術対策について |
| 平成28年 8月 5日 | 台風第5号に対する農作物等管理技術対策について |
| 平成28年 8月15日 | 台風第7号に対する農作物等管理技術対策について |
| 平成28年 8月22日 | 台風第9号に対する農作物等管理技術対策について |
| 平成28年 8月26日 | 台風第10号に対する農作物等管理技術対策について |
| 平成28年 9月 7日 | 台風第13号に対する農作物等管理技術対策について |
| 平成28年 9月16日 | 台風第16号に対する農作物等管理技術対策について |
| 平成28年 9月29日 | 長雨・日照不足及び高温に対する農作物等管理技術対策について |
| 平成28年10月28日 | 台風第18号に対する農作物等管理技術対策について |
| 平成28年11月22日 | 降雪に対する農業用施設の管理技術対策について |
| 平成28年12月22日 | 降雪に対する農作物・農業用施設の技術対策について |
| 平成29年 1月 6日 | 降雪に対する農作物・農業用施設の技術対策について |
| 平成29年 1月18日 | 降雪に対する農作物・農業用施設の技術対策について |

イ 技術対策資料

| 項目 | 作成配布日 | 内 容 |
|----|-------------|------------------------------|
| 作物 | 平成28年 6月14日 | 利根川水系取水制限に伴う水稻の技術対策について |
| | 平成28年 7月28日 | 水稻（彩のかがやき）の高温対策について |
| | 平成28年 8月10日 | 高温に対応した水稻の栽培管理について |
| 茶 | 平成28年 4月27日 | 今年の一歩茶前半の製造のポイントについて |
| | 平成28年 5月 6日 | 今年の一歩茶後半製造のポイントについて |
| | 平成28年 5月10日 | クワシログラムシ(第1世代)の発生状況と防除方法について |
| | 平成28年 6月15日 | 今年の一歩茶後半製造のポイントについて |
| | 平成28年 7月12日 | クワシログラムシ(第2世代)の発生状況と防除方法について |
| | 平成28年 9月13日 | クワシログラムシ(第3世代)の発生状況と防除方法について |

(9) 農業革新支援担当会議の開催

| 期日・場所・当番 | 主な議題 |
|--------------------------------|--|
| 4月21日 農技研展示資料館 大宅、山本 | (1) 連休中の緊急連絡体制について (2) 懸案事項の再構築と情報共有化について (3) 農林振興センターとの連絡体制について |
| 5月27日 農技研展示資料館 片野、本間 | (1) 普及指導員研修について (2) 普及活動情報の執筆テーマについて (3) 成果発表会に向けての検討課題について |
| 6月24日 農技研展示資料館 小磯、遠藤 | (1) 普及指導員研修について (2) 取水制限に伴う水稻の技術対策について (3) 職場研修－メンタルヘルスケア－ |
| 7月29日 農技研展示資料館 山本、阿見 | (1) 農林振興センター普及活動計画における中間検討会への支援について (2) 農業法人雇用促進体制整備事業について |
| 9月28日 久喜試験場 遠藤、斎藤 | (1) 関東甲信静ブロック現地活動調査研究会について (2) 平成28年度関東地域研究・普及連絡会議の事例報告について (3) 営農類型別モデル経営について 【革新支援担当普及活動の中間検討会開催】 |
| 10月31日 農技研展示資料館 佐々木、岡山 | (1) 営農類型別モデル経営について (2) 所HP農業革新支援担当に掲載されている技術情報の検討について (3) EK-SYSTEMについて |
| 11月25日 農技研展示資料館 田中(江)、渡辺 | (1) ブルーベリー研修会について (2) 平成29年度普及指導員研修計画について (3) 普及活動の成果(成果事例集)の原稿作成について (4) 普及活動計画の進捗状況及び課題の整理について |
| 12月22日 農技研展示資料館 田中(克)、大宅 | (1) 研修の分担項目について (2) 普及活動の成果の取りまとめについて (4) 平成29年度活動計画について |
| 1月30日 農技研展示資料館 井上、本間 | (1) 日本農業新聞埼玉版への情報提供について (2) 平成29年度活動計画について (3) 成果発表会について |
| 2月28日 農技研展示資料館 片野、井上 | (1) 平成29年度農業革新支援担当活動計画の検討 (2) 普及指導員研修計画について |
| 3月23日 農技研展示資料館 阿見、小川 | (1) 平成29年度懸案・重要事項の検討について (2) 平成29年度普及活動計画意見交換会結果について |

(10) その他

ア 情報紙等への原稿執筆状況

| 情報紙等名 | 執筆内容 | 依頼先 | 執筆者 |
|---------------------|-----------------------------|------------------|------|
| 日本農業新聞 | 今月の水稲管理 6～9月 | 埼玉県農業協同組 合中央会 | 山本和雄 |
| 日本農業新聞 | 今月の麦管理 2～5月 10～12月 | 埼玉県農業協同組 合中央会 | 山本和雄 |
| 施設と園芸 174号 | ミニ情報 | 「施設と園芸」編集 部 | 岡山研 |
| 畜産コンサルタント 2017.1 | 飼料用イネの推進で長期に わたる耕畜連携を実現 | 中央畜産会 | 大宅秀史 |
| いるま野 2月号 | お茶畑で大活躍のテントウ ムシたち | JAいるま野 | 田中江里 |
| 茶業技術 第60号 | センチウ対策現地実証試 験(続報) | 埼玉県茶業技術協 会 | 田中江里 |
| 技術と普及 4月号 | 埼玉県における普及指導員 資格試験対策の取り組み | 全国農業改良普及 支援協会 | 本間利明 |

イ 講演・助言・コーディネート活動状況

| 企画・研修等名称 | 期 日 | 場 所 | 担当者 |
|----------------------------------|---------------|----------------------|-------------------|
| 二条大麦穂揃期調査 | 5月10日 | 県内栽培地域 | 山本和雄 |
| 麦作共励会 | 6月2日 | 県内出品ほ場 | 田中克典 |
| 水稲高温対策研修会 | 6月28日 | 熊谷県土整備事務所 | 田中克典 山本和雄 |
| ビール麦結果検討会 | 8月31日 | J Aくまがや西部営農 センター | 田中克典 |
| 米食味官能試験方法に関する研 修会 | 10月3日 | 埼玉県農林公園 | 田中克典 山本和雄 |
| 小麦品質向上セミナー (J Aほくさい) | 10月28日 | 行田市総合体育館 | 山本和雄 |
| 農業共済部門別研修会 | 1月26日 | 農業共済会館 | 山本和雄 |
| 土地利用型農業情報交換会 | 2月2日 | 国立女性教育会館 | 山本和雄 |
| 低濃度エタノールによる土壌還 元消毒技術実証ほ現地検討会 | 6月24日 | 技術実証ほ(本庄市) | 阿見真 齋藤仁 岡山研 |
| 養液いちご研究会先進地視察研 修 | 6月21日 ～22日 | 石垣イチゴ、静岡県農業 試験場 | 岡山研 |
| 養液いちご研究会役員会 | 7月15日 | 大里農林振興センター | 岡山研 |
| いちご栽培講習会(春日部管内 生産者) | 7月22日 | 春日部農林振興センタ ー | 岡山研 |
| 東京近郊野菜技術委研究会 第 184回研究会 | 8月3日 | 群馬県農業研究センタ ー・実証ほ場 | 岡山研 |
| 養液いちご研究会 平成28年度 通常総会・いちご栽培講習会 | 8月8日 | さくらめいと | 岡山研 |
| いちご栽培研修会(高濃度炭酸 ガス処理設備展示) | 8月9日 | 見沼グリーンセンター | 岡山研 |

| 企画・研修等名称 | 期 日 | 場 所 | 担当者 |
|---------------------------|---------------|-------------------|--------------|
| 高濃度炭酸ガスによるいちご病害虫防除技術現地検討会 | 9月15日 16日 | JA南埼玉カントリー | 岡山研 |
| 高濃度炭酸ガスによるいちご病害虫防除技術現地検討会 | 9月20日 21日 | 実証農家ほ場（本庄市） | 岡山研 |
| 高濃度炭酸ガスによるいちご病害虫防除技術現地検討会 | 10月19日 20日 | 東松山農林振興センター | 岡山研 |
| 東京近郊野菜技術研究会 | 11月17日 | 千葉県山武町 | 岡山研 |
| 養液いちご研究会役員会 | 11月21日 | 大里農林振興センター | 岡山研 |
| 養液いちご研究会 現地検討会・栽培講習会 | 11月28日 | 農技研 | 岡山研 |
| いちご栽培講習会（春日部管内生産者） | 12月 5日 | 久喜市勤労センター | 岡山研 |
| JAちちぶきゅうり部会青年部栽培講習会 | 12月 8日 | 秩父農林振興センター | 岡山研 |
| JA南埼玉菖蒲いちご組合視察研修 | 1月31日 | 熊谷市ほ場（革新的技術事業実証ほ） | 岡山研 |
| 埼玉産直センターいちご部会視察研修・栽培講習会 | 2月 9日 | 農技研 | 岡山研 |
| 埼玉産直センターいちご部会栽培講習会 | 3月17日 | 埼玉産直センター | 岡山研 |
| JAちちぶいちご部会いちごセミナー（栽培講習会） | 3月21日 | 秩父農林振興センター | 岡山研 |
| なし摘果講習会 | 5月2日 | 東松山市東平 | 遠藤紀浩 |
| なし摘果講習会 | 5月6日 | 滑川町羽尾 | 遠藤紀浩 |
| ぶどう栽培講習会 | 5月23日 | 所沢市北中 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 梨経営研究会 | 5月23日 | 久喜試験場 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| JAいるま野西部果樹組合彩玉栽培講習会 | 6月2日 | 日高市高萩 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 彩玉栽培技術研修会 | 6月9日 | 久喜試験場 | 片野敏夫 |
| 川越市ぶどう組合栽培講習会 | 6月16日 | 川越市の場 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| JAいるま野西部果樹組合ぶどう栽培講習会 | 6月29日 | 日高市高萩 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 果実連 平成28年度埼玉なし取引協議会 | 7月15日 | 上尾市 | 遠藤紀浩 |
| 果実連 彩玉委員会 | 7月20日 | 久喜市 | 遠藤紀浩 |
| 果実連 平成28年度幸水・彩玉販売対策会議 | 7月28日 | 種苗センター | 遠藤紀浩 |
| 根圏果実試食会 | 8月3日 | 白岡市新井新田 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 久喜市梨組合果実審査会 | 8月9日 | JA南彩久喜江面支店 | 遠藤紀浩 |
| 彩玉栽培技術研修会 | 8月18日 | 久喜試験場 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |

| 企画・研修等名称 | 期 日 | 場 所 | 担当者 |
|------------------------------|--------|-----------------------|--------------|
| 果実連 彩玉果実共進会 | 8月25日 | 全農高砂ビル | 遠藤紀浩 |
| 果実連 平成28年度豊水販売対策会議 | 8月26日 | 種苗センター | 遠藤紀浩 |
| シャインマスカット持ち寄り検討会 | 9月15日 | 農林公園 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| ぼろたん目揃い会 | 9月23日 | 日高市原宿 | 遠藤紀浩 |
| 梨経営研究会視察研修 | 10月26日 | 小鹿野町 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 日高市民まつり農産物品評会 | 10月27日 | JAいるま野日高支店 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| りんご果実共進会、おいしいりんご品評会 | 11月15日 | 秩父農林振興センター | 遠藤紀浩 |
| なしせん定講習会 | 11月22日 | 富士見市南畑 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 果実連 平成28年度なし出荷反省会、彩玉なし共進会表彰式 | 11月24日 | 栃木県日光市 | 遠藤紀浩 |
| なしせん定講習会 | 11月28日 | 東松山市野田 | 遠藤紀浩 |
| JAいるま野西部果樹組合 彩玉せん定講習会 | 12月 1日 | 日高市高萩 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| なしせん定講習会 | 12月 2日 | 東松山市東平 | 遠藤紀浩 |
| ぶどうせん定講習会 | 12月 2日 | 所沢市 | 遠藤紀浩 |
| 川越市ぶどう組合せん定講習会 | 12月14日 | 川越市的場 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 彩玉栽培技術研修会 | 12月15日 | 久喜試験場 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| JAいるま野西部果樹組合 ぶどうせん定講習会 | 12月16日 | 日高市高萩 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| ブルーベリー栽培研修会 | 1月20日 | 見沼グリーンセンター | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| くりせん定講習会 | 1月26日 | 熊谷市成沢 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| ぶどうせん定講習会 | 2月9日 | 狭山市北入曾 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| りんごせん定講習会 | 2月15日 | 秩父市上野田 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 久喜試験場研究成果説明会 | 3月 7日 | 久喜文化会館 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| うめ接木講習会 | 3月14日 | 越生町古池 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| ジョイント栽培用苗木植付実演会 | 3月23日 | 神川町植竹 | 片野敏夫 遠藤紀浩 |
| 埼玉県シクラメン研究会 県東支部現地検討会 | 7月26日 | 久喜市鷲宮他 | 小磯由美 |
| 神川花卉生産組合研修会 | 2月22日 | J Aひびきの神川営農 経済センター | 井上玲子 |

| 企画・研修等名称 | 期 日 | 場 所 | 担当者 |
|----------------------------|------------------------------------|---------------|-----------------------|
| 農研機構地図情報・生産履歴システム現地調査 | 5月12日 | 中条農産サービス | 渡辺喜正 大宅秀史 |
| 農研機構地図情報・生産履歴システム現地調査 | 7月25日 | 中条農産サービス | 渡辺喜正 大宅秀史 |
| 農研機構開発播種機によるトウモロコシ二期作播種実演会 | 7月28日 | 深谷市荒川 | 渡辺喜正 大宅秀史 |
| 埼玉酪農サイレージ共励会 | 7月29日 | 埼玉酪農研究会 | 大宅秀史 |
| 農研機構生産履歴システム現地試験 | 8月 4日 5日 | 中条農産サービス | 渡辺喜正 大宅秀史 |
| 豚凍結精液成果説明会 | 8月19日 | 農業技術研究センター | 渡辺喜正 大宅秀史 |
| 農研機構生産履歴システム現地試験 | 8月 4日 5日 | 中条農産サービス | 渡辺喜正 大宅秀史 |
| 埼玉県粗飼料利用研究会現地検討会 | 10月27日 | 熊谷市立江南総合文化会館 | 大宅秀史 |
| 高糖分イネ新品種、新乳酸菌説明 | 1月30日 | 埼玉酪農研究会 | 大宅秀史 |
| 農研機構地図情報システム現地試験 | 2月27日 | 中条農産サービス | 大宅秀史 |
| 所沢市出品茶摘採期判定会 | 4月15日 | 所沢市役所 | 田中江里 |
| 鶴ヶ島市製茶機械整備指導会 | 4月18日 | 鶴ヶ島市内各荒茶工場 | 佐々木功二 田中江里 |
| 入間市摘採期判定会議 | 4月20日 | 入間市農業研修センター | 小川英之 田中江里 |
| 狭山市摘採期判定会 | 4月22日 | 狭山市農村環境改善センター | 小川英之 佐々木功二 |
| 入間茶研究会視察研修会 | 4月25日 | 静岡県掛川市 | 小川英之 佐々木功二 |
| 三芳町製茶指導 | 5月 6日 | 三芳町生産農家 | 小川英之 |
| 毛呂山町茶部会総会 | 5月 6日 | JAIるま野毛呂山支店 | 田中江里 |
| 入間市製造研修会 | 4月23日 ～5月5日 | 入間市農業研修センター | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 所沢市製茶指導 | 4月26日 29日 30日 5月 2日 3日 | 所沢市内荒茶工場 | 小川英之 佐々木功二 |
| 狭山市製茶指導 | 5月 9日 | 狭山市内荒茶工場 | 小川英之 |
| 横瀬町製茶技術指導 | 5月12日 | 横瀬町茶茶業組合工場 | 小川英之 |
| 飯能市製茶技術指導 | 5月13日 | 飯能市内荒茶工場 | 小川英之 |
| 小鹿野町製茶技術指導 | 5月18日 20日 | 小鹿野町内荒茶工場 | 小川英之 |

| 企画・研修等名称 | 期 日 | 場 所 | 担当者 |
|------------------------------|--|-----------------------|-----------------------|
| クワシロカイガラムシ防除適期 判定会 | 5月13日 16日 18日 7月22日 25日 28日 9月16日 20日 | 茶業研究所 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 狭山市出品茶仕上指導会 | 6月13日 ～17日 | 茶業研究所 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 所沢市出品茶仕上指導会 | 6月20日 ～24日 | 茶業研究所 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 入間市出品茶仕上指導会 | 6月27日 ～7月9日 | 茶業研究所 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 紅茶製造技術指導 | 8月 3日 | 入間市荒茶工場、横瀬町 茶業組合工場 | 小川英之 佐々木功二 |
| JAいるま野狭山茶生葉生産部会 講習会(通常総会) | 7月15日 | 狭山市喜代川 | 田中江里 |
| ふじみ野市出品茶仕上指導 | 7月13日 | 茶業研究所 | 小川英之 |
| 三芳町出品茶仕上指導 | 7月11日 | 茶業研究所 | 小川英之 |
| 鶴ヶ島市出品茶仕上指導 | 7月13日 | 茶業研究所 | 小川英之 |
| 狭山茶ブランド確立事業選定会 | 8月 4日 | 茶業研究所 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 青年団出品茶仕上指導 | 8月 9日 8月17日 | 茶業研究所 | 佐々木功二 |
| 飯能市仕上講習会 | 10月20日 | 茶業研究所 | 佐々木功二 |
| 入間市茶園現地指導会 | 10月 5日 | 入間市内各茶園 | 田中江里 |
| 入間くみあい製茶秋の講習会 | 9月17日 | 茶業研究所 | 小川英之 田中江里 |
| 西部茶業連絡協議会研修会 | 11月29日 | 飯能市役所 | 田中江里 |
| さやま紅茶求評会 | 11月28日 | 茶業研究所 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 茶業研究所成果発表会 | 2月15日 | 茶業研究所 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 県育成新品種求評会 | 3月 3日 | 茶業研究所 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 入間くみあい製茶春の講習会 | 2月25日 | 茶業研究所 | 小川英之 田中江里 |

| | | | |
|-----------------------------|------------|------------|-----------------------|
| 入間茶研究会現地指導会 | 3月14日 | 入間市内各茶園 | 田中江里 |
| 企画・研修等名称 | 期 日 | 場 所 | 担当者 |
| 横瀬茶業組春の講習会 | 3月中旬 | 横瀬町活性化センター | 小川英之 田中江里 |
| 間野製茶GAP指導 | 11月上旬 ～ | 入間市 | 小川英之 |
| 県茶業青年団S-GAP研修会 | 2月27日 | 茶業研究所 | 小川英之 |
| 入間くみあい製茶 | 通年 | 入間市 | 小川英之 |
| 県茶業青年団 | 通年 | 埼玉県全域 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 北埼玉地区新規就農セミナー | 12月 1日 | 加須農林振興センター | 本間利明 |
| 加須地区農業経営法人化研修会 | 6月29日 | 加須農林振興センター | 本間利明 |
| 川越農林農業支援部職場研修 (ACFinder) | 8月17日 | 川越農林振興センター | 大宅秀史 |
| 鴻巣FNG定例研修会(ACFinder) | 10月20日 | 鴻巣フラワーセンター | 大宅秀史 |

ウ 委員会等委嘱活動

| 委員会名 | 内容 | 主催 | 担当者 |
|--|--------------|----------------|----------------------|
| 麦作共励会審査会幹事会 | 幹事 | J A 埼玉県中央会 | 田中克典 |
| 埼玉県米麦改良協会常任幹事会 | 常任幹事 | 埼玉県米麦改良協会 | 山本和雄 |
| 埼玉県機械化協会幹事会 | 幹事 | 農業機械化協議会 | 田中克典 |
| 農業機械化経営者協議会幹事会 | 参与 | 農業機械化経営者協議会 | 田中克典 |
| 農業機械化経営者協議会幹事会 | 幹事 | 農業機械化経営者協議会 | 山本和雄 |
| 埼玉県野菜技術研究会共進会 | 審査員 | 埼玉県野菜技術研究会 | 阿見真 齋藤仁 岡山研 |
| 埼玉県さといも協議会共進会 | 審査員 | 埼玉県さといも協議会 | 阿見真 齋藤仁 岡山研 |
| 東京近郊野菜技術研究会役員 | 会計 | 東京近郊野菜技術研究会 | 岡山研 |
| 第33回さいたま花の祭典品評会 | 審査員 | さいたま花の普及促進協議会 | 小磯由美 井上玲子 |
| 愛知県豊明花き地方卸売市場鉢物品評会 2016 ポットプランツコンテスト・秋の部 2016 鉢花・蘭の部 | 審査員 | 愛知豊明鉢物流通改善協議会 | 小磯由美 井上玲子 |
| 全国花き品評会シクラメン部門 | 審査員 | 一般社団法人日本花き生産協会 | 小磯由美 |
| 第33回埼玉県シクラメン研究会共進会 | 審査委員長 審査員 | 埼玉県シクラメン研究会 | 渡辺喜正 小磯由美 井上玲子 |

| 委員会名 | 内容 | 主催 | 担当者 |
|-------------------------------|-----|------------------------------|-----------------------|
| 第66回関東東海花の展覧会花き品評会 | 審査員 | 栃木県（当番県） | 小磯由美 |
| 第30回埼玉県植木共進会 | 審査員 | 埼玉県植木生産組合連合会 | 井上玲子 |
| 埼玉酪農収益力支援クラスター協議会 | 構成員 | 埼玉酪農業協同組合 | 渡辺喜正 |
| 全農埼玉県本部クーラーステーションクラスター協議会設立総会 | 構成員 | 全農埼玉県本部 | 渡辺喜正 |
| 関東東海北陸地域普及指導員等連絡協議会 | 副会長 | 関東東海北陸地域普及指導員等連絡協議会 | 大宅秀史 |
| 埼玉県粗飼料利用研究会 | 幹事 | 埼玉県粗飼料利用研究会 | 大宅秀史 |
| 狭山市茶業協会研究部「さやまかおり」品評会 | 審査員 | 狭山市茶業協会研究部 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 入間市一番茶求評会 | 審査員 | 入間茶研究会 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 埼玉県西北部特産協会審査会(製茶の部) | 審査員 | 埼玉県西北部特産協会 | 佐々木功二 |
| 関東ブロック茶の共進会 | 審査員 | 第44回関東ブロック茶の共進会事務局 | 小川英之 佐々木功二 |
| 狭山市製茶品評会 | 審査員 | 狭山市茶業協会 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 所沢市荒茶品評会・荒茶技術競技会 | 審査員 | 所沢市茶業協会、所沢狭山茶研究会、所沢市農業祭実行委員会 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| F.G.T.C品評会審査会 | 審査員 | 埼玉県茶業協会 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| お茶まつり狭山茶品評会 | 審査員 | 埼玉県茶業協会 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 入間市茶園共進会 | 審査員 | 入間市茶業協会 | 佐々木功二 田中江里 |
| 入間市製茶品評会 | 審査員 | 入間市茶業協会 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 狭山市農産物品評会製茶審査会 | 審査員 | 狭山市茶業協会 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |
| 飯能市製茶求評会 | 審査員 | 飯能市茶業組合 | 小川英之 佐々木功二 田中江里 |

| 委員会名 | 内容 | 主催 | 担当者 |
|---|-------|--|-------|
| 所沢市茶園審査会 | 審査員 | 所沢市茶業協会、所沢市農業祭実行委員会 | 佐々木功二 |
| 埼玉県西北部特産協会共進会(茶園の部) | 審査員 | 埼玉県西北部特産協会 | 田中江里 |
| 埼玉県西北部特産協会共進会(こんにゃくの部) | 審査員 | 埼玉県西北部特産協会 | 小川英之 |
| 人を対象とした研究倫理審査会 | 審査委員 | 農研機構 農業技術革新工学研究センター | 本間利明 |
| 日本農業経営学会機関誌常任編集委員会 | 編集委員 | 日本農業経営学会 | 本間利明 |
| 埼玉県農業経営アドバイザー連絡協議会 | 幹事 | 日本政策金融公庫さいたま支店 | 本間利明 |
| 平成28年度全国農業青年交換大会(関東ブロック農村青少年(4H)クラブプロジェクト実績発表会) | 審査委員 | 全国農業青年クラブ連絡協議会 平成28年度全国農業青年交換大会実行委員会 関東ブロック農村青少年(4H)クラブ連絡協議会 | 渡辺喜正 |
| 第23回埼玉県青年農業者研究大会 | 審査委員長 | 埼玉県農業研究団体連合会(公社)埼玉県農林公社 | 渡辺喜正 |

5 28年度農作物の生育状況

(1) 作物

ア 水稲

関東東農政局発表の10月15日現在の埼玉県の作況指数は東部101、西部102で県全体では101の「平年並」であった。また、10月末日現在の埼玉県の水稲うるち米の検査結果は1等85.3%、2等13.7%、3等0.8%、規格外0.2%と品質は良好であった。

早期栽培は、活着は良好で初期生育は順調であった。移植時期が早いほ場ほど好天に恵まれ、幼穂の分化は早まった。出穂期は7月下旬に天候がぐずつきやや停滞したが平年よりも3～5日程度早まった。収穫は8月中下旬の曇雨天の影響で登熟がやや遅延し平年並みの成熟期となった。しかし台風等の影響により収穫作業は遅れ気味であった。品質は良好である。

早植栽培では5月中旬以降、苗の生育遅れから移植が遅れ気味となったが、概ね前年並にがぬかるむなど収穫作業は遅れ気味となった。品質は彩のきずな、彩のかがやきでは良好であったが、コシヒカリ、キヌヒカリ、彩のみのりで乳白粒等の発生により格下げとなるものが見られた。

普通栽培は、田植作業は、麦類の収穫が早まったことから順調に進んだ。気温が高すぎなかったことから植え痛みや薬害の発生が少なく、活着が良好で初期生育も順調であった。出穂は概ね平年並であった。登熟は出穂以降、曇雨天が継続したことから遅延傾向にあり、登熟不良が懸念されたが、9月の平均気温がかなり高かったことから比較的良好的な登熟となり品質は良好である。

イ 小麦(28年産)

播種作業の進捗状況は、11月中～下旬にかけて数日おきに降雨があったことから11月末で約4割と遅れた(平年約8割)。その後は天候が回復し、播種作業が順調に進み12月中旬に概ね終了した。

1 2月～2月は全般的に暖冬傾向で推移し、降雨も定期的にあったことから出芽、苗立は良好であった。1 1月中旬までに播種されたほ場では、所内の生育相と同様に生育は旺盛で過繁茂傾向であった。1 1月下旬以降に播種が遅れたほ場も生育が早まり概ね平年並みの生育となった。

出穂期は、適期播種ほ場で3～5日程度早まり晩播ほ場で概ね平年並みであった。収穫作業は平年より3日程度早い6月9日頃から始まり、6月15日現在で約8割終了（平年約2割）と順調に進んだ。

登熟期間中も高温傾向で推移したことから、高温による強制登熟が懸念されたが、定期的な降雨により枯れ熟れの発生が抑えられ比較的順調な登熟となり平年並みの作柄を確保することができた。

病害虫は出穂期前後に凍霜害の発生がほとんど見られなかったことから、不稔による赤かび病の発生はほとんど見られなかった。品種によっては一部地域の晩播ほ場で発生が見られたが多発せず終息した。登熟中～後期に多肥による過繁茂ほ場を中心に高温、多湿及び少ない降雨頻度の影響でうどんこ病と赤さび病の混発が見られ、多発ほ場では病斑の拡大により茎葉の早期枯れあがりが見られた。黒節病は各地で散見されたが、被害程度は軽微であった。

ウ 大豆

本年産大豆から一般大豆は「タチナガハ」から「里のほほえみ」へ全面的に品種転換となった。

6月中下旬に定期的な降雨があったことから播種作業の開始は遅れ気味であった。7月に入って天候が回復したことから、その後の播種作業は順調に進み、7月15日には平年同様の8割程度の進捗状況となった。（農業支援課調べ）

出芽苗立ちは概ね順調であったが、一部地域で播種後の降雨により湿害が発生し、出芽不良が見られ、減収の要因となった。

開花期までは好天に恵まれ初期生育は順調であった。しかし、幼莢期にあたる8月下旬に台風9号及び10号の影響により日降水量100mmを越える大雨となり、中小河川からの水の侵入により大豆が30cm程度浸水したほ場も見られた。このようなほ場では、葉が落葉し、幼莢も落莢するなど、減収の要因となった。

「里のほほえみ」は「タチナガハ」と比較して成熟期がやや遅いことと、裂莢しにくい特徴がある。このため収穫期にあたる11月になっても青立ち株の黄化を待つ間に幾度か降雨に見舞われ収穫作業は遅れ気味となった。このため、11月末現在の収穫作業は66%と平年の75%の進捗状況であった。（農業支援課調べ）

病害虫の発生状況は、8月の台風以降細菌性の病害である斑点細菌病と葉焼病の発生が見られたが、紫斑病等の発生は少なかった。一部地域でカメムシの発生が見られたが、全体的に降雨が多かったことからハスモンヨトウなどの子実を食害する害虫の発生は少なかった。

収量は収穫期の裂莢によるロスが少なく、「タチナガハ」以上の収量となった地域が多かった。

農林水産省が2月21日に発表した埼玉県の大豆の単位面積当たり収量は、99kg/10aとなったが、排水管理や病害虫防除を徹底した圃場では、播種直後の湿害や台風による浸冠水等の被害が軽微だった地域で、180kg/10a程度、湿害を受けたほ場でも120kg/10a程度の収量となった。

外観品質ハスモンヨトウなどの子実を食害する害虫は少なく、コンバイン収穫による汚粒も軽度であった。しかし、収穫が遅れたほ場では、数度の降雨により大豆の表面が薄く汚れたような軽度の汚損粒の発生が見られた。

(2) 野菜

(各センターの生育状況を参照)

(3) 果樹**ア ナシ**

開花始めは、平年よりも「幸水」、「豊水」で4日早く、満開日は、「幸水」で4月14日(平年比4日早い)、「豊水」で4月12日(平年比3日早い)となった。着果、結実もよい傾向であったが、やや有てい果が多くなった。花粉の発芽率がやや低くなる傾向も散見された。

開花期以降も気温が高い傾向が続いたため、産地での初期肥大は良好であった。5月18日～29日までの間、降水量がゼロであったが、5月～6月の日照時間は平年を上回り、果実肥大には、好影響であった。

着果が良好で摘果作業が遅れたため、長果枝の新梢の発生、生育は平年よりもやや遅れた。幸水では予備枝先端の芽から発生した新梢は、6月下旬～7月上旬に平年並に停止した。予備枝先端芽から発生した新梢については、長さは平年並であったが、えき花芽の着生は、例年に比べやや劣る傾向であった。

収穫開始は、「幸水」(GA処理)で7月29日、「幸水」無処理で8月5日となり、平年よりGA処理で13日、無処理で7日早い収穫となった。収穫終了はGA処理で8月19日、無処理で8月24日と平年に比べそれぞれ3日、5日早い終了時期となった。

「彩玉」は、8月15日から収穫され、過去10年間の平均より5日早い収穫開始となった。「豊水」の収穫始めは、8月22日と平年より8日早い収穫となった。「あきづき」は、9月5日収穫始めで、過去10年間の平均と比較すると5日早かった。

果実品質は、品種の全てで昨年より小さい傾向であり、「幸水」のGA処理では糖度が低い傾向にあった。また、硬度が低い傾向にあった。「彩玉」は昨年よりやや小玉の傾向であったが、糖度は高い傾向であった。「あきづき」はやや小玉であったが、糖度が高く食味は良好であった。

イ ブドウ

ブドウの開花時期は、5月下旬～6月上旬にかけて、平年よりもやや早い傾向となった。

巨峰の有核栽培では、開花期間中、天候に恵まれ、有核果率も高く、適正な着房が可能となった。

6月～7月の降水量は少なく、果粒の肥大はやや平年より劣った。8月の気温も平年より高かったものの、平成27年度の異常高温と比べると低く、巨峰や赤系品種の着色も良好であった。

シャインマスカットは、大房傾向であるが、18度以上の糖度を確保することができた。9月15日に開催した「シャインマスカット持ち寄り検討会」における23果房の平均糖度は18.5であり、最高は22.0となった。

一方で、降水量が少なかったことから、果皮がやや硬い傾向となった。

(4) 花植木

今年の気象経過は、4月から7月中旬にかけ高温多照で、梅雨の期間は平年よりも11日長く、梅雨明けが1週間遅くかったが、梅雨時期の降水量は平年の6割程度と少なかった。梅雨明け以降8月上旬は高温多日照となったが、8月中旬以降は寡日照となり、8月下旬に台風が立て続けに接近した影響で低温多雨となった。9月から10月上旬にかけては高温で、台風接近や停滞した前線の影響で曇雨天が多く寡日照であった。10月中

旬から下旬は安定した天候であったが、11月以降は低温となり、11月下旬には熊谷で6cmの積雪を観測した。12月以降は安定した天候に恵まれた。病害虫については、4～5月の気温が平年よりも高く、アザミウマ類が多く発生し、ウイルス病被害も多かった。また、8月中旬以降に曇雨天が続いたため、露地では白絹病などの土壌病害、施設では軟腐病、炭そ病などが多かった。9～10月は施設内で灰色かび病の発生が多かった。

春の苗物・鉢物は4月下旬以降、平年よりも気温が高く推移し生育は順調で品質も良好であった。ポットカーネーションは、4月上・中旬頃一部に生育の遅れが見られたが温度管理を高くした結果、生育は順調に進み、母の日向けの出荷は計画通りに行われ品質は良好であった。

ポインセチアは、8月中旬から9月中旬の曇雨天により、徒長を抑えるため矮化剤を追加施用した品種もあったが、生育は順調に進み、出荷時期は平年並みであった。

シクラメンは、夏期の高温に長時間遭遇せず、肥料は順調に吸収されたため、やや大葉傾向となった。また、8月中旬以降の曇雨天の影響で、病害（軟腐病、炭そ病、灰色かび病など）の発生はやや多く、寡日照により徒長気味な生育となった。一部に開花遅れもあったが、概ね順調に生育し、品質も平年並みであった。

露地栽培のケイトウは、天候に恵まれ、ここ数年で最も生育は良好となり、開花は早まり品質は良好であった。

コギクは6～7月出荷では、栽培期間中の高温・多照の影響で草丈は短く開花は前進傾向であった。9～12月出荷では、栽培期間中の低温寡日照により草丈は長く、開花は2週間程度遅れ、葉傷みが多かった。

キンギョソウは、育苗期および定植直後の高温や秋の曇雨天寡日照により、根張りが悪く生育、開花は遅れ気味となった。

LAユリでは、夏季の高温により一部の品種で奇形花が発生した。秋以降は天候の影響で作付けが遅れ、生育、開花は遅れ気味となった。厳冬期は加温温度を低く抑えたため、生育はやや遅れる傾向であった。

チューリップは、NZ産球根の品質が良好で、栽培期間中の生理障害等の発生は少なく順調に生育した。オランダ産球根の入荷が遅れたため作付け計画は遅れ、定植およびその後の生育は計画よりもやや遅れてしまった。

(5) 茶

冬季の気温が平年より大幅に高くなり、適度な降水量もあったことから順調な越冬状況となった。その後3月に入っても気温は平年より高く推移し、芽の動き出しが非常に早くなった。4月以降も高温と適度な降水によって芽の伸長は順調に進み、近年まれにみる早い摘採期となった。

梅雨入りは、昨年同様平年よりやや早く、曇雨天の日が続く梅雨らしい天気となり、梅雨明けは平年よりも1週間、昨年より18日も遅く長い梅雨となった。7月下旬から8月上旬にかけては気温が上がり、夏らしい天候が続いた。しかし、8月中旬から下旬にかけては、台風や前線の影響により雨の降る日が多く日照時間が少なくなった。9月上旬には天候は安定したが、9月中旬から10月の初めまで台風や秋雨が続き、記録的な寡照状態になった。夏以降の不安定な気象により例年になく病害虫の防除時期の見極めが難しい状況となった。その後10月後半から12月末まで平年並から高めに推移した。

秋芽の生育は初秋の曇天により抑えられ、硬化が遅れた。夜温が高めで推移したこと、土壌水分が十分であったことから枝条の木化、葉の硬化が緩やかで比較的軟弱なまま冬を迎える状態となった。

IX 平成 28 年度決算

1 歳入

| 科 目 | | 金 額 (円) |
|-----------|-------------|------------|
| 使用料及び手数料 | | 1,155,131 |
| 1) 使用料 | 総務使用料 | 1,096,481 |
| 2) 手数料 | 農林水産業手数料 | 58,650 |
| 国庫支出金 | | 435,000 |
| 3) 委託金 | 農林水産業費委託金 | 435,000 |
| 財産収入 | | 26,326,026 |
| 1) 財産運用収入 | 財産貸付収入 | 2,749,943 |
| 2) 財産売払収入 | 物品売払収入 | 5,889,714 |
| | 生産物売払収入 | 17,686,369 |
| 諸収入 | | 58,273,777 |
| 4) 受託事業収入 | 農林水産業受託事業収入 | 55,095,915 |
| 6) 雑入 | 雑入 | 3,177,862 |
| 計 | | 86,189,934 |

2 歳出

| 科 目 | | 金 額 (円) |
|----------|---------|-------------|
| 総務費 | | 1,789,071 |
| 1) 総務管理費 | 一般管理費 | 215,946 |
| | 人事管理費 | 179,925 |
| | 財産管理費 | 1,393,200 |
| 農林水産業費 | | 453,134,171 |
| 1) 農業費 | 農業総務費 | 9,554,161 |
| | 農業振興費 | 954,104 |
| | 食品流通対策費 | 938,354 |
| | 農業経営普及費 | 6,649,797 |
| | 園芸農産振興費 | 10,835,300 |
| | 植物防疫費 | 6,217,350 |
| | 農業大学校費 | 24,000,000 |
| | 農業研究費 | 357,910,808 |
| 3) 畜産業費 | 畜産総務費 | 2,596,650 |
| | 畜産振興費 | 35,856,662 |
| | 家畜保健衛生費 | 238,680 |
| | 畜産研究費 | 18,982,305 |
| | | 454,923,242 |

X 職員の状況（平成28年4月1日現在）

埼玉県農業技術研究センター

所 長 (技) 福 井 純 夫
副 所 長 (事) 鹿 沼 浩

○総務担当

担 当 部 長 (事) 桑 原 勝
担 当 課 長 (事) 並 木 弘 子
主 任 (事) 東 雅 代
主 任 (技) 山 崎 晴 彦
主 任 専 門 員 (事) 沼 田 鉄 雄
専 門 員 (事) 上 林 孝 之
専 門 員 (事) 今 井 晃
嘱 託 (非常勤) 今 井 三 富 美
(玉井試験場)
専 門 員 (事) 須 藤 憲 一
専 門 員 (事) 高 柳 一 彦
(久喜試験場)
担 当 部 長 (事) 山 岸 善 行
担 当 課 長 (事) 折 原 聖 志

○企画担当

室 長 (技) 神 田 徹
担 当 部 長 (技) 関 口 孝 司
専 門 研 究 員 (技) 岩 崎 徹
専 門 研 究 員 (技) 岩 崎 泰 史
専 門 員 (技) 原 沢 正 美

◎生産環境・安全管理研究担当

副 所 長 (技) 須 永 真理子
室 長 (技) 加 藤 徹

○環境安全研究

担 当 部 長 (技) 山 崎 晴 民
専 門 研 究 員 (技) 成 田 伊 都 美
専 門 研 究 員 (技) 丸 岡 久 仁 雄
専 門 研 究 員 (技) 鎌 田 淳
専 門 研 究 員 (技) 杉 沼 千 恵 子
上 席 主 任 (技) 代 明
主 任 (技) 諸 貫 隆 二
専 門 員 (技) 宮 崎 保 博
嘱 託 (非常勤) 大 塚 浩 子

○病虫害防除技術研究

担 当 部 長 (技) 植 竹 恒 夫
担 当 部 長 (技) 小 俣 良 介
担 当 部 長 (技) 宇 賀 博 之
主 任 研 究 員 (技) 酒 井 和 彦

主 任 (技) 岩 瀬 亮 三 郎
上 席 主 任 (技) 金 子 仁
主 任 (技) 藤 井 康 史
専 門 員 (技) 関 根 新 一 郎

○鳥獣害防除研究

担 当 部 長 (技) 古 谷 益 朗
専 門 研 究 員 (技) 横 山 素 之
主 任 (技) 小 川 倫 史

◎品種開発・ブランド育成研究担当

副 所 長 (技) 上 野 敏 昭

○遺伝子情報活用研究

担 当 部 長 (技) 福 田 昌 治
専 門 研 究 員 (技) 近 藤 恵 美 子
専 門 研 究 員 (技) 平 野 泰 志
技 師 (技) 宗 方 淳

○水稻研究

担 当 部 長 (技) 矢 ヶ 崎 健 治
専 門 研 究 員 (技) 荒 川 誠 人
主 任 (技) 大 岡 直 人
(玉井試験場)

主 任 (技) 大 葉 俊 彦
主 任 (技) 神 山 洋 一
主 任 (技) 根 岸 一 之

○野菜研究

担 当 部 長 (技) 渡 辺 俊 朗
専 門 研 究 員 (技) 尾 田 秀 樹
技 師 (技) 内 田 裕 也
上 席 主 任 (技) 高 橋 丈 雄

○種畜生産研究

室 長 (技) 吉 羽 宣 明
主 任 研 究 員 (技) 塩 入 陽 介
専 門 研 究 員 (技) 中 村 嘉 之 玲
専 門 研 究 員 (技) 大 澤 玲
上 席 主 任 (技) 橋 本 正 巳
上 席 主 任 (技) 五 十 嵐 高 司
主 任 (技) 根 岸 良 征
主 任 (技) 村 上 寿 治
主 任 (技) 菊 池 守 弘
主 任 (技) 馬 場 和 彦
主 任 (技) 高 橋 信 一
主 任 (技) 柴 崎 誠 次
主 任 (技) 大 塚 敏 明
主 任 (技) 武 政 清 夫

| | | | | | | | |
|-----------------|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|
| 主任専門員 | (技) | 竹内 | 章晃 | 嘱託(非常勤) | | 小野澤 | 朗 |
| 専門員 | (技) | 瀧沢 | 慶太 | ○果樹研究 | | | |
| 専門員 | (技) | 中村 | 秀夫 | (久喜試験場) | | | |
| 専門員 | (技) | 春日 | 政夫 | 担当部長 | (技) | 前島 | 秀明 |
| 専門員 | (技) | 古屋 | 義光 | 専門研究員 | (技) | 島田 | 智人 |
| 専門員 | (技) | 藤野 | 行男 | 上席主任 | (技) | 小川 | 政昭 |
| 専門員 | (技) | 鈴木 | 豊 | 主任 | (技) | 浅野 | 亘 |
| 嘱託(非常勤) | | 横村 | 雅良 | 技師 | (技) | 塚田 | 茜 |
| 嘱託(非常勤) | | 加藤 | 佳子 | 嘱託(非常勤) | | 関口 | 里子 |
| 嘱託(非常勤) | | 平尾 | 昭法 | ◎農業革新支援担当 | | | |
| ◎高度利用・生産性向上研究担当 | | | | 部長 | (技) | 田中 | 克典 |
| 副所長 | (技) | 松本 | 龍衛 | 部長 | (技) | 渡辺 | 喜正 |
| 室長 | (技) | 戸倉 | 一泰 | 部長 | (技) | 阿見 | 真 |
| ○水田高度利用研究 | | | | 担当部長 | (技) | 大宅 | 秀史 |
| 担当部長 | (技) | 岡田 | 雄二 | 担当部長 | (技) | 斉藤 | 仁 |
| 専門研究員 | (技) | 石井 | 博和 | 担当部長 | (技) | 本間 | 利明 |
| 専門研究員 | (技) | 内藤 | 健二 | 担当部長 | (技) | 山本 | 和男 |
| 技師 | (技) | 志保田 | 尚哉 | 担当部長 | (技) | 岡山 | 研 |
| (玉井試験場) | | | | 担当部長 | (技) | 小磯 | 由美子 |
| 上席主任 | (技) | 関根 | 孝男 | 担当課長 | (技) | 井上 | 玲子 |
| 主任 | (技) | 奈良 | 孝幸 | (久喜試験場) | | | |
| 主任 | (技) | 上原 | 好則 | 部長 | (技) | 片野 | 敏夫 |
| 専門員 | (技) | 鈴木 | 勝 | 担当部長 | (技) | 遠藤 | 紀浩 |
| 嘱託(非常勤) | | 井田 | 友美 | | | | |
| ○高収益畑作研究 | | | | | | | |
| 担当部長 | (技) | 上田 | 智子 | | | | |
| 専門研究員 | (技) | 加藤 | 剛 | | | | |
| 主任 | (技) | 印南 | ゆかり | | | | |
| 技師 | (技) | 道祖土 | 博一 | | | | |
| 上席主任 | (技) | 吉田 | 実 | | | | |
| 専門員 | (技) | 田口 | 茂 | | | | |
| 専門員 | (技) | 吉沢 | 忠男 | | | | |
| ○施設園芸先端技術研究 | | | | | | | |
| 担当部長 | (技) | 塚澤 | 和憲 | | | | |
| 主任研究員 | (技) | 石川 | 貴之 | | | | |
| 専門研究員 | (技) | 佐藤 | 加奈巳 | | | | |
| 専門研究員 | (技) | 中畝 | 誠 | | | | |
| 主任 | (技) | 小菅 | 昭 | | | | |
| 主任 | (技) | 野本 | 祐一 | | | | |
| 技師 | (技) | 斉藤 | 健太郎 | | | | |
| 技師 | (技) | 小林 | 昌永 | | | | |
| 嘱託(非常勤) | | 小島 | 真喜 | | | | |